

平成23年度  
地震・津波に関する県民意識調査

平成24年1月

和歌山県

## はじめに

県では、平成15年度に「東南海・南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法」に基づく「東南海・南海地震防災対策推進地域」に県内の全市町村が指定されたことを受け、将来に向けて実施すべき地震防災対策を取りまとめた「和歌山県地震防災対策アクションプログラム」を策定するとともに、防災対策の基礎資料とするため防災（地震）に関する県民意識調査を行った。

平成16年度、17年度には、東海・東南海・南海地震等を想定した地震被害想定調査を実施し、東海・東南海・南海地震が同時発生した場合、最大死者約5,000人、全焼・焼失家屋が約10万棟に達する甚大な被害が発生することが明らかとなったことから、死者半減という減災目標を設定し「和歌山県地震防災対策アクションプログラム」を改定した。

そして、平成16年度から3年ごとに和歌山県、三重県、徳島県、高知県の4県と連携して地震・津波に関する意識調査を実施し、防災意識や地震防災対策及び津波避難対策の現状を把握・分析をするとともに、県民が行政機関に期待することを調査し、その現状と動向を踏まえた総合的な地震防災対策を推進している。

こうした中で起こった東北地方太平洋沖地震は、想定を超えた巨大地震・津波の発生による未曾有の大災害となり、東北地方を中心に甚大な被害をもたらした。これを受けて中央防災会議では、今後の地震・津波対策のあり方について検討がなされ、地震・津波の発生メカニズムや被害想定等の見直しが行われることとなった。

県も、これまでにやってきた防災・減災対策の総点検を実施することとし、短期対策として避難場所・避難路の見直しや耐震診断・耐震改修・家具の固定の促進などを実施してきたが、今後の防災・減災対策のより一層の充実を図るため、昨年度に続き今年度も「地震・津波に関する県民意識調査」を本県単独で実施し、地震・津波に対する県民の意識の変化などを調査することとした。

これらの結果を地震・津波対策に反映し、東南海・南海地震に備えていくことはもちろん、昨年9月に甚大な被害をもたらした紀伊半島大水害を踏まえた新たな風水害対策についても検討・実施していく。そして、地震・津波に加え、風水害も含めた防災対策への意識が大きく高まっているこのような時期に、県民と協力して、これまで以上に防災・減災対策を積極的に進め、「安心・安全な和歌山県」が実現できるよう取り組んでいく。

平成24年1月  
和歌山県

# - 目次 -

Page

## はじめに

### 第1章 調査概要

1	調査目的	1
2	調査方法	1
3	調査期間	1
4	調査票の配布と回収について	1
5	集計結果	2
6	本報告書における結果数値等の取り扱いについて	2

### 第2章 調査結果概要

	「平成23年度 地震・津波に関する県民意識調査」結果概要	3
1	平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について	4
2	東南海・南海地震について	4
3	津波への意識と避難について	4
4	避難体制について	5
5	避難情報について	6
6	津波への考え方について	6
7	自主防災組織について	7
8	耐震化・家具固定・ブロック塀対策について	7
9	備蓄や訓練について	8
10	災害への意識について	8

### 第3章 調査結果

1	平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について	9
1 - 1	どこにいたか	9
1 - 2	津波が来ると考えたか	10
1 - 3	地震後、どのくらいで津波が来ると思ったか	11
1 - 4	津波警報・大津波警報の発令を聞いたか	12
1 - 5	津波警報・大津波警報をどのように知ったか	13
1 - 6	津波警報・大津波警報を聞いてどう思ったか	14
1 - 7	市町村からの避難の呼びかけを聞いたか	15
1 - 8	市町村からの避難の呼びかけをどのように知ったか	16
1 - 9	市町村からの避難の呼びかけをどのように受け止めたか	17
1 - 10	実際に避難したか	18
1 - 11	なぜ避難しなかったのか	19
1 - 12	どこに避難したのか	20
1 - 13	どのような手段で避難したか	21
1 - 14	避難し終わったのは何時頃か	22
1 - 15	避難したきっかけは何だったか	23

2	東南海・南海地震について	24
2 - 1	東南海や南海地震にどの程度関心を持っているか	24
2 - 2	東南海や南海地震が起こる可能性についてどう思っているか	25
2 - 3	地震の発生確率等について知っているか	26
2 - 4	地震や地震災害の情報をどのように入手しているか	28
2 - 5	東南海・南海地震が同時発生時、地震の揺れは最大でどのくらい 続くと思うか	31
3	津波への意識と避難について	32
3 - 1	津波は何分くらいで押し寄せると思うか	32
3 - 2	どれくらいの高さの津波が押し寄せると思うか	33
3 - 3	防波堤等で津波をどれくらい防げると思うか	34
3 - 4	自宅が津波でどの程度浸水すると思うか	35
3 - 5	自宅が津波でどの程度の被害を受けると思うか	36
3 - 6	居住地域が津波でどの程度の被害を受けると思うか	37
3 - 7	夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、避難するか	38
3 - 8	避難する理由は何か	40
3 - 9	どの段階で避難するか	42
3 - 10	どこに避難するか	45
3 - 11	避難する際にどうしても持って行きたいものは何か	48
3 - 12	屋外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うか	50
3 - 13	どのようにして避難するか	51
3 - 14	避難に車や船を使う主な理由は何か	53
3 - 15	避難場所に到着するまでにどれくらいの時間がかかると思うか	55
3 - 16	津波が来る前に安全な場所にたどり着けると思うか	56
3 - 17	避難するときの妨げになると心配していることは何か	58
3 - 18	避難しない理由は何か	61
4	避難体制について	62
4 - 1	災害時要援護者を地域として支援する体制の有無	62
4 - 2	地震や津波の時、行政は何をすべきだと思うか	63
5	避難情報について	66
5 - 1	近くに防災無線のスピーカーはあるか、聞こえ具合はどうか	66
5 - 2	防災無線は役に立つと思うか	67
5 - 3	「防災わかやまメール配信サービス」に登録しているか	68
5 - 4	「防災わかやまメール配信サービス」に登録していないのはなぜか	69
5 - 5	緊急地震速報を知っているか	71
5 - 6	自宅で緊急地震速報を受けたときどうするか	72
6	津波への考え方について	74
6 - 1	「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」について どう思うか	74
6 - 2	「地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない」 についてどう思うか	75
6 - 3	「海の水が大きく引いてから避難しても間に合う」について どう思うか	76
6 - 4	「津波警報が出てから避難しても間に合う」についてどう思うか	77

6 - 5	「市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない」についてどう思うか	78
7	自主防災組織について	79
7 - 1	町内会（自治会）に入っているか	79
7 - 2	自主防災組織に入っているか	81
7 - 3	自主防災組織の活動は活発か	83
7 - 4	地震後、地域の人と協力してできることは何か	84
7 - 5	地域防災リーダーとして活動することについてどう思うか	86
8	耐震化・家具固定・ブロック塀対策について	89
8 - 1	自宅の建築年はいつか	89
8 - 2	自宅の形態は（戸建て、集合住宅等）	90
8 - 3	自宅の構造は（木造、鉄骨造等）	91
8 - 4	専門家による耐震診断を受けたことがあるか	92
8 - 5	耐震診断の結果は	93
8 - 6	耐震補強が必要と判断された後、補強等を行ったか	94
8 - 7	耐震診断を受けていないのはなぜか	95
8 - 8	今後、耐震診断を受けたいか	97
8 - 9	木造住宅の耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか	98
8 - 10	家具類の固定をしているか	100
8 - 11	家具類の固定をしていないのはなぜか	101
8 - 12	今後、家具類の固定をしたいか	103
8 - 13	家具類の固定を促進するため、行政は何をすべきだと思うか	104
8 - 14	ブロック塀や石塀、門柱などがあるか	106
8 - 15	ブロック塀や石塀、門柱などの安全性を点検しているか	107
8 - 16	点検していないのはなぜか	108
8 - 17	今後、塀を補強したり生け垣等へ変える予定はあるか	110
8 - 18	ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか	111
9	備蓄や訓練について	113
9 - 1	どのような地震防災対策を行っているか	113
9 - 2	非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か	115
9 - 3	防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか （避難所の確認、防災マップの作成、講演会等）	117
9 - 4	過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか	119
9 - 5	どのような訓練に参加したか	123
9 - 6	どのような訓練が必要であると思うか	125
10	災害への意識について	126
10 - 1	「防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ」についてどう思うか	126
10 - 2	「大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ」についてどう思うか	127
10 - 3	「大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない」についてどう思うか	128
10 - 4	「災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の	

	被災者がすべきだ」についてどう思うか	129
10 - 5	「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、 地域の人たちで助けなければならない」についてどう思うか	130
10 - 6	地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか	131

#### 第4章 アンケート回答者の属性

1	性別	133
2	年齢	133
3	居住年数	134
4	職業	134
5	家族構成	135
6	ご近所とのつきあい	136
7	過去災害に関する話の伝承	136
8	加入している保険	137

#### 第5章 参考資料

1	津波危険地区一覧	138
2	単純集計表	142
3	使用した調査票（津波危険地区）	161
4	使用した調査票（全県）	180

# 第 1 章 調査概要

## 1 調査目的

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震では、予測を超える大津波等による甚大な被害が発生したことから、県では防災・減災対策の総点検を実施しているところである。

この対策に合わせ、県民意識調査を実施し、これまで実施してきた県民意識調査の結果との比較や、県民の地震に対する認知度と備え、行政への新たなニーズ等のデータを、収集・分析して、今後の防災・減災対策に反映することを目的とするものである。

## 2 調査方法

### (1) 配布、回収方法

郵送配布、郵送回収によるアンケート調査。

### (2) 対象者

津波危険地区（東南海・南海地震による津波で全域もしくはほとんどが浸水深1m以上と想定される地域（町丁目・大字））に居住する、満20歳以上の住民から2,000人。（以下、「津波危険地区」という）

津波危険地区を除く地域のうち、満20歳以上の住民から2,000人。（以下、「全県」という）

### (3) 抽出方法

県民意識調査の対象者は、各市町村の選挙人名簿から等間隔抽出により抽出した。

各市町村毎の抽出人数は人口比率から決定している。

## 3 調査期間

### (1)津波危険地区

平成23年8月22日から平成23年9月16日

### (2)全県

平成23年8月31日から平成23年9月28日

## 4 調査票の配布と回収について

配布数と有効回収数、及び有効回収率は、以下のとおりである。

表1 配布数と有効回収数及び有効回収率

	配布数	有効回収数	有効回答率
津波危険地区	2,000	947	47.4%
全県	2,000	961	48.1%
合計	4,000	1,908	47.7%

注) 有効回収数及び有効回答率は、白紙回答を「無効」として算出した数量である。

## 5 集計結果

調査結果の集計は、設問別、年齢別、調査別（津波危険地区、全県）に集計を行っている。

また、過年度調査（平成16年度、平成19年度、平成22年度）において同じ質問を設けている場合は、経年変化を掲示している。

## 6 本報告書における結果数値等の取り扱いについて

本報告書では、結果数値等を以下のとおり取り扱っている。

(1) アンケートの回答には、単数回答（1つだけ選択する回答）と複数回答（該当するもの全てを選択する回答）がある。

単数回答の設問において、複数を選択している場合は「無効」とし「無回答」に含めて集計している。

(2) 調査結果の数値は、回答数をもとに、原則、パーセント（％）値で表記している。（％値の母数は、その設問の該当標本数（有効回答数））

(3) ％値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、合計が必ずしも100％とならない場合（99.9％または100.1％など）がある。

同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計などでは、内訳の％値を単純加算した数値とは異なる場合がある。

## 第 2 章 調查結果概要

## 「平成 23 年度地震・津波に関する県民意識調査」結果概要

今年度の調査は、東北地方太平洋沖地震後に実施したこともあり、県民の東南海・南海地震に対する関心の高まりと津波に対する危機感が現れている。

東南海・南海地震に対する関心については、年々減少の傾向にあったが、今年度は「非常に関心がある」と回答した人が大幅に増加し、発災の可能性についても 4 割強の人が「明日起きても不思議はない」と考えているなど、東南海・南海地震をより現実的なものとして認識している。

津波によってどの程度の被害を受けるとするかについては、自宅が一部損壊以上の被害を受けると考えている人が過半数を占め、居住地域が津波によって「全滅する」と考えている人が平成 16 年度と比べ 3 倍以上となっている。また、どれくらいの津波が押し寄せるとするかについても、「まったく予想がつかない」と回答した人が昨年度までの傾向に比べて増加しており、津波の破壊力に対する不安が広がっている。

個々人の防災対策については、昨年度と比べ「地震が起きたとき避難する場所を決めている」や懐中電灯等の「非常用持ち出し品を用意している」が大きく増加したほか、「地震防災に関するパンフレットを読んだ」についても大きく増加するなど、個々人の防災への取組みが進んでいる。また、「大災害のときには自分の命は自分で守らなければならない」と考える人が約 7 割を占めるとともに、「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」を求める人が多いなど、「自助」精神の高まりが見られる。

地域住民間の「共助」については、災害時に避難所の運営や炊き出しなどを地域で協力してできると考えている人が増加するとともに、「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に地域の人たちで助けなければならない」と考える人が約 9 割を占めた。また、「共助」の中心的存在である自主防災組織には約 3 割の人が参加しており、地域の防災力を高めるため「自主防災組織の育成・強化」が必要であると考え人は昨年度より増加している。

そうした中、「大地震対策については個人では難しいため、県や市町村が中心となって進めるべきだ」と考える人が約 9 割を占め、地震・津波のときの避難対策として「避難所や避難場所の整備」を求める人が最も多いなど、大規模な災害対策には「公助」についても強く求められている。

今回の調査結果を踏まえ、県民や事業者、自主防災組織などの「自助」、「共助」の取組みをより後押しできるような各種施策や広報を行うなど、「公助」としての役割を果たし、地域社会の防災力を向上していくことが必要である。

## 第2章 調査結果概要

---

### 1 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

- ・津波が「必ず来る」又は「来るかもしれない」と思った人は、60.8%となっている。
- ・津波警報・大津波警報の発令を聞いた人は、78.7%を占めている。情報源は、テレビから情報を得た人(77.2%)が最も多く、次いで防災無線の屋外拡声器から(34.2%)となっている。
- ・津波警報・大津波警報の発令を知ったにも拘らず、すぐに避難しなければならないと思った人は15.4%に留まっており、津波に対する認識の甘さがうかがえる。
- ・地震発生後に実際に避難した人は16.8%に留まっており、避難しなかった理由としては、「その時いた場所が危険とは思わなかったので」が57.5%で最も多かった。
- ・避難した場所としては、「津波の危険がない高台」(30.2%)が最も多く、次いで「市町村が指定した避難所」(28.9%)となっている。
- ・避難に利用した手段について、「徒歩」での避難が45.9%と最も多く、次いで「車」での避難が39.6%となっている。

### 2 東南海・南海地震について

- ・東南海・南海地震への関心度は、津波危険地区と全県で大きな差はみられない。経年変化でみると、減少傾向にあったが、本調査では、大幅に増加しており、関心の高まりがうかがえる。
- ・東南海・南海地震が起こる可能性について、46.1%が「明日起きても不思議はないと思っている」と答えている。経年変化でみると、過年度調査より約10ポイント増加しており、危機感が強くなっている。
- ・地震災害の情報入手について、「テレビ」と答えた人は全体の94.6%となっている。次いで「新聞」(58.2%)、「県や市町村の広報誌」(27.9%)となっている。
- ・東南海・南海地震が同時発生時の揺れの長さについて、「全く予想がつかない」(31.6%)が最も多く、次いで「2～3分(東日本大震災くらい)」(24.8%)となっている。

### 3 津波への意識と避難について

- ・どれくらいの高さの津波が押し寄せると思うかについて、「まったく予想がつかない」(38.6%)がH19(30.9%)と比較し約8ポイント増加しており、予想がつかないと思う人が増加していることがわかる。また、「10m以上」(14.0%)がH19(7.9%)の約2倍に増加し、波高の大きな津波の襲来を予想する人が増加している。
- ・防波堤等で津波をどれくらい防げると思うかについて、「あまり防げない」(56.4%)が増加傾向にあり、津波の破壊力への危機感が広がってきていることがうかがえる。
- ・自宅が津波でどの程度浸水するかについて、49.3%が浸水被害に遭うと考えている。また、一部損壊以上(流出や大破)の被害を受けると考える人は54.4%で、年々増加している。

## 第2章 調査結果概要

---

- ・居住地域がどの程度の被害を受けるかについて、「全滅する」(27.6%)は年々増加傾向にあり、H16(8.6%)と比較し3倍以上、H19(12.1%)と比較し2倍以上に増加しており、危機感が増している。
- ・夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に「避難する」と答えた人は79.8%となっている。
- ・夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に避難する理由については、「津波に襲われる危険があるから」(82.7%)が最も多い。一方、避難しない理由については、「自宅が安全だから」(28.8%)が最も多い。
- ・避難する手段については、「歩いて」が73.1%、「車で」が13.4%を占めている。車で避難する理由については、「避難場所が遠いから」(22.8%)、「家族と一緒に避難したいから」(22.8%)が最も多く、次いで「ひとりで歩けない家族がいるから」(18.8%)が多くなっている。
- ・津波が来る前に安全な場所にたどり着けるかについて、「20歳代」「50歳代」「60歳代」「70歳以上」において「津波が来る前に必ずたどり着けると思う」と考える人が5割を超えており、「30歳代」と「40歳代」は4割弱となっている。
- ・夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に避難するときの妨げになると心配していることについて、年齢に関わらず「倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり、避難に手間取る」(66.0%)が最も多くなっている。若い年代の方が、心配事項(選択数)が少ない傾向にある。

### 4 避難体制について

- ・災害時要援護者を地域で支援する体制の有無について、津波危険地区及び全県ともに「よく知らない」(64.7%)が最も多く、次いで「できていないが検討している」(13.0%)となっている。
- ・地震や津波の時、行政は何をすべきかについて、津波危険地区及び全県ともに「避難所や避難場所の整備」が最も多く、次いで「市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達」となっている。

## 第2章 調査結果概要

---

### 5 避難情報について

- ・防災無線のスピーカーについて、「よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいで聞きとれないことがある」(31.0%)との答えが最も多くなっている。また、防災無線について、「非常に役立つ」と「ある程度役立つ」の合計は、80.1%を占めている。
- ・「防災わかやまメール配信サービス」の登録状況については、「登録している」が17.8%に留まっている。また、登録していない理由については、「防災メールを知らなかったから」(54.9%)が最も多くなっている。
- ・緊急地震速報については、H19と比較し「よく知っている」(43.2%)、「何となく知っている」(36.9%)について若干の減少がみられるが、大きな変化はみられない。
- ・自宅で緊急地震速報を受けた時の行動については、H19と比較し「机、テーブル、ベッドの下にもぐる」(31.1%)について若干の減少がみられるが、他の行動についてはあまり大きな変化はみられない。

### 6 津波への考え方について

- ・「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」について、「そう思う」が最も多く62.7%を占めている。津波危険地区と全県で大きな差はなく、また経年変化もほとんどみられない。
- ・地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ないと思う人は、津波危険地区(66.9%)の方が全県(53.9%)と比べ多くなっている。
- ・「海の水が大きく引いてから避難しても間に合う」について、「そう思わない」(53.9%)が最も多くなっている。津波危険地区と全県で大きな差はなく、また経年変化もほとんどみられない。
- ・「津波警報が出てから避難しても間に合う」について、H22と比較し「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計が5ポイント減少しており、情報を待たずに早期に避難する意識が高まっている。
- ・「市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない」についてどう思うかについて、「そう思う」と「まあそう思う」の合計(56.9%)は5割を超えており、その意味や相違点について、理解されているとは言い難い。

## 第2章 調査結果概要

---

### 7 自主防災組織について

- ・町内会（自治会）への参加状況は、津波危険地区（86.1%）、全県（87.1%）ともに9割弱となっている。一方で、自主防災組織への参加状況は、津波危険地区（33.1%）、全県（27.2%）と津波危険地区の方が約6ポイント多くなっている。
- ・自主防災組織の活動状況について、活動している地域（「活発に活動している」と「まあ活動している」の合計）は、津波危険地区（65.9%）は全県（52.1%）と比較し約13ポイント多く、津波危険地区に含まれる地域の方が活発に活動している傾向がうかがえる。
- ・地震後、地域の人と協力してできることは何かについて、津波危険地区及び全県ともに「高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う」（60.8%）が最も多くなっている。

### 8 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

- ・専門家による耐震診断を受けたことがない人は、89.4%と約9割となっている。
- ・耐震診断を受けた人のうち、48.5%の人が「耐震補強が必要」と判断されている。補強が必要と判断された人のうち、津波危険地区では40.5%、全県では61.5%が補強・建て替え済み又は補強・建て替えを予定している。
- ・耐震診断を受けない理由について、「耐震診断の費用がかかるから」（31.6%）が最も多く、次いで「耐震化しても大地震にあえば被害は避けられないと思うから」（26.5%）となっている。
- ・木造住宅の耐震化の促進について行政に求めることとして、「耐震診断の専門家の無料派遣」を望む声が多く、61.0%を占めている。
- ・家具類の固定をしていない人は、年々減少傾向にあり、一般家庭での家具固定がすすんできている。しかしながら、固定していない人はいまだ55.8%と半数を超えており、固定していない主な理由は、「手間がかかるから」（26.5%）が最も多くなっている。固定していない人の61.4%は、「きちんと固定したい」（33.4%）、「相談してみたい」（28.0%）と考えている。
- ・家具類の固定の促進について行政に望む声として、「家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布」と答えた人が、48.3%と半数近くを占めている。
- ・ブロック塀や石塀、門柱などを点検していない人は94.4%と9割を超えており、点検していない理由は津波危険地区では「点検しなくても安全と思うから」（24.2%）、全県では「点検の方法がわからないから」（27.7%）が最も多くなっている。
- ・ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化の促進について行政に望む声として、「専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施」（47.5%）が最も多くなっている。

## 第2章 調査結果概要

---

### 9 備蓄や訓練について

- ・家庭での地震防災対策として、津波危険地区では「地震が起きたとき避難する場所を決めている」(67.2%)が最も多くなっており、全県では「懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている」(60.2%)が最も多くなっている。
- ・非常持ち出し品を置いている人のうち、「懐中電灯」は89.4%の人が準備しており、次いで津波危険地区では「飲料水」(62.4%)が、全県では「携帯ラジオ」(58.1%)となっている。
- ・過去一年間に何らかの地震防災訓練に参加した人は全県では25.2%であり、一方、津波危険地区では36.8%の人が参加している。津波危険地区で訓練に参加した人のうち、57.8%が「津波避難訓練」に参加しており、全県では51.9%が「消火訓練」に参加している。
- ・必要と思う訓練については、津波危険地区及び全県ともに「津波避難訓練」が最も多く、次いで「応急手当訓練」となっている。

### 10 災害への意識について

- ・「防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ」と思う人は、津波危険地区で40.9%、全県で39.5%と、約4割を占めている。
- ・「大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ」と思う人は、津波危険地区及び全県で88.9%と、約9割を占めている。
- ・「大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない」と思う人は、津波危険地区で89.4%、全県で88.9%と、約9割を占めている。
- ・「災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ」と思わない人は、津波危険地区で76.4%、全県で79.3%と、8割弱を占めている。
- ・「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない」と思う人は、津波危険地区で87.0%、全県で87.7%と、9割近くを占めている。
- ・地域の防災力を高めるために必要なことについては、「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」が最も多く、次いで「自主防災組織の育成・強化」となっている。

## 第 3 章 調査結果

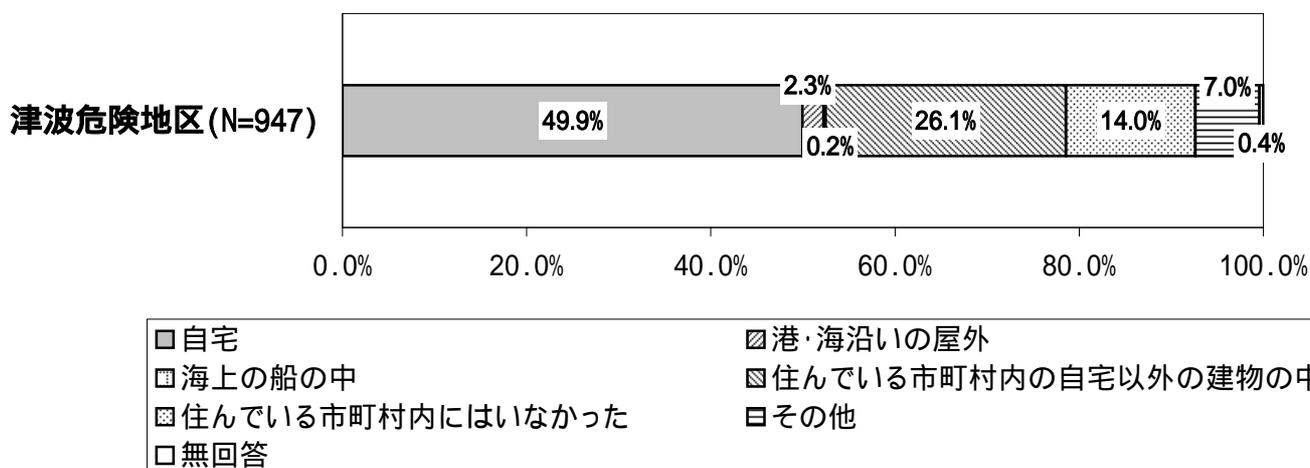
# 1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

## 1-1 どこにいたか

問	この3月11日(金)午後2時46分頃、太平洋三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が起き、震源域に近い東北地方の太平洋岸では、高い津波が甚大な被害をもたらしました。和歌山県沿岸にも全域に大津波警報が発表されましたが、この地震が発生した時、あなたはどこにいましたか(ひとつだけ)。
1. 自宅	2. 港・海沿いの屋外
3. 海上の船の中	4. 住んでいる市町村内の自宅以外の建物の中
5. 住んでいる市町村内にはいなかった	6. その他( )

単数回答

図. どこにいたか



### <その他回答>

・ 自転車で走行中。	・ 車を運転中。
・ 勤務先。	・ 自宅近くの畑。
・ 消防団活動。	・ 電車の中。
	など

東北地方太平洋沖地震発生時、「自宅」(49.9%)が最も多く、次いで「住んでいる市町村内の自宅以外の建物の中」(26.1%)となっている。

約5割が「自宅」、約5割が外出中(「港・海沿いの屋外」と「海上の船の中」と「住んでいる市町村内の自宅以外の建物の中」と「住んでいる市町村内にはいなかった」と「その他」の合計)で、「自宅」と「自宅外」では半数ずつの結果となった。

その他回答をみると、平日の昼間ということもあり、「工作中」や「畑工作中」との回答が多くみられた。

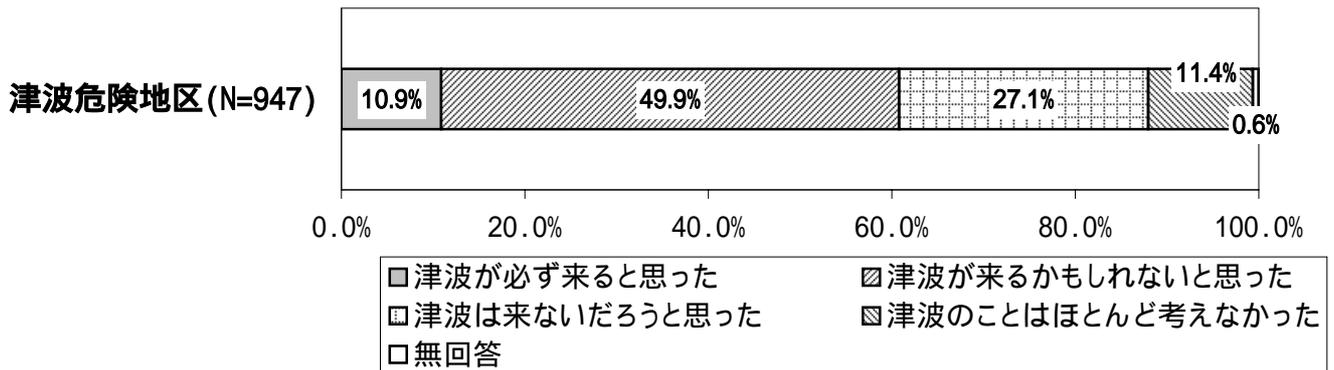
# 1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

## 1 - 2 津波が来ると考えたか

問	あなたは、お住まいの地域に津波が来ると思いましたか（ひとつだけ）。
1. 津波が必ず来ると思った	2. 津波が来るかもしれないと思った
3. 津波は来ないだろうと思った	4. 津波のことはほとんど考えなかった

単数回答

図. 津波が来ると考えたか



東北地方太平洋沖地震発生後に津波が来ると考えたかについて、「津波が来るかもしれないと思った」（49.9%）が最も多く、次いで「津波は来ないだろうと思った」（27.1%）となっている。

津波が来るかもしれないと考えた人（「津波が必ず来ると思った」と「津波が来るかもしれないと思った」の合計）が60.8%、津波は来ないだろうと考えた人（「津波は来ないだろうと思った」と「津波のことはほとんど考えなかった」の合計）が38.5%となっている。

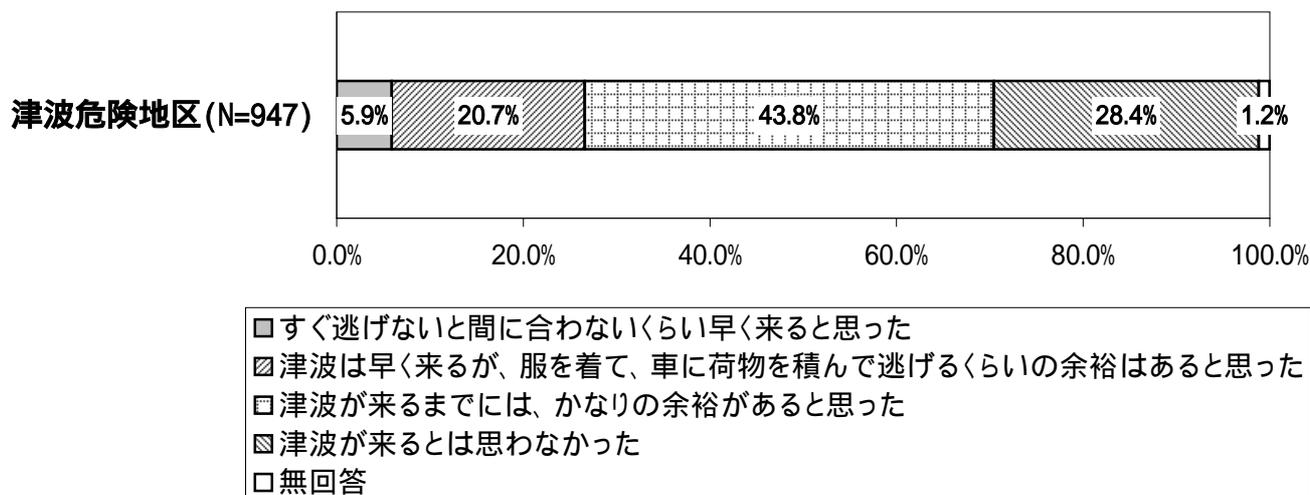
# 1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

## 1-3 地震後、どのくらいで津波が来ると思ったか

問	地震の後どのくらいで津波が来ると思いましたか（ひとつだけ）。
	1. すぐ逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った 2. 津波は早く来るが、服を着て、車に荷物を積んで逃げるくらいの余裕はあると思った 3. 津波が来るまでには、かなりの余裕があったと思った 4. 津波が来るとは思わなかった

単数回答

図. 地震後、どのくらいで津波が来ると思ったか



東北地方太平洋沖地震発生後にどのくらいで津波が来ると思ったかについて、「津波が来るまでには、かなりの余裕があったと思った」（43.8%）が最も多く、次いで「津波が来るとは思わなかった」（28.4%）となっている。

地震発生後すぐに避難する必要はないと考えた人（「津波は早く来るが、服を着て、車に荷物を積んで逃げるくらいの余裕はあると思った」と「津波が来るまでには、かなりの余裕があったと思った」と「津波が来るとは思わなかった」の合計）が約9割を占めている。

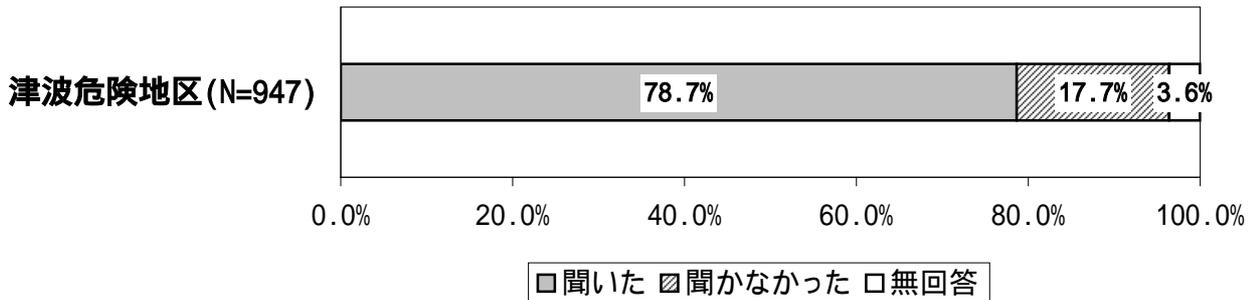
## 1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

### 1 - 4 津波警報・大津波警報の発令を聞いたか

問	この地震では、直後に発表された津波注意報から41分後に津波警報が、津波警報発表から38分後に大津波警報が発表されました。あなたは、この津波警報や大津波警報をお聞きになりましたか(ひとつだけ)。
1. 聞いた	2. 聞かなかった

単数回答

図. 津波警報・大津波警報の発令を聞いたか



東北地方太平洋沖地震発生時、何らかの方法で津波警報・大津波警報の発令を聞いた人は、78.7%となっている。

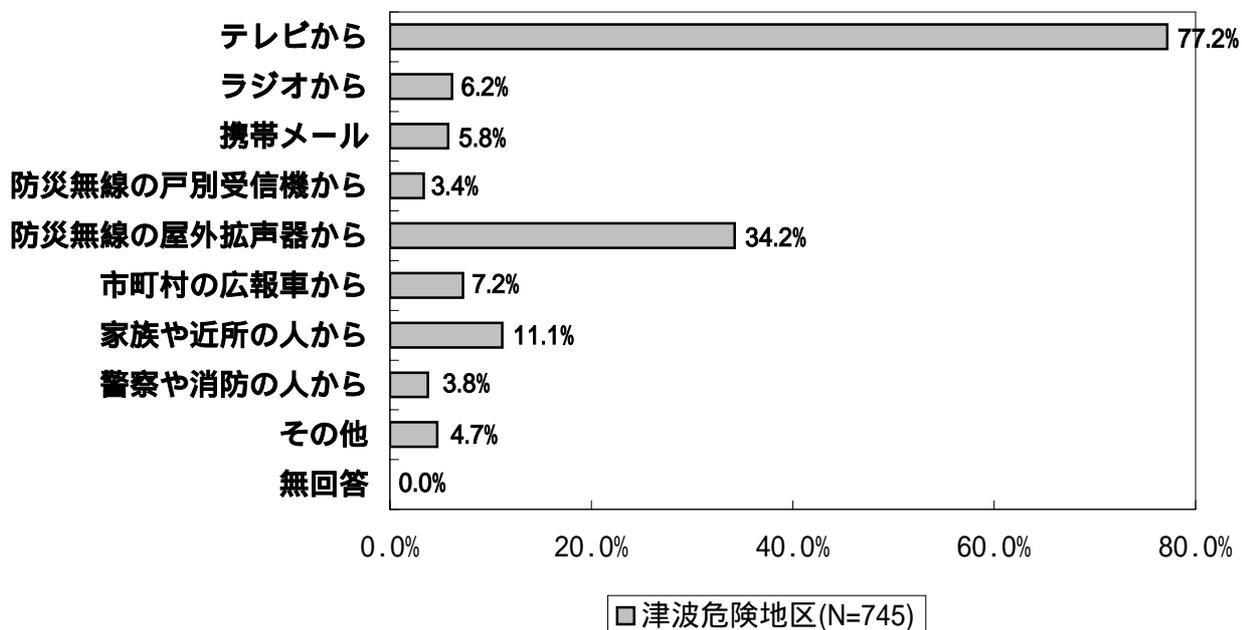
# 1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

## 1 - 5 津波警報・大津波警報をどのように知ったか

付問	あなたはその津波警報や大津波警報をどのようにして知りましたか(いくつでも)。
1. テレビから	2. ラジオから
3. 携帯メール	4. 防災無線の戸別受信機から
5. 防災無線の屋外拡声器から	6. 市町村の広報車から
7. 家族や近所の人から	8. 警察や消防の人から
9. その他( )	

複数回答

図. 津波警報・大津波警報をどのように知ったか



<その他回答>

- ・インターネット
- ・仕事場の人から。
- ・船の無線。
- ・買い物中にスーパーの放送で。 など

津波警報・大津波警報をどのように知ったかについて、「テレビから」(77.2%)が最も多く、次いで「防災無線の屋外拡声器から」(34.2%)となっている。

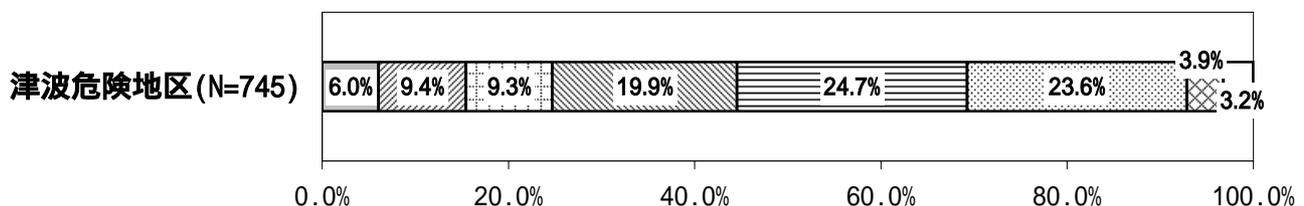
# 1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

## 1 - 6 津波警報・大津波警報を聞いてどう思ったか

付問	あなたは、この津波警報や大津波警報を聞いた時どのように思いましたか（ひとつだけ）。
<p>1. 津波警報を聞いてすぐに避難しなければいけないと思った</p> <p>2. 大津波警報を聞いてすぐに避難しなければいけないと思った</p> <p>3. 津波警報を聞いて避難した方がいいかもしれないと思った</p> <p>4. 大津波警報を聞いて避難した方がいいかもしれないと思った</p> <p>5. 警戒する必要があるが、海の様子を見てから判断した方がよいと思った</p> <p>6. 避難する必要はないと思った</p> <p>7. その他( )</p>	

単数回答

図. 津波警報・大津波警報を聞いてどう思ったか



- 津波警報を聞いてすぐに避難しなければいけないと思った
- 大津波警報を聞いてすぐに避難しなければいけないと思った
- 津波警報を聞いて避難した方がいいかもしれないと思った
- 大津波警報を聞いて避難した方がいいかもしれないと思った
- 警戒する必要があるが、海の様子を見てから判断した方がよいと思った
- 避難する必要はないと思った
- その他
- 無回答

### <その他回答>

- ・ 障害のある母と二人なので避難出来なかった。場所も分からなかった。
- ・ 和歌山県沖合のため家族に連絡をとる。
- ・ 時間があると思い各地の情報をきいていた。
- ・ 地区の役員をしていたので地区の人々にどの様に行動してもらうかの判断が必要だ。
- ・ 高台の為安全と思った。
- ・ 震源地が遠いのである程度楽観していました。 など

津波警報・大津波警報を聞いてどう思ったかについて、「警戒する必要があるが、海の様子を見てから判断した方がよいと思った」（24.7%）が最も多く、次いで「避難する必要はないと思った」（23.6%）となっている。

津波警報・大津波警報を聞いても、避難した方がよいと考えなかった人（「警戒する必要があるが、海の様子を見てから判断した方がよいと思った」と「避難する必要はないと思った」の合計）が約5割を占めている。



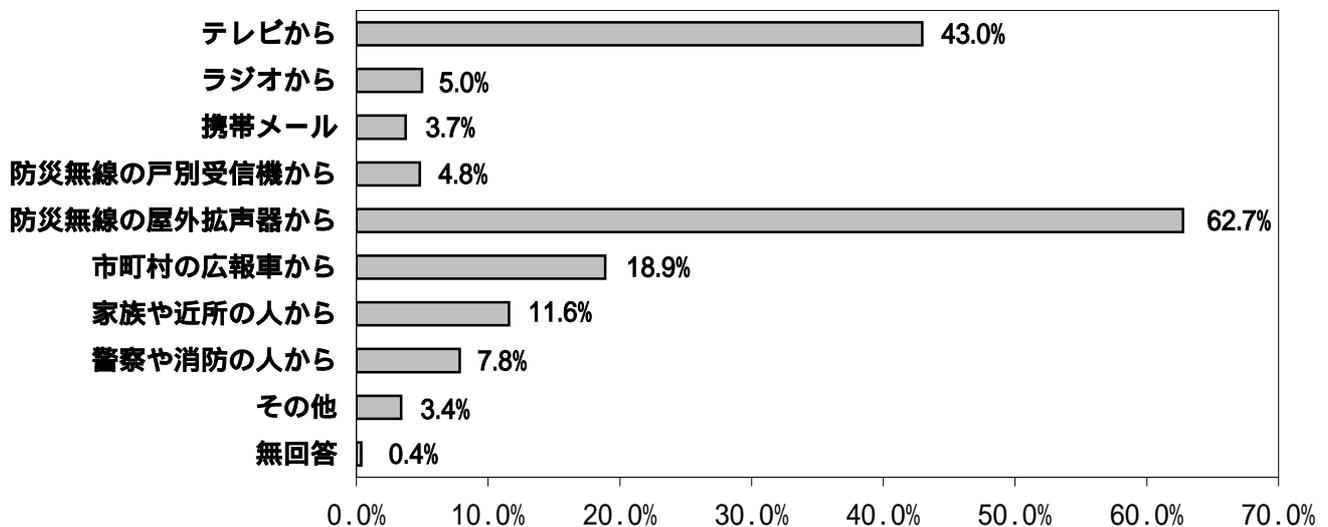
# 1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

## 1 - 8 市町村からの避難の呼びかけをどのように知ったか

付問	あなたはその避難の呼びかけをどのようにして知りましたか(いくつでも)。
1. テレビから	2. ラジオから
3. 携帯メール	4. 防災無線の戸別受信機から
5. 防災無線の屋外拡声器から	6. 市町村の広報車から
7. 家族や近所の人から	8. 警察や消防の人から
9. その他( )	

複数回答

図. 市町村からの避難の呼びかけをどのように知ったか



□ 津波危険地区(N=561)

< その他回答 >

- ・海外に住んでいる娘婿からTEL。

市町村からの避難の呼びかけをどのように知ったかについて、「防災無線の屋外拡声器から」(62.7%)が最も多く、次いで「テレビから」(43.0%)となっている。

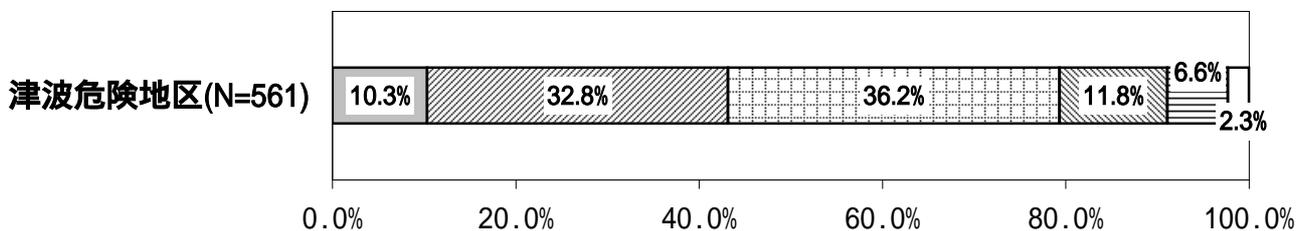
# 1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

## 1 - 9 市町村からの避難の呼びかけをどのように受け止めたか

付問	あなたはその避難の呼びかけをどのように受け止めましたか（ひとつだけ）。
1. 避難するように命令されたを受けとめた 2. できるだけ避難した方がよいと受けとめた 3. どちらかといえば避難した方がよいと受けとめた 4. 自分の住んでいる地域のことだとは思わなかった 5. その他( )	

単数回答

図. 市町村からの避難の呼びかけをどのように受け止めたか



- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 避難するように命令されたを受けとめた                | <input checked="" type="checkbox"/> できるだけ避難した方がよいと受けとめた    |
| <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば避難した方がよいと受けとめた | <input checked="" type="checkbox"/> 自分の住んでいる地域のことだとは思わなかった |
| <input type="checkbox"/> その他                               | <input type="checkbox"/> 無回答                               |

### < その他回答 >

- ・自宅は避難所より高い場所にある為、動かない方がよいと考えた。
  - ・避難の必要は感じなかった。
  - ・避難しなければいけないと思った。
  - ・新宮の方が早いのでこちらの方にくればそれから避難しようと思った。
  - ・避難するにも避難場所を知らないし、又見当たらない。
  - ・今は沖の方まで埋立されており、建物等も建っているの、もう少し様子を見た上で決めようと思った。
- など

市町村からの避難の呼びかけをどのように受け止めたかについて、「どちらかといえば避難した方がよいと受けとめた」（36.2%）が最も多く、次いで「できるだけ避難した方がよいと受けとめた」（32.8%）となっている。

避難した方がよいと受け止めた人（「避難するように命令されたを受けとめた」と「できるだけ避難した方がよいと受けとめた」と「どちらかといえば避難した方がよいと受けとめた」の合計）が約8割を占めている。

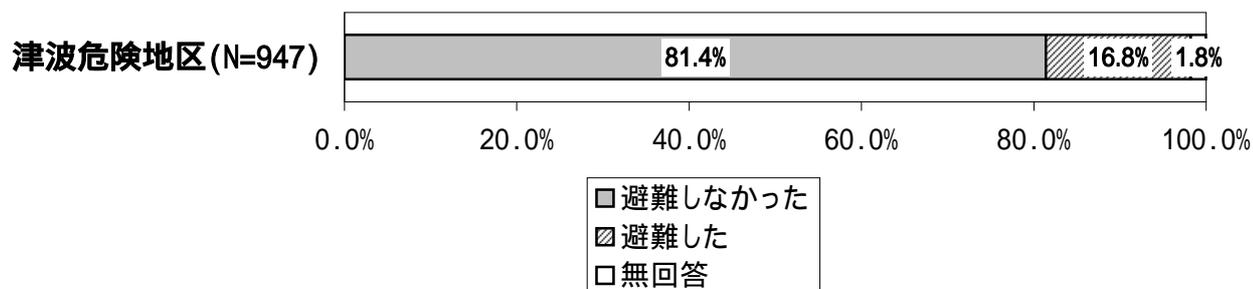
## 1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

### 1 - 10 実際に避難したか

問	では、あなたは実際に避難しましたか（ひとつだけ）。
1. 避難しなかった	2. 避難した

単数回答

図. 実際に避難したか



東北地方太平洋沖地震発生後に実際に避難した人は、16.8%となっている。

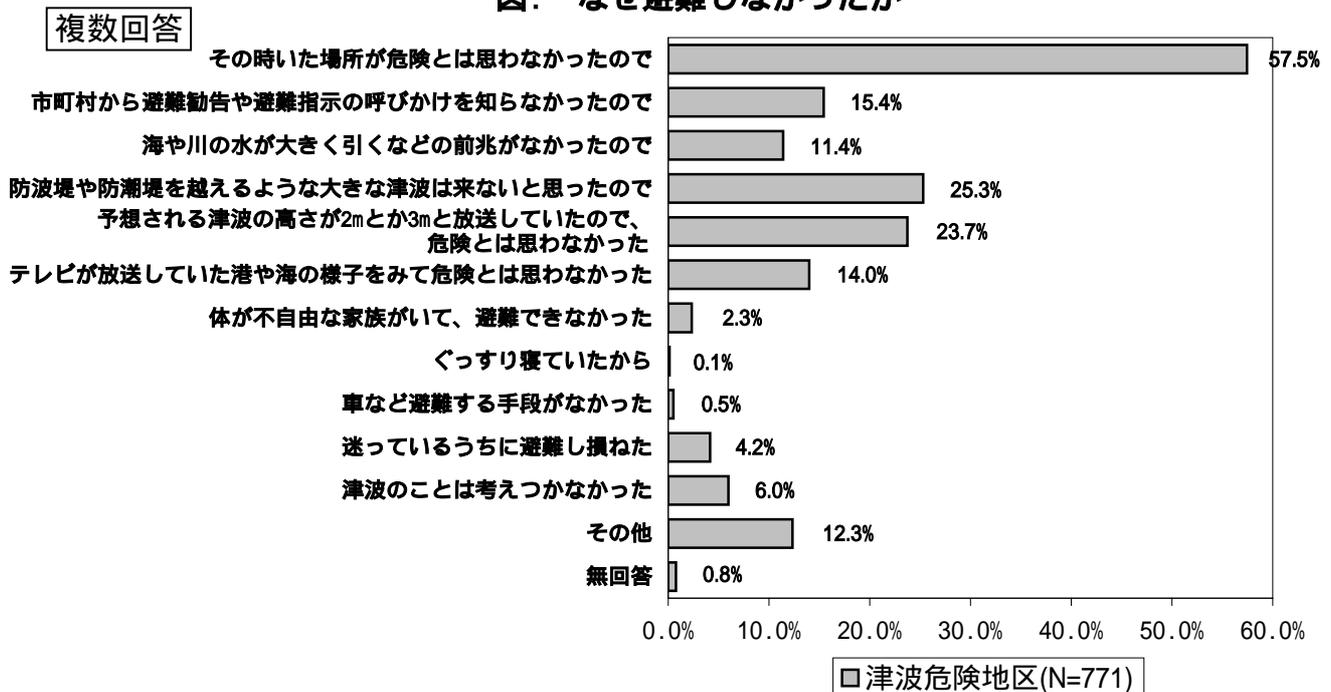
# 1.平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

## 1-11 なぜ避難しなかったのか

付問 あなたはなぜ避難しなかったのですか(いくつでも)。

1. その時いた場所が危険とは思わなかったので
2. 市町村から避難勧告や避難指示の呼びかけを知らなかったので
3. 海や川の水が大きく引くなどの前兆がなかった
4. 防波堤や防潮堤を越えるような大きな津波は来ないと思ったので
5. 予想される津波の高さが2mとか3mと放送していたので、危険とは思わなかった
6. テレビが放送していた港や海の様子をみて危険とは思わなかった
7. 体が不自由な家族がいて、避難できなかった
8. ぐっすり寝ていたから
9. 車など避難する手段がなかった
10. 迷っているうちに避難し損ねた
11. 津波のことは考えつかなかった
12. その他( )

図. なぜ避難しなかったか



### <その他回答>

- ・ 保育所に勤務しているため園児の避難や保護者への対応に追われた。
- ・ 自宅に帰ってから警報がでていたが、大丈夫だと思った。
- ・ 家は海岸から30m位高い所。
- ・ 自分が住んでいる地域に避難勧告や指示が出ていなかった。
- ・ 近所の人達と相談したが、誰も避難しなかった。
- ・ 緊急の場合市の広報車等の呼びかけがあるだろうと思った。

など

なぜ避難しなかったかについて、「その時いた場所が危険とは思わなかった」(57.5%)が最も多く、次いで「防波堤や防潮堤を越えるような大きな津波は来ないと思った」(25.3%)、「予想される津波の高さが2mとか3mと放送していたので、危険とは思わなかった」(23.7%)となっている。

# 1.平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

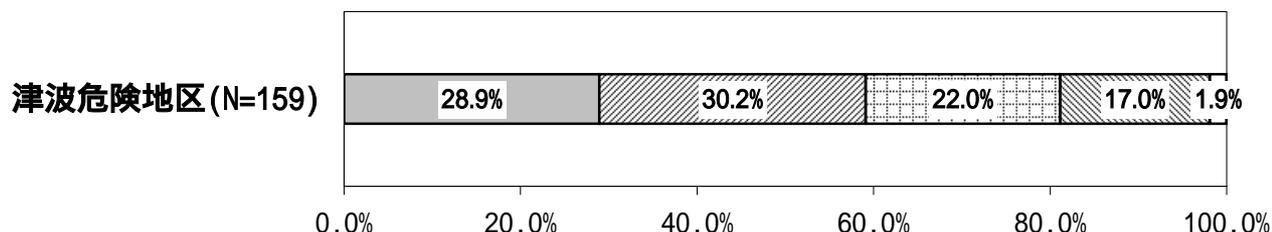
## 1 - 12 どこに避難したのか

付問 あなたが避難したのはどこですか（ひとつだけ）。

1. 公民館や学校など市町村が指定した避難場所
2. 津波の危険がない、屋外の高台
3. 津波の危険がない、親戚・知人宅
4. その他( )

単数回答

図. どこに避難したのか



- 公民館や学校など市町村が指定した避難場所
- 津波の危険がない、屋外の高台
- 津波の危険がない、親戚・知人宅
- その他
- 無回答

### <その他回答>

- ・ 船で沖へ出船。
- ・ 老人ホームの3階。
- ・ 避難場所の指定がない高校。
- ・ 勤務先が指定している避難場所。
- ・ 大型店舗2F駐車場。
- ・ 実家 7階建マンション7階に住んでいます。 など

避難した場所について、「津波の危険がない、屋外の高台」(30.2%)が最も多く、次いで「公民館や学校など市町村が指定した避難場所」(28.9%)、「津波の危険がない、親戚・知人宅」(22.0%)となっている。

## 1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

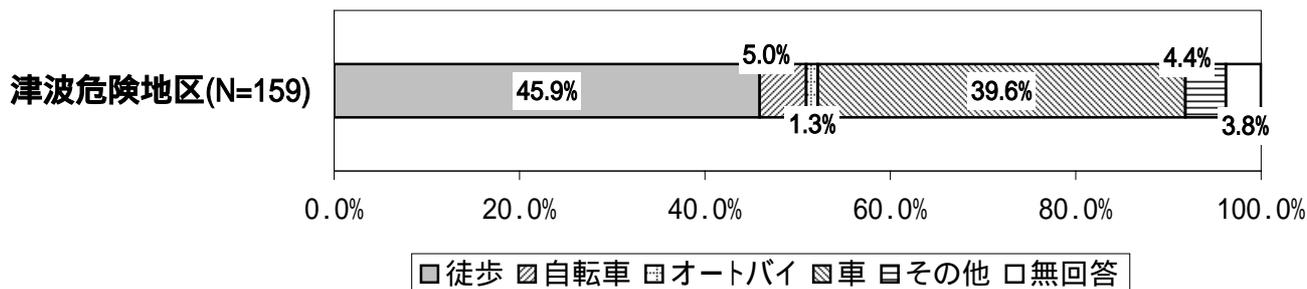
### 1 - 13 どのような手段で避難したか

付問 あなたはどのような手段で避難しましたか（ひとつだけ）。

- |           |        |
|-----------|--------|
| 1. 徒歩     | 2. 自転車 |
| 3. オートバイ  | 4. 車   |
| 5. その他（ ） |        |

単数回答

図. どのような手段で避難したか



< その他回答 >

- ・ 船
- ・ バス
- ・ 実家から車で迎えに来てもらいました。
- ・ すでに避難場所にいた（小学校に勤めていた）。

どのような手段で避難したかについて、「徒歩」（45.9%）が最も多く、次いで「車」（39.6%）となっている。

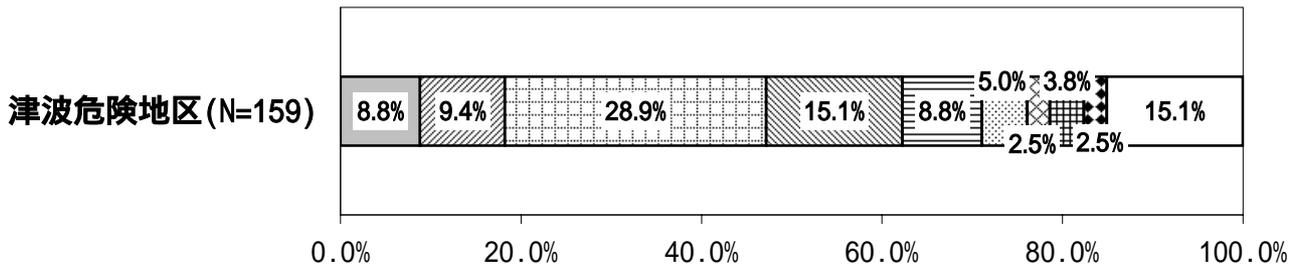
# 1 . 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

## 1 - 14 避難し終わったのは何時頃か

付問	あなたが避難し終わったのは何時頃でしたか。
	だいたい <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/> 時くらい

単数回答

図. 避難し終わったのは何時頃か



□地震発生後 30分以内	▣地震発生後 30分 ~ 1時間
▤地震発生後 1時間 ~ 2時間	▥地震発生後 2時間 ~ 3時間
▦地震発生後 3時間 ~ 4時間	▧地震発生後 4時間 ~ 5時間
▨地震発生後 5時間 ~ 6時間	▩地震発生後 6時間 ~ 12時間
▪地震発生後 12時間 ~ 24時間	□無回答

避難し終わった時間について、「地震発生後 1時間 ~ 2時間」(28.9%)が最も多く、次いで「地震発生後 2時間 ~ 3時間」(15.1%)となっている。

1時間以内に避難し終わっていた人(「地震発生後 30分以内」と「地震発生後 30分 ~ 1時間」の合計)は、18.2%を占めている。

那智勝浦町浦神：第1波到達は地震発生1時間28分後(気象庁発表)

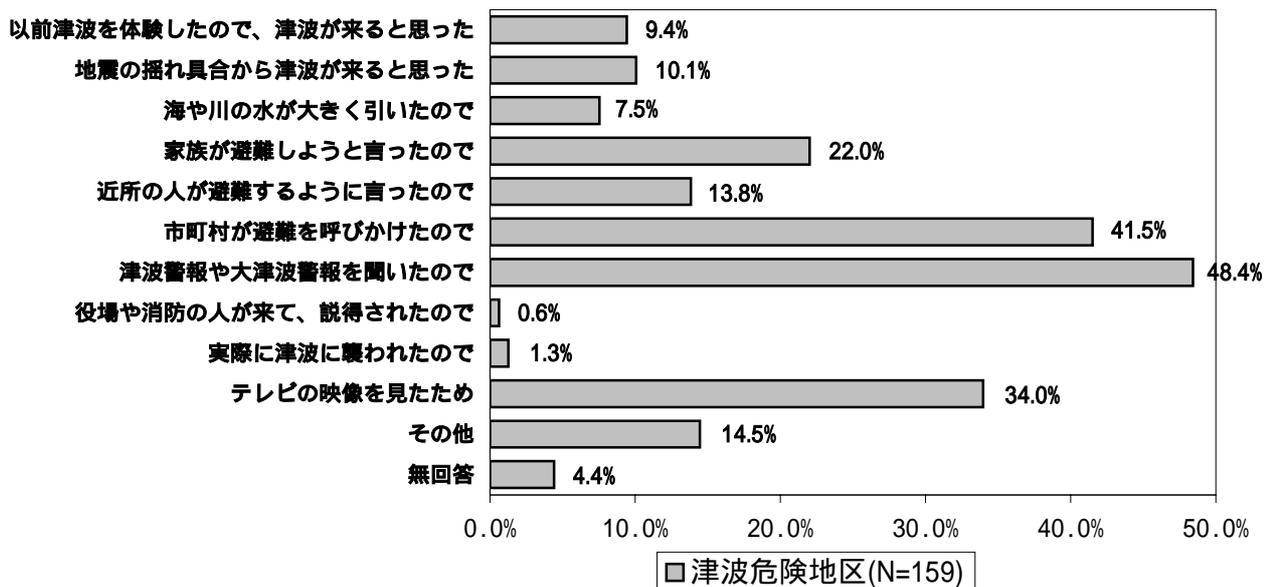
# 1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震について

## 1 - 15 避難したきっかけは何だったか

付問	あなたが避難したきっかけは何でしたか(いくつでも )。
<p>1. 以前津波を体験したので、津波が来ると思った</p> <p>2. 地震の揺れ具合から津波が来ると思った</p> <p>3. 海や川の水が大きく引いたので</p> <p>4. 家族が避難しようと言ったので</p> <p>5. 近所の人が避難するように言ったので</p> <p>6. 市町村が避難を呼びかけたので</p> <p>7. 津波警報や大津波警報を聞いたので</p> <p>8. 役場や消防の人が来て、説得されたので</p> <p>9. 実際に津波に襲われたので</p> <p>10. テレビの映像を見たため</p> <p>11. その他( )</p>	

複数回答

図. 避難したきっかけは何だったか



### < その他回答 >

- ・ 漁船の被害。
- ・ 防災マニュアル。
- ・ 職場で子どもの安全を確保するため。
- ・ 職場からの指示。
- ・ 異変があってからでは走ってにげられないので。
- ・ 妊娠していていざとなった時動けない可能性もあるので早めに避難しました。 など

避難したきっかけについて、「津波警報や大津波警報を聞いたので」(48.4%)が最も多く、次いで「市町村が避難を呼びかけたので」(41.5%)、「テレビの映像を見たため」(34.0%)となっている。

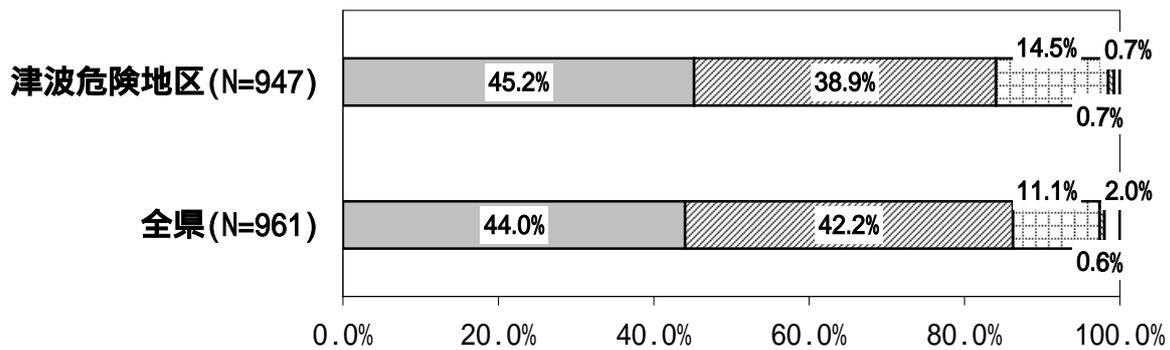
## 2. 東南海・南海地震について

### 2 - 1 東南海や南海地震にどの程度関心を持っているか

問	あなたは東南海地震や南海地震にどの程度関心を持っていますか（ひとつだけ）。
1. 非常に関心がある    2. 関心がある    3. 多少関心がある    4. 関心がない	

単数回答

図. 東南海や南海地震にどの程度関心を持っているか



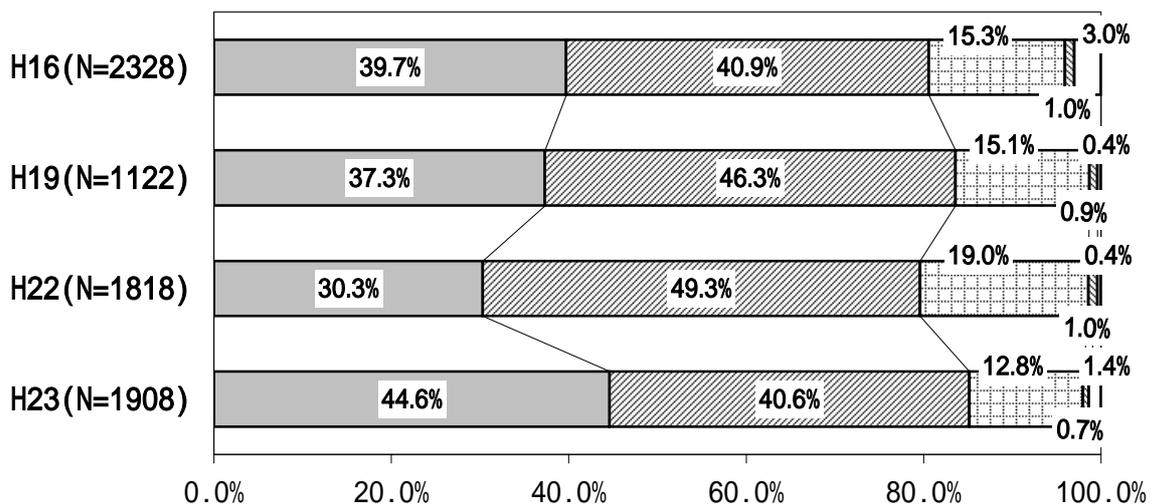
□ 非常に関心がある    ▨ 関心がある    ▩ 多少関心がある    ▪ 関心がない    □ 無回答

東南海や南海地震にどの程度関心を持っているかについて、津波危険地区及び全県ともに「非常に関心がある」が最も多く、次いで「関心がある」となっている。

関心がある人（「非常に関心がある」と「関心がある」と「多少関心がある」の合計）は、津波危険地区で98.5%、全県で97.4%となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 東南海や南海地震にどの程度関心を持っているか  
～ 経年変化 ～



□ 非常に関心がある    ▨ 関心がある    ▩ 多少関心がある    ▪ 関心がない    □ 無回答

経年変化でみると、「非常に関心がある」について、H16からH22まで減少傾向にあったが、H23では調査開始以来最も多くなっている。

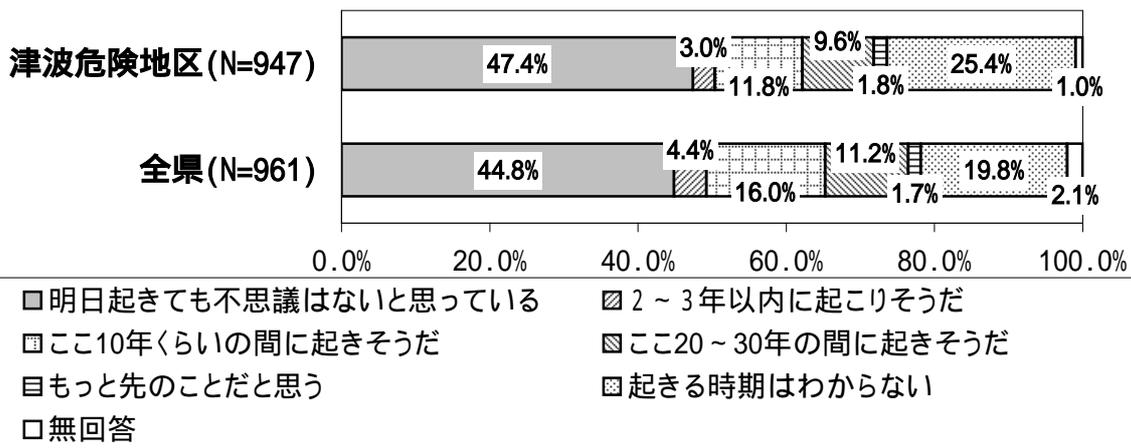
## 2. 東南海・南海地震について

### 2 - 2 東南海や南海地震が起こる可能性についてどう思っているか

問	あなたは、東南海地震または南海地震が起こる可能性について、どのように思っていますか（ひとつだけ）。
	1. 明日起きても不思議はないと思っている      2. 2～3年以内に起こりそうだ 3. ここ10年くらいの間に起きそうだ              4. ここ20～30年の間に起きそうだ 5. もっと先のことだと思う                          6. 起きる時期はわからない

単数回答

図. 東南海や南海地震が起こる可能性についてどう思っているか

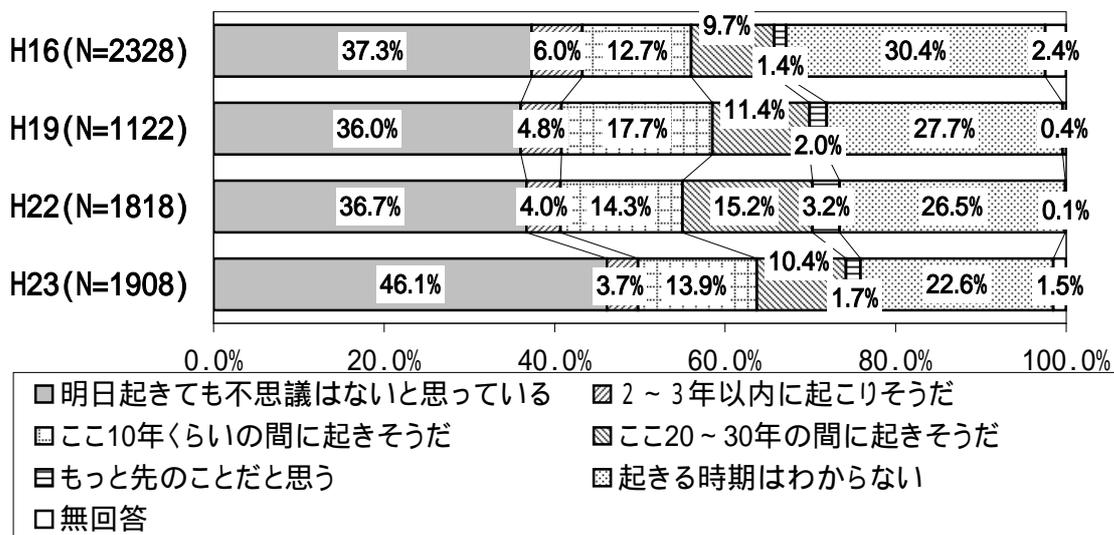


東南海や南海地震が起こる可能性について、津波危険地区及び全県ともに「明日起きても不思議はないと思っている」が最も多く、次いで「起きる時期はわからない」となっている。

30年以内に起こる可能性があると考える人（「明日起きても不思議はないと思っている」と「2～3年以内に起こりそうだ」と「ここ10年くらいの間に起きそうだ」と「ここ20～30年の間に起きそうだ」の合計）は、津波危険地区で71.8%、全県で76.5%となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 東南海や南海地震が起こる可能性についてどう思っているか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「明日起きても不思議はないと思っている」について、大幅な増加が見られ、危機感がより強くなってきている。

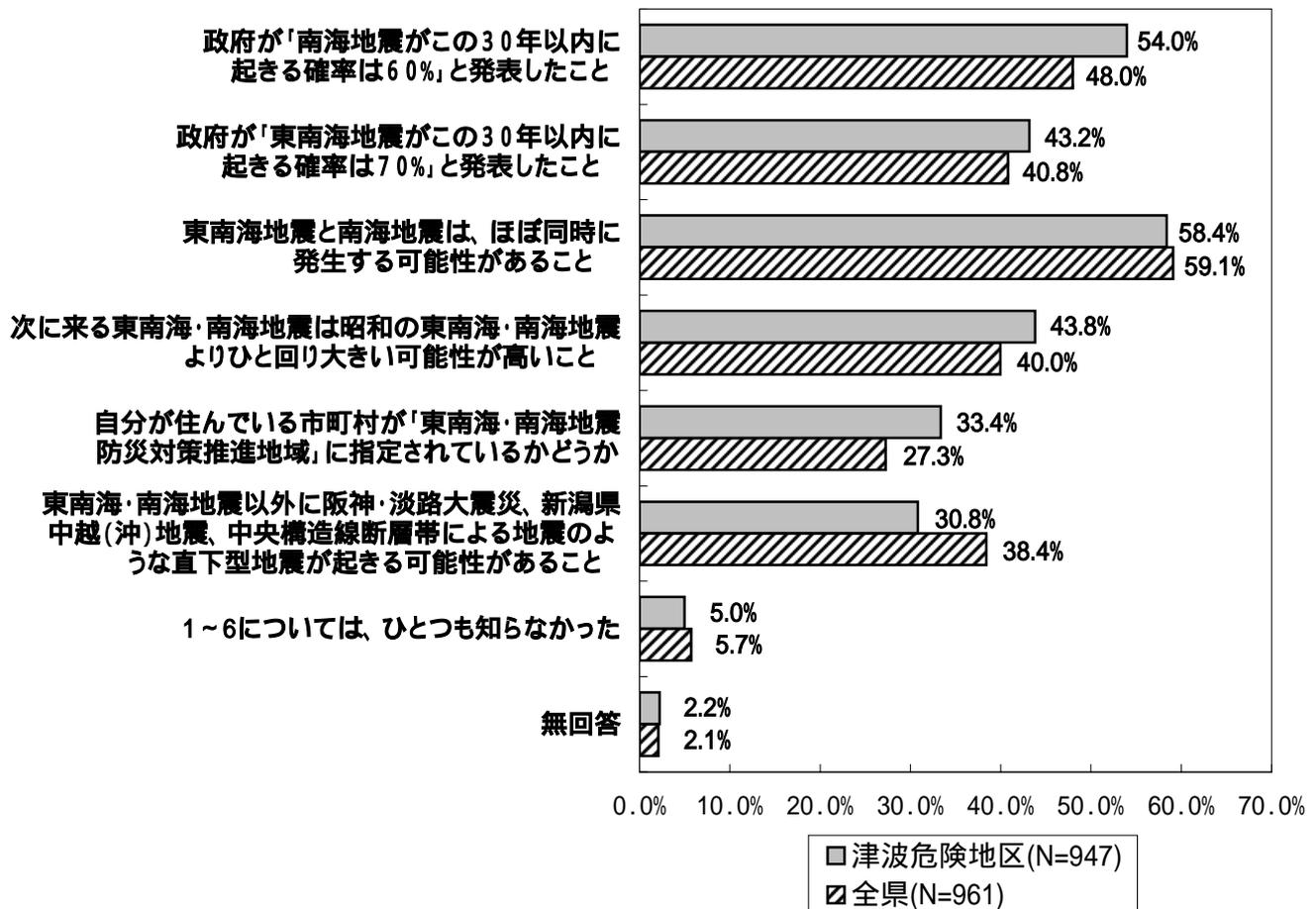
## 2. 東南海・南海地震について

### 2 - 3 地震の発生確率等について知っているか

問	次のうちで、あなたがすでにご存じのことに、いくつでもをつけてください。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政府が「南海地震がこの30年以内に起きる確率は60%」と発表したこと</li> <li>2. 政府が「東南海地震がこの30年以内に起きる確率は70%」と発表したこと</li> <li>3. 東南海地震と南海地震は、ほぼ同時に発生する可能性があること</li> <li>4. 次に来る東南海・南海地震は昭和の東南海・南海地震よりひと回り大きい可能性が高いこと</li> <li>5. 自分が住んでいる市町村が「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定されているかどうか</li> <li>6. 東南海・南海地震以外に阪神・淡路大震災、新潟県中越（沖）地震、中央構造線断層帯による地震のような直下型地震が起きる可能性があること</li> <li>7. 1.~6.については、ひとつも知らなかった</li> </ol>

複数回答

図. 地震の発生確率等について知っているか

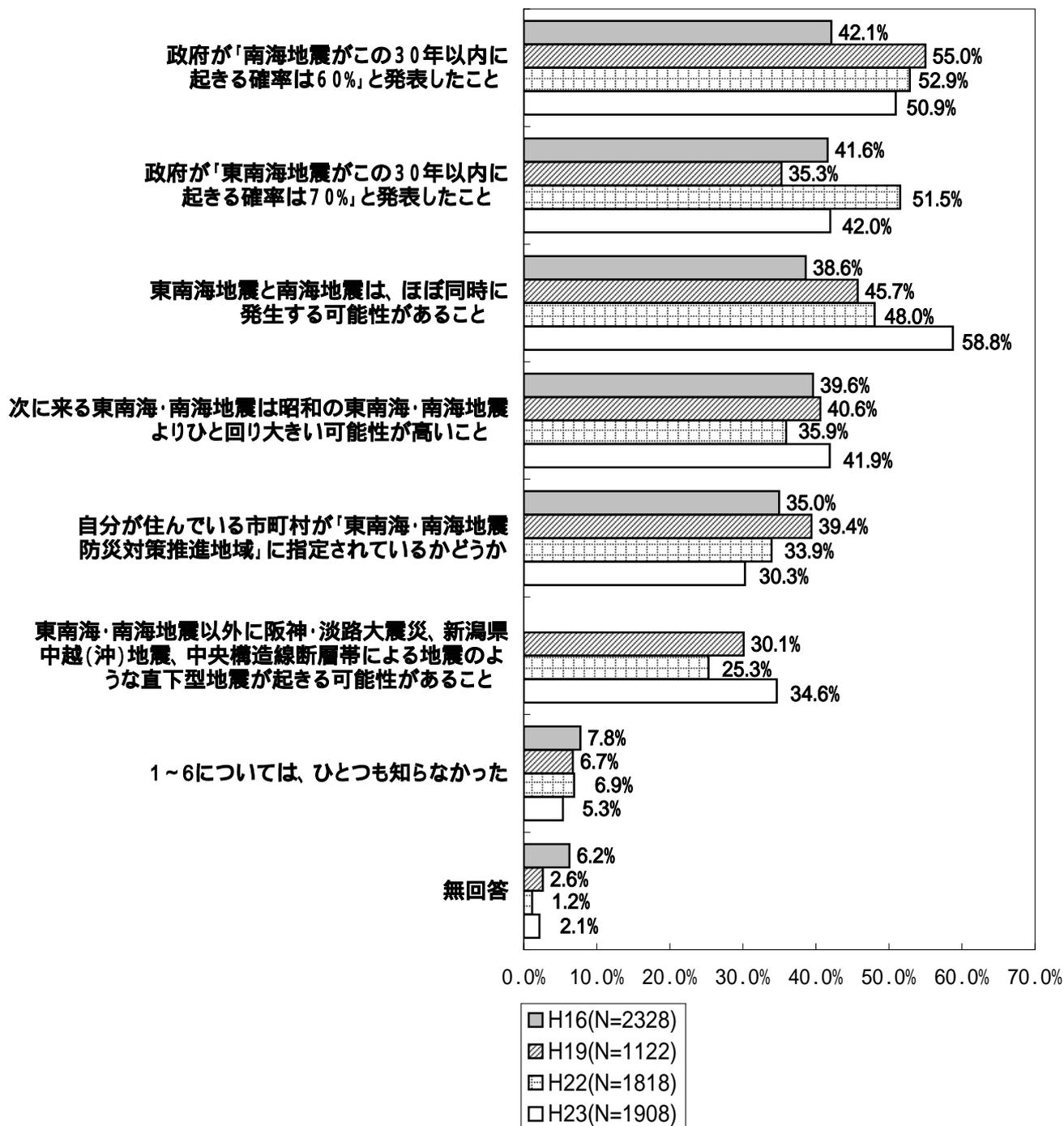


地震の発生確率等で知っていることについて、津波危険地区及び全県ともに「東南海地震と南海地震は、ほぼ同時に発生する可能性があること」が最も多く、次いで「政府が「南海地震がこの30年以内に起きる確率は60%」と発表したこと」となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

## 2. 東南海・南海地震について

図. 地震の発生確率等について知っているか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「東南海地震と南海地震は、ほぼ同時に発生する可能性があること」(58.8%)がH22(48.0%)と比較し、10ポイント以上増加している。その他は特に大きな変化はみられない。

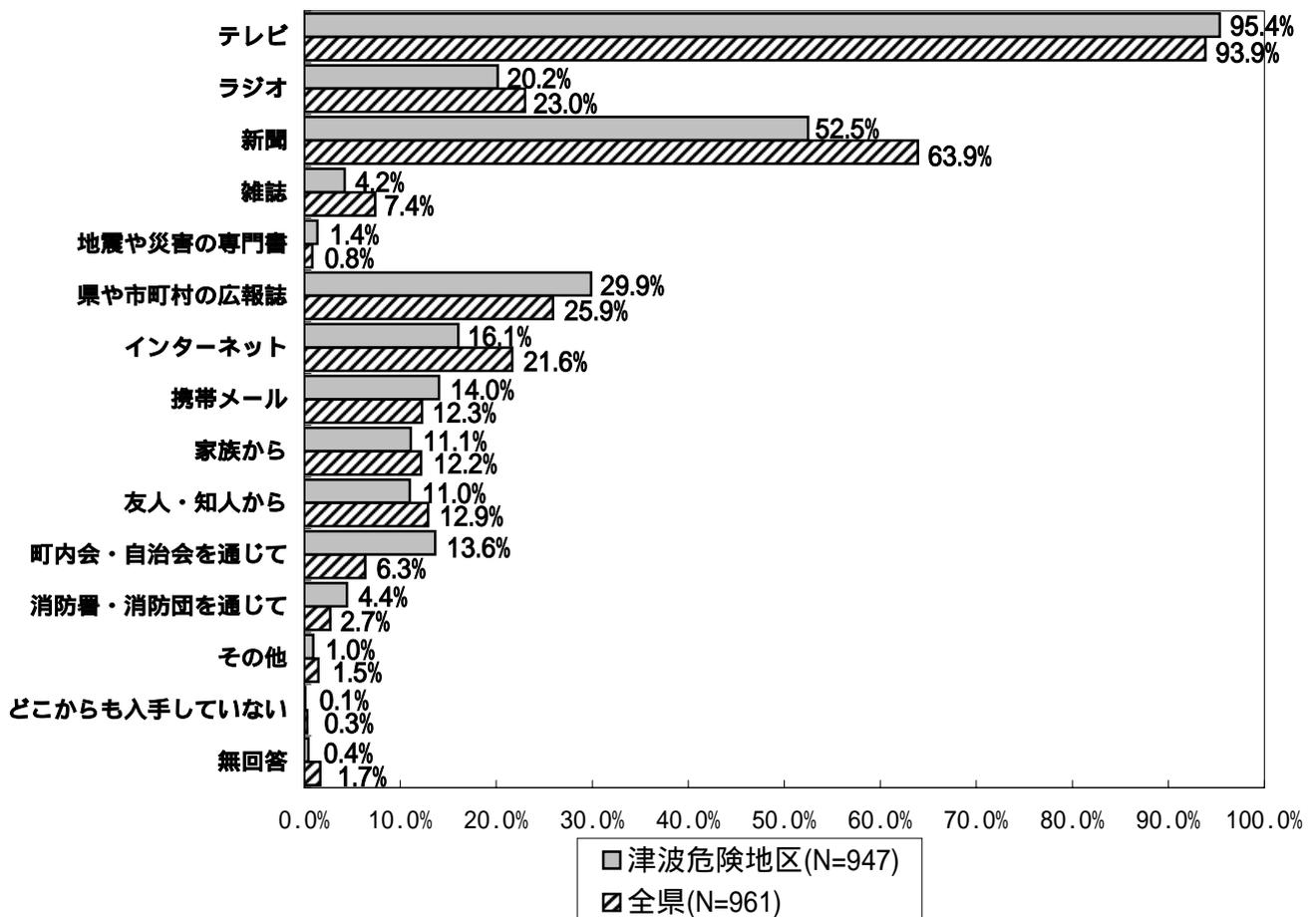
## 2. 東南海・南海地震について

### 2 - 4 地震や地震災害の情報をどのように入手しているか

問	あなたはふだん、このような地震や地震災害についての情報を、どこから入手していますか (主なものに、いくつでも )。		
1. テレビ	2. ラジオ	3. 新聞	
4. 雑誌	5. 地震や災害の専門書	6. 県や市町村の広報誌	
7. インターネット	8. 携帯メール	9. 家族から	
10. 友人・知人から	11. 町内会・自治会を通じて	12. 消防署・消防団を通じて	
13. その他 (			) 14. どこからも入手していない

複数回答

図. 地震や地震災害の情報をどのように入手しているか



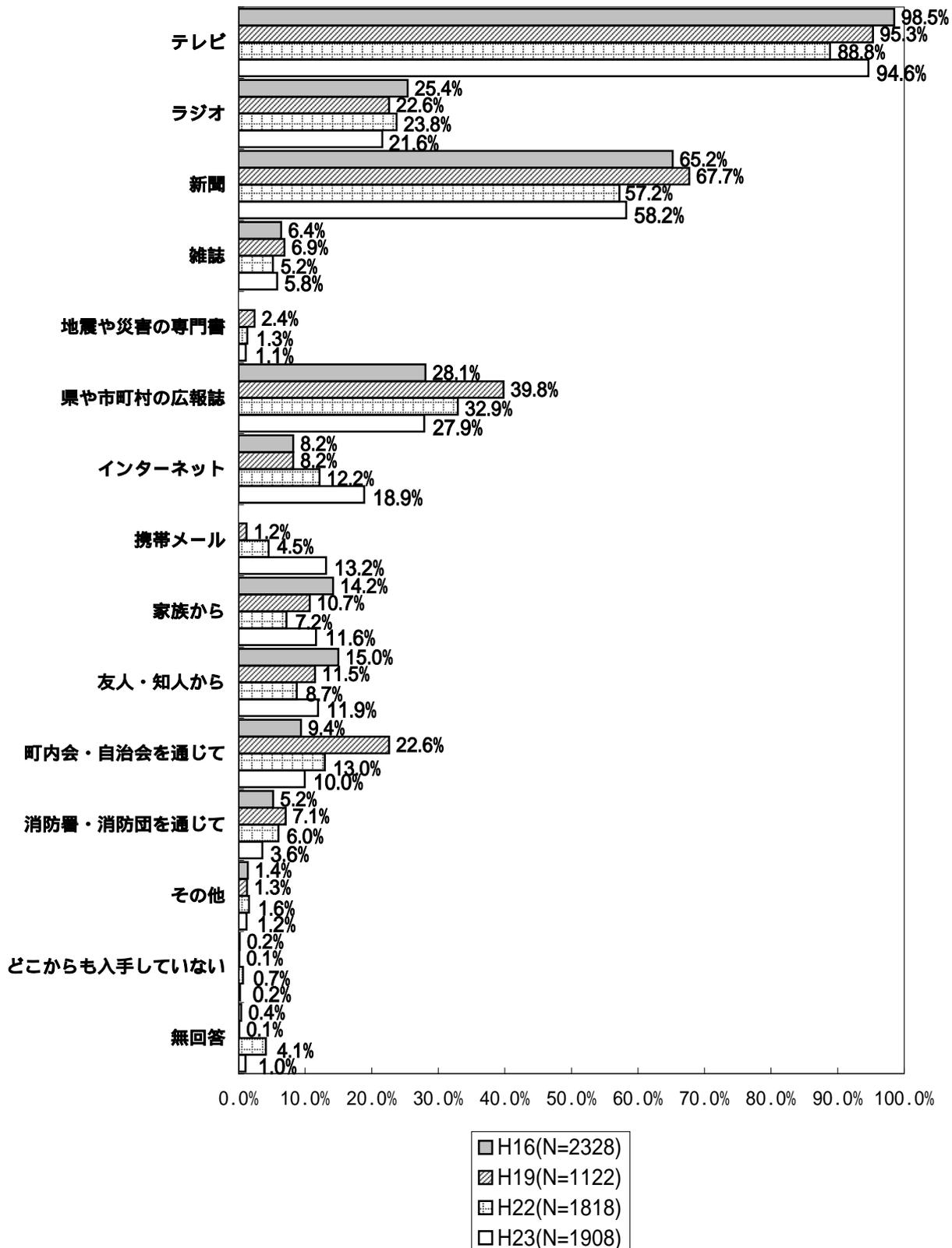
<その他回答>

津波危険地区	全県
・講座を受けて (防災研修会など)。	・講演会
・職場	・スピーカーでの防災放送。
・気象庁より携帯電話へ。	・携帯の緊急エリアメール。
	・職場での研修会。
	・和歌山県総合防災課
	など

地震や地震災害の情報をどのように入手しているかについて、津波危険地区及び全県ともに「テレビ」が最も多く、次いで「新聞」となっている。  
津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

## 2. 東南海・南海地震について

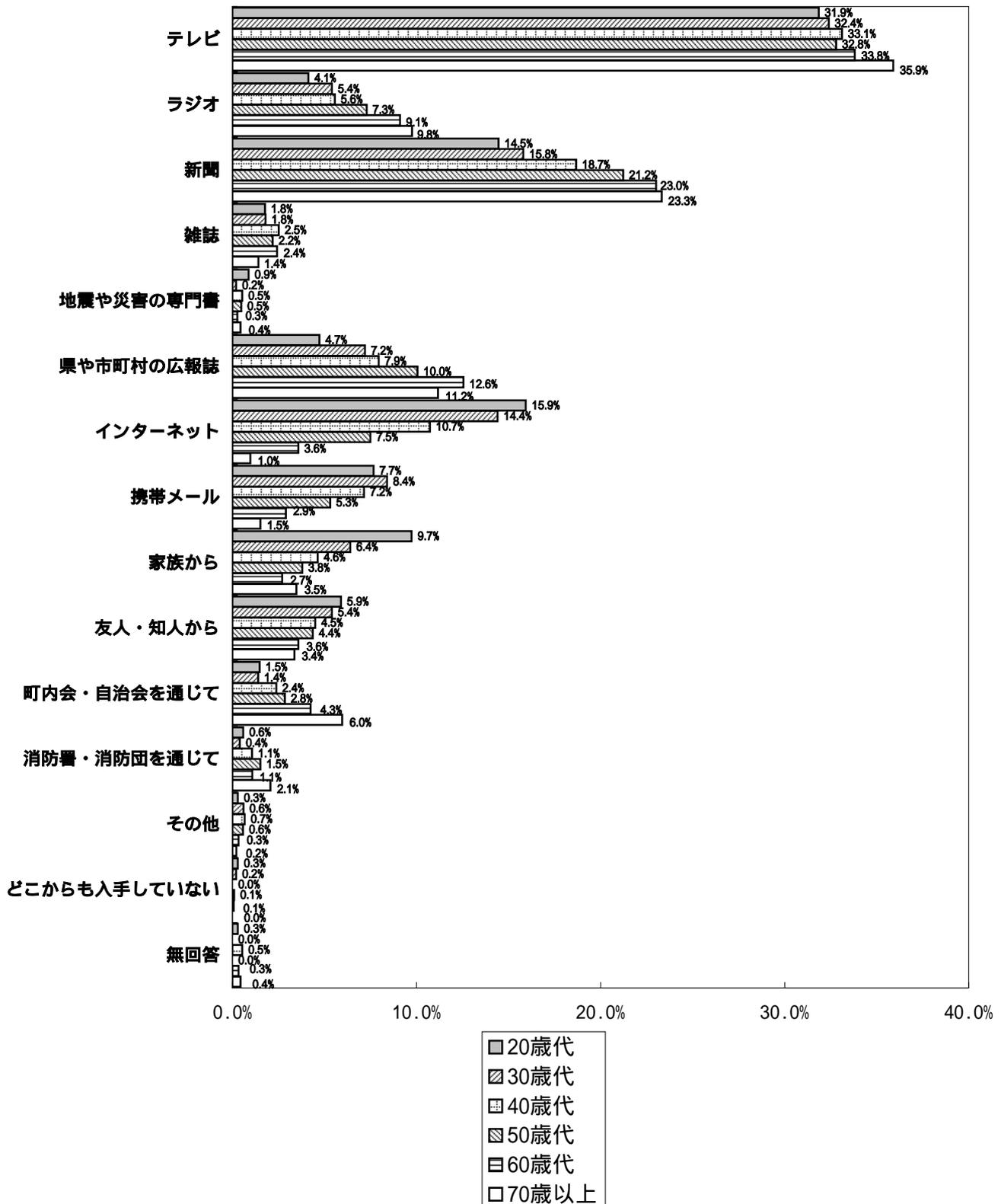
図. 地震や地震災害の情報をどのように入手しているか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「インターネット」(18.9%)が過年度調査と比較し大幅に増加している。その他の項目については、特に大きな変化はみられない。

## 2. 東南海・南海地震について

図. 地震や地震災害の情報をどのように入手しているか  
～ 年齢比較 ～



年齢別でみると、「インターネット」と答えた人は「20歳代」（15.9%）が最も多く、若年層で高い傾向となっている。また、「携帯メール」「家族から」も同様に若年層で高い傾向にある。

「町内会・自治会を通じて」と答えた人は「70歳以上」（6.0%）が最も多く、高齢層で高い傾向となっている。また、「ラジオ」「新聞」も同様に高齢層で高い傾向にある。

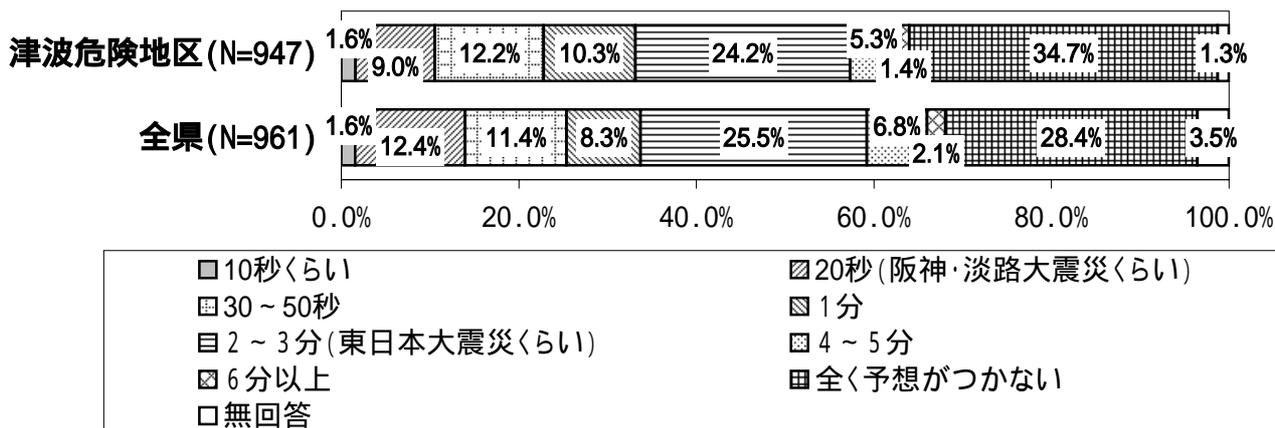
## 2. 東南海・南海地震について

### 2 - 5 東南海・南海地震が同時発生時、地震の揺れは最大でどのくらい続くと思うか

問	東南海地震と南海地震が同時に起きたとき、強い揺れは最大でどのくらいの間、続くと思いますか（ひとつだけ）。
	1. 10秒くらい    2. 20秒（阪神・淡路大震災くらい）    3. 30～50秒    4. 1分 5. 2～3分（東日本大震災くらい）    6. 4～5分    7. 6分以上    8. 全く予想がつかない

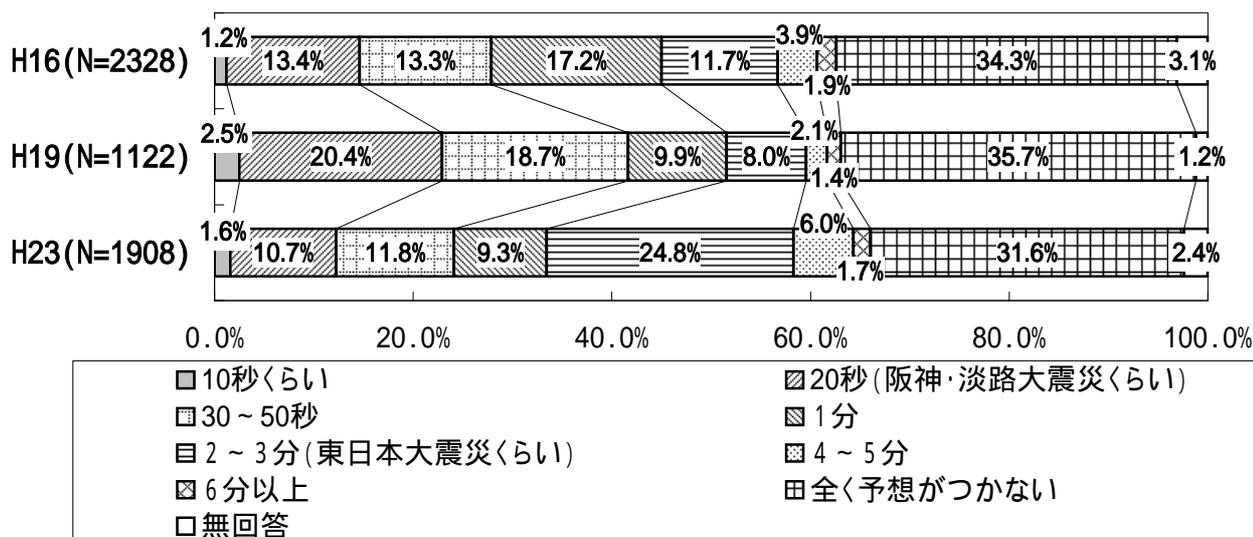
単数回答

図. 東南海・南海地震が同時発生時、地震の揺れは最大でどのくらい続くと思うか



東南海・南海地震が同時発生時、地震の揺れは最大でどのくらい続くと思うかについて、津波危険地区及び全県ともに「全く予想がつかない」が最も多く、次いで「2～3分（東日本大震災くらい）」となっている。  
津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 東南海・南海地震が同時発生時、地震の揺れは最大でどのくらい続くと思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「2～3分（東日本大震災くらい）」（24.8%）が過年度調査と比較し3倍以上増加している。

一方で、1分以内と考える人（「10秒くらい」と「20秒（阪神・淡路大震災くらい）」と「30秒～50秒」と「1分」の合計）は、H19（51.5%）と比較し33.4%と約18ポイント減少している。

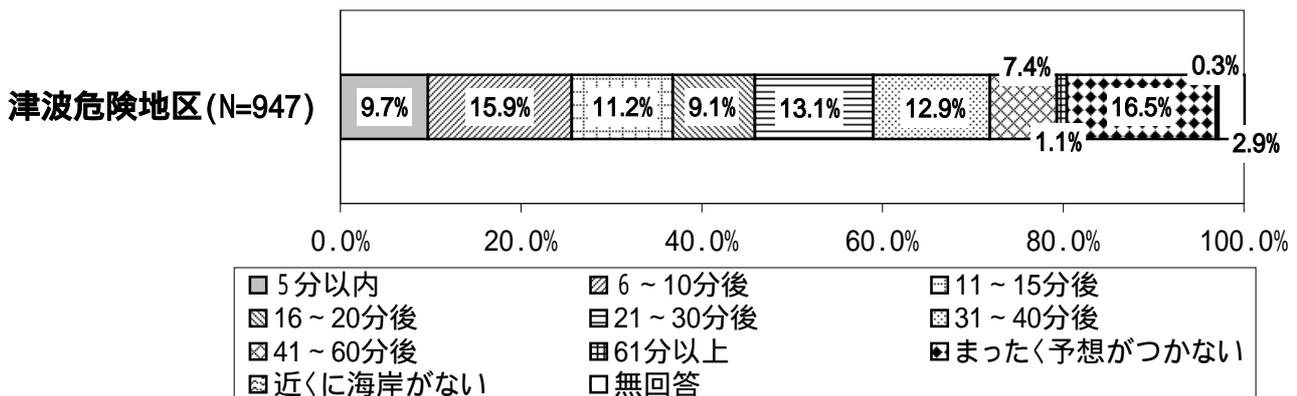
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 1 津波は何分くらいで押し寄せると思うか

問	地震の揺れの後、あなたがお住まいの近くの海岸に、津波は何分くらいで押し寄せると思いますか（ひとつだけ）。			
	1. 5分以内	2. 6～10分後	3. 11～15分後	4. 16～20分後
	5. 21～30分後	6. 31～40分後	7. 41～60分後	8. 61分以上
	9. まったく予想がつかない	10. 近くに海岸がない		

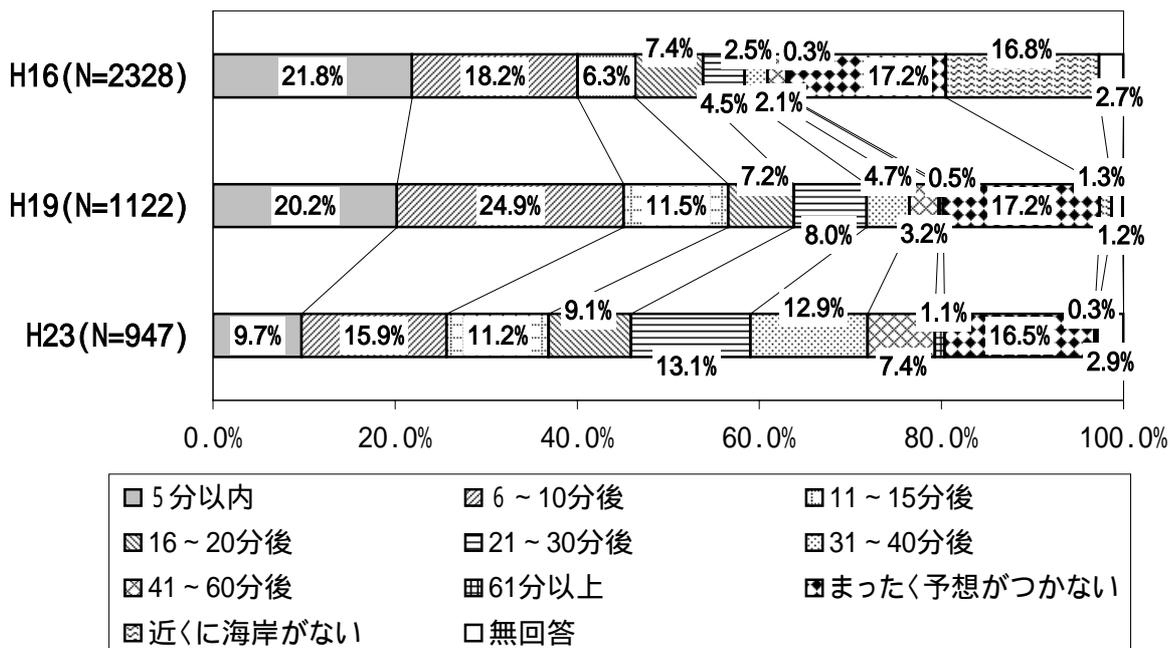
単数回答

図. 津波は何分くらいで押し寄せると思うか



津波は何分くらいで押し寄せると思うかについて、「まったく予想がつかない」（16.5%）が最も多く、次いで「6～10分後」（15.9%）、「21～30分後」（13.1%）となっている。

図. 津波は何分くらいで押し寄せると思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、10分以内と考える人（「5分以内」と「6～10分後」の合計）が大幅に減少した。

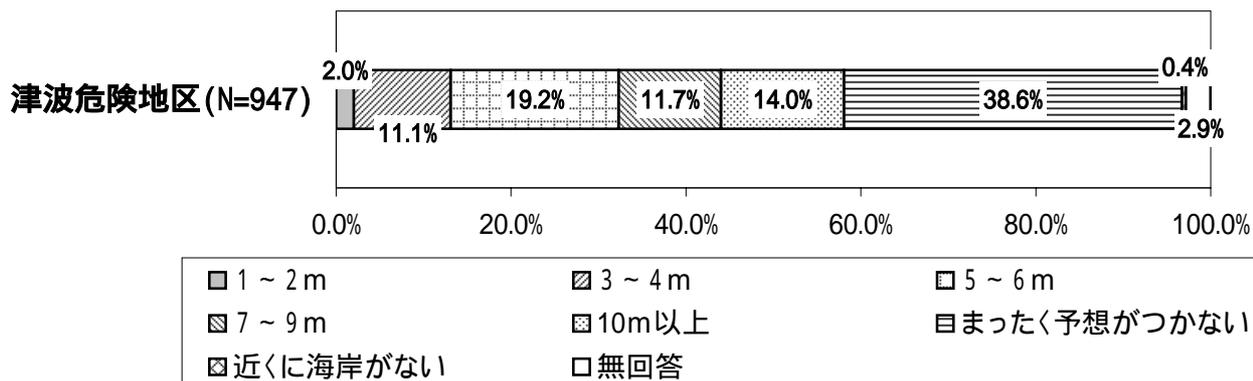
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 2 どれくらいの高さの津波が押し寄せると思うか

問	どれくらいの高さの津波が押し寄せると思いますか（ひとつだけ）。						
1.	1～2 m	2.	3～4 m	3.	5～6 m	4.	7～9 m
5.	10m以上	6.	まったく予想がつかない	7.	近くに海岸がない		

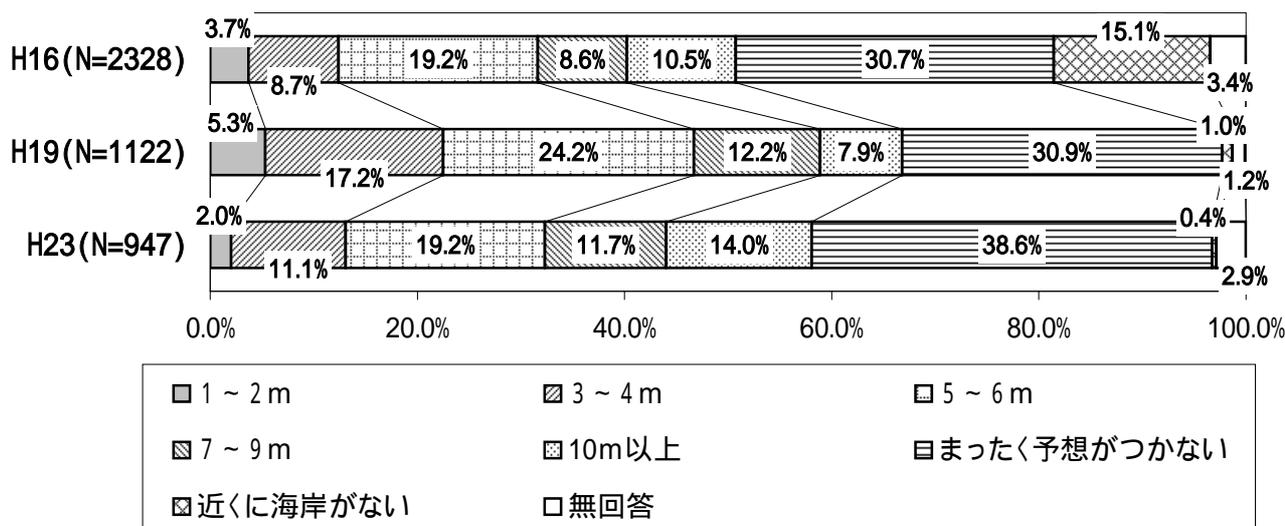
単数回答

図. どれくらいの高さの津波が押し寄せると思うか



どれくらいの高さの津波が押し寄せると思うかについて、「まったく予想がつかない」（38.6%）が最も多く、次いで「5～6 m」（19.2%）、「10m以上」（14.0%）となっている。

図. どれくらいの高さの津波が押し寄せると思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「10m以上」がH19の約2倍増と大幅に増加した。  
また、「まったく予想がつかない」がH16、H19と比較し約8ポイント増加しており、想定することの難しさが現れている。

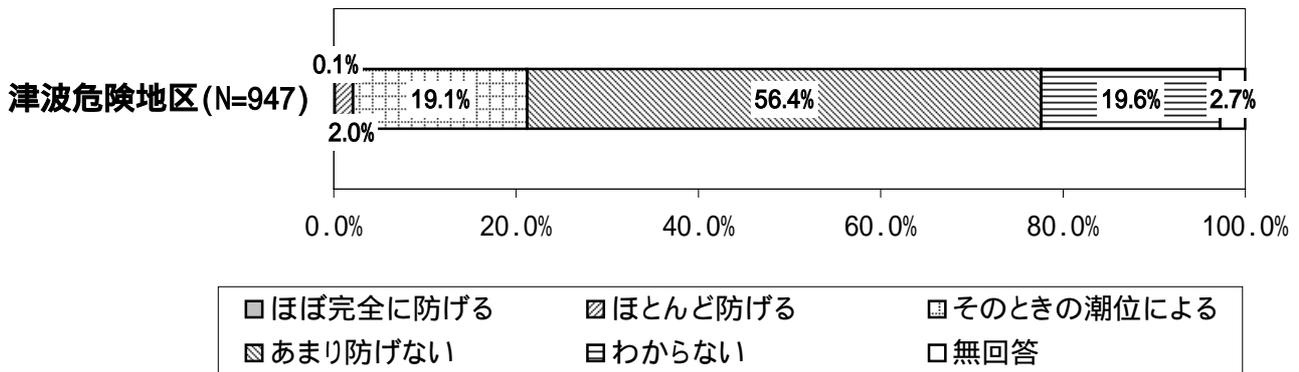
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3-3 防波堤等で津波をどれくらい防げると思うか

問	この地域にある防波堤、防潮堤、水門などで、東南海地震と南海地震が同時に起きたときの津波をどの程度防げると思いますか（ひとつだけ）。	
1. ほぼ完全に防げる	2. ほとんど防げる	3. そのときの潮位による
4. あまり防げない	5. わからない	

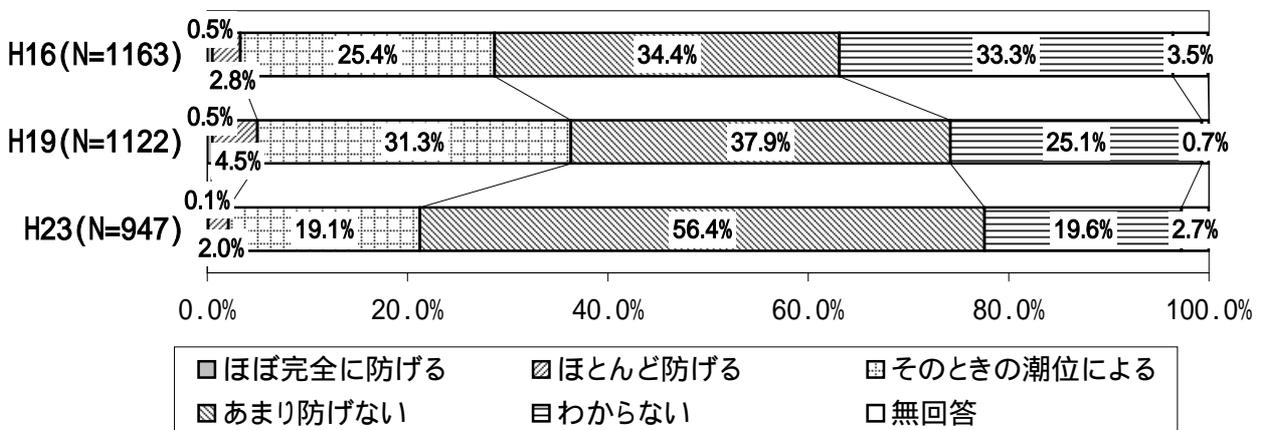
単数回答

図. 防波堤等で津波をどれくらい防げると思うか



防波堤等で津波をどれくらい防げると思うかについて、「あまり防げない」（56.4%）が最も多く、次いで「わからない」（19.6%）となっている。  
津波を防潮堤で防げると考える人（「ほぼ完全に防げる」と「ほとんど防げる」の合計）は2.1%で、危機感が強くなっている。

図. 防波堤等で津波をどれくらい防げると思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「あまり防げない」が年々増加傾向にあり、H19と比較し約18.5ポイント増加した。  
一方、防げると考える人（「ほぼ完全に防げる」と「ほとんど防げる」の合計）がH19と比較し約半数に減少した。

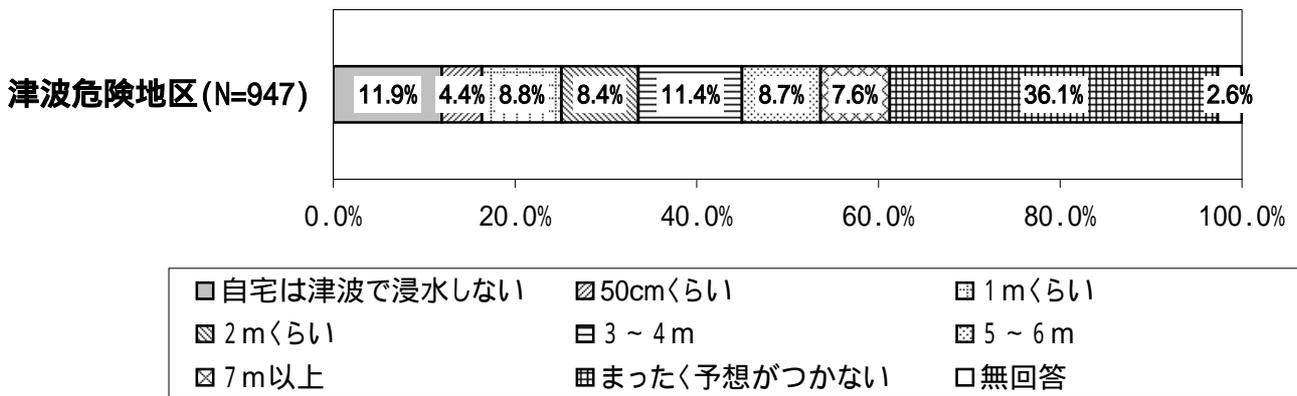
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 4 自宅が津波でどの程度浸水すると思うか

問	あなたのご自宅は、東南海地震と南海地震が同時に起きたときの津波で、どれくらいの高さまで浸水すると思いますか（ひとつだけ）。
1. 自宅は津波で浸水しない 2. 50cmくらい 3. 1mくらい 4. 2mくらい 5. 3～4m 6. 5～6m 7. 7m以上 8. まったく予想がつかない	

単数回答

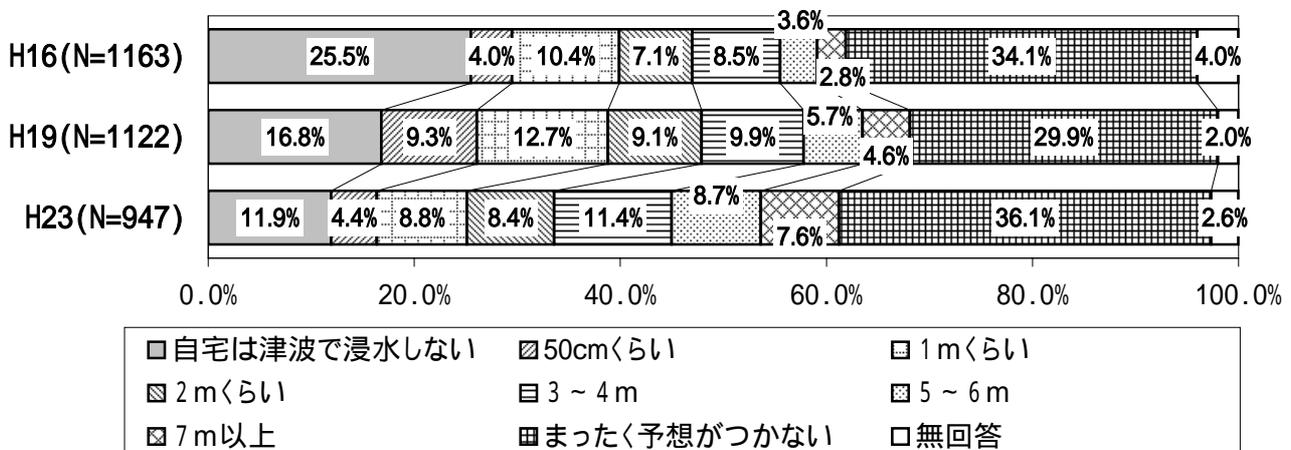
図. 自宅が津波でどの程度浸水すると思うか



自宅が津波でどの程度浸水すると思うかについて、「まったく予想がつかない」（36.1%）が最も多く、次いで「自宅は津波で浸水しない」（11.9%）となっている。

自宅が浸水すると考える人（「50cmくらい」と「1mくらい」と「2mくらい」と「3～4m」と「5～6m」と「7m以上」の合計）は49.3%で、ほぼ半数を占めている。

図. 自宅が津波でどの程度浸水すると思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「自宅は浸水しない」が年々減少傾向にあり、H19と比較し約5ポイント減少した。

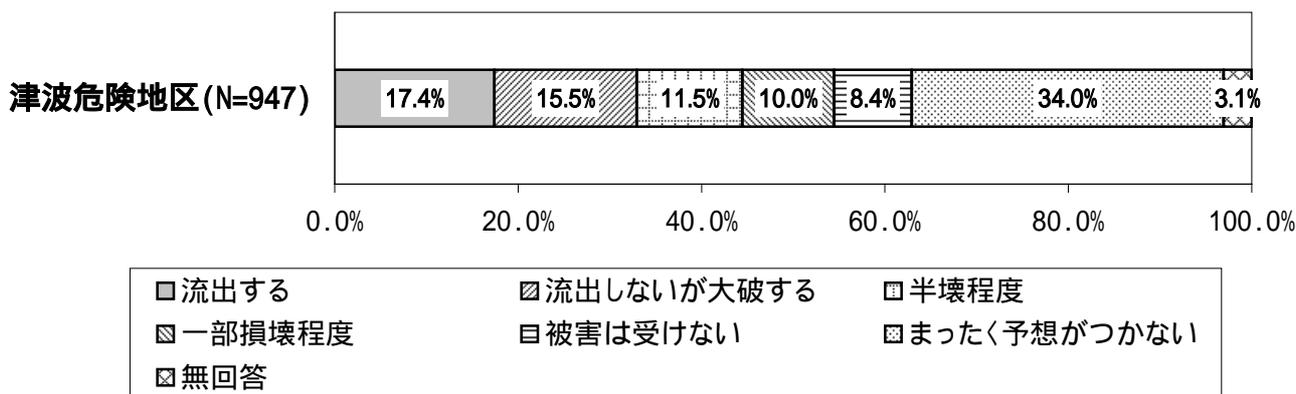
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 5 自宅が津波でどの程度の被害を受けると思うか

問	その津波で、あなたのご自宅はどのくらいの被害を受けると思いますか（ひとつだけ）。					
	1. 流出する	2. 流出しないが大破する	3. 半壊程度	4. 一部損壊程度	5. 被害は受けない	6. まったく予想がつかない

単数回答

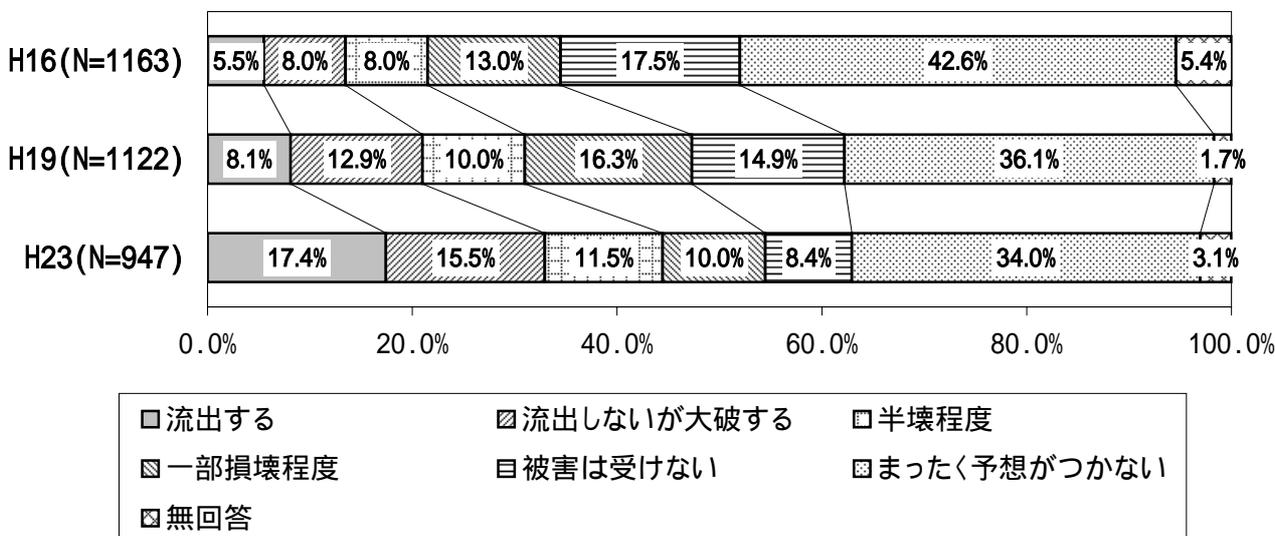
図. 自宅が津波でどの程度の被害を受けると思うか



自宅が津波でどの程度の被害を受けると思うかについて、「まったく予想がつかない」(34.0%)が最も多く、次いで「流出する」(17.4%)となっている。

自宅が何らかの被害を受けると考える人(「流出する」と「流出しないが大破する」と「半壊程度」と「一部損壊程度」の合計)は54.5%で、ほぼ半数を占めている。

図. 自宅が津波でどの程度の被害を受けると思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「流出する」が年々増加傾向にあり、H19と比較し約2倍に増加した。一方、「被害は受けない」は年々減少傾向にあり、H19と比較し約6ポイント減少した。

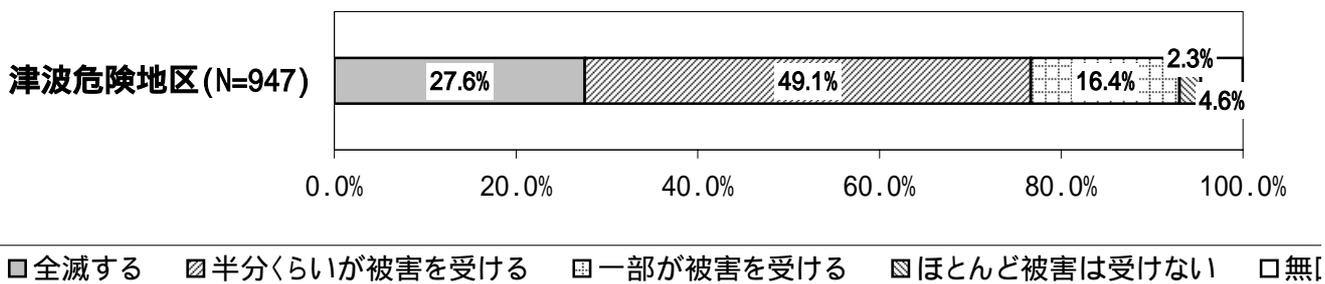
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 6 居住地域が津波でどの程度の被害を受けると思うか

問	その津波で、あなたの住んでいる地域はどのくらいの被害を受けるとおもいますか（ひとつだけ）。
1. 全滅する	2. 半分くらいが被害を受ける
3. 一部が被害を受ける	4. ほとんど被害は受けない

単数回答

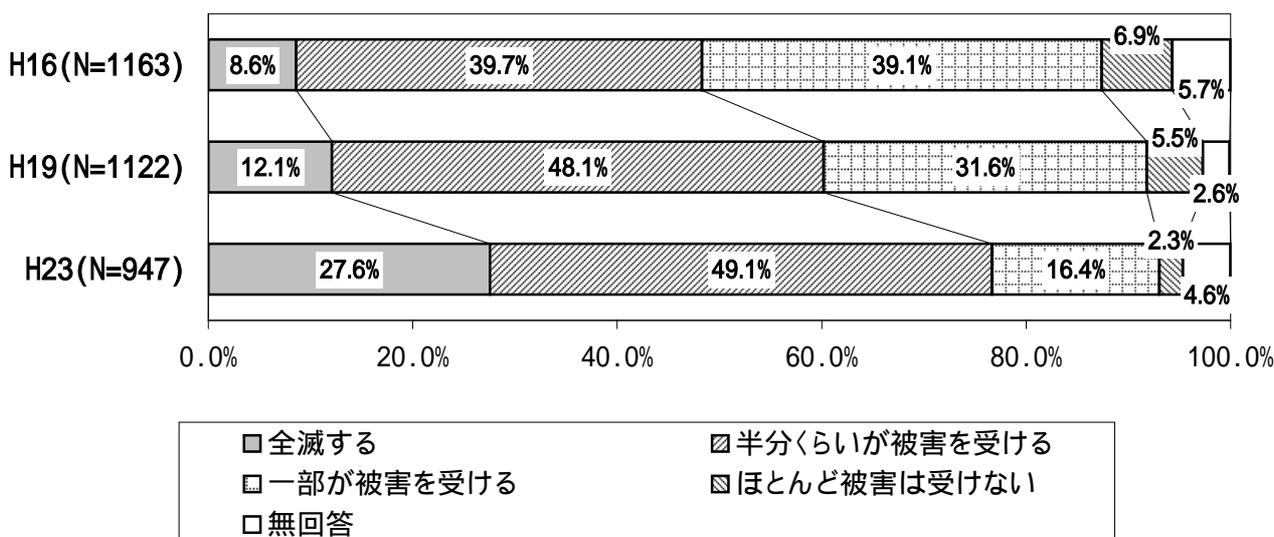
図. 居住地域が津波でどの程度の被害を受けると思うか



居住地域が津波でどの程度の被害を受けると思うかについて、「半分くらいが被害を受ける」（49.1%）が最も多く、次いで「全滅する」（27.6%）となっている。

居住地域が何らかの被害を受けると考える人（「全滅する」と「半分くらいが被害を受ける」と「一部が被害を受ける」の合計）は93.0%で、約9割を占めている。

図. 居住地域が津波でどの程度の被害を受けると思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「全滅する」が、H16と比較し3倍以上、H19と比較し2倍以上に増加している。

一部でも被害を受けると考える人（「全滅する」と「半分くらいが被害を受ける」と「一部が被害を受ける」の合計）については、大きな変化はみられない。

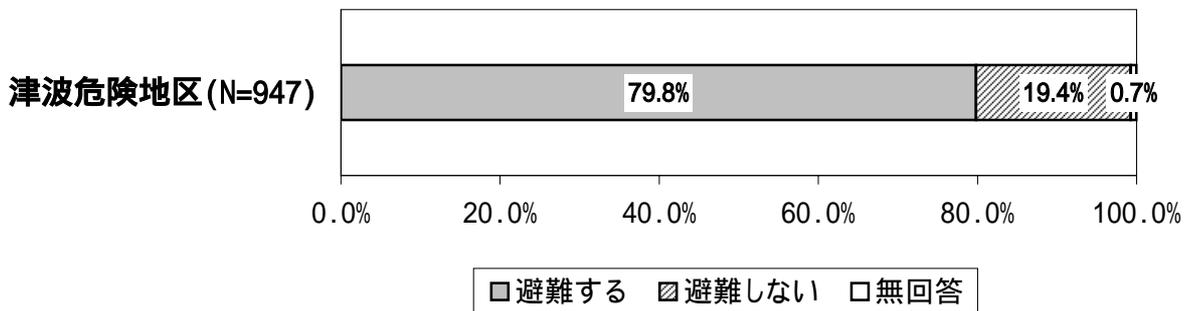
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 7 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、避難するか

問	ところで、夜遅くあなたのご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上も続いたとします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか(ひとつだけ)。
1. 避難する	2. 避難しない

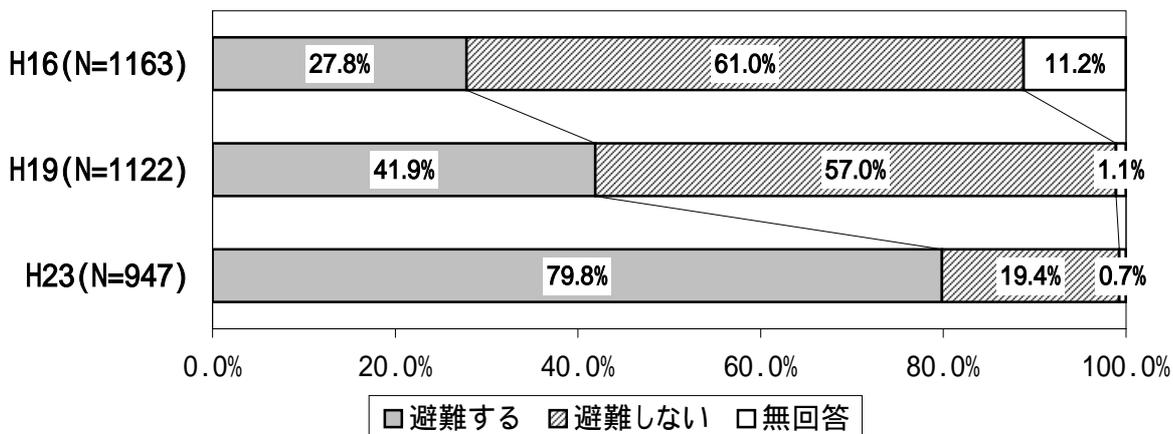
単数回答

図. 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、避難するか



夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に避難するかについて、「避難する」(79.8%)が最も多く、「避難しない」という人は19.4%となっている。

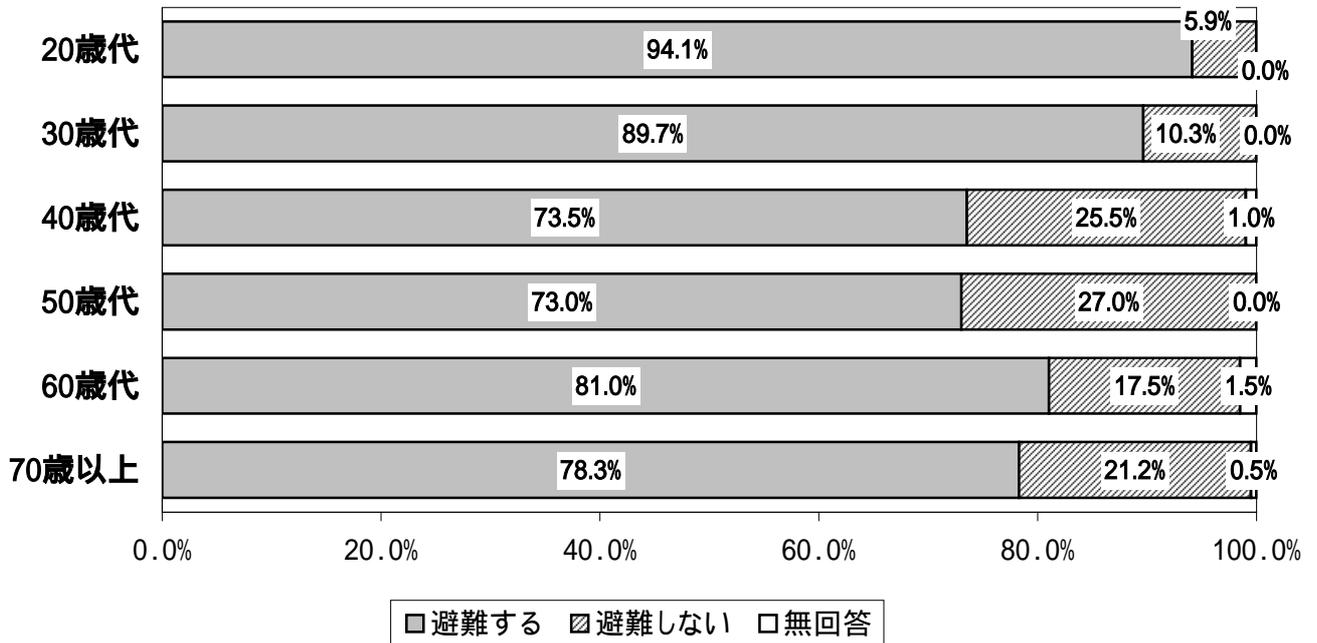
図. 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、避難するか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「避難する」が、H16と比較し約3倍、H19と比較し約2倍に増加した。

### 3. 津波への意識と避難について

図. 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、避難するか  
～ 年齢比較 ～



年齢別でみると、「避難する」と答えた人の比率が多かったのは「20歳代」（94.1%）が最も多くなっている。若年層、高年層で高い傾向がある。

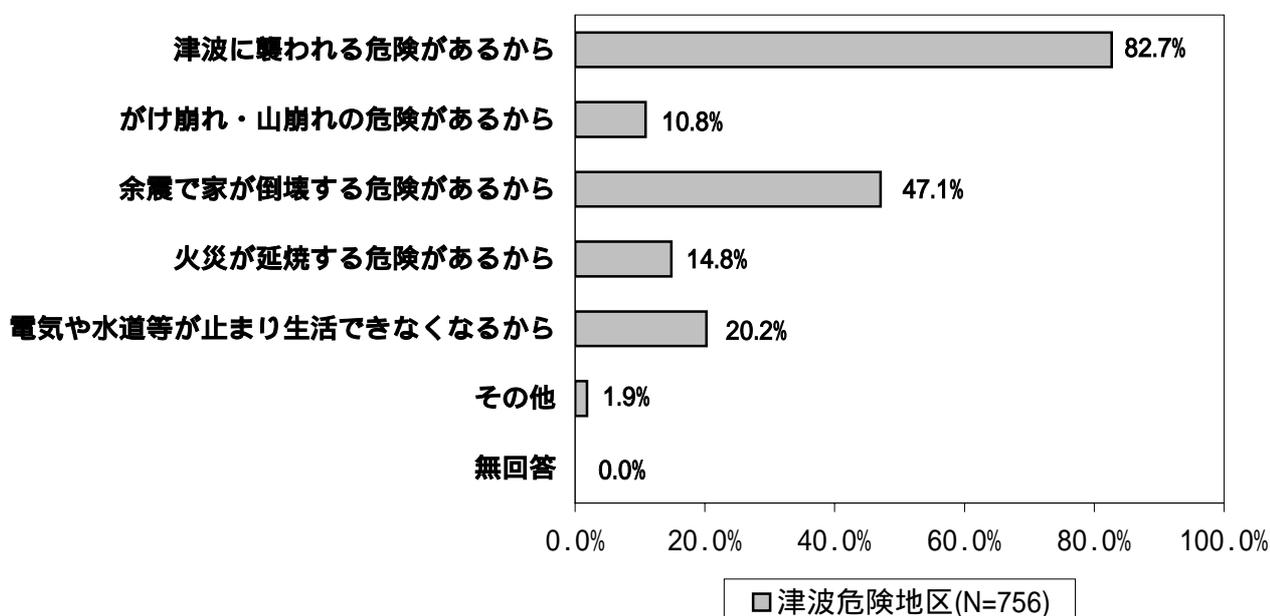
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 8 避難する理由は何か

付問	あなたが避難する主な理由は何ですか（いくつでも）。
1. 津波に襲われる危険があるから 2. がけ崩れ・山崩れの危険があるから 3. 余震で家が倒壊する危険があるから 4. 火災が延焼する危険があるから 5. 電気や水道等が止まり生活できなくなるから 6. その他（ ）	

複数回答

図. 避難する理由は何か



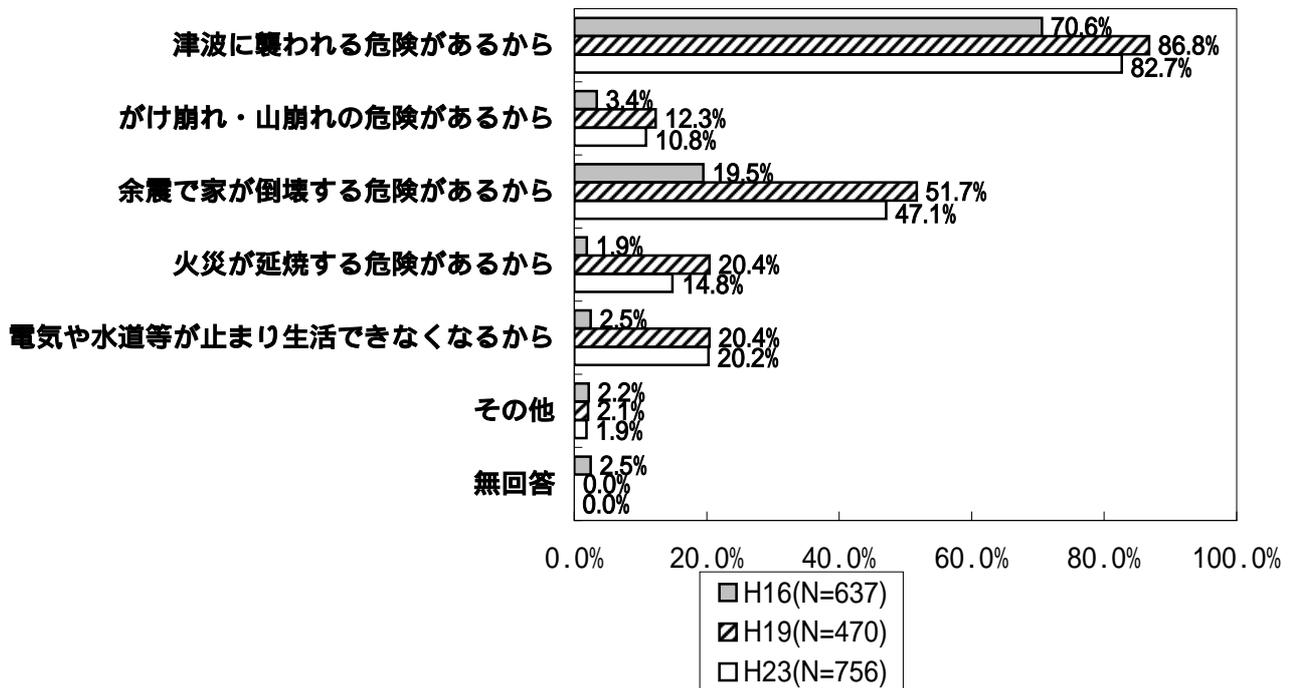
#### < その他回答 >

- ・小さな子供がいるから。
  - ・情報収集のため。
  - ・化学工場があるから。
  - ・職場へ行かないといけない。
  - ・自分の身は自分で守る。
  - ・自分や家族の身が一番だから。
- など

夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に避難する理由は何かについて、「津波に襲われる危険があるから」（82.7%）が最も多く、次いで「余震で家が倒壊する危険があるから」（47.1%）となっている。

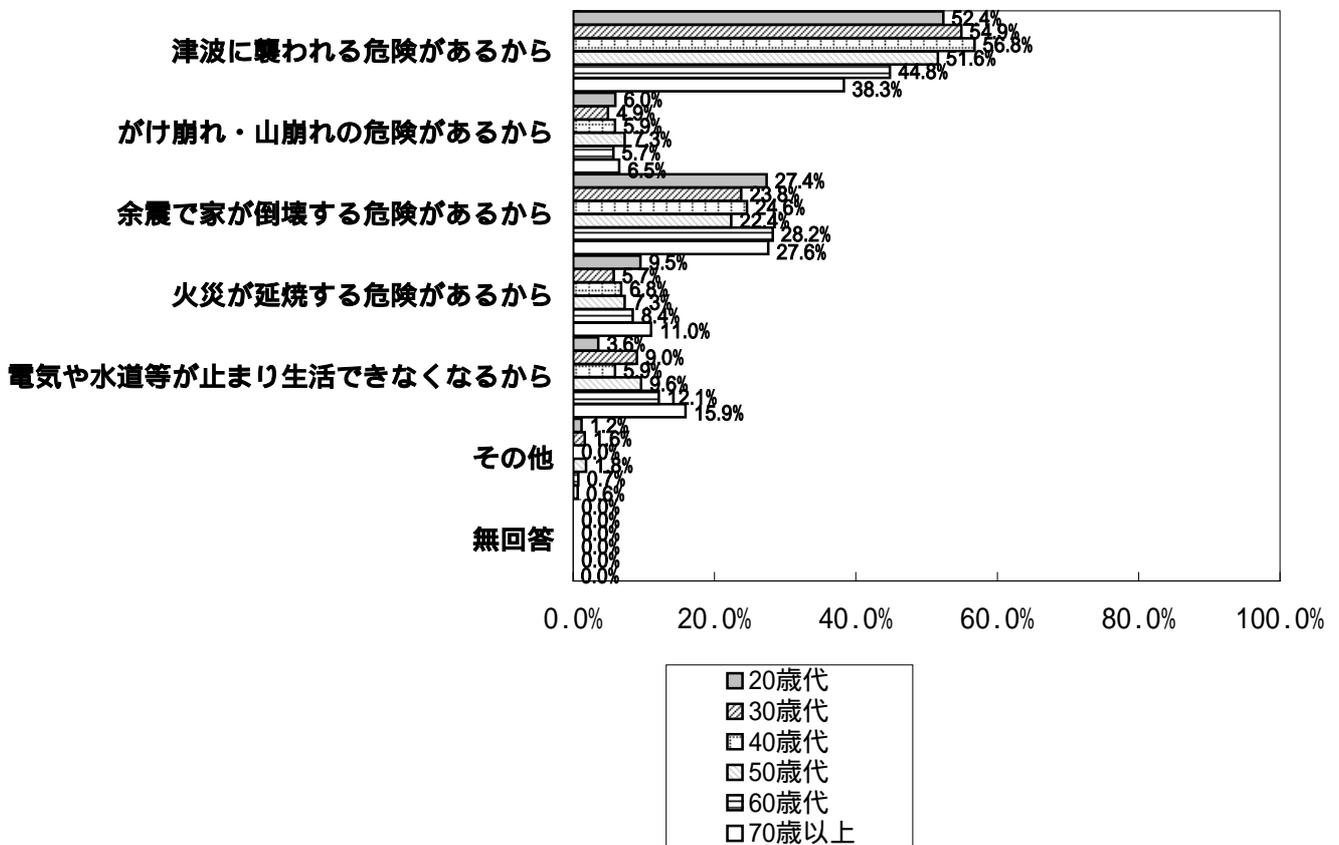
### 3. 津波への意識と避難について

図. 避難する理由は何か  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、大きな変化はみられない。

図. 避難する理由は何か  
～ 年齢比較 ～

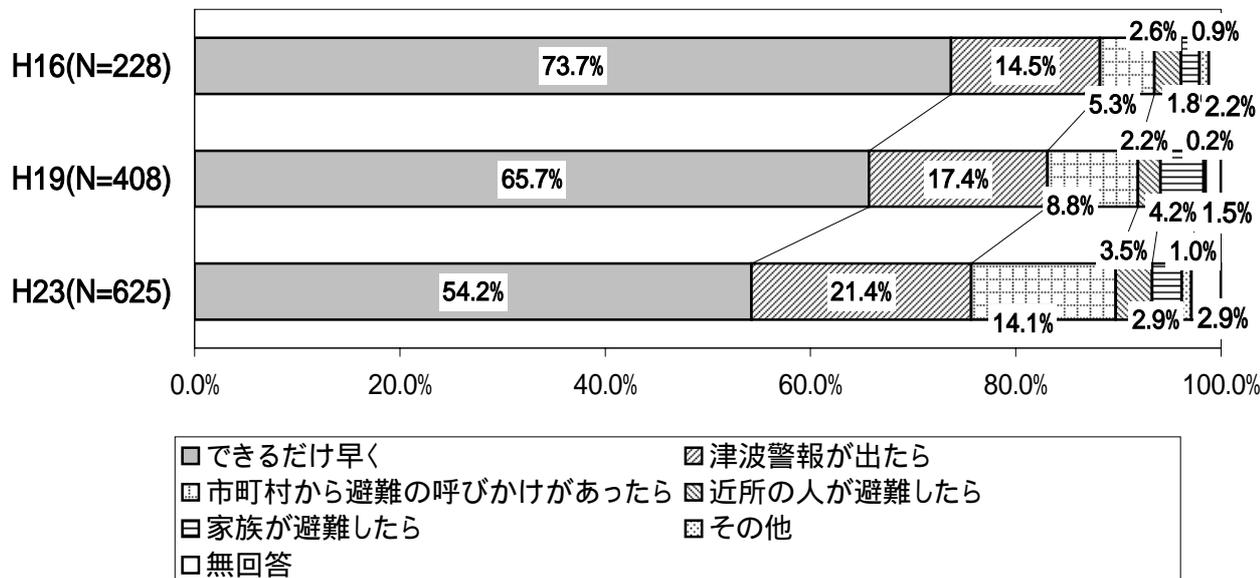


年齢別にみると、「津波に襲われる危険があるから」は「40歳代」（56.8%）が最も多く若年層に高い傾向にある一方、「電気や水道等が止まり生活できなくなるから」は「70歳以上」（15.9%）が最も多く、高齢層に高い傾向にある。



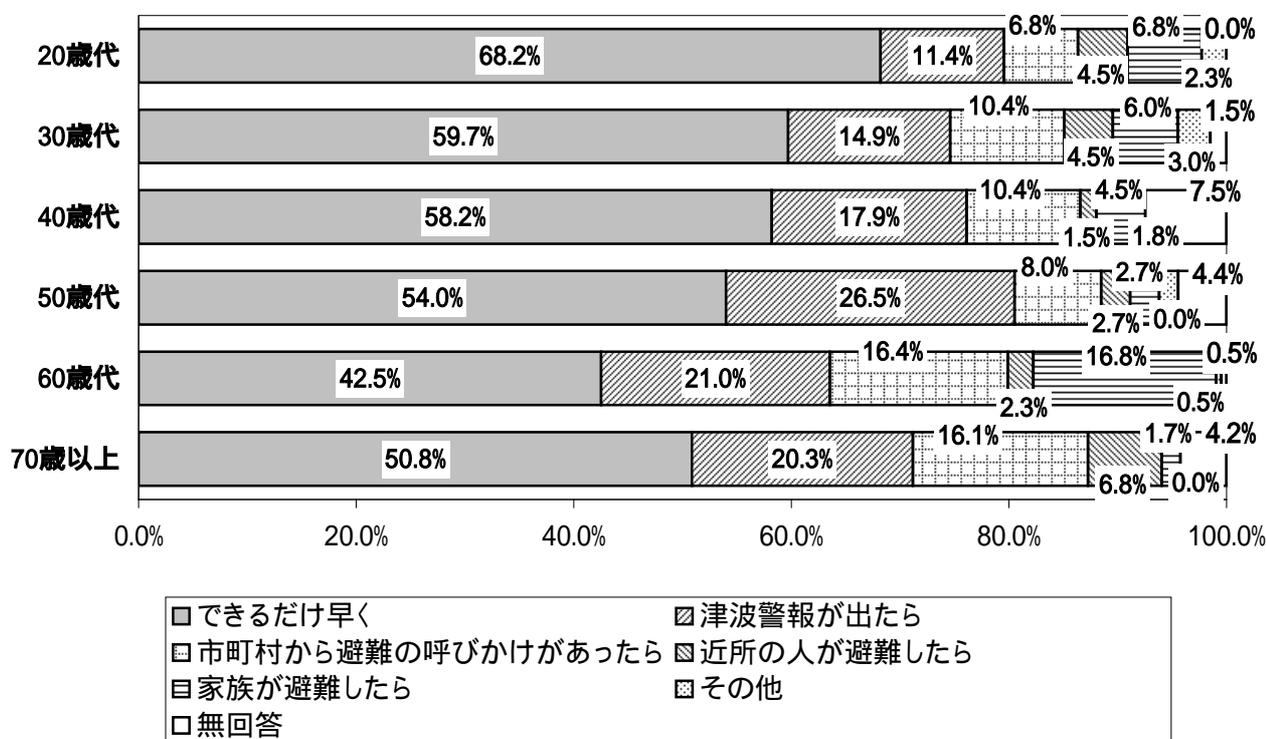
### 3. 津波への意識と避難について

図. どの段階で避難するか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「できるだけ早く」が、年々減少傾向にある。

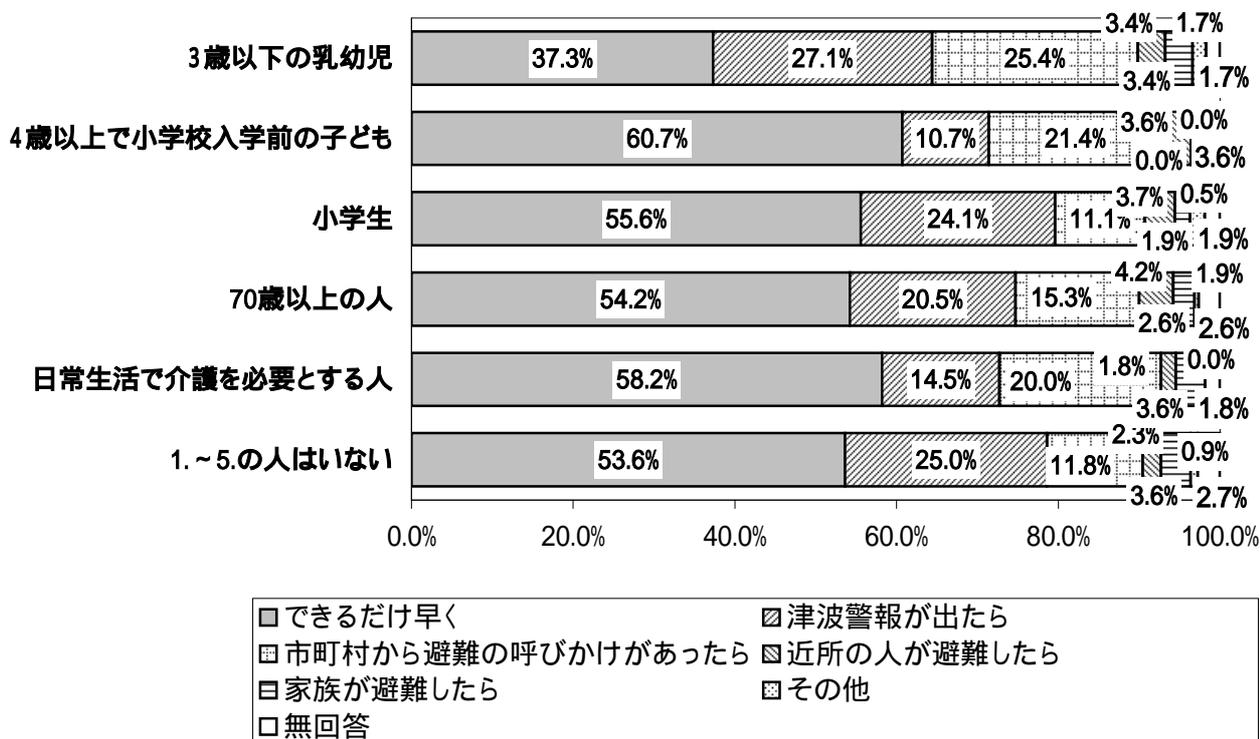
図. どの段階で避難するか  
～ 年齢比較 ～



年齢別にみると、「できるだけ早く」は「20歳代」（68.2%）が最も多く、次いで「30歳代」（58.2%）となっている。「市町村から避難の呼びかけがあったら」は「60歳代」（16.4%）が最も多く、高齢層に高い傾向にある。

### 3. 津波への意識と避難について

図. どの段階で避難するか  
～ 家族構成比較 ～



家族構成ごとに比較してみると、「できるだけ早く」と答えた人は「4歳以上で小学校入学前の子ども」が60.7%と最も多く、次いで「日常生活で介護を必要とする人」が58.2%となっている。

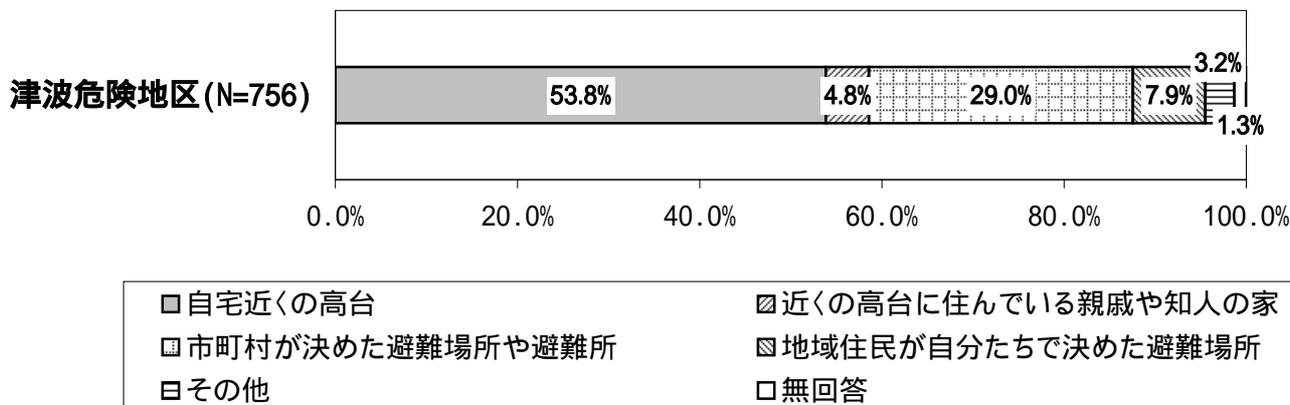
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 10 どこに避難するか

付問	あなたは、どこに避難しますか（ひとつだけ）。
1. 自宅近くの高台	2. 近くの高台に住んでいる親戚や知人の家
3. 市町村が決めた避難場所や避難所	4. 地域住民が自分たちで決めた避難場所
5. その他( )	

単数回答

図. どこに避難するか



#### < その他回答 >

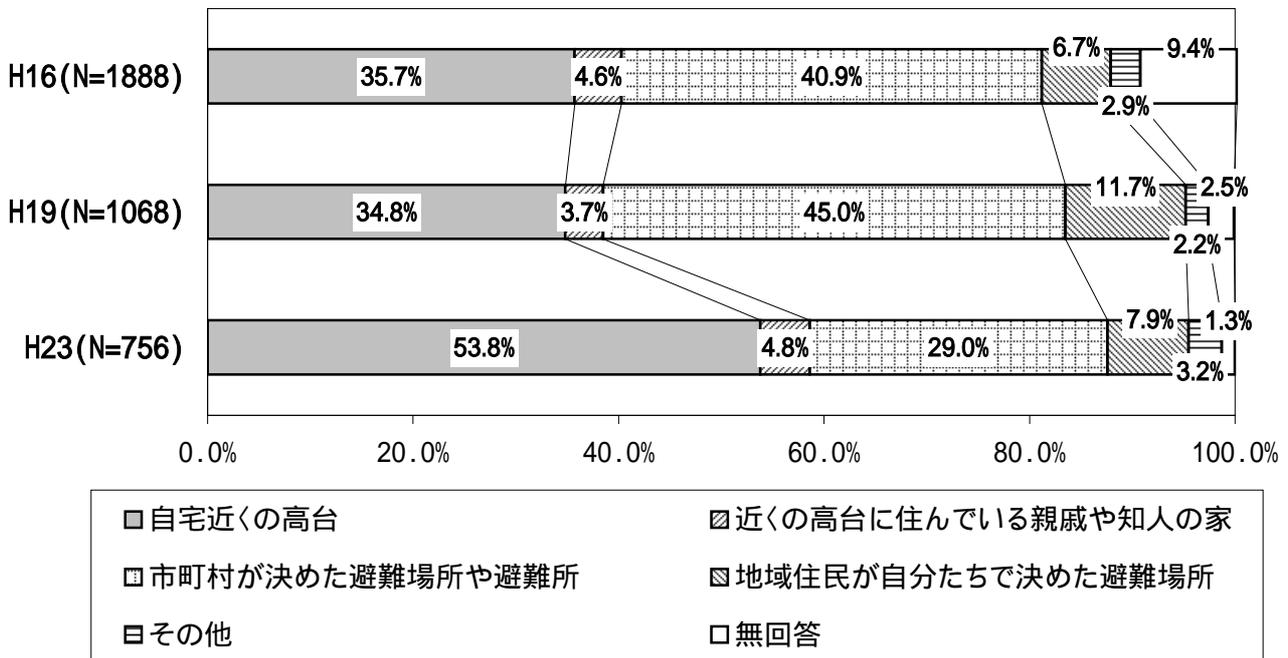
- ・ 5 M以上の高台がないため避難所の目標地がない。
- ・ 自宅近くのマンション。
- ・ 小さい子供が4人いるので車でできるだけ遠くへ。
- ・ 海拔30メートルの高台。
- ・ 近くの役場（回りで一番高い建物だから）。
- ・ 自宅近くの、倒れて来る物が無い広い所。

など

夜間に自宅で大地震に遭遇した場合にどこに避難するかについて、「自宅近くの高台」（53.8%）が最も多く、次いで「市町村が決めた避難場所や避難所」（29.0%）となっている。

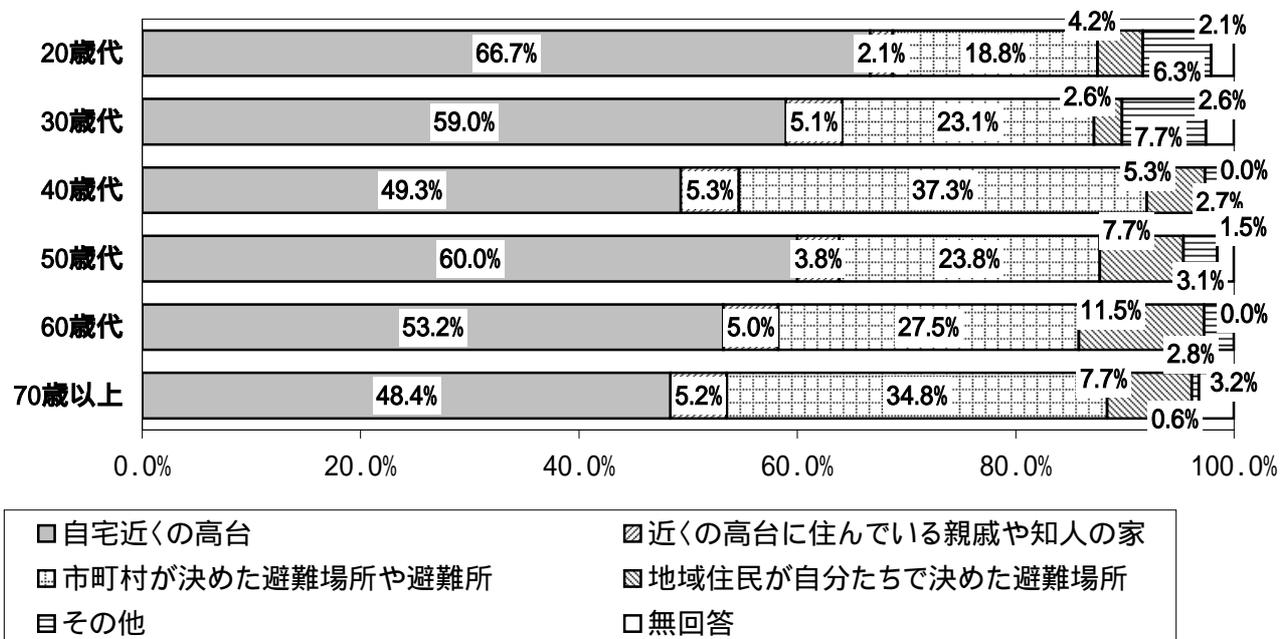
### 3. 津波への意識と避難について

図. どこに避難するか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「自宅近くの高台」（53.8%）が、過年度と比較し約19ポイント増加している一方、「市町村が決めた避難場所や避難所」（29.0%）が10ポイント以上減少している。

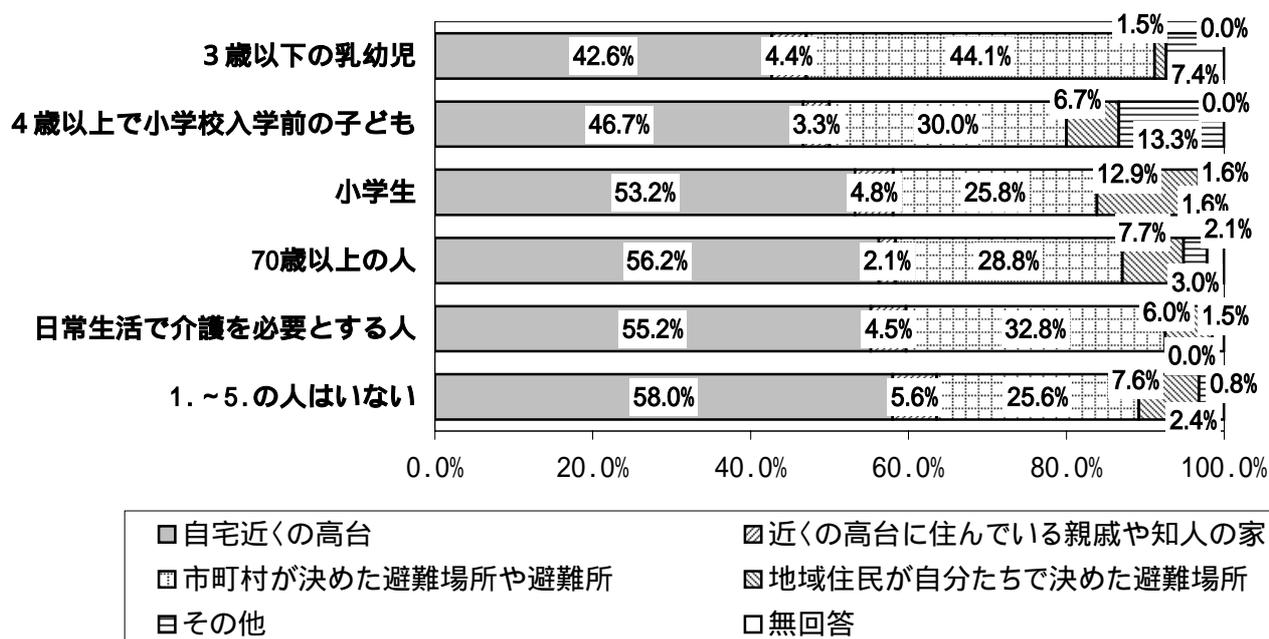
図. どこに避難するか  
～ 年齢比較 ～



年齢別にみると、「自宅近くの高台」と答えた人は「20歳代」（66.7%）が最も多く、「市町村が決めた避難場所や避難所」と答えた人は「40歳代」（37.3%）が最も多くなっている。

### 3. 津波への意識と避難について

図. どこに避難するか  
～ 家族構成比較 ～



家族構成ごとに比較してみると、「市町村が決めた避難場所や避難所」と答えた人は「3歳以下の乳幼児」が44.1%と、他の項目と比較して10ポイント以上の差があった。

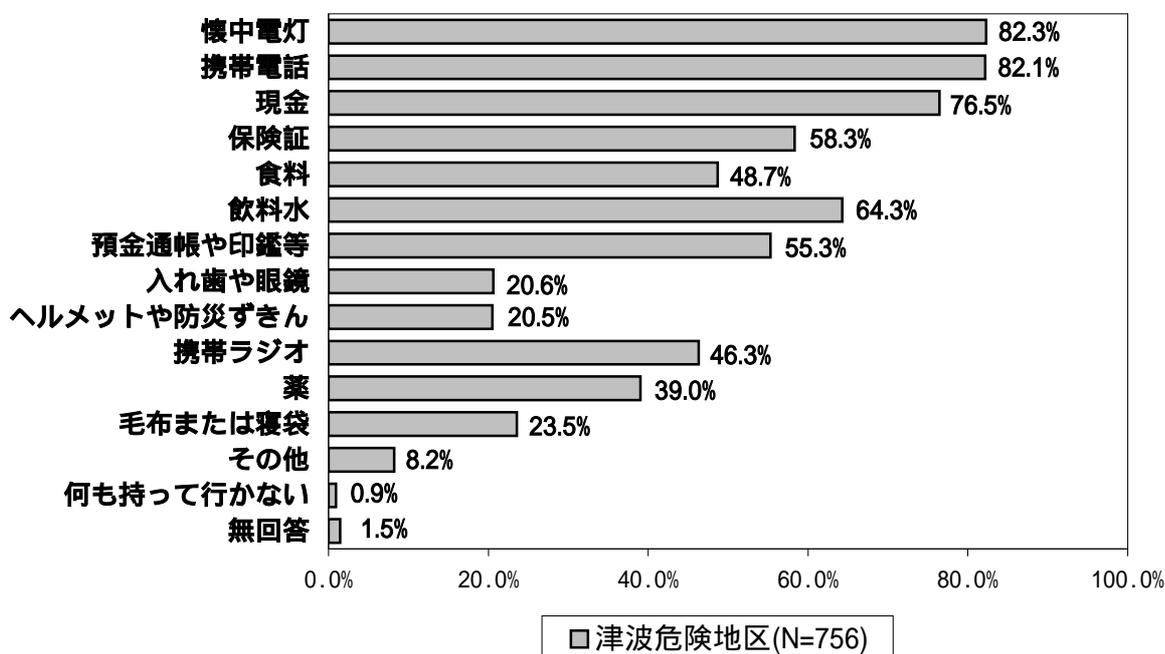
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 11 避難する際にどうしても持って行きたいものは何か

付問	下にあげた中で避難の際にどうしても持って行きたいものいくつかをつけてください。		
1. 懐中電灯	2. 携帯電話	3. 現金	4. 保険証
5. 食料	6. 飲料水	7. 預金通帳や印鑑等	8. 入れ歯や眼鏡
9. ヘルメットや防災ずきん	10. 携帯ラジオ	11. 薬	
12. 毛布または寝袋	13. その他 ( )	14. 何も持って行かない	

複数回答

図. 避難する際にどうしても持って行きたいものは何か



<その他回答>

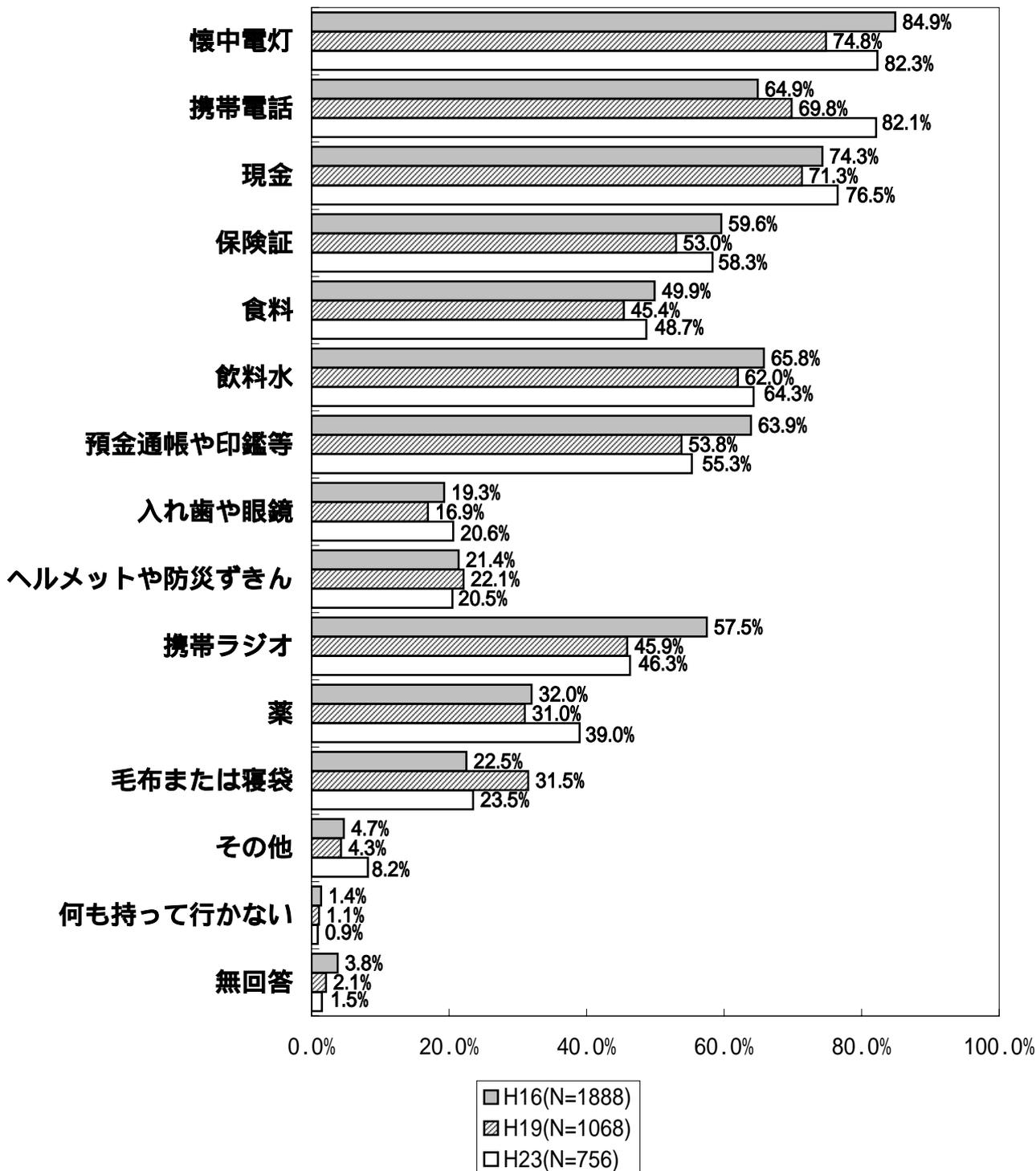
- ・ミルク、オムツ等子供に必要な物。
- ・ライフジャケット、くつ
- ・アルバム
- ・ラップ、新聞紙、手袋、ビニール、スリッパ
- ・ペット
- ・理想は全部ですがむずかしいです。

など

夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に避難する際にどうしても持って行きたいものについて、「懐中電灯」(82.3%)が最も多く、次いで「携帯電話」(82.1%)、「現金」(76.5%)となっている。

### 3. 津波への意識と避難について

図. 避難する際にどうしても持って行きたいものは何か  
～ 経年変化 ～



経年変化で見ると、「携帯電話」(82.1%)が、過年度と比較し約10ポイント以上の増加、また「薬」(39.0%)が約7ポイント増加している。

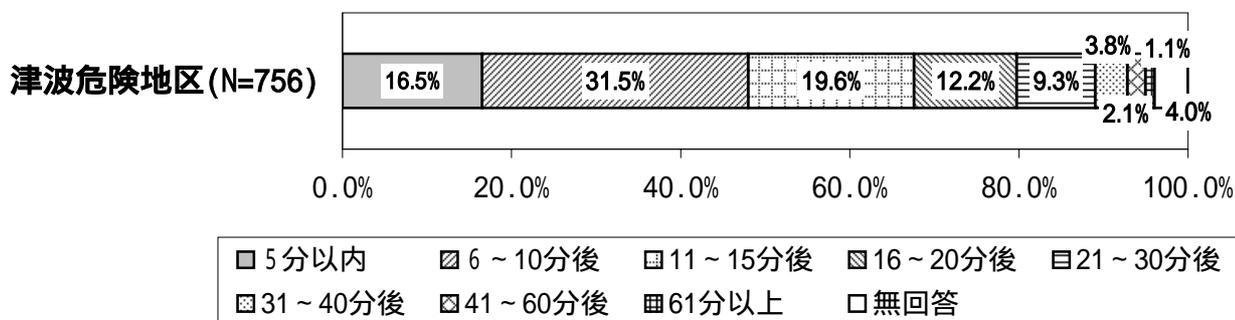
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 12 屋外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うか

付問	余震（ゆれもどし）が続く中で、あなたが家の外に出るのにどれくらいの時間がかかると思いますか。その際、絶対持っていきたいものをそろえる時間も含めてください。地震は夜遅くに起き、停電で真っ暗になっており、しかも揺れでタンスや棚の中のものが部屋中に散乱しているとしてお考えください（ひとつだけ）。							
	1. 5分以内	2. 6～10分後	3. 11～15分後	4. 16～20分後	5. 21～30分後	6. 31～40分後	7. 41～60分後	8. 61分以上

単数回答

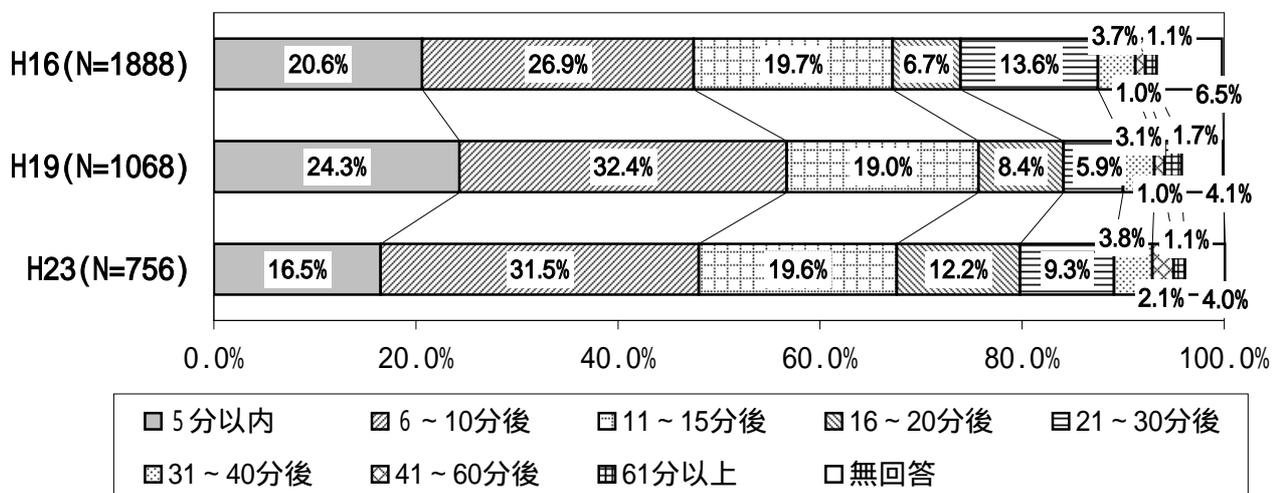
図. 屋外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うか



夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に屋外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うかについて、「6～10分後」（31.5%）が最も多く、次いで「11～15分後」（19.6%）となっている。

30分以内に屋外に避難できると考えている人（「5分以内」と「6～10分後」と「11～15分後」と「16～20分後」と「21～30分後」の合計）は89.0%と、約9割を占めている。

図. 屋外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「5分以内」（16.5%）と減少しているが、その他の項目については特に大きな変化はみられない。

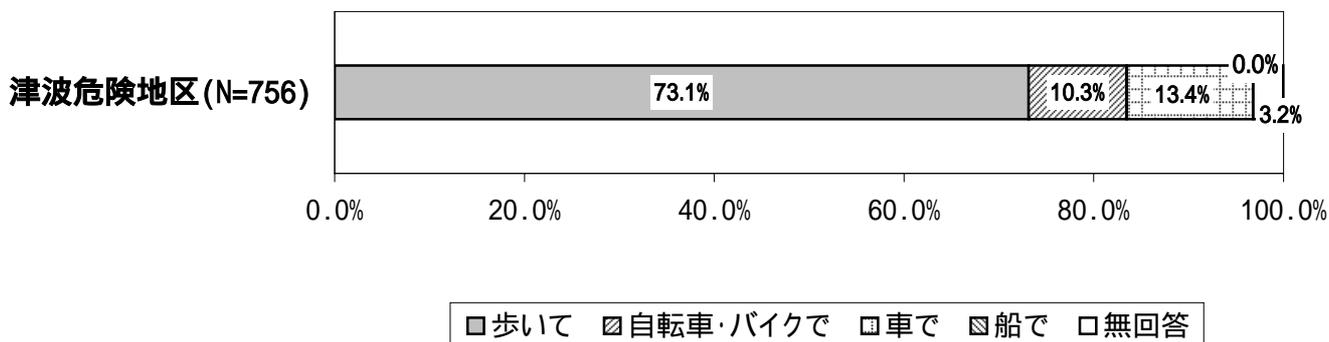
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 13 どのようにして避難するか

付問	あなたはどのようにして避難しますか(ひとつだけ)。
1. 歩いて	2. 自転車・バイクで
3. 車で	4. 船で

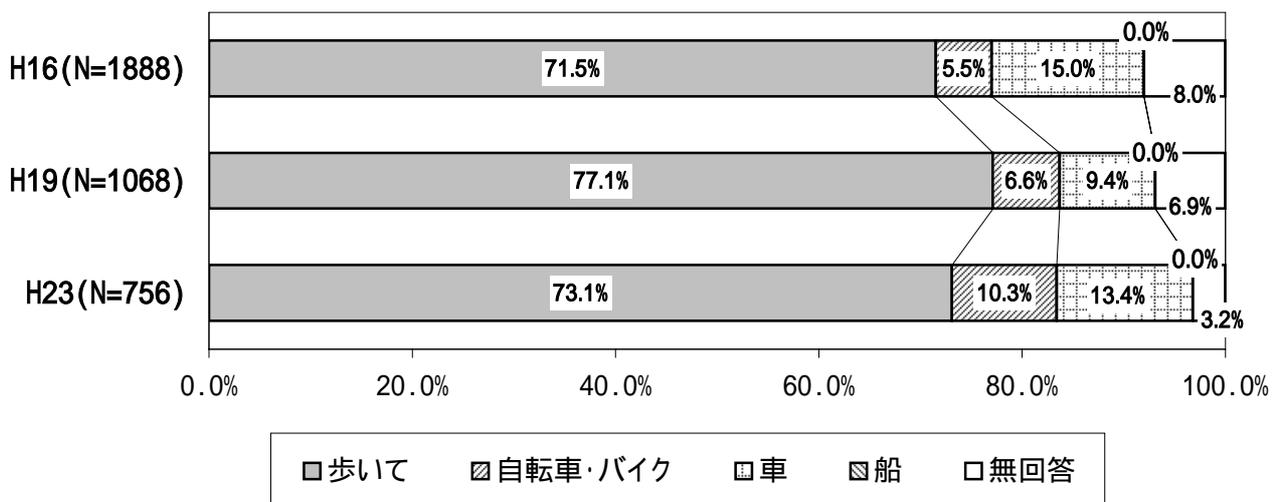
単数回答

図. どのようにして避難するか



夜間に自宅で大地震に遭遇した場合にどのようにして避難するかについて、「歩いて」(73.1%)が最も多く、次いで「車で」(13.4%)となっている。

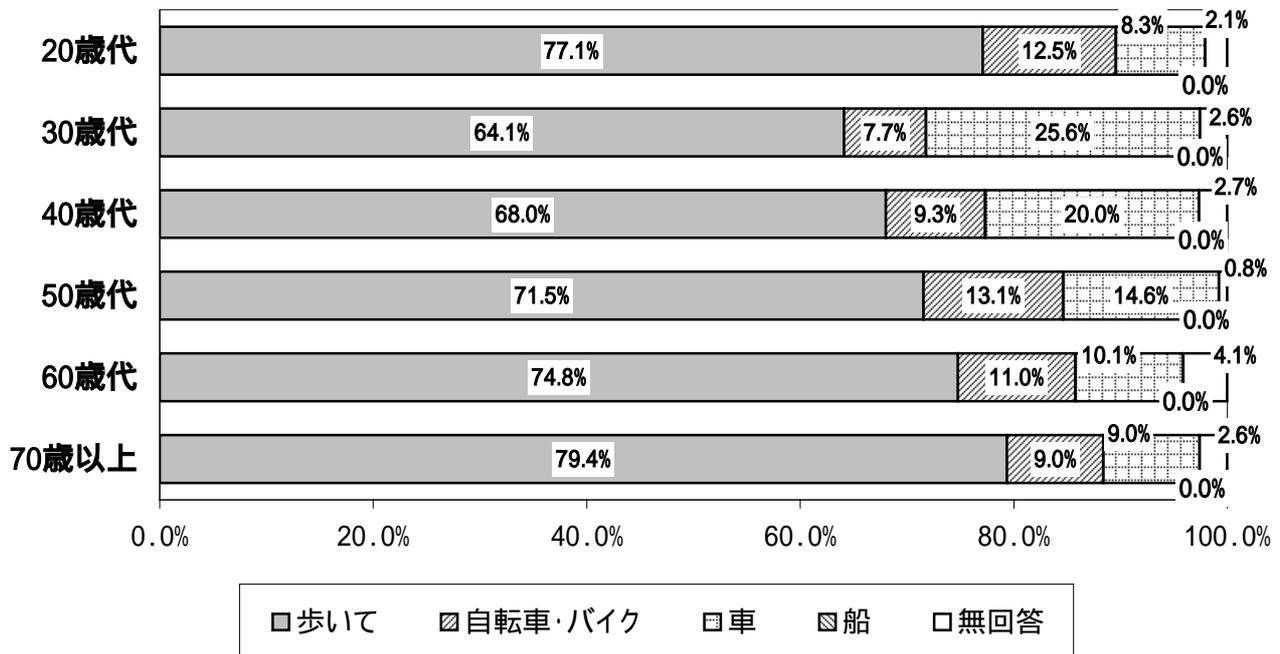
図. どのようにして避難するか  
～ 経年変化 ～



経年変化について、特に大きな変化はみられない。

### 3. 津波への意識と避難について

図. どのようにして避難するか  
～ 年齢比較 ～

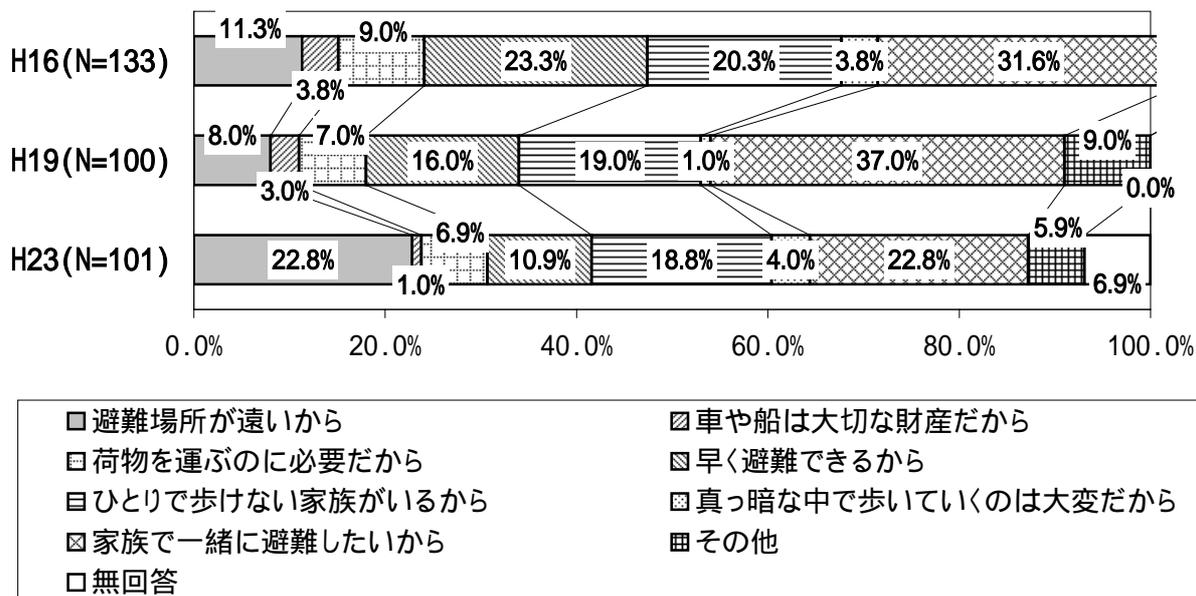


年齢別にみると、「歩いて」と答えた人は「70歳以上」（79.4%）が最も多く、次いで「20歳代」（77.1%）となっている。「車」と答えた人は「30歳代」（25.6%）が最も多くなっており、次いで「40歳代」（20.0%）となっており、「30歳代」が他の年齢よりも高い傾向にある。



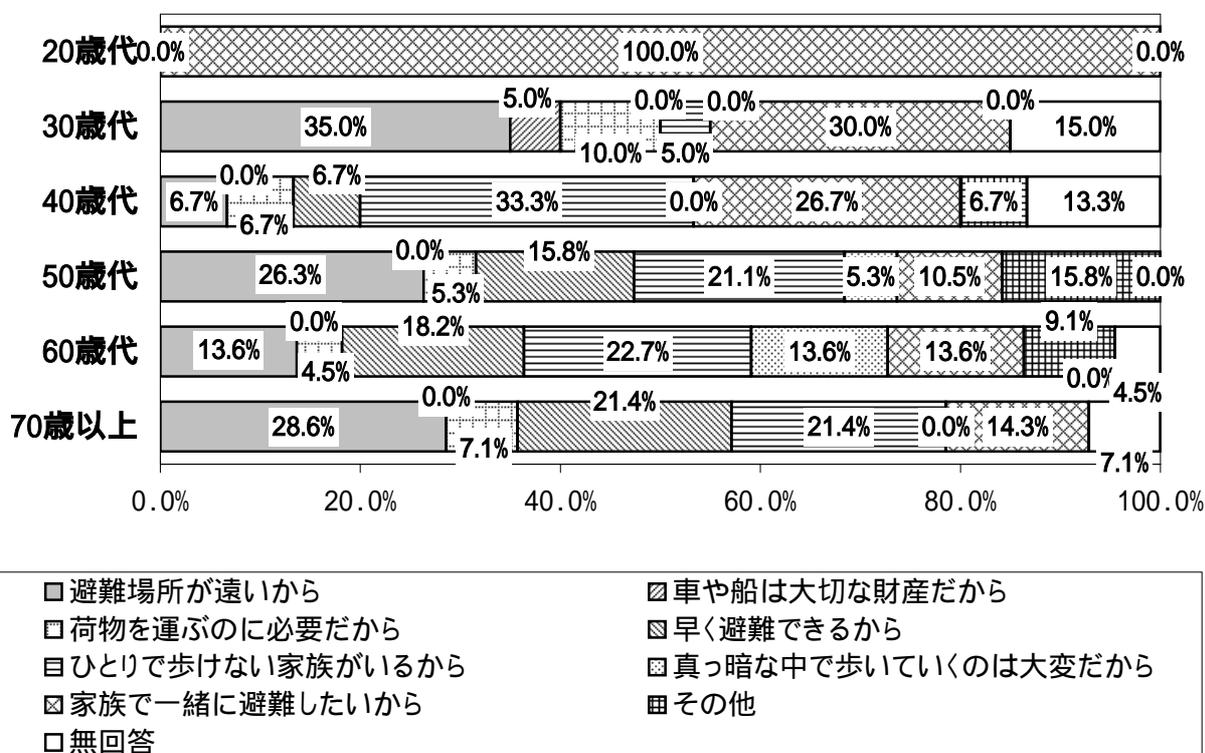
### 3. 津波への意識と避難について

図. 避難に車や船を使う主な理由は何か  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「避難場所が遠いから」が22.8%と過年度調査と比較すると10ポイント以上増加している一方、「家族で一緒に避難したいから」(22.8%)と約10ポイント減少している。

図. 避難に車や船を使う主な理由は何か  
～ 年齢比較 ～



年齢別にみると、「20歳代」(100.0%)では「家族で一緒に避難したいから」、「30歳代」(35.0%)「50歳代」(26.3%)「70歳以上」(28.6%)では「避難場所が遠いから」、「40歳代」(33.3%)「60歳代」(22.7%)では「ひとりで歩けない家族がいるから」が最も多くなっている。

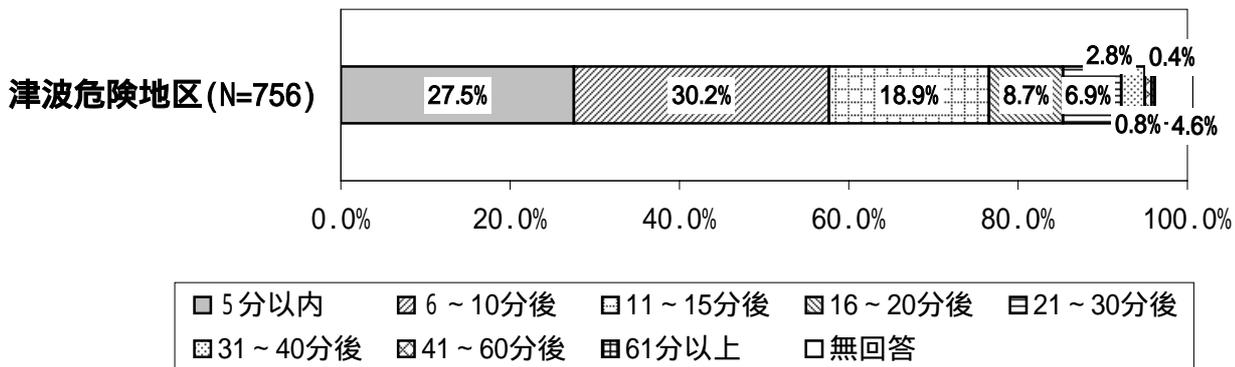
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 15 避難場所に到着するまでにどれくらいの時間がかかると思うか

付問	避難を始めてから避難場所に到着するまでに、何分くらいかかるとお考えですか(ひとつだけ)。							
	1. 5分以内	2. 6～10分後	3. 11～15分後	4. 16～20分後	5. 21～30分後	6. 31～40分後	7. 41～60分後	8. 61分以上

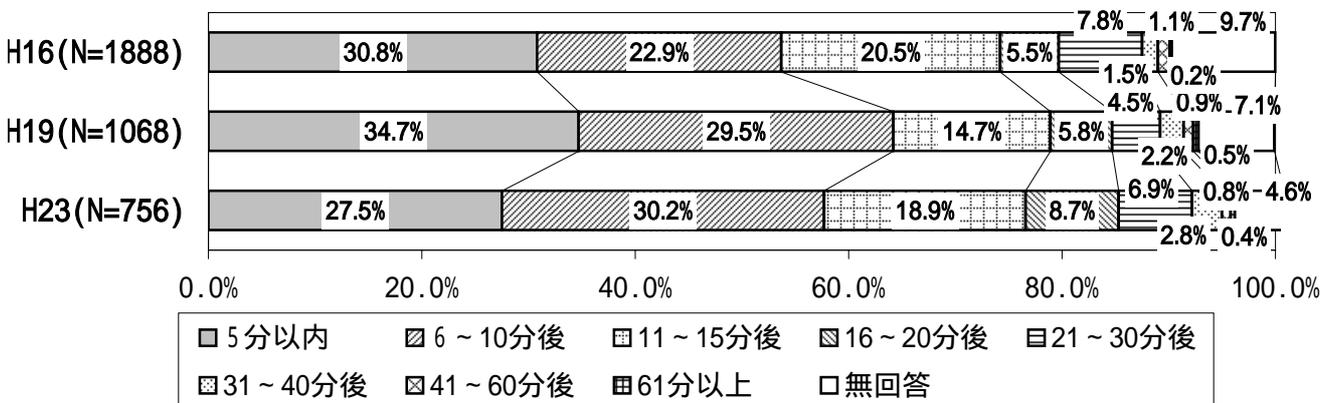
単数回答

図. 避難場所に到着するまでにどれくらいの時間がかかると思うか



夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に避難場所に到着するまでにどれくらいの時間がかかると思うかについて、「6～10分後」(30.2%)が最も多く、次いで「5分以内」(27.5%)となっている。

図. 避難場所に到着するまでにどれくらいの時間がかかると思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化について、特に大きな変化はみられない。

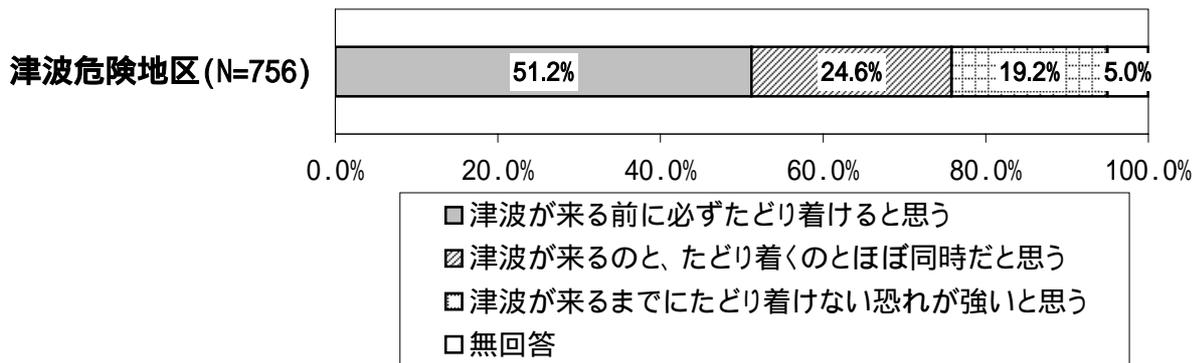
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 16 津波が来る前に安全な場所にたどり着けると思うか

付問	あなたは、津波が来る前に、安全な場所までたどりつけると思いますか。（ひとつだけ）。
1. 津波が来る前に必ずたどり着けると思う 2. 津波が来るのと、たどり着くのとほぼ同時だと思ふ 3. 津波が来るまでにたどり着けない恐れが強いと思ふ	

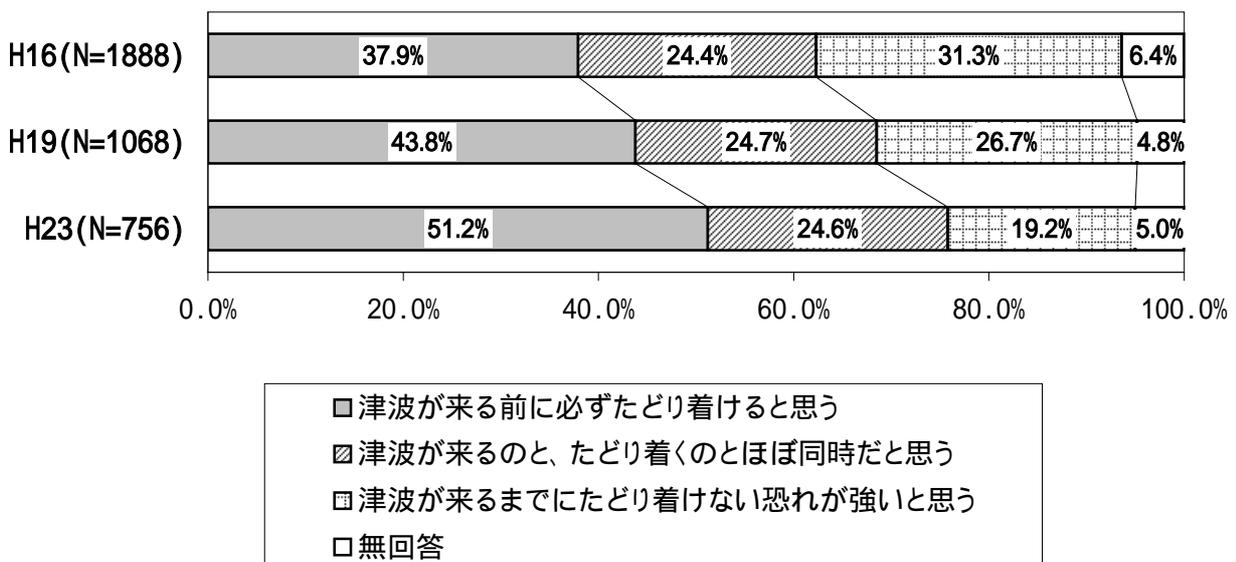
単数回答

図. 津波が来る前に安全な場所にたどり着けると思うか



夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に津波が来る前に安全な場所にたどり着けると思うかについて、「津波が来る前に必ずたどり着けると思う」（51.2%）が最も多く、次いで「津波が来るのと、たどり着くのとほぼ同時だと思ふ」（24.6%）となっている。

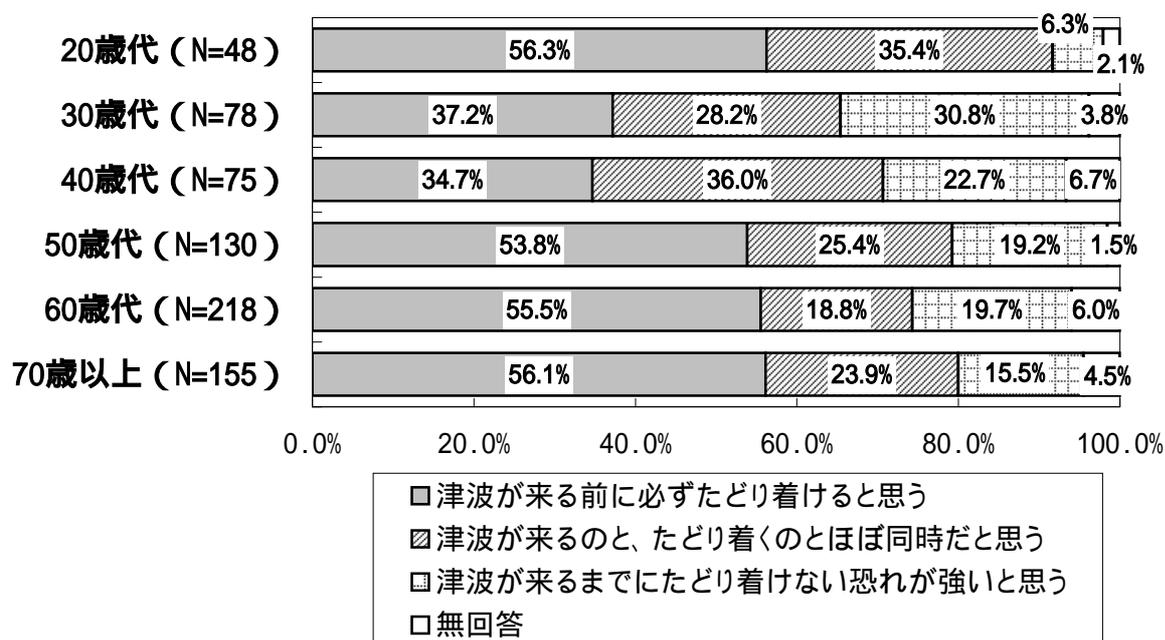
図. 津波が来る前に安全な場所にたどり着けると思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「津波が来る前に必ずたどり着けると思う」（51.2%）は年々増加傾向にある一方、「津波が来るまでにたどり着けない恐れが強いと思ふ」（19.2%）は減少傾向にある。

### 3. 津波への意識と避難について

図. 津波が来る前に安全な場所にたどり着けると思うか  
～ 年齢比較 ～



年齢別にみると、「20歳代」と「50歳代」と「60歳代」と「70歳以上」が「津波が来る前に必ずたどり着けると思う」と考える人が5割を超えており、「30歳代」と「40歳代」は約4割弱となっている。

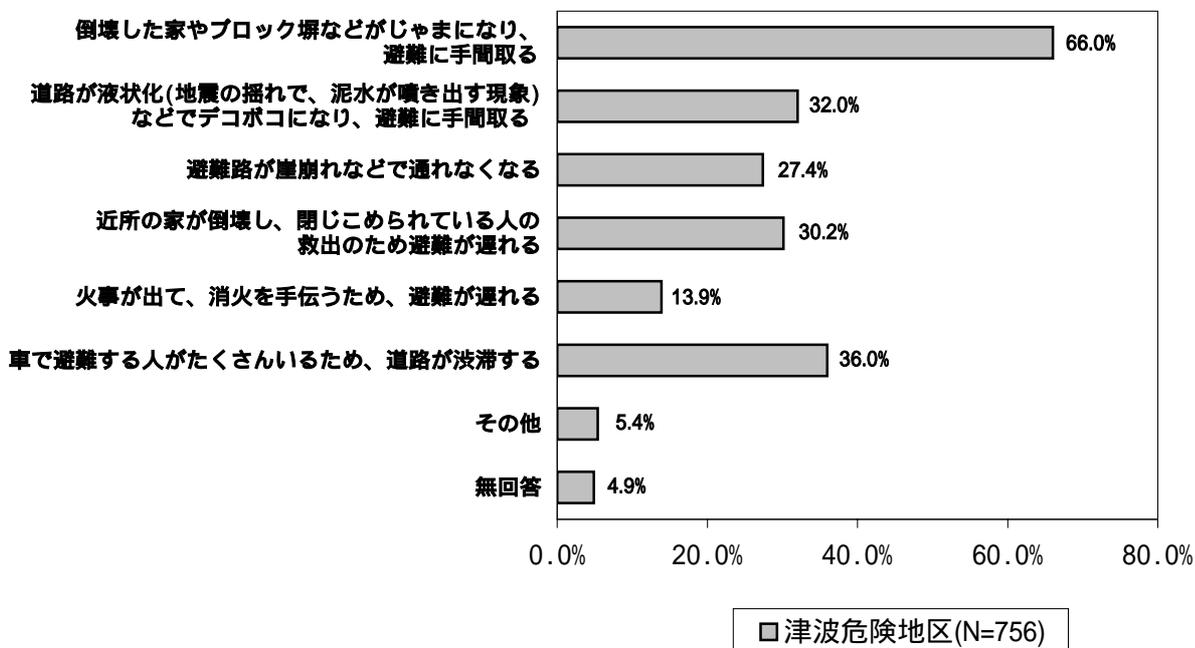
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 17 避難するときの妨げになると心配していることは何か

付問	下にあげた中で、あなたが、避難するときの妨げになると心配していることに、いくつでもつけてください。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり、避難に手間取る</li> <li>2. 道路が液状化(地震の揺れで、泥水が噴き出す現象)などでデコボコになり、避難に手間取る</li> <li>3. 避難路が崖崩れなどで通れなくなる</li> <li>4. 近所の家が倒壊し、閉じこめられている人の救出のため避難が遅れる</li> <li>5. 火事が出て、消火を手伝うため、避難が遅れる</li> <li>6. 車で避難する人がたくさんいるため、道路が渋滞する</li> <li>7. その他 ( )</li> </ol>	

複数回答

図. 避難するときの妨げになると心配していることは何か



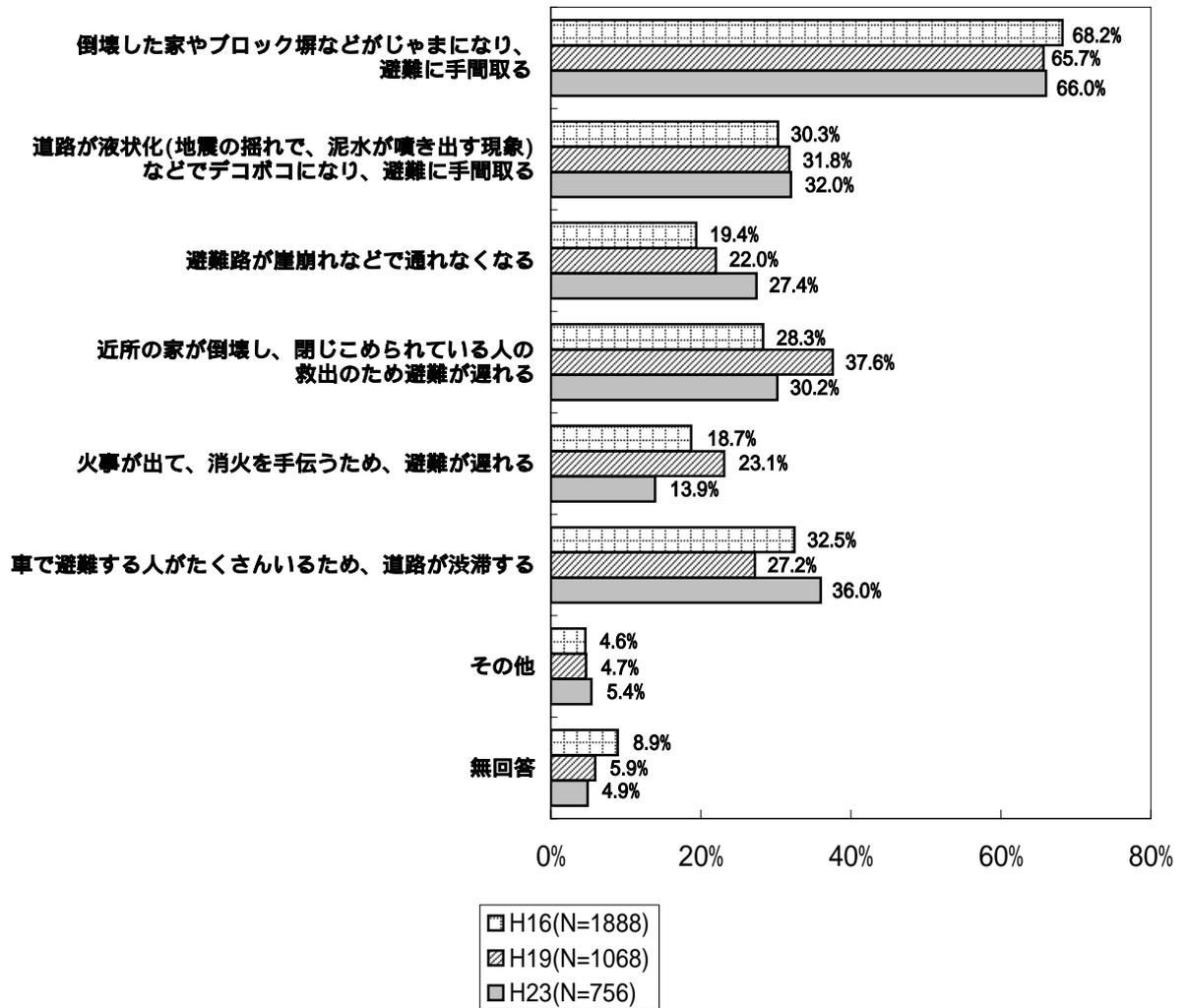
< その他回答 >

- ・ 障害を持っている家族がいる
- ・ 家が海岸近くにある為避難する道路に着くのに遠回りになる
- ・ 避難場所に行くには橋を渡る必要があり落ちないか心配
- ・ 山道が整備されていない、暗い
- ・ 家族に足の悪い高齢者がいる。避難所にペットを連れて行っていいのかわからない。
- ・ 細い坂道を上ってもすぐそばの山がくずれないか心配 など

夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に避難するときの妨げになると心配していることは何かについて、「倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり、避難に手間取る」(66.0%)が最も多く、次いで「車で避難する人がたくさんいるため、道路が渋滞する」(36.0%)となっている。

### 3. 津波への意識と避難について

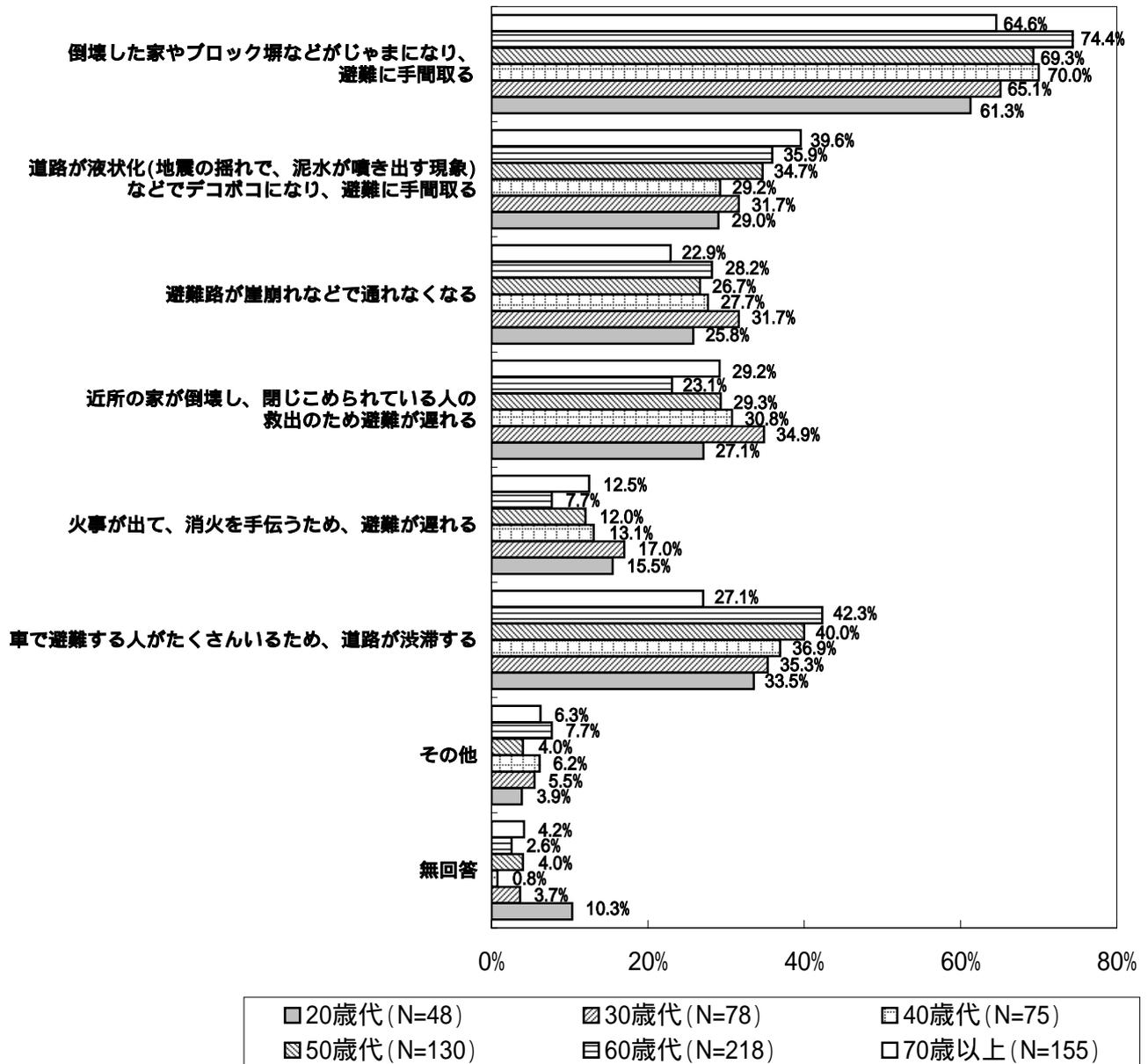
図. 避難するときの妨げになると心配していることは何か  
～ 経年変化 ～



経年変化について、特に大きな変化はみられない。

### 3. 津波への意識と避難について

図. 避難するときの妨げになると心配していることは何か  
～ 年齢比較 ～



年齢別にみると、年齢に関わらず「倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり、避難に手間取る」が最も多くなっている。

若い年代の方が、心配事項（選択数）が少ない傾向にある。

年齢別選択数

20歳代：99票

30歳代：173票

40歳代：165票

50歳代：279票

60歳代：490票

70歳以上：320票

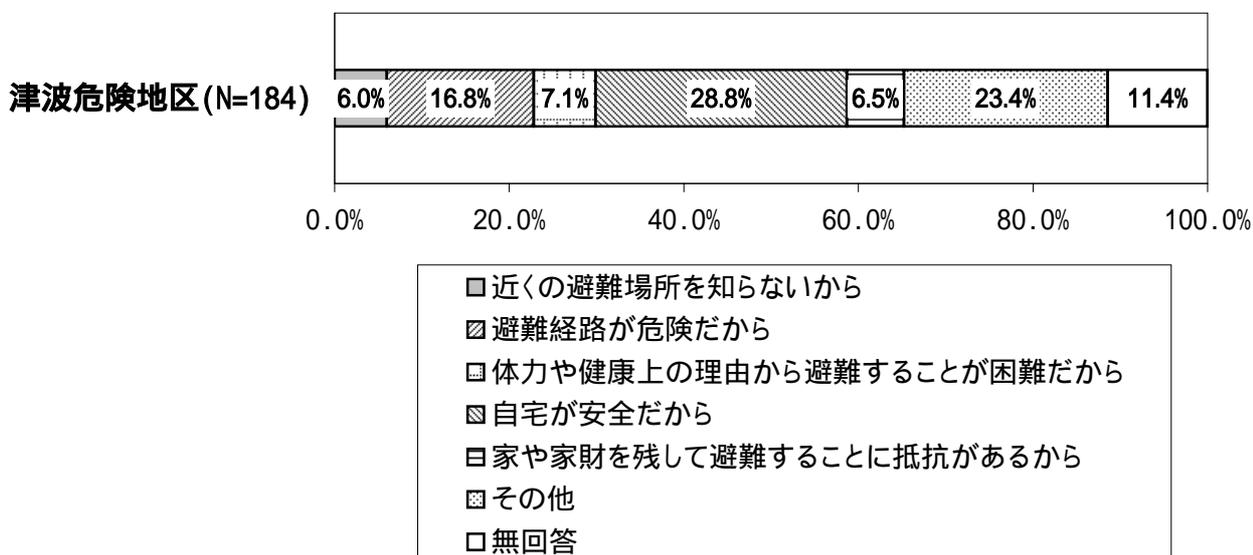
### 3. 津波への意識と避難について

#### 3 - 18 避難しない理由は何か

問	あなたが避難しない主な理由は何ですか（ひとつだけ）。
1. 近くの避難場所を知らないから 2. 避難経路が危険だから 3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから 4. 自宅が安全だから 5. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから 6. その他（ ）	

単数回答

図. 避難しない理由は何か



#### <その他回答>

- ・家族おり、これだけの情報で避難するかは決められない。できるだけ情報を集める
  - ・家が山手でかなり高い位置にあるから
  - ・まず情報を知ってからすぐに対処したいから
  - ・年老いた両親がいるのですぐに避難できない。
  - ・他の人が動かないから
  - ・避難場所が遠い
- など

夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に避難しない理由について、「自宅が安全だから」（28.8%）が最も多く、次いで「避難経路が危険だから」（16.8%）となっている。

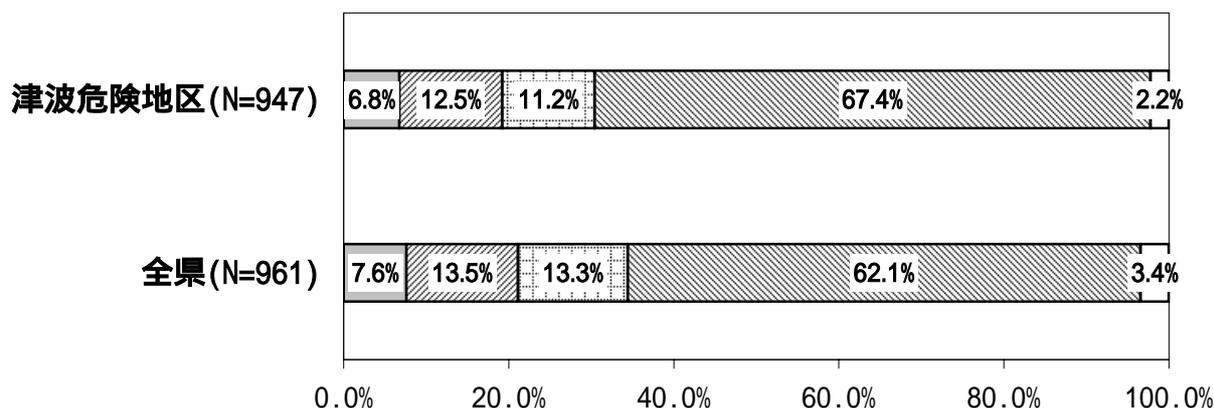
## 4. 避難体制について

### 4 - 1 災害時要援護者を地域として支援する体制の有無

問	あなたがお住まいの地域では、ひとりで避難することが困難な高齢者や要介護者の避難を地域として支援する体制ができていますか（ひとつだけ）。
1.できている 2.できていないが検討している 3.検討もしていない 4.よく知らない	

単数回答

図. 災害時要援護者を地域として支援する体制の有無

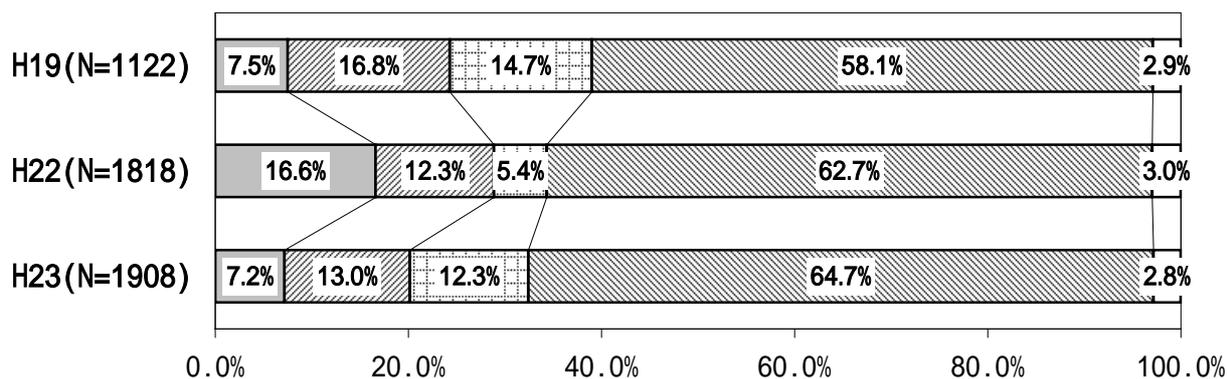


□できている □できていないが検討している □検討もしていない □よく知らない □無回答

災害時要援護者を地域として支援する体制の有無について、津波危険地区及び全県ともに「よく知らない」が最も多く、次いで「できていないが検討している」となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 災害時要援護者を地域として支援する体制の有無  
～ 経年変化 ～



□できている □できていないが検討している □検討もしていない □よく知らない □無回答

経年変化でみると、「できている」（7.2%）はH22（16.6%）に増加したものの、再び減少している。

一方、「検討もしていない」（12.3%）はH22（5.4%）に減少したものの、再び増加している。

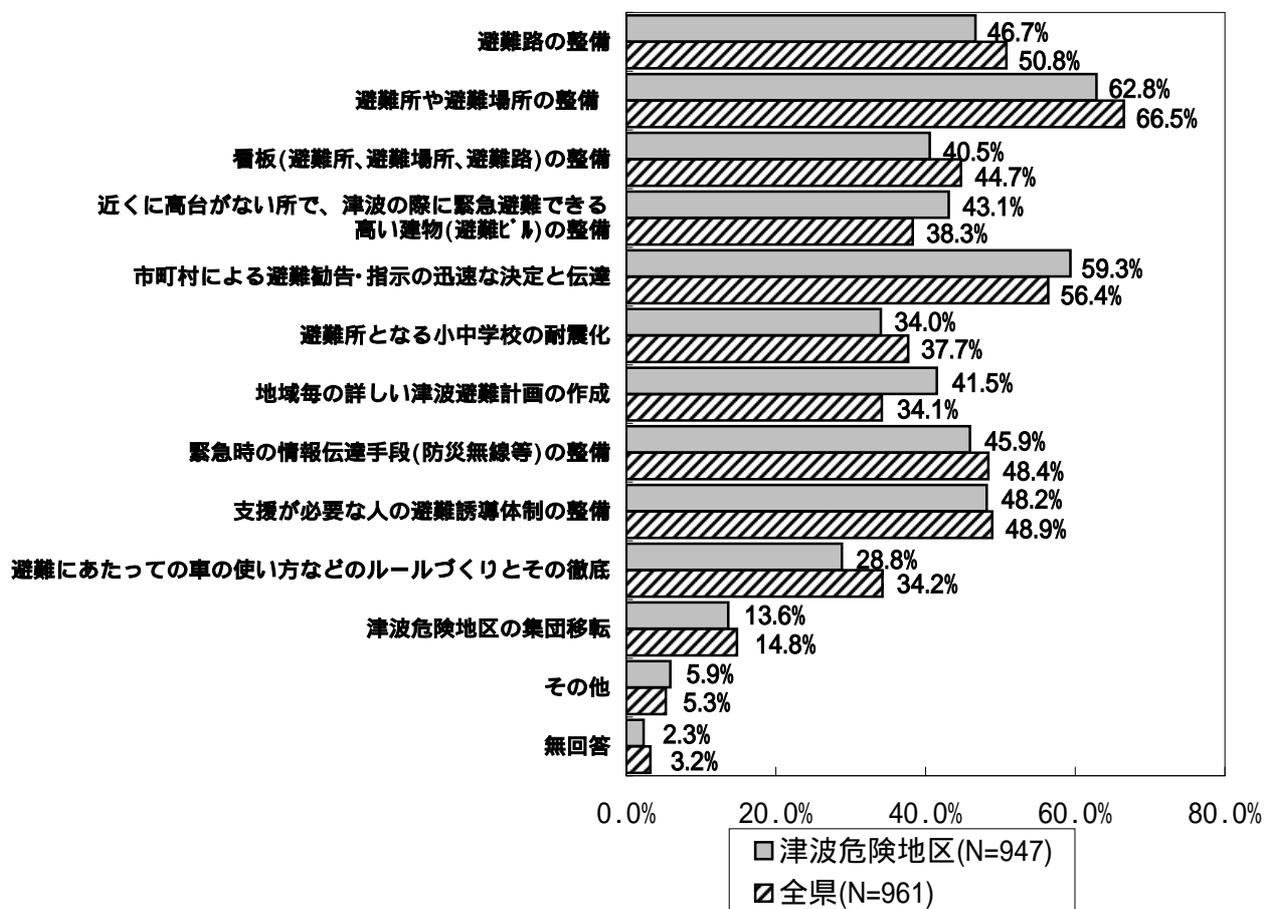
## 4. 避難体制について

### 4 - 2 地震や津波の時、行政は何をすべきだと思うか

問	地震や津波の時の避難対策として、県や市町村は何をすべきだと思いますか(いくつかでも)。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 避難路の整備</li> <li>2. 避難所や避難場所の整備</li> <li>3. 看板(避難所、避難場所、避難路)の整備</li> <li>4. 近くに高台がない所で、津波の際に緊急避難できる高い建物(避難ビル)の整備</li> <li>5. 市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達</li> <li>6. 避難所となる小中学校の耐震化</li> <li>7. 地域毎の詳しい津波避難計画の作成</li> <li>8. 緊急時の情報伝達手段(防災無線等)の整備</li> <li>9. 支援が必要な人の避難誘導體制の整備</li> <li>10. 避難にあたっての車の使い方などのルールづくりとその徹底</li> <li>11. 津波危険地区の集団移転</li> <li>12. その他( )</li> </ol>

複数回答

図. 地震や津波の時、行政は何をすべきだと思うか



## 4. 避難体制について

### < その他回答 >

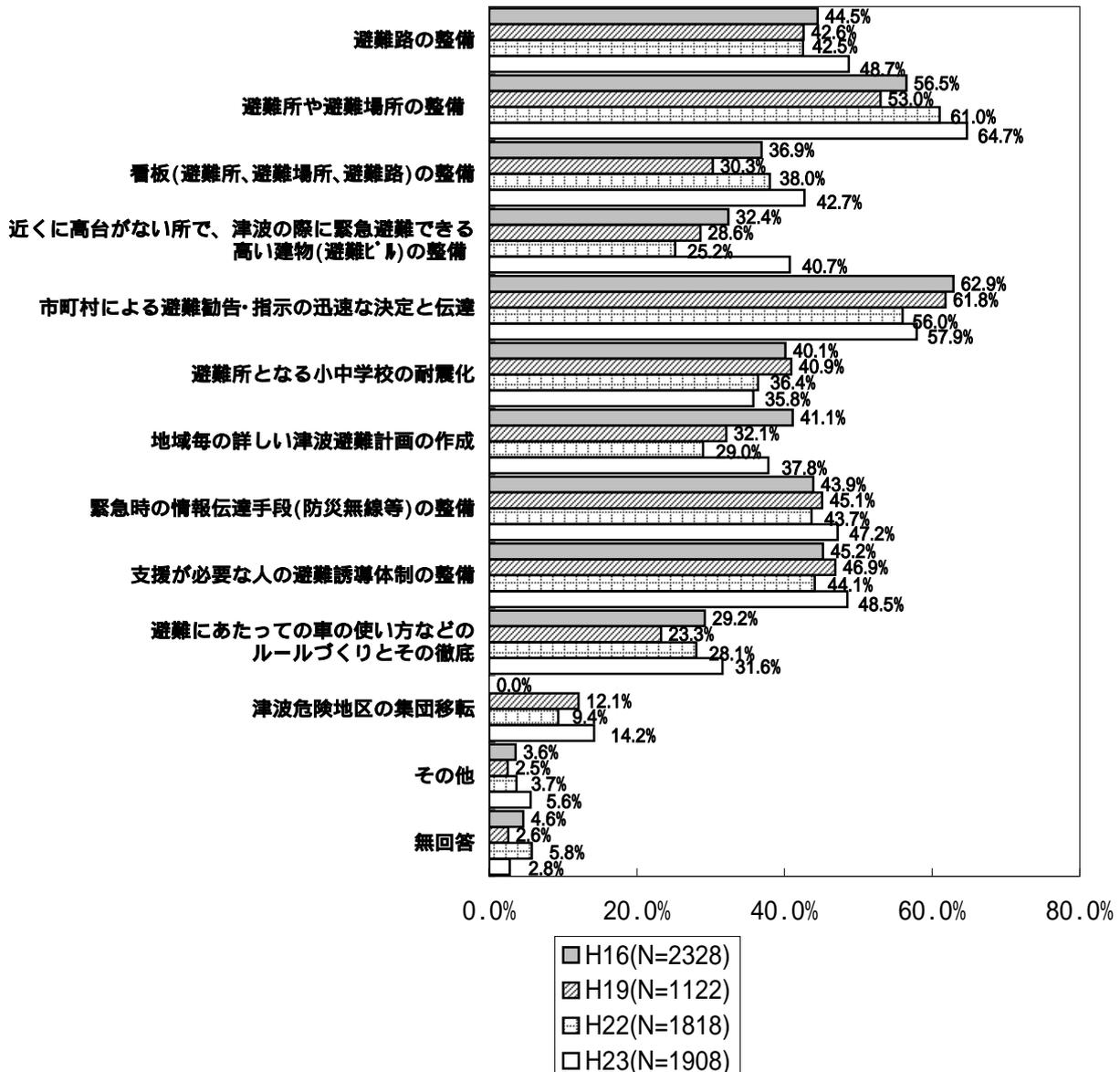
- ・防災無線をどこの場所で聞こえる様に。
- ・現在の避難場所の見直し。
- ・食料など高台へ備える、15m以上の高さ。
- ・独居老人等、弱者の避難誘導と避難場所の整備。
- ・子供がたとえその時1人でいても避難行動をとれるよう教育すること。
- ・自助、共助の重要性の啓発。

など

地震や津波の時、行政は何をすべきかについて、津波危険地区及び全県ともに「避難所や避難場所の整備」が最も多く、次いで「市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達」となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

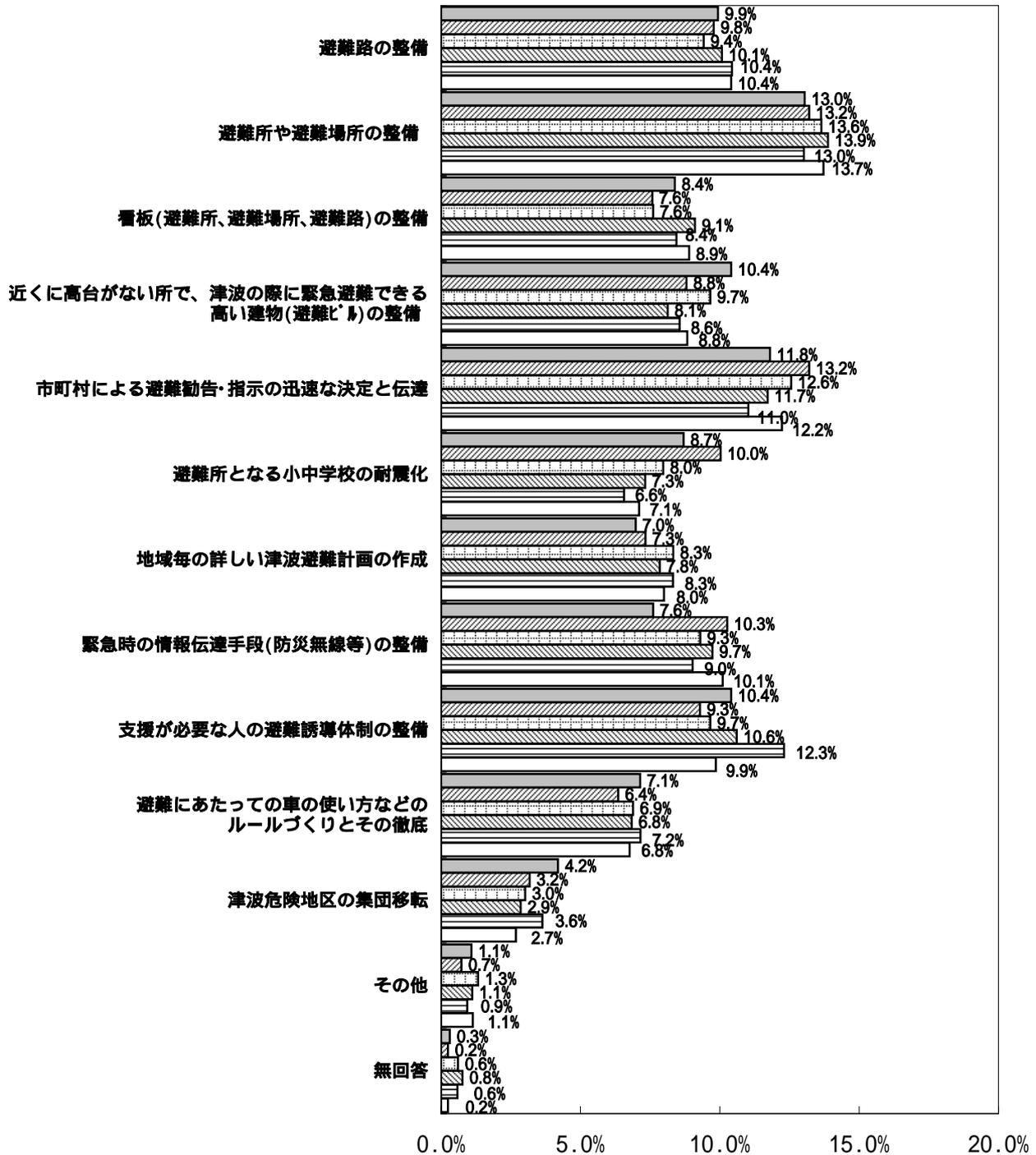
図. 地震や津波の時、行政は何をすべきだと思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、特に大きな変化はみられない。

#### 4. 避難体制について

図. 地震や津波の時、行政は何をすべきだと思うか  
～ 家族構成比較 ～



家族構成ごとに比較してみると、特に大きな差はみられない。

## 5. 避難情報について

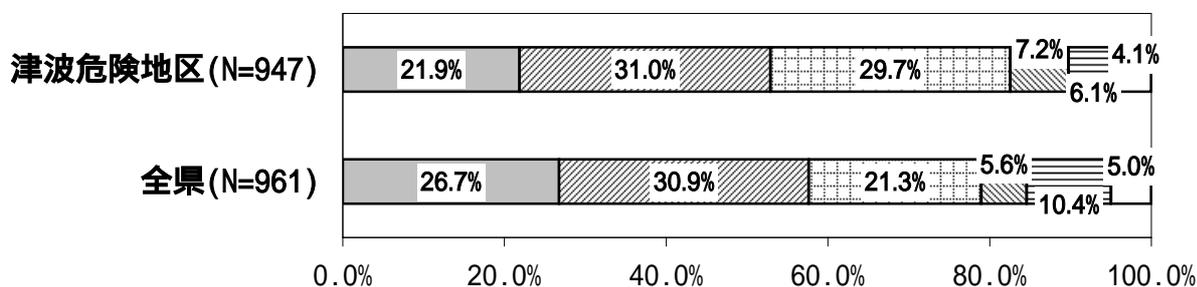
### 5 - 1 近くに防災無線のスピーカーはあるか、聞こえ具合はどうか

問 市役所や町村役場が、緊急時の連絡などに使う屋外に設置された防災無線のスピーカーはありますか。また、そのスピーカーの聞こえ具合はどうか（ひとつだけ）。

1. ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる
2. よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいで聞きとれないことがある
3. ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない
4. 放送の内容はまったく聞きとれない
5. 近くに防災無線のスピーカーが設置されていない

単数回答

図. 近くに防災無線のスピーカーはあるか、聞こえ具合はどうか



- ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる
- よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいで聞きとれないことがある
- ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない
- 放送の内容はまったく聞きとれない
- 近くに防災無線のスピーカーが設置されていない
- 無回答

近くに防災無線のスピーカーの有無、またはその聞こえ具合について、津波危険地区及び全県ともに「よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいで聞きとれないことがある」が最も多くなっている。

津波危険地区では、「ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない」（29.7%）が全県（21.3%）と比較し多くなっている。

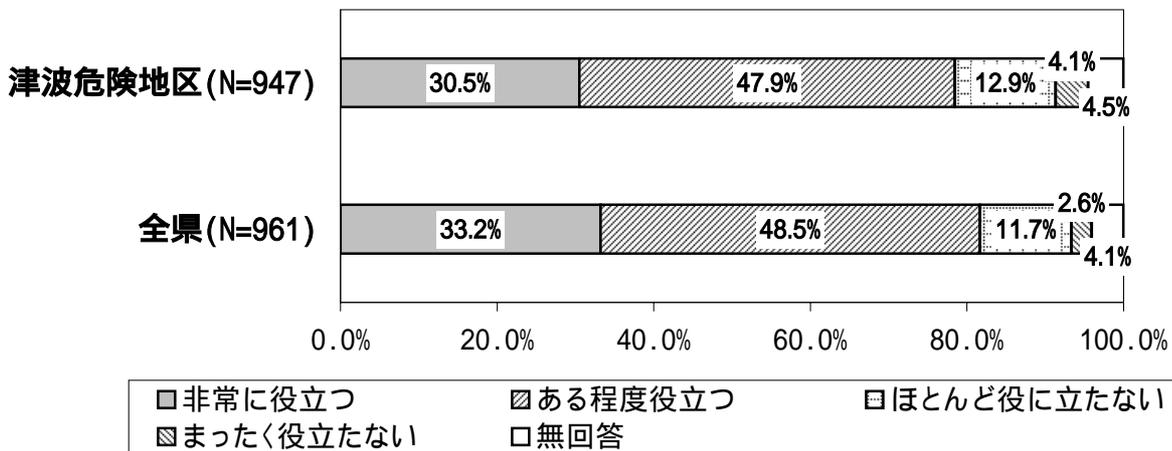
## 5. 避難情報について

### 5 - 2 防災無線は役に立つと思うか

問	問21の防災無線は、大地震が起きた時、役に立つと思いますか（ひとつだけ）。
1.非常に役立つ 2.ある程度役立つ 3.ほとんど役に立たない 4.まったく役に立たない	

単数回答

図. 防災無線は役に立つと思うか



防災無線は役に立つと思うかについて、津波危険地区及び全県ともに「ある程度役立つ」が最も多く、次いで「非常に役立つ」となっている。

防災無線が役に立つと考えている人（「非常に役立つ」と「ある程度役立つ」の合計）は、津波危険地区で78.5%、全県で81.7%と、約8割を占めている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

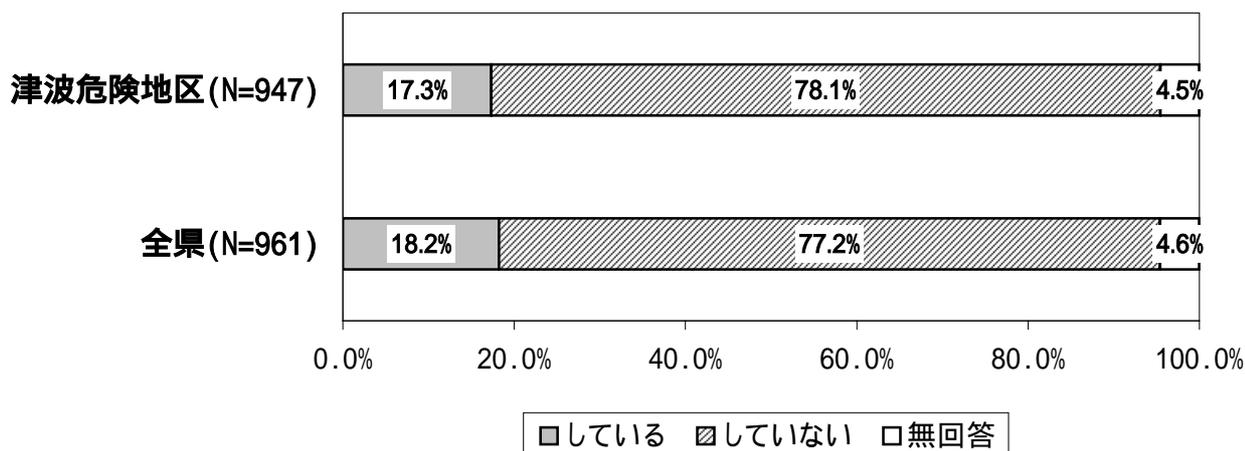
## 5. 避難情報について

### 5 - 3 「防災わかやまメール配信サービス」に登録しているか

問	県の『防災わかやまメール配信サービス（気象情報や避難勧告などの緊急情報を電子メールで配信するサービス）』に登録していますか。
	1. している                      2. していない

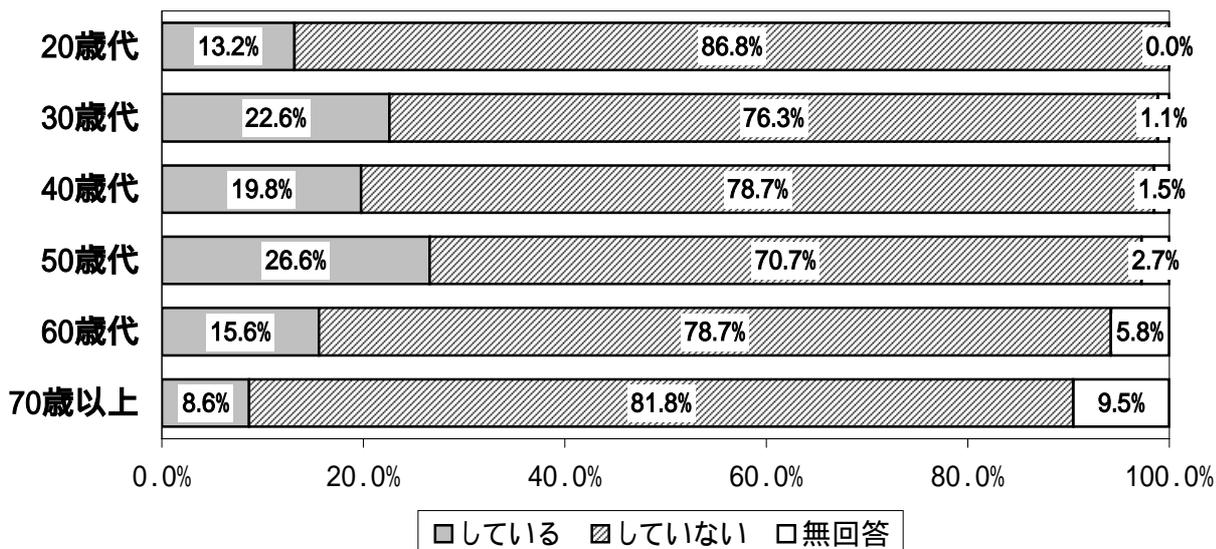
単数回答

図. 「防災わかやまメール配信サービス」に登録しているか



『防災わかやまメール配信サービス』に登録しているかについて、津波危険地区（78.1%）及び全県（77.2%）ともに「していない」が多くなっている。津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 「防災わかやまメール配信サービス」に登録しているか  
～ 年齢比較 ～



年齢比較でみると、「している」は「50歳代」（26.6%）が最も多く、次いで「30歳代」（22.6%）となっている。

## 5. 避難情報について

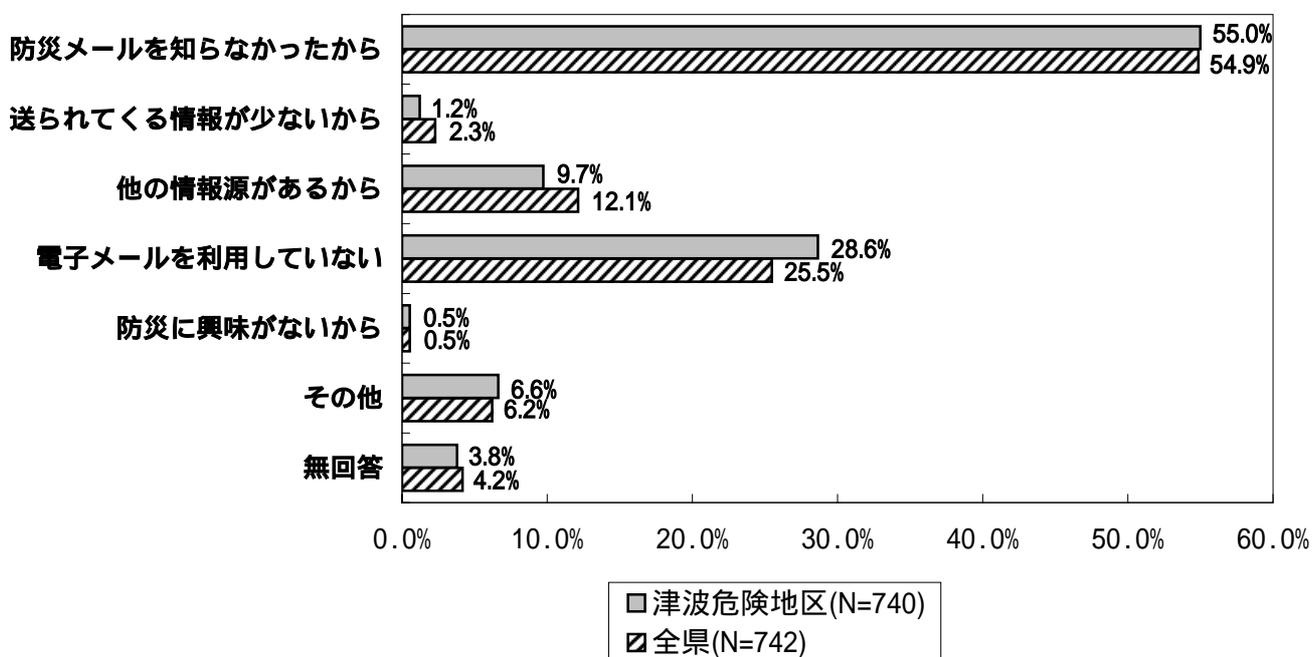
### 5 - 4 「防災わかやまメール配信サービス」に登録していないのはなぜか

付問 なぜ登録していないのですか。

1. 防災メールを知らなかったから
2. 送られてくる情報が少ないから
3. 他の情報源があるから
4. 電子メールを利用していない
5. 防災に興味がないから
6. その他( )

複数回答

図. 「防災わかやまメール配信サービス」に登録していないのはなぜか



#### < その他回答 >

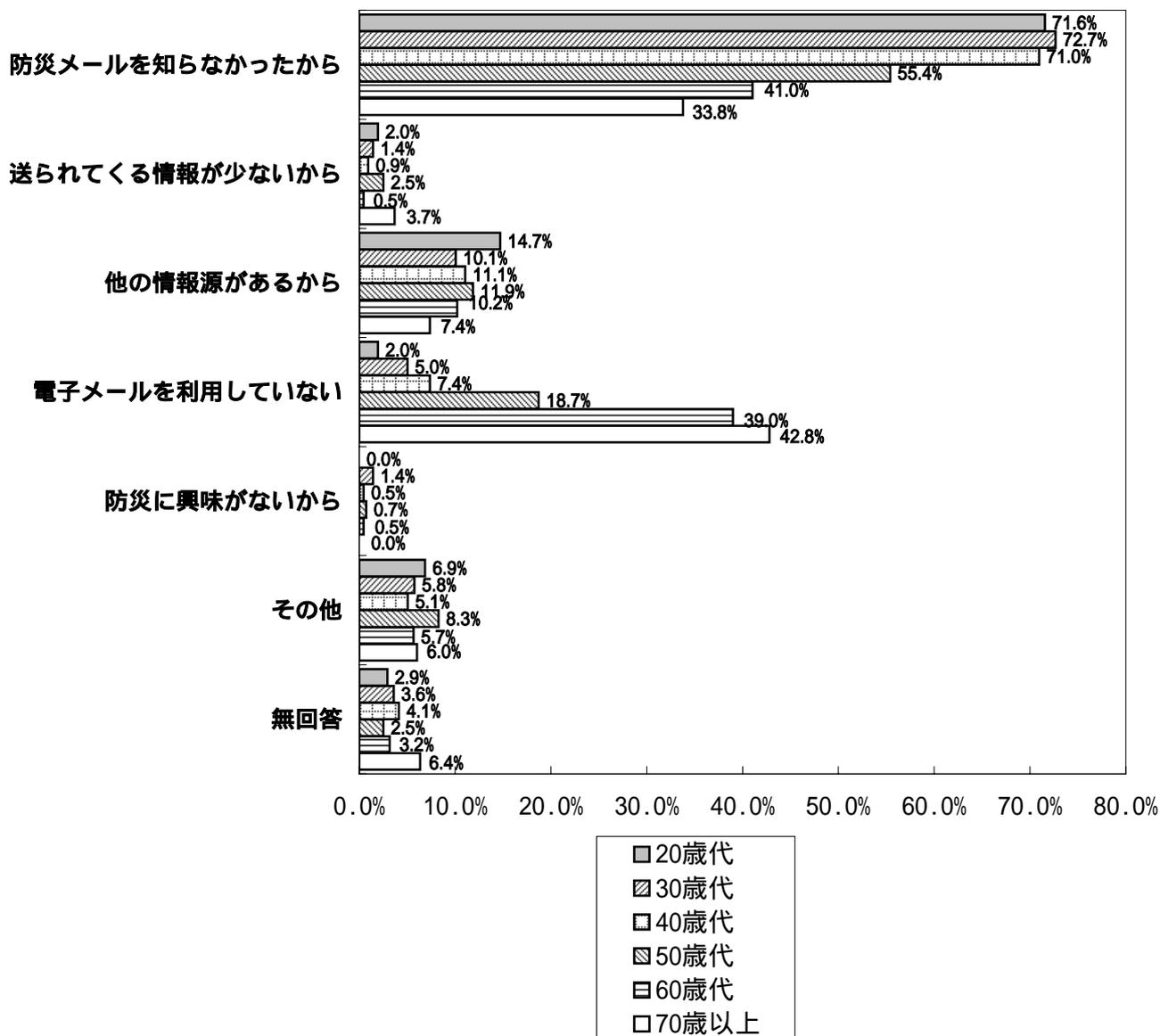
津波危険地区	全県
・使い方よくわからない。	・登録方法知らなかった。
・電波が悪い。	・手順を書いてくれても具体的に仕方がわからない。
・登録するのに手間。	・エリアメールがくるから。
・登録のしかたがむずかしい。	・これから登録したい。
・携帯電話を持っていない。	・老人の為メール等していないので分からない。 など

「防災わかやまメール配信サービス」に登録していない理由について、津波危険地区及び全県ともに「防災メールを知らなかったから」が最も多く、次いで「電子メールを利用していない」となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

## 5. 避難情報について

図. 「防災わかやまメール配信サービス」に登録していないのはなぜか  
～ 年齢比較 ～



年齢別にみると、「防災メールを知らなかったから」は「30歳代」（72.8%）が最も多く若年層に高い傾向にある一方、「電子メールを利用していないから」は「70歳以上」（42.8%）が最も多く、高齢層に高い傾向にある。

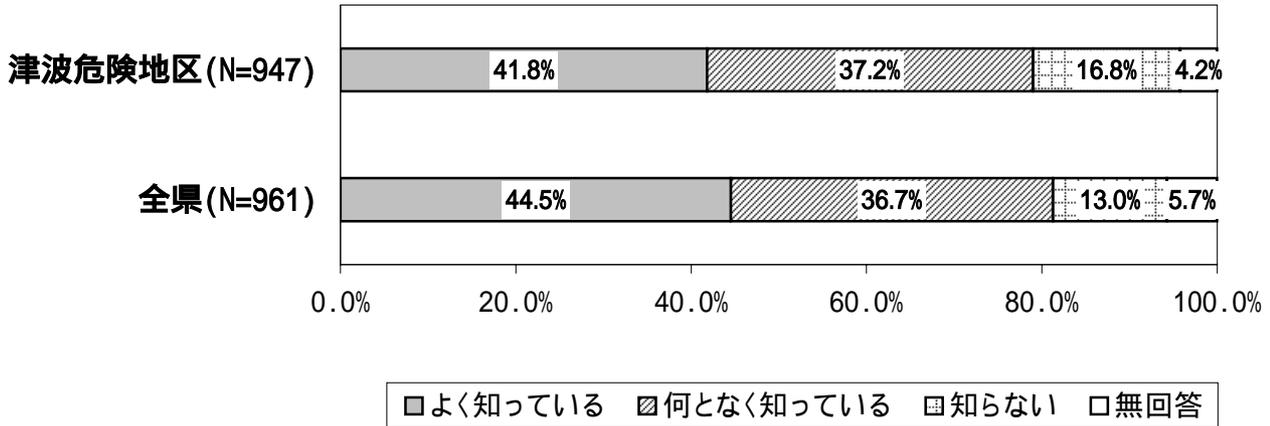
## 5. 避難情報について

### 5 - 5 緊急地震速報を知っているか

問	気象庁では、地震の大きな揺れが来る数秒から数十秒前に、「大きな揺れが来る」ことを知らせる緊急地震速報を発表しています。あなたはこのことをご存じですか。
	1.よく知っている    2.何となく知っている    3.知らない

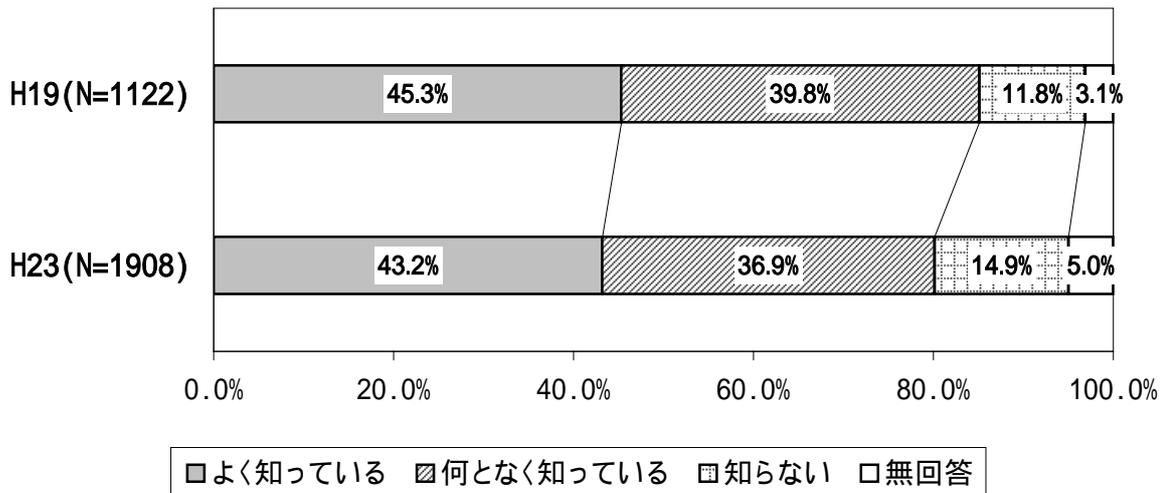
単数回答

図. 緊急地震速報を知っているか



緊急地震速報について、津波危険地区及び全県ともに「よく知っている」が最も多く、次いで「何となく知っている」となっている。  
津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 緊急地震速報を知っているか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「よく知っている」、「何となく知っている」について若干の減少がみられるが、大きな変化はみられない。

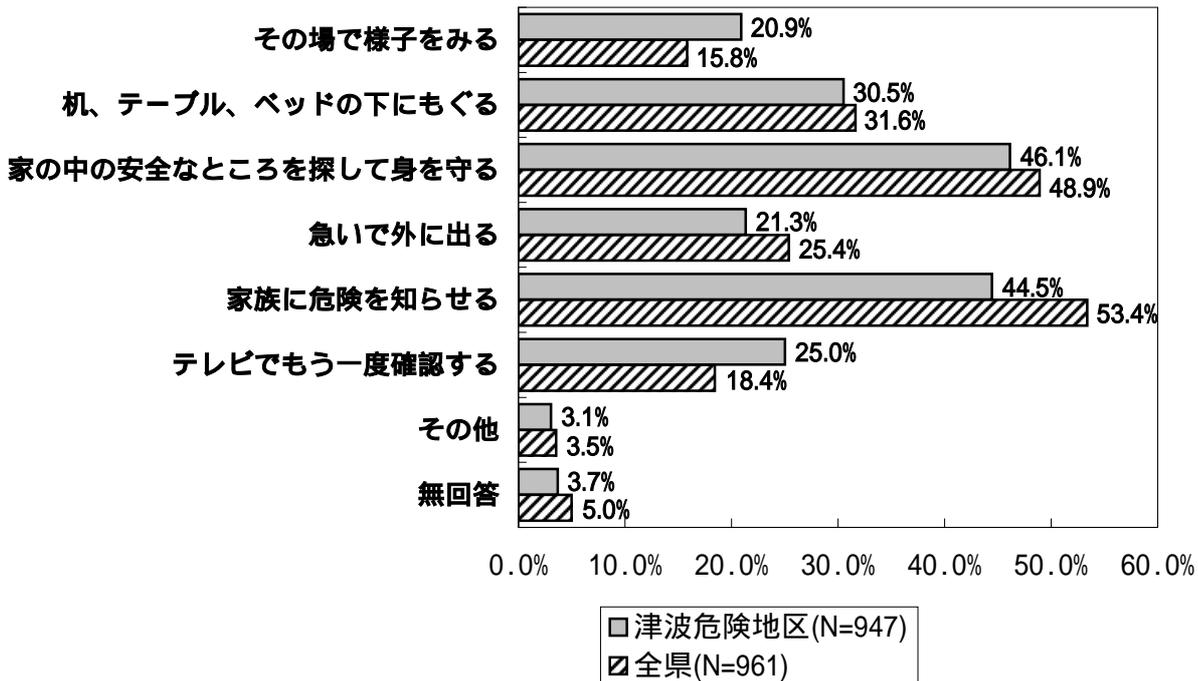
## 5. 避難情報について

### 5 - 6 自宅で緊急地震速報を受けたときどうするか

問	もし、あなたが「あと10数秒で震度6強の揺れが来る」という緊急地震速報を自宅で知ったとき、どうしますか(いくつでも)。
1. その場で様子を見る	2. 机、テーブル、ベッドの下にもぐる
3. 家の中の安全なところを探して身を守る	4. 急いで外に出る
6. テレビでもう一度確認する	5. 家族に危険を知らせる
	7. その他( )

複数回答

図. 自宅で緊急地震速報を受けたときどうするか



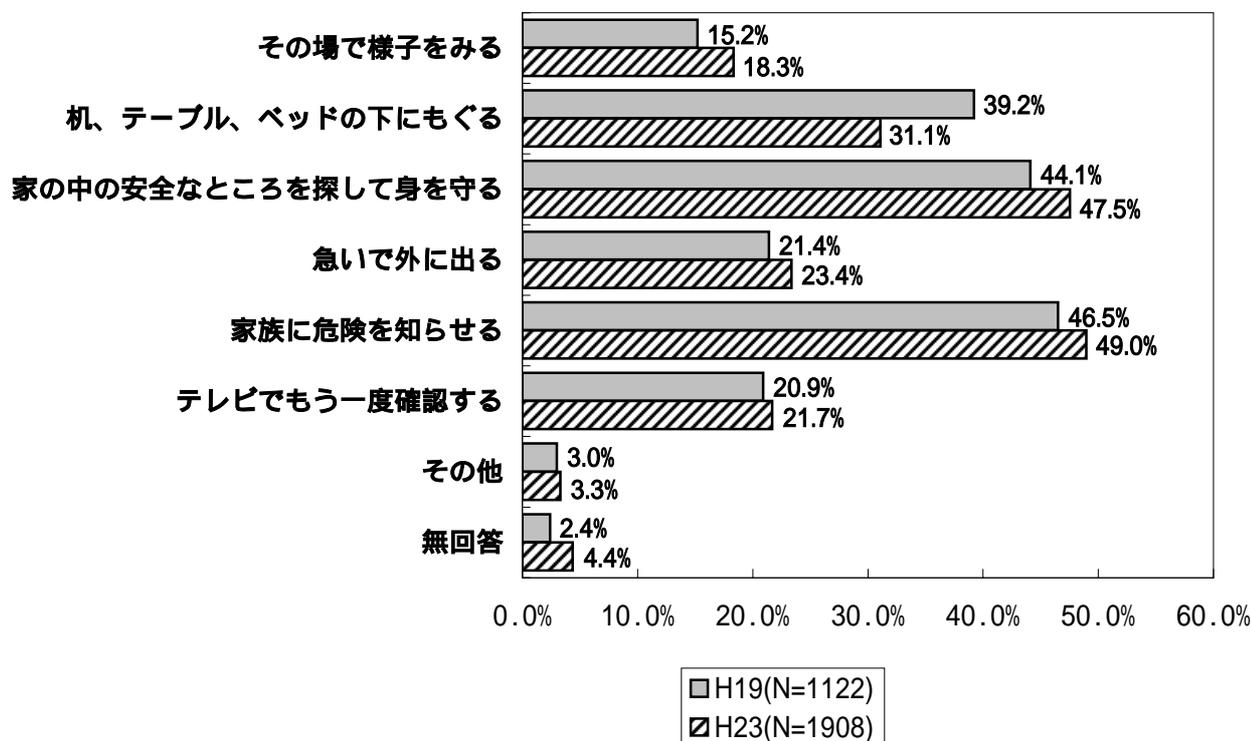
#### < その他回答 >

津波危険地区	全県
・子どもの側へ行く。	・ガスコンロ等火を消す。
・火の始末をする。	・避難袋と避難経路の確保。
・戸口を開けて外への道を確保する。	・子どもを抱く。
・地震のときはあわてて屋外に出ない方がよい。	・出口の確保。
倒壊する物に危険である(瓦等の落下)。	・安全な所に行く。 など

自宅で緊急地震速報を受けたときどうするかについて、津波危険地区では「家の中の安全なところを探して身を守る」(46.1%)が最も多く、全県では「家族に危険を知らせる」(53.4%)が最も多くなっている。  
津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

## 5. 避難情報について

図. 自宅で緊急地震速報を受けたときどうするか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「机、テーブル、ベッドの下にもぐる」について若干の減少がみられるが、大きな変化ははみられない。

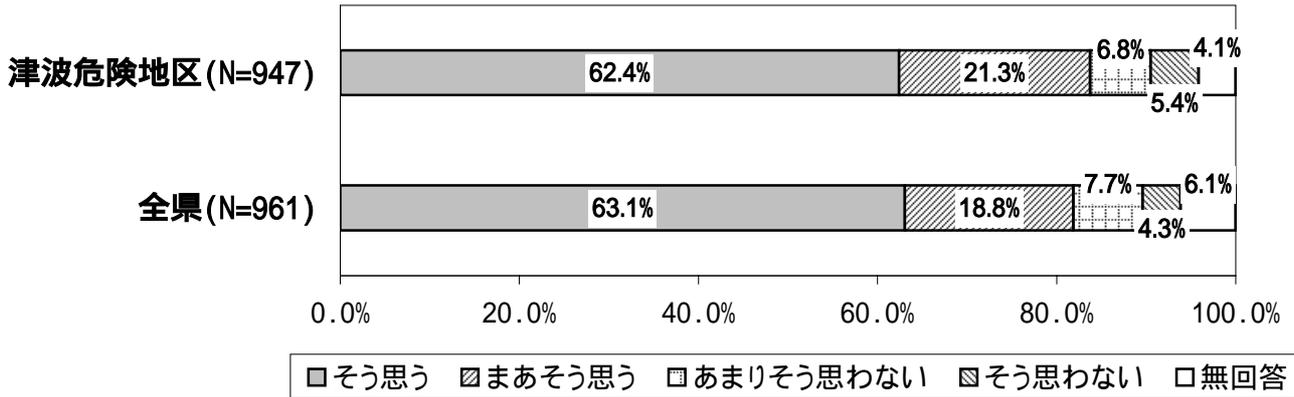
## 6. 津波への考え方について

### 6 - 1 「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」についてどう思うか

問	「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」についてどう思いますか。	
	1. そう思う	2. まあそう思う
	3. あまりそう思わない	4. そう思わない

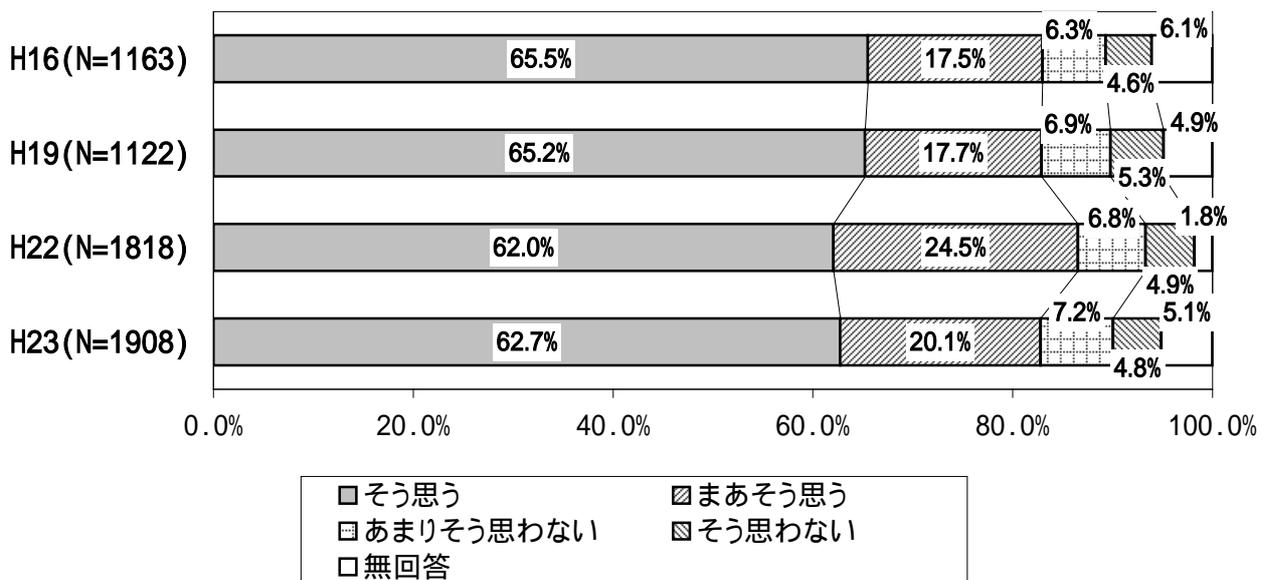
単数回答

図. 「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」についてどう思うか



「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」についてどう思うかについて、津波危険地区及び全県ともに「そう思う」が最も多く、次いで「まあそう思う」となっている。大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引くと思う人（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）は、津波危険地区で83.7%、全県で81.9%と、約8割を占めている。津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」についてどう思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、大きな変化はみられない。

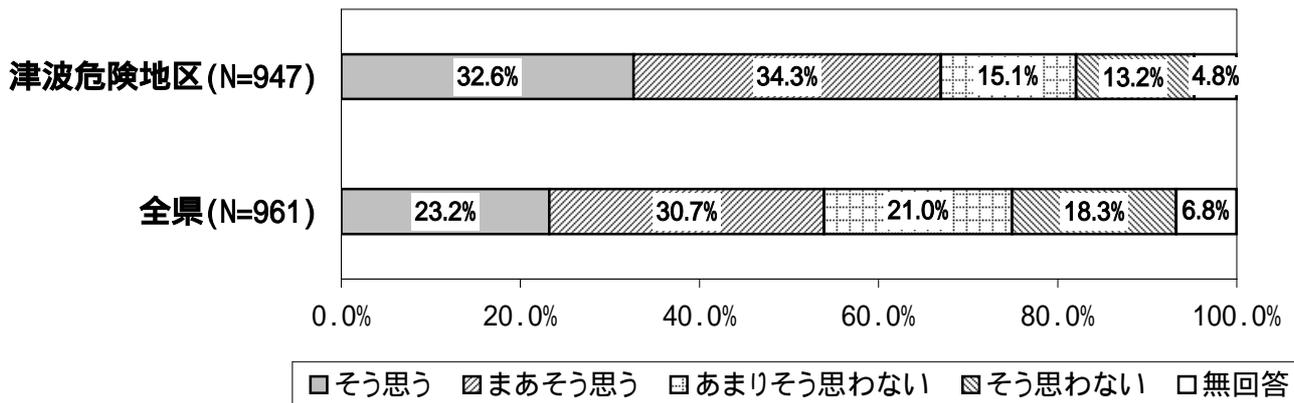
## 6. 津波への考え方について

### 6 - 2 「地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない」についてどう思うか

問	「地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない」についてどう思いますか。
1. そう思う	2. まあそう思う
3. あまりそう思わない	4. そう思わない

単数回答

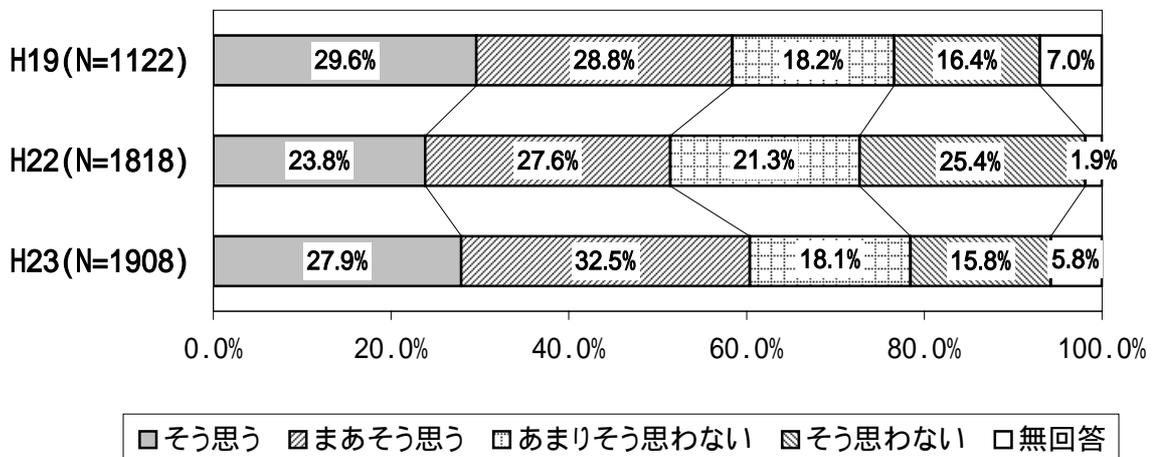
図. 「地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない」についてどう思うか



「地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない」についてどう思うかについて、津波危険地区及び全県ともに「まあそう思う」が最も多く、次いで「そう思う」となっている。

地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ないと思う人（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）は、津波危険地区は66.9%であり、全県（53.9%）と比較し多くなっている。

図. 「地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない」についてどう思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化について、「そう思う」、「まあそう思う」について増加傾向がみられる。

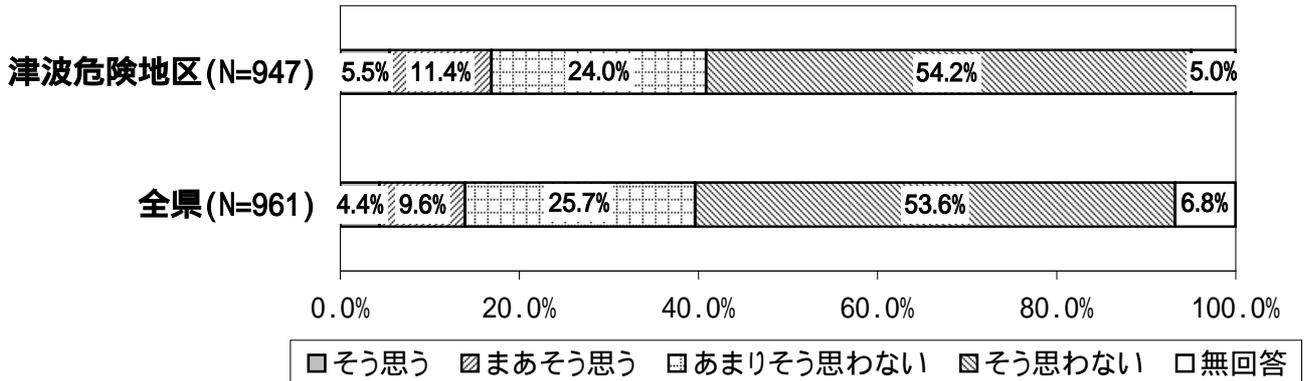
## 6. 津波への考え方について

### 6 - 3 「海の水が大きく引いてから避難しても間に合う」についてどう思うか

問	「海の水が大きく引いてから避難しても間に合う」についてどう思いますか。
1. そう思う	2. まあそう思う
3. あまりそう思わない	4. そう思わない

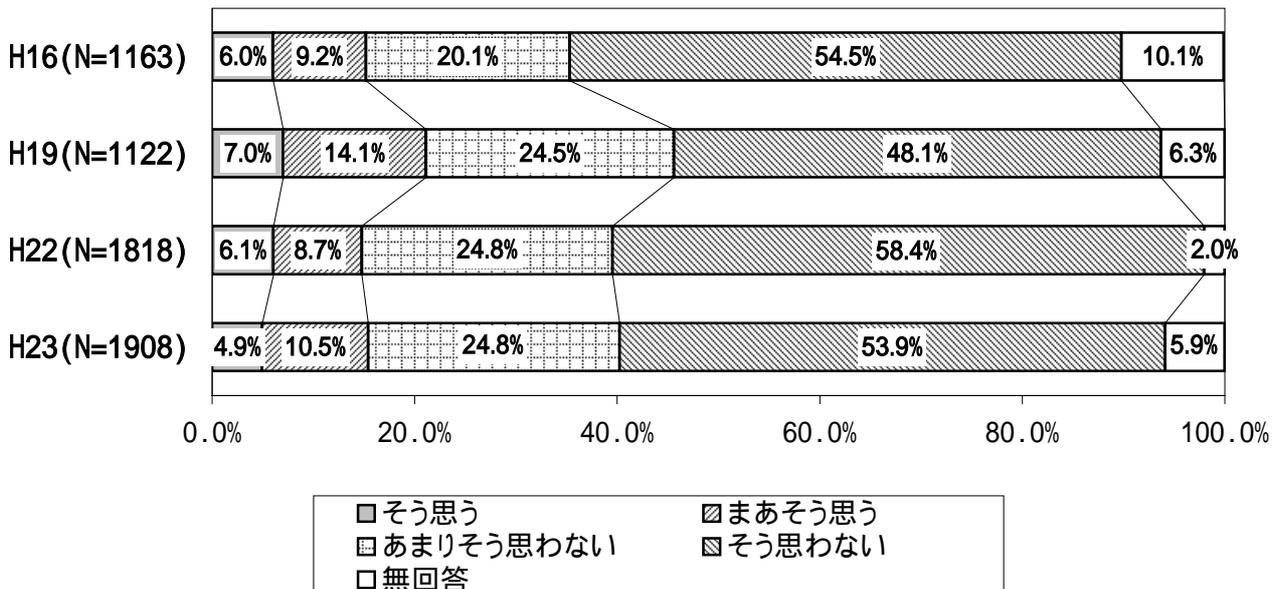
単数回答

図. 「海の水が大きく引いてから避難しても間に合う」についてどう思うか



「海の水が大きく引いてから避難しても間に合う」についてどう思うかについて、津波危険地区及び全県ともに「そう思わない」が最も多く、次いで「あまりそう思わない」となっている。  
 海の水が大きく引いてから避難しても間に合うと思わない人（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計）は、津波危険地区で78.1%、全県で79.3%と、約8割を占めている。  
 津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 「海の水が大きく引いてから避難しても間に合う」についてどう思うか  
 ~ 経年変化 ~



経年変化でみると、大きな変化はみられない。

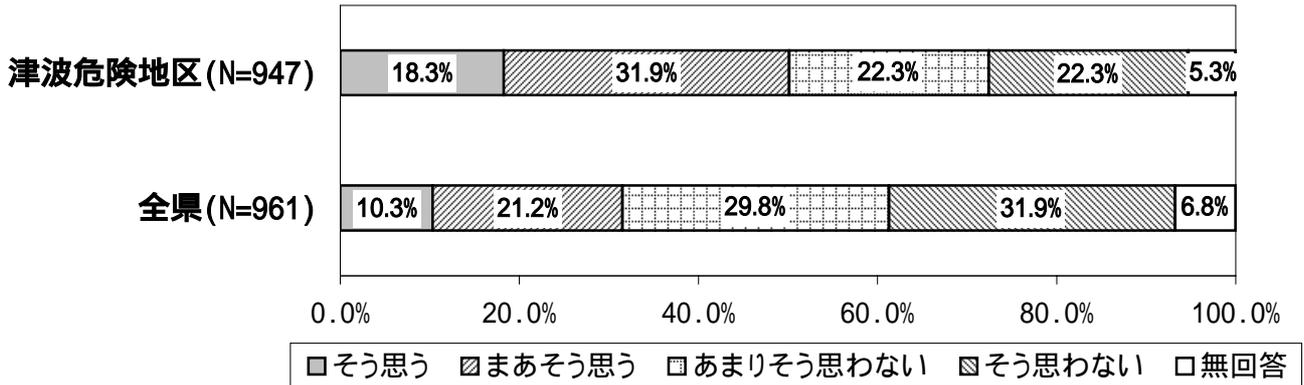
## 6. 津波への考え方について

### 6 - 4 「津波警報が出てから避難しても間に合う」についてどう思うか

問	「津波警報が出てから避難しても間に合う」についてどう思いますか。
1. そう思う	2. まあそう思う
3. あまりそう思わない	4. そう思わない

単数回答

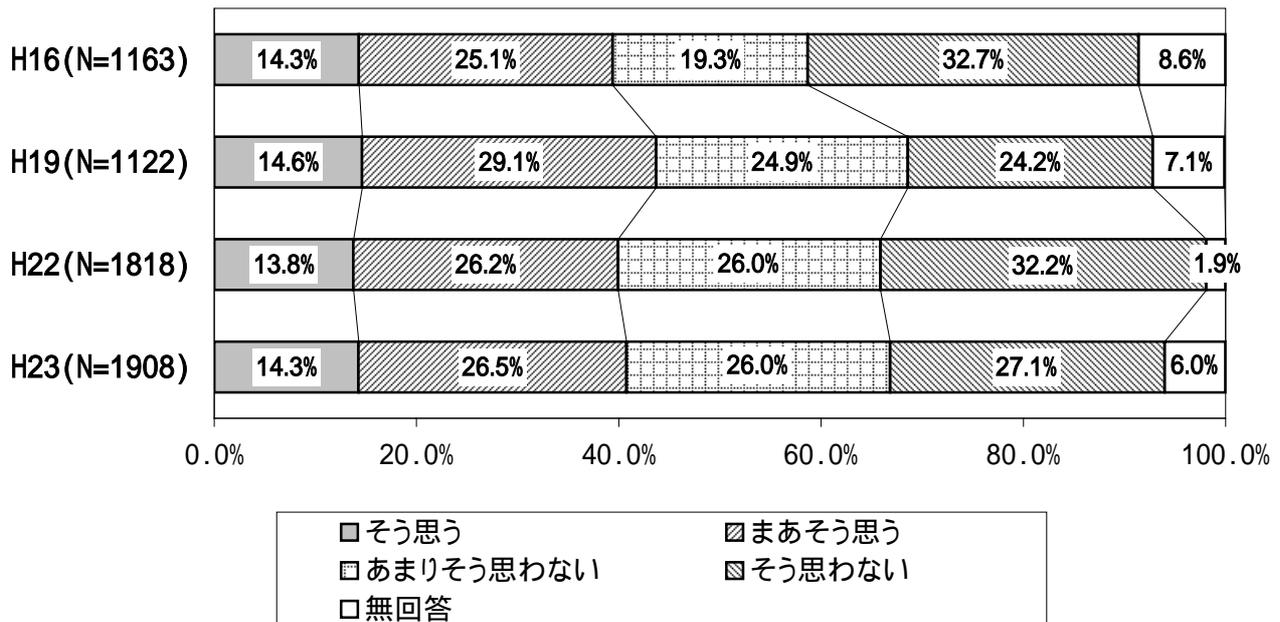
図. 「津波警報が出てから避難しても間に合う」についてどう思うか



「津波警報が出てから避難しても間に合う」についてどう思うかについて、津波危険地区では「まあそう思う」（31.9％）が最も多く、全県では「そう思わない」（31.9％）となっている。

津波警報が出てから避難すると間に合わないと思う人（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計）は、津波危険地区は44.6％であり、全県（61.7％）と比較し少なくなっている。

図. 「津波警報が出てから避難しても間に合う」についてどう思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、特に大きな変化はみられない。

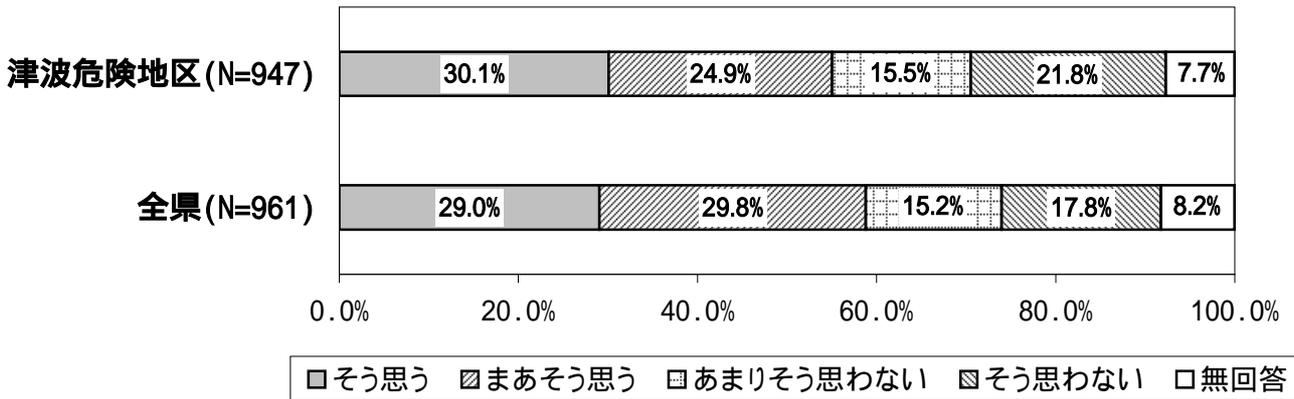
## 6. 津波への考え方について

6 - 5 「市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない」についてどう思うか

問	「市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない」についてどう思いますか。			
	1. そう思う	2. まあそう思う	3. あまりそう思わない	4. そう思わない

単数回答

図. 「市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない」についてどう思うか



「市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない」についてどう思うかについて、津波危険地区では「そう思う」（30.1%）が最も多く、全県では「まあそう思う」（29.8%）となっている。

市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからないと思う人（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）は、津波危険地区で55.0%、全県で58.8%と、約6割を占めている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

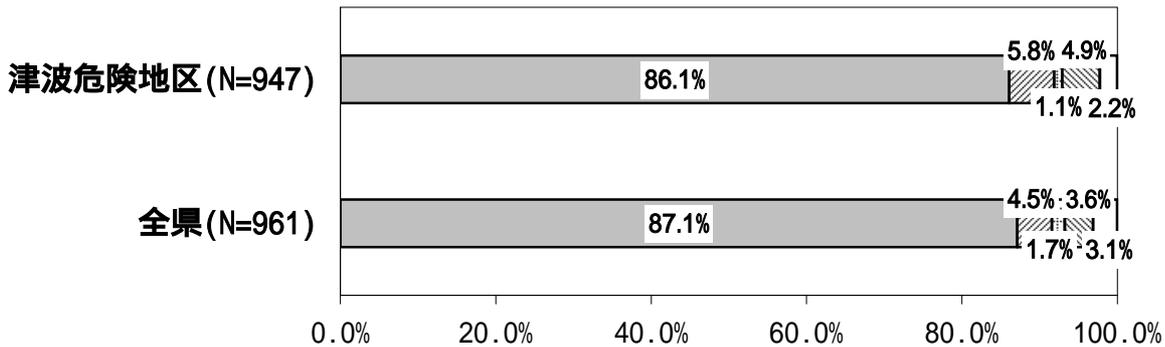
## 7. 自主防災組織について

### 7-1 町内会（自治会）に入っているか

問	あなたのお宅は、町内会（自治会）に入っていますか（ひとつだけ）。
1. 入っている 2. 入っていない 3. 町内会(自治会)はない 4. わからない	

単数回答

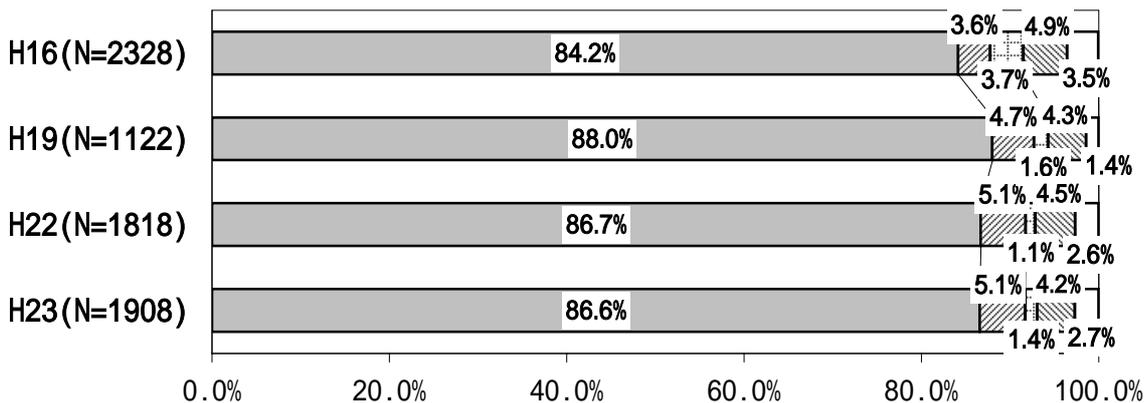
図. 町内会（自治会）に入っているか



□入っている ■入っていない ▨町内会(自治会)はない ▩わからない □無回答

町内会（自治会）に入っているかについて、津波危険地区及び全県ともに「入っている」が最も多くなっている。  
津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 町内会（自治会）に入っているか  
～ 経年変化 ～

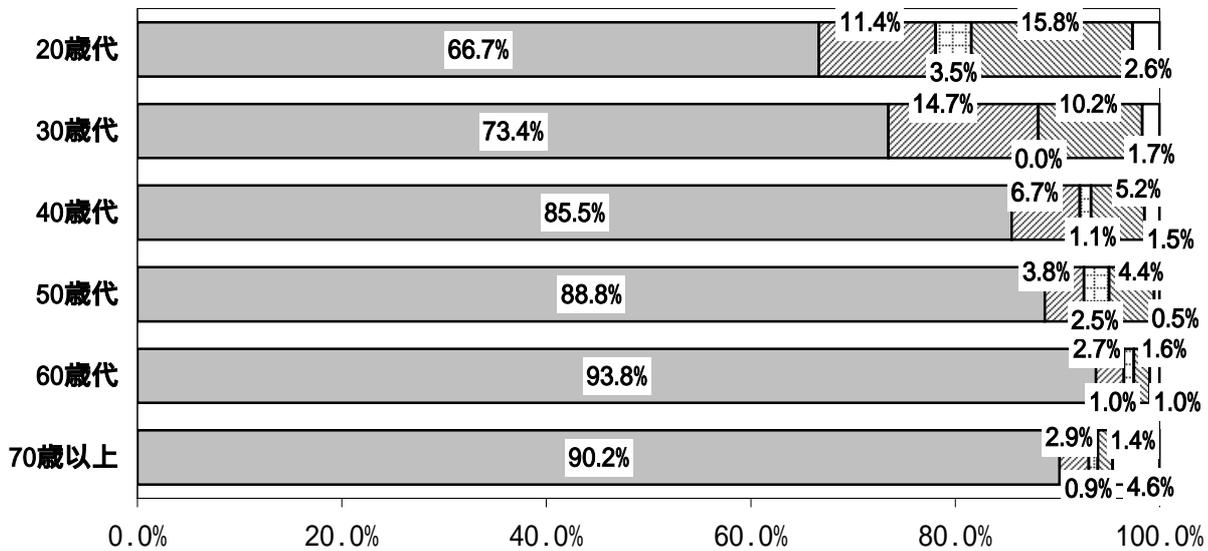


□入っている ■入っていない ▨町内会(自治会)はない ▩わからない □無回答

経年変化について、特に大きな変化はみられない。

## 7. 自主防災組織について

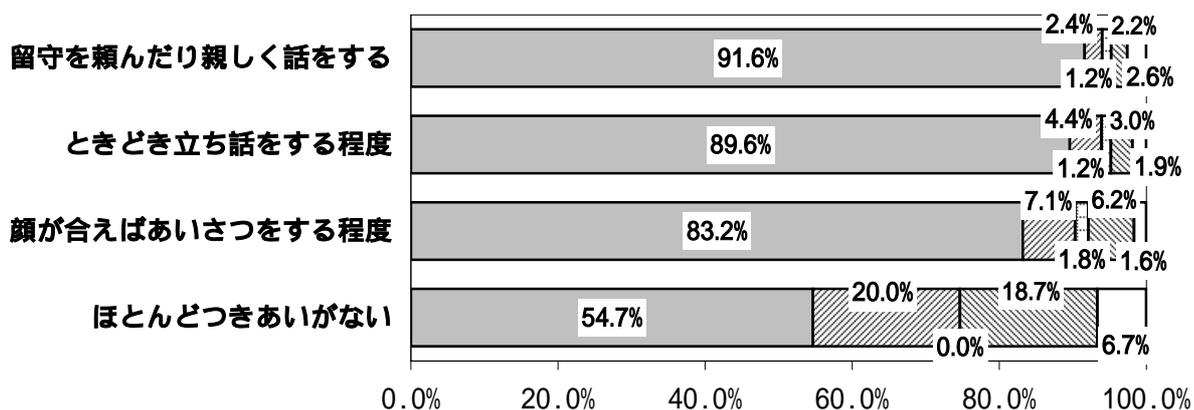
図. 町内会（自治会）に入っているか  
～ 年齢比較 ～



□入っている    ▨入っていない    □町内会(自治会)はない    ▨わからない    □無回答

年齢別にみると、「入っている」は「60歳代」（93.8%）が最も多く、次いで「70歳以上」（90.2%）となっており、高齢層に高い傾向にある。

図. 町内会（自治会）に入っているか  
～ ご近所とのつきあい比較 ～



□入っている    ▨入っていない    □町内会(自治会)はない    ▨わからない    □無回答

ご近所とのつきあい状況ごとに比較してみると、自治会に入っている人は「留守を頼んだり親しく話をする」が91.6%と最も多く、「ほとんどつきあいが無い」は54.7%と約37ポイントの差があった。ご近所とのつきあいが親密なほど、自治会への参加率が高くなっている。

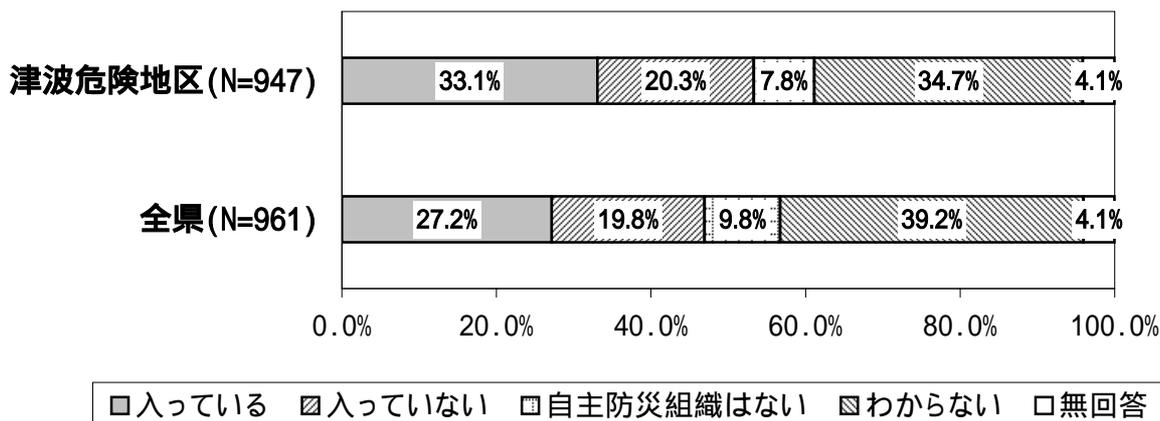
## 7. 自主防災組織について

### 7 - 2 自主防災組織に入っているか

問	あなたのお宅は、地域の自主防災組織（町内会・自治会などを母体に、地域の住民が防災活動をするための組織）に入っていますか（ひとつだけ）。	
	1. 入っている	2. 入っていない
	3. 自主防災組織はない	4. わからない

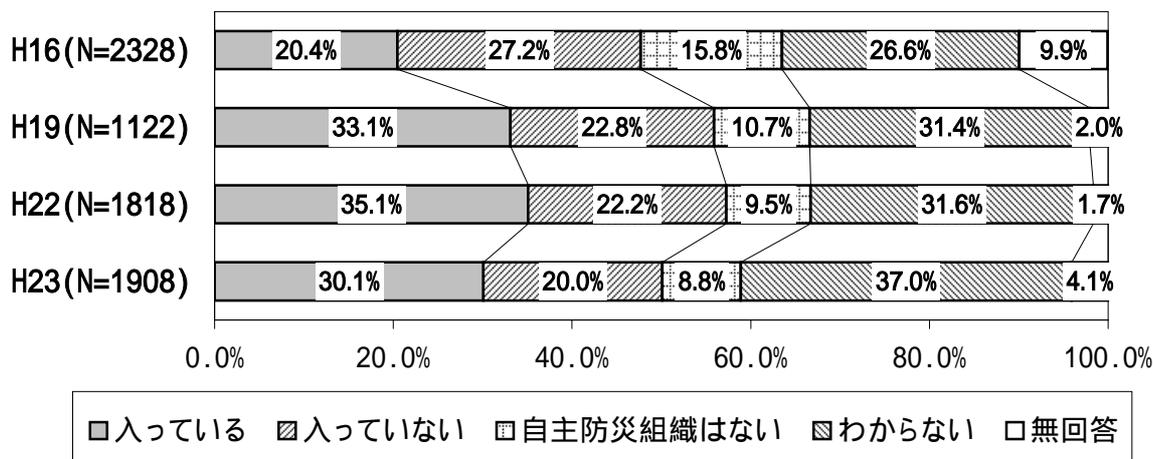
単数回答

図. 自主防災組織に入っているか



自主防災組織に入っているかについて、津波危険地区及び全県ともに「わからない」が最も多く、次いで「入っている」となっている。  
津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

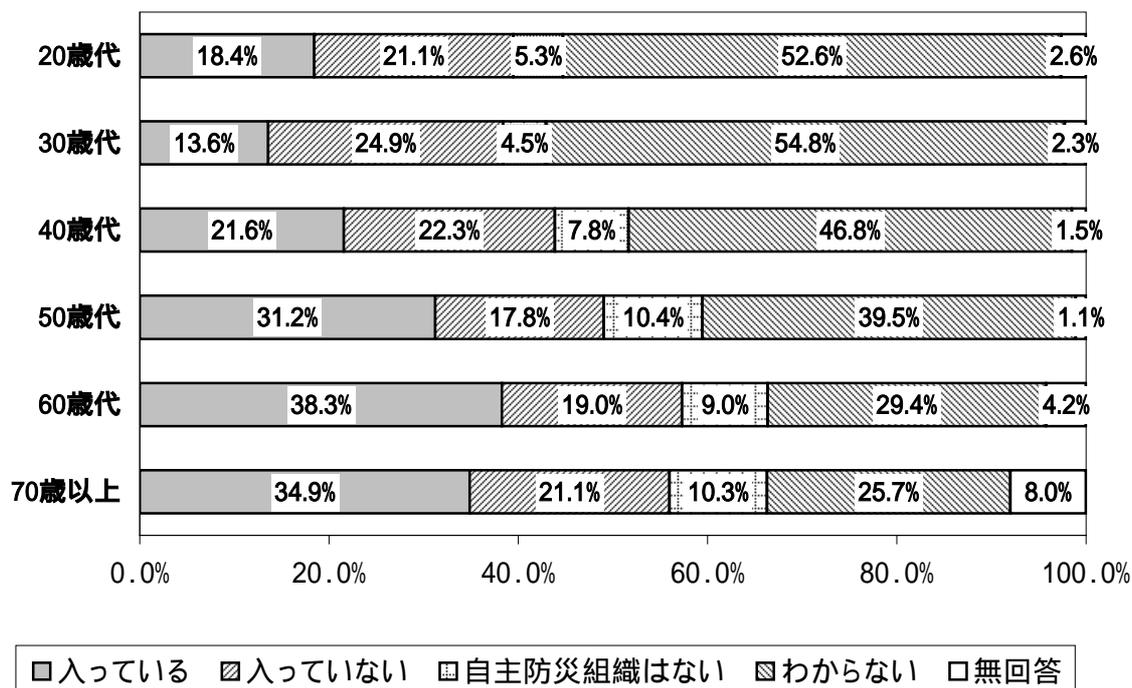
図. 自主防災組織に入っているか  
～ 経年変化 ～



経年変化について、特に大きな変化はみられない。

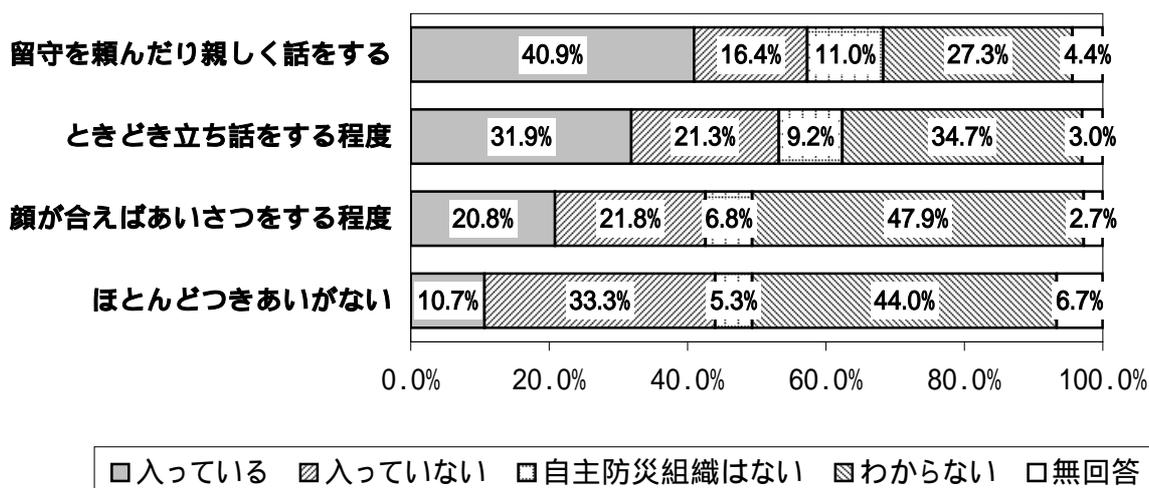
## 7. 自主防災組織について

図. 自主防災組織に入っているか  
～ 年齢比較 ～



年齢別にみると、「入っている」は「60歳代」(38.3%)が最も多く、次いで「70歳以上」(34.9%)となっており、高齢層に高い傾向にある。

図. 自主防災組織に入っているか  
～ ご近所とのつきあい比較 ～



ご近所とのつきあい状況ごとに比較してみると、自主防災組織に入っている人は「留守を頼んだり親しく話をする」が40.9%と最も多く、「ほとんどつきあいがなし」は10.7%と約30ポイントの差があった。ご近所とのつきあいが親密なほど、自主防災組織への参加率が高くなっている。

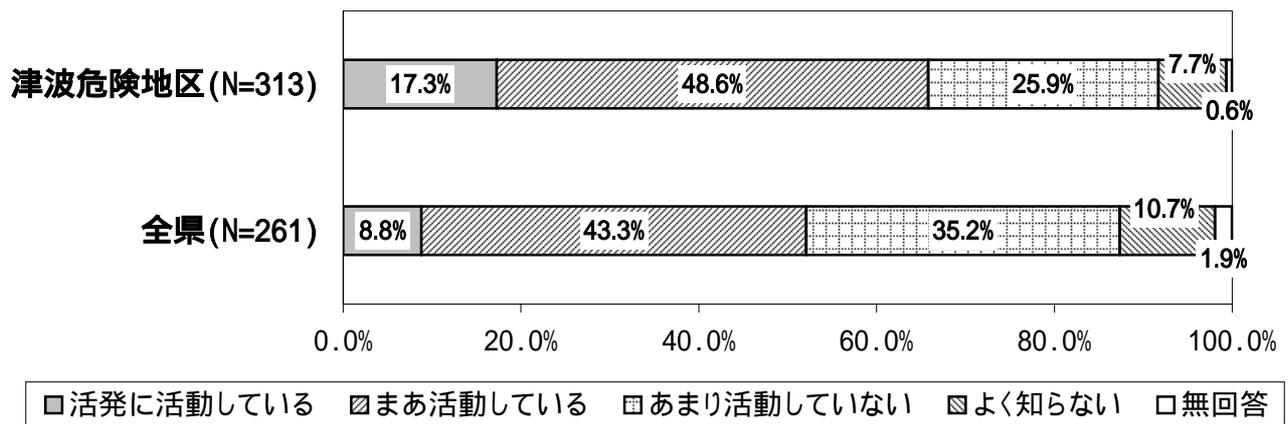
## 7. 自主防災組織について

### 7 - 3 自主防災組織の活動は活発か

付問	あなたの地域の自主防災組織の活動は活発ですか（ひとつだけ）。
1. 活発に活動している	2. まあ活動している
3. あまり活動していない	4. よく知らない

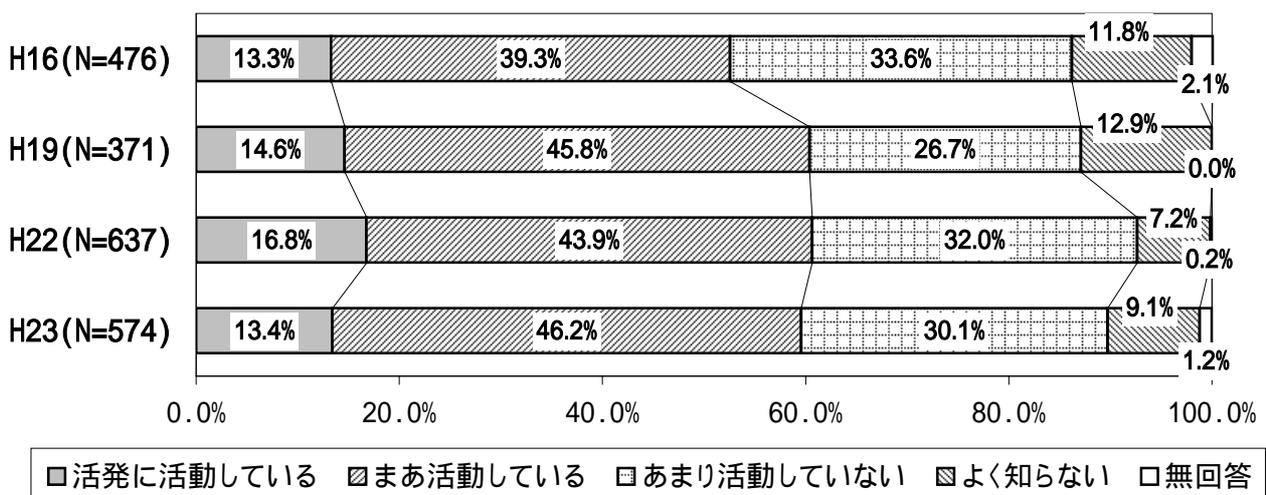
単数回答

図. 自主防災組織の活動は活発か



自主防災組織の活動は活発かについて、津波危険地区及び全県ともに「まあ活動している」が最も多く、次いで「あまり活動していない」となっている。  
活動している地域（「活発に活動している」と「まあ活動している」の合計）は、津波危険地区は65.8%であり、全県（52.1%）と比較し多くなっている。

図. 自主防災組織の活動は活発か  
～ 経年変化 ～



経年変化について、特に大きな変化はみられない。

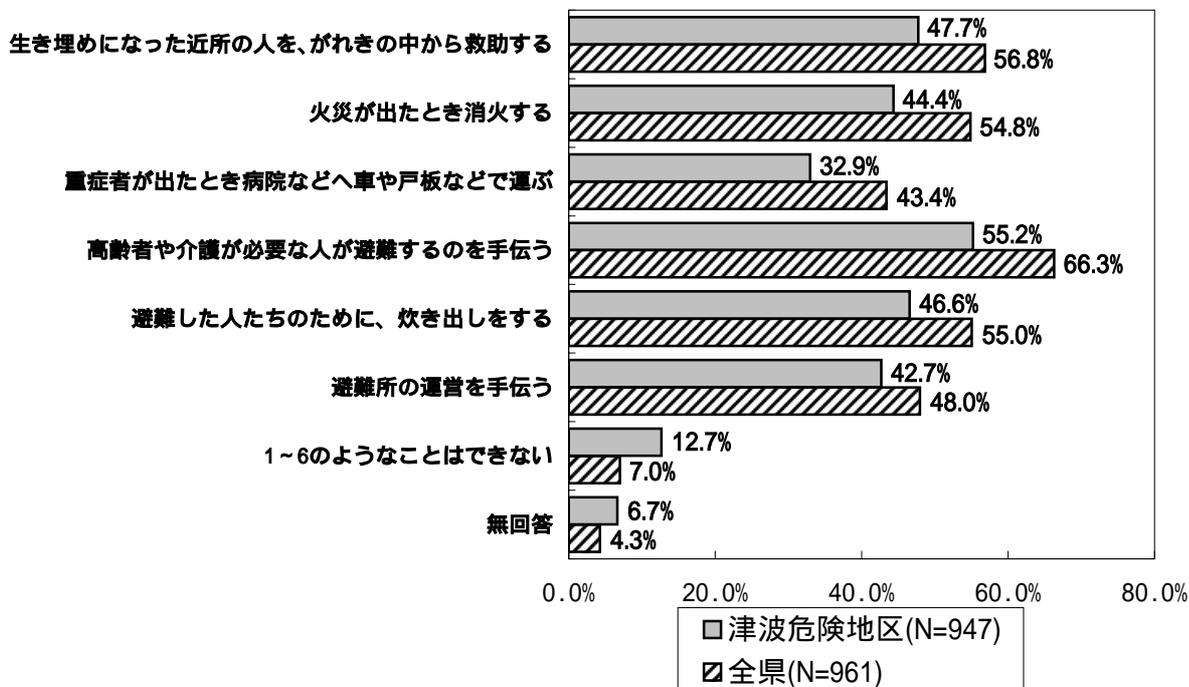
## 7. 自主防災組織について

### 7 - 4 地震後、地域の人と協力してできることは何か

問	大地震が起きたあと、あなたご自身は、地域の人と協力して次のようなことができると思いますか。できると思うことにいくつかもをつけてください。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生き埋めになった近所の人を、がれきの中から救助する</li> <li>2. 火災が出たとき消火する</li> <li>3. 重症者が出たとき病院などへ車や戸板などで運ぶ</li> <li>4. 高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う</li> <li>5. 避難した人たちのために、炊き出しをする</li> <li>6. 避難所の運営を手伝う</li> <li>7. 1.～6.のようなことはできない</li> </ol>

複数回答

図. 地震後、地域の人と協力してできることは何か

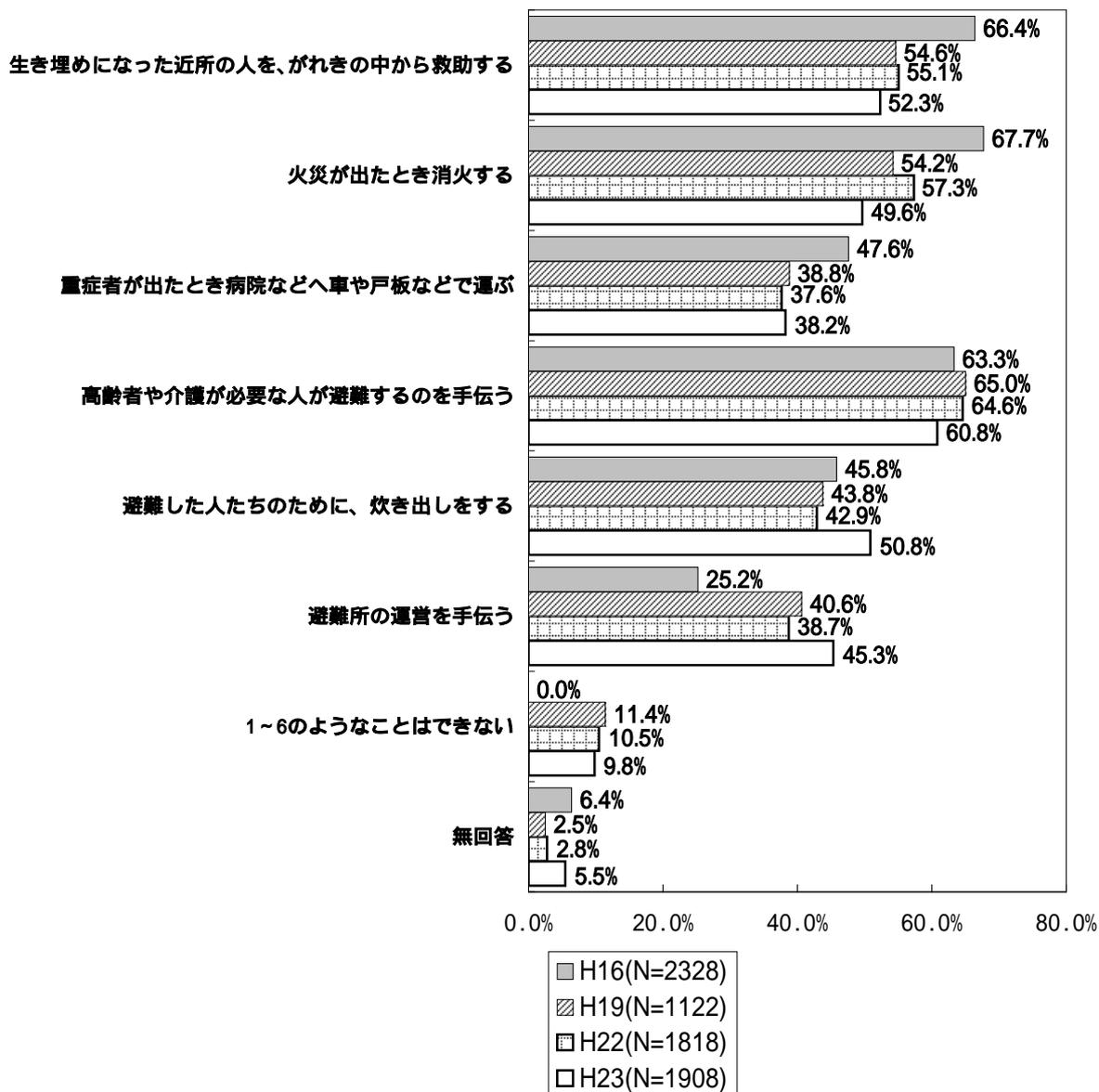


地震後、地域の人と協力してできることは何かについて、津波危険地区及び全県ともに「高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う」が最も多く、次いで「生き埋めになった近所の人を、がれきの中から救助する」となっている。

全県の方が、津波危険地区と比較して選択数が多い傾向になっている。

## 7. 自主防災組織について

図. 地震後、地域の人と協力してできることは何か  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「避難した人たちのために、炊き出しをする」（50.8%）と「避難所の運営を手伝う」（45.3%）が、やや増加傾向にある。

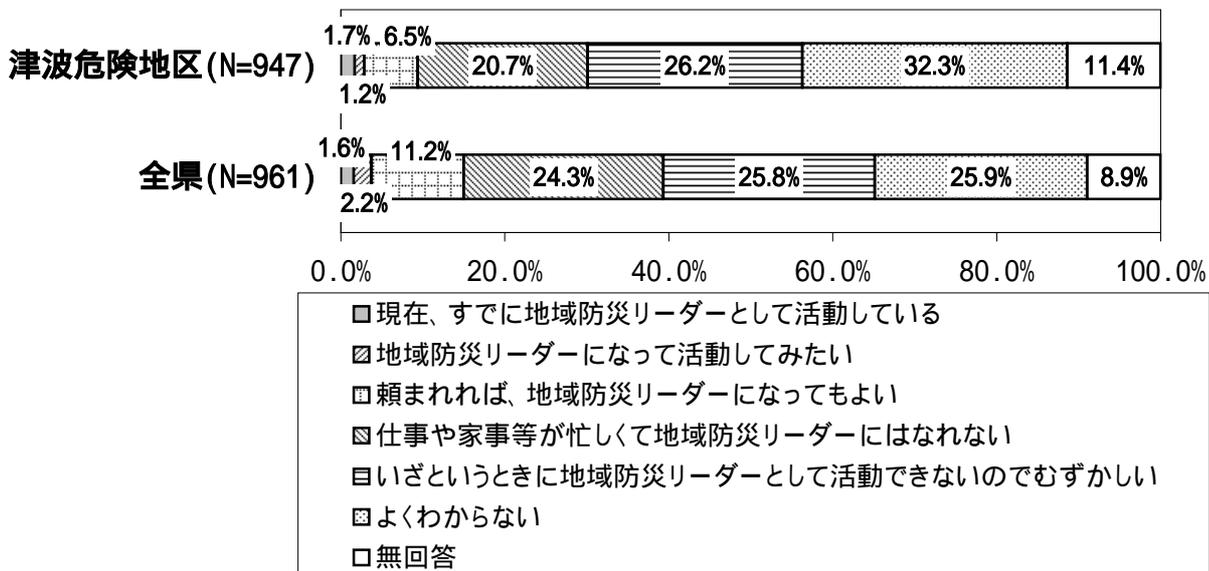
## 7. 自主防災組織について

### 7 - 5 地域防災リーダーとして活動することについてどう思うか

問	自主防災組織の活動の中心的担い手である地域防災リーダーとして活動することについて、どのようにお考えですか（ひとつだけ）。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在、すでに地域防災リーダーとして活動している</li> <li>2. 地域防災リーダーになって活動してみたい</li> <li>3. 頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい</li> <li>4. 仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーにはなれない</li> <li>5. いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい</li> <li>6. よくわからない</li> </ol>

単数回答

図. 地域防災リーダーとして活動することについて  
どう思うか



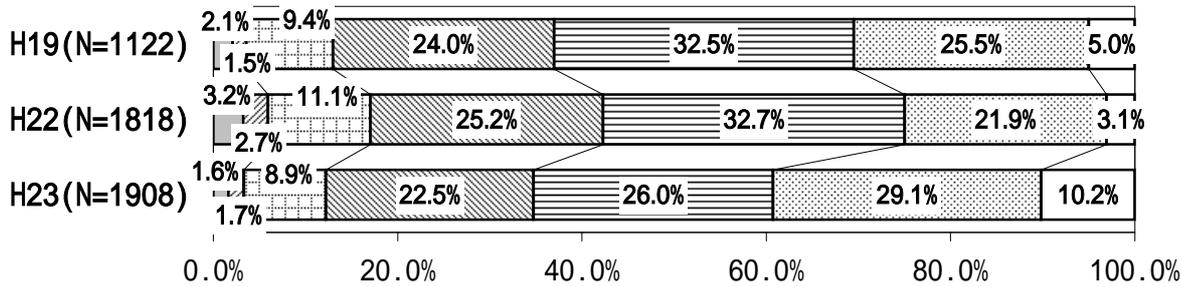
地域防災リーダーとして活動することについてどう思うかについて、津波危険地区及び全県ともに「よくわからない」が最も多く、次いで「いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい」となっている。

地域防災リーダーになってもよいと考える人（「現在、すでに地域防災リーダーとして活動している」と「地域防災リーダーになって活動してみたい」と「頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい」の合計）は、津波危険地区で9.3%、全県で15.0%となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

## 7. 自主防災組織について

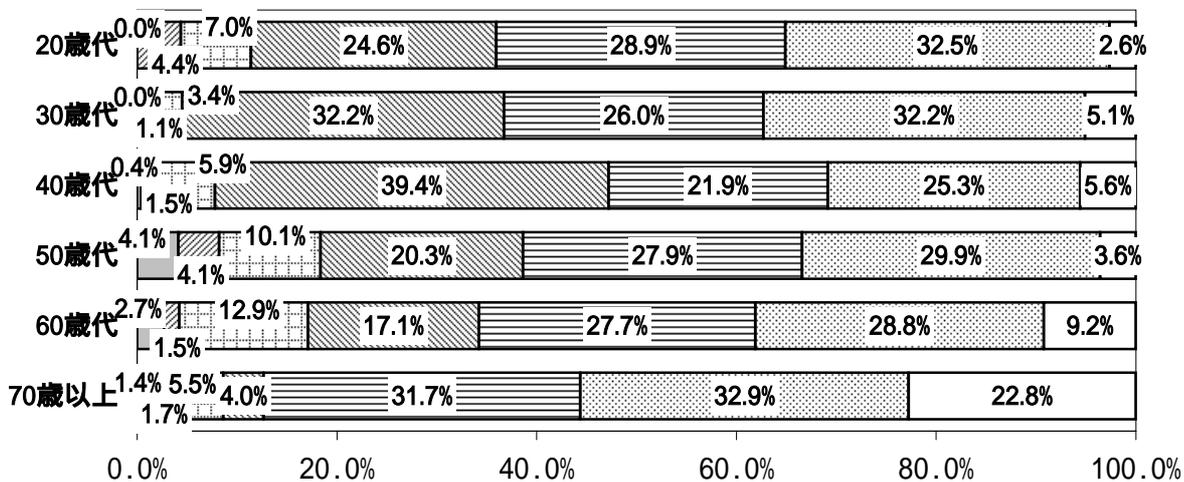
図. 地域防災リーダーとして活動することについて  
 と思うか  
 ~ 経年変化 ~



- 現在、すでに地域防災リーダーとして活動している
- ▨ 地域防災リーダーになって活動してみたい
- ▤ 頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい
- ▧ 仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーにはなれない
- ▩ いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい
- ▦ よくわからない
- 無回答

経年変化でみると、「いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい」(26.0%)が、過年度と比較して約6ポイント減少している。

図. 地域防災リーダーとして活動することについて  
 と思うか  
 ~ 年齢比較 ~

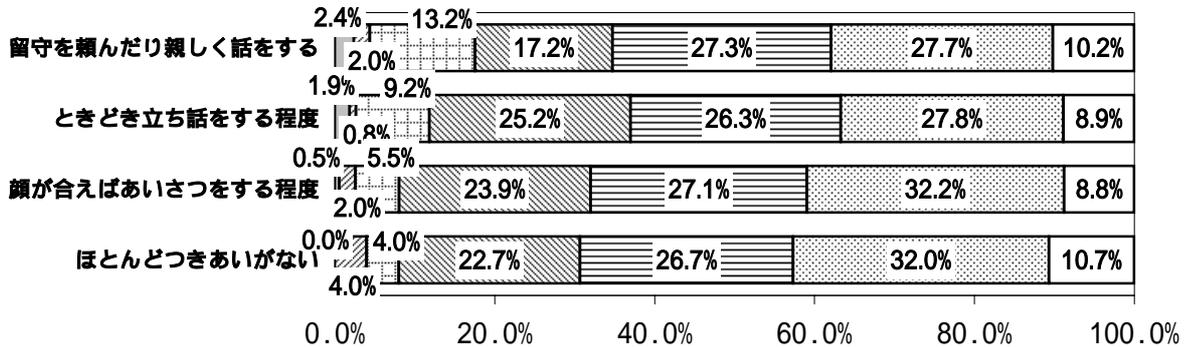


- 現在、すでに地域防災リーダーとして活動している
- ▨ 地域防災リーダーになって活動してみたい
- ▤ 頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい
- ▧ 仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーにはなれない
- ▩ いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい
- ▦ よくわからない
- 無回答

年齢別にみると、地域防災リーダーとして活動している、または活動してもよいと考えてる人(「現在、すでに地域防災リーダーとして活動している」と「地域防災リーダーになって活動してみたい」と「頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい」の合計)は「50歳代」(18.4%)が最も多く、次いで「60歳代」(17.1%)となっている。

## 7. 自主防災組織について

図. 地域防災リーダーとして活動することについて  
 思うか  
 ~ ご近所とのつきあい比較 ~



- 現在、すでに地域防災リーダーとして活動している
- 地域防災リーダーになって活動してみたい
- 頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい
- 仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーにはなれない
- いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい
- よくわからない
- 無回答

ご近所とのつきあい状況ごとに比較してみると、地域防災リーダーとして活動している、または活動してもよいと考えてる人（「現在、すでに地域防災リーダーとして活動している」と「地域防災リーダーになって活動してみたい」と「頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい」の合計）は「留守を頼んだり親しく話をする」が17.6%に対し、「ほとんどつきあいがいい」は8.0%と約10ポイントの差があった。

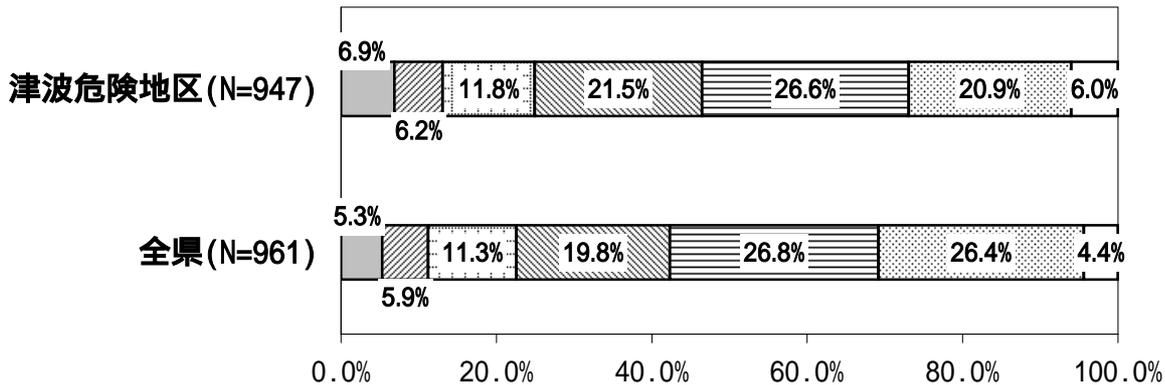
## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 8 - 1 自宅の建築年はいつか

問	あなたがお住まいのご自宅は、いつ頃建てられたものですか。増改築されている場合は、主な部分の建築年をお答えください（ひとつだけ）。
1. 戦前                      2. 戦後～昭和35年までの間    3. 昭和36～45年までの間 4. 昭和46～55年    5. 昭和56年～平成6年            6. 平成7年(阪神・淡路大震災)以降	

単数回答

図. 自宅の建築年はいつか



- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 戦前           | <input checked="" type="checkbox"/> 戦後～昭和35年までの間     |
| <input type="checkbox"/> 昭和36～45年までの間 | <input checked="" type="checkbox"/> 昭和46～55年         |
| <input type="checkbox"/> 昭和56年～平成6年   | <input checked="" type="checkbox"/> 平成7年(阪神・淡路大震災)以降 |
| <input type="checkbox"/> 無回答          |  |

自宅の建築年について、津波危険地区及び全県ともに「昭和56年～平成6年」が最も多く、次いで津波危険地区では「昭和46～55年」が、全県では「平成7年(阪神・淡路大震災)以降」となっている。

昭和56年以前に建てられた家に住んでいる人（「戦前」と「戦後～昭和35年までの間」と「昭和36～45年までの間」と「昭和46～55年」の合計）は、津波危険地区で46.5%、全県で42.4%と、約4割～5割を占めている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。



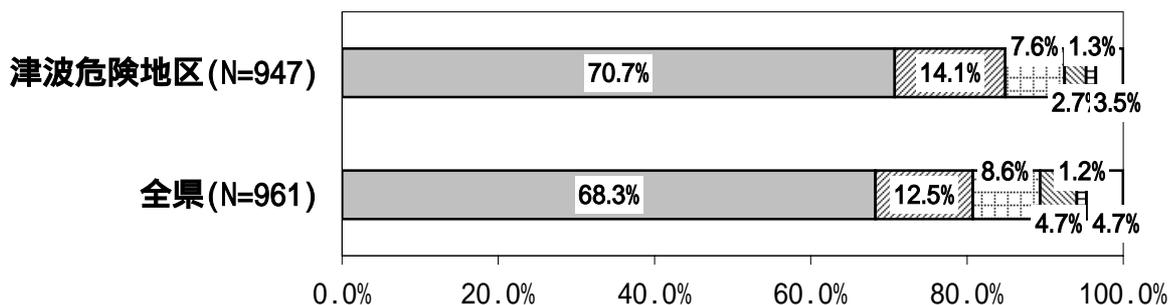
## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 8 - 3 自宅の構造は（木造、鉄骨造等）

問	あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ）。		
	1. 木造	2. 鉄骨造	3. 鉄筋コンクリート造
	4. 鉄筋・鉄骨コンクリート造	5. その他（ ）	

単数回答

図. 自宅の構造は（木造、鉄骨造等）



木造
  鉄骨造
  鉄筋コンクリート造
  鉄筋・鉄骨コンクリート造
  その他
  無回答

#### < その他回答 >

津波危険地区	全県
・鉄骨 セラミック	・テクノストラクチャー
・木造・鉄骨ブロック	・軽量鉄骨
・軽量鉄骨	・1階鉄骨 2階木造
・鉄筋コンクリートと木造の併用。	・プレハブ住宅
・RC+W造	など

自宅の構造は（木造、鉄骨造等）について、津波危険地区及び全県ともに「木造」が最も多く、次いで「鉄骨造」となっている。  
津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

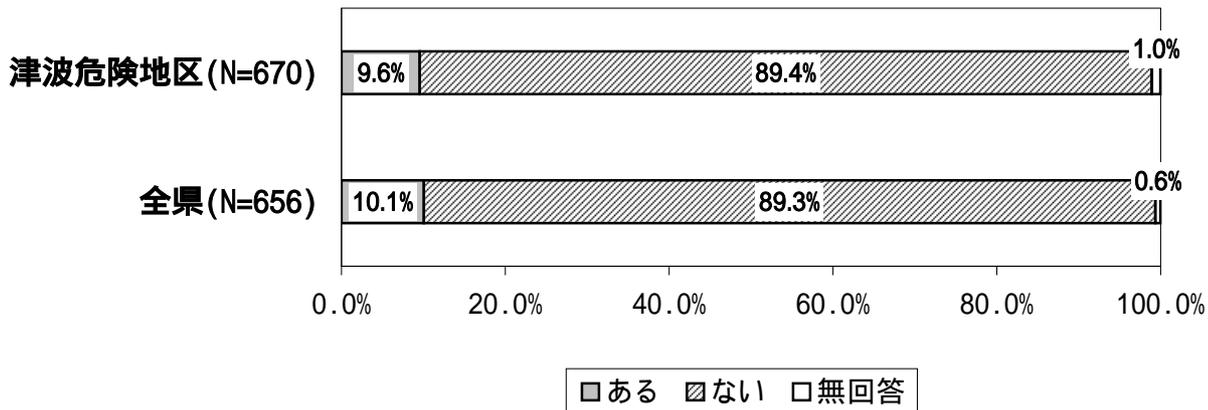
## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 8 - 4 専門家による耐震診断を受けたことがあるか

付問	お宅では、専門家による耐震診断（地震の揺れに対する建物の強さの診断）を受けたことがありますか（ひとつだけ）。
1. ある	2. ない

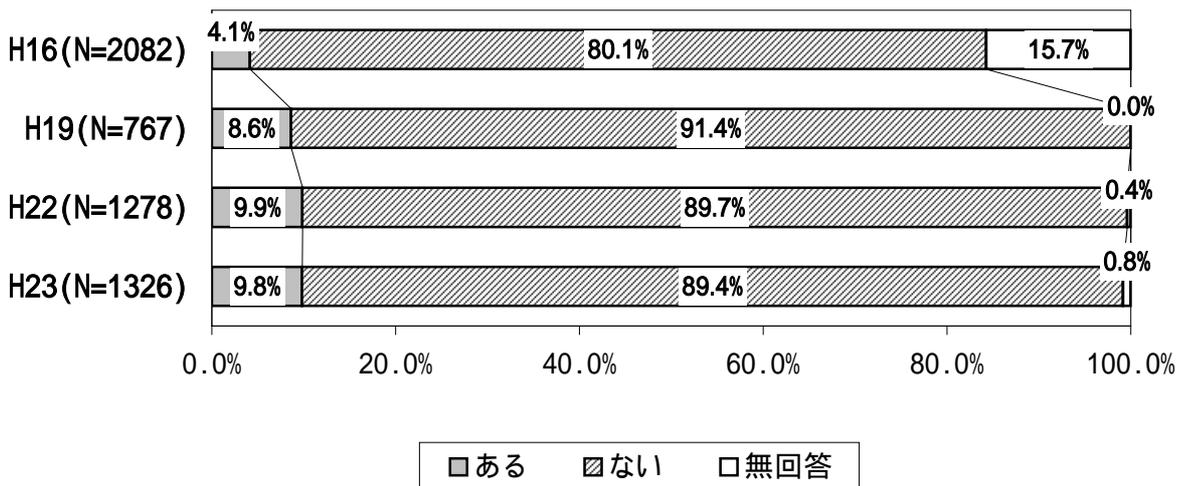
単数回答

図. 専門家による耐震診断を受けたことがあるか



専門家による耐震診断を受けたことがあるかについて、津波危険地区及び全県ともに「ない」が最も多くなっている。  
津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 専門家による耐震診断を受けたことがあるか  
～ 経年変化 ～



経年変化について、特に大きな変化はみられない。



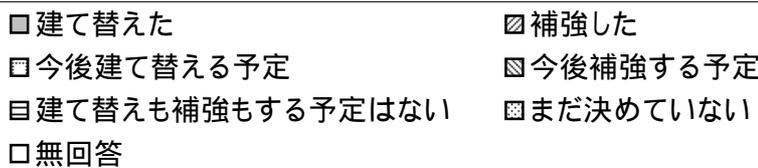
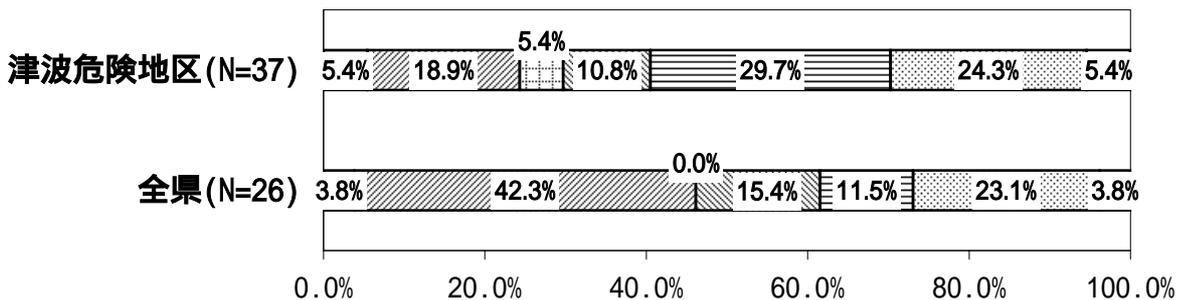
## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 8 - 6 耐震補強が必要と判断された後、補強等を行ったか

付問	耐震補強が必要と診断された後、補強等をなさいましたか（ひとつだけ）。
1. 建て替えた	2. 補強した
3. 今後建て替える予定	4. 今後補強する予定
5. 建て替えも補強もする予定はない	6. まだ決めていない

単数回答

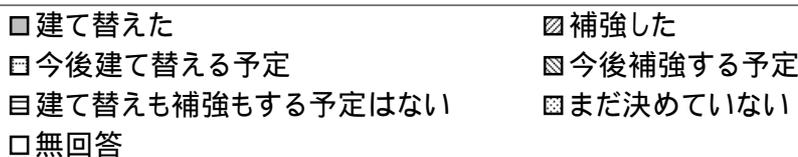
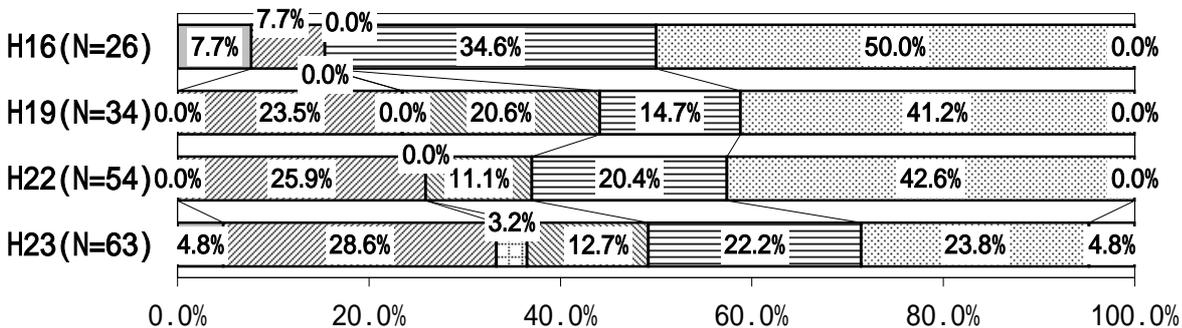
図. 耐震補強が必要と判断された後、補強等を行ったか



耐震補強が必要と判断された後、補強等の実施について、津波危険地区では「建て替えも補強もする予定はない」（29.7%）が、全県では「補強した」（42.3%）が最も多くなっている。

津波危険地区では、「補強した」（18.9%）が全県（42.3%）と比較し少なくなっている。

図. 耐震補強が必要と判断された後、補強等を行ったか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「補強した」（28.6%）が増加傾向にあり、H22（25.9%）と比較し、約3ポイント増加している。

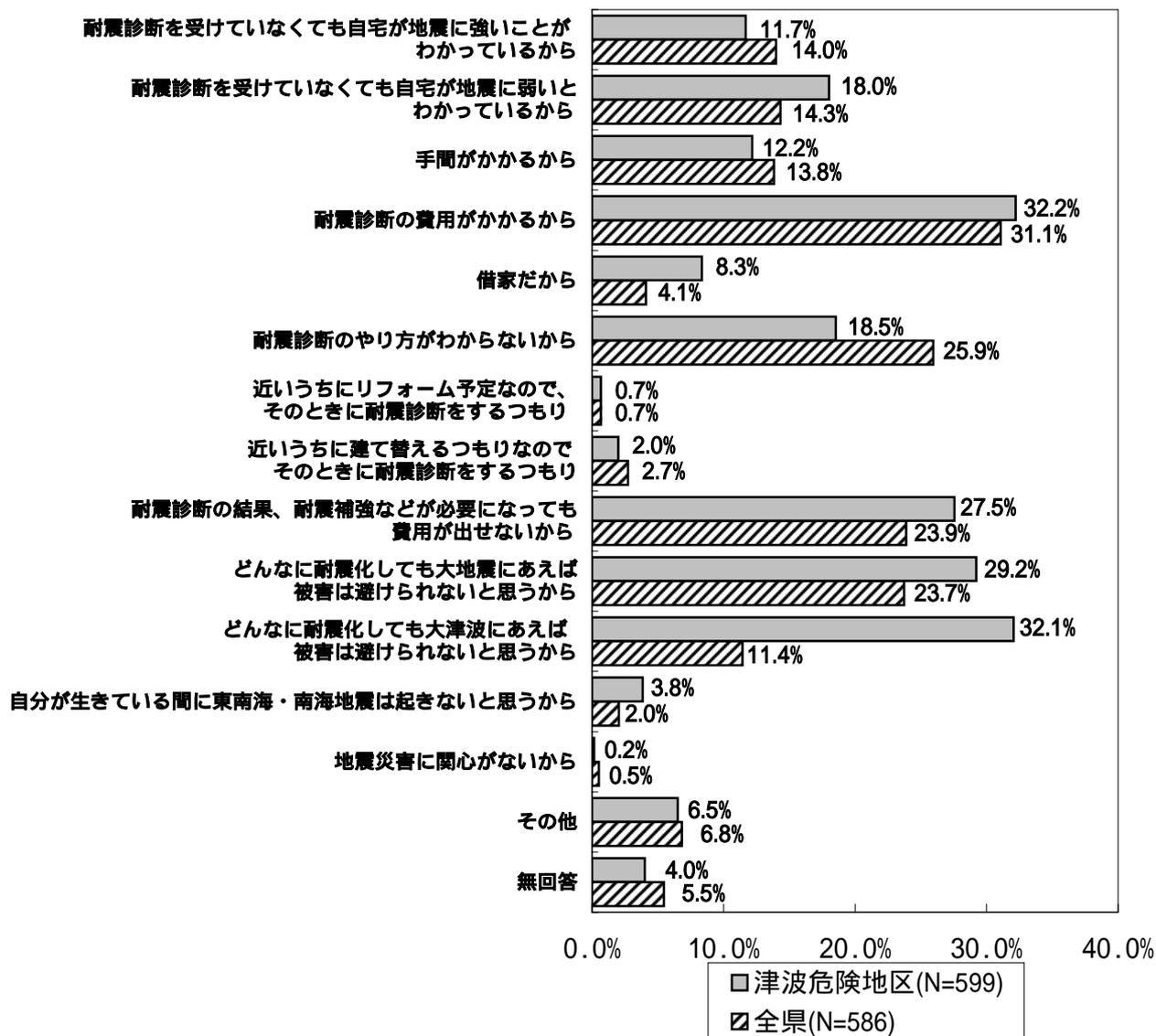
## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 8 - 7 耐震診断を受けていないのはなぜか

付問	お宅が耐震診断を受けていないのは、どうしてですか(いくつでも)。
<p>1. 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に強いことがわかっているから</p> <p>2. 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に弱いとわかっているから</p> <p>3. 手間がかかるから</p> <p>4. 耐震診断の費用がかかるから</p> <p>5. 借家だから</p> <p>6. 耐震診断のやり方がわからないから</p> <p>7. 近いうちにリフォーム予定なので、そのときに耐震診断をするつもり</p> <p>8. 近いうちに建て替えるつもりなのでそのときに耐震診断をするつもり</p> <p>9. 耐震診断の結果、耐震補強などが必要になっても費用が出せないから</p> <p>10. どんなに耐震化しても大地震にあえば被害は避けられないと思うから</p> <p>11. どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから</p> <p>12. 自分が生きている間に東南海・南海地震は起きないと思うから</p> <p>13. 地震災害に関心がないから</p> <p>14. その他( )</p>	

複数回答

図. 耐震診断を受けていないのはなぜか



## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

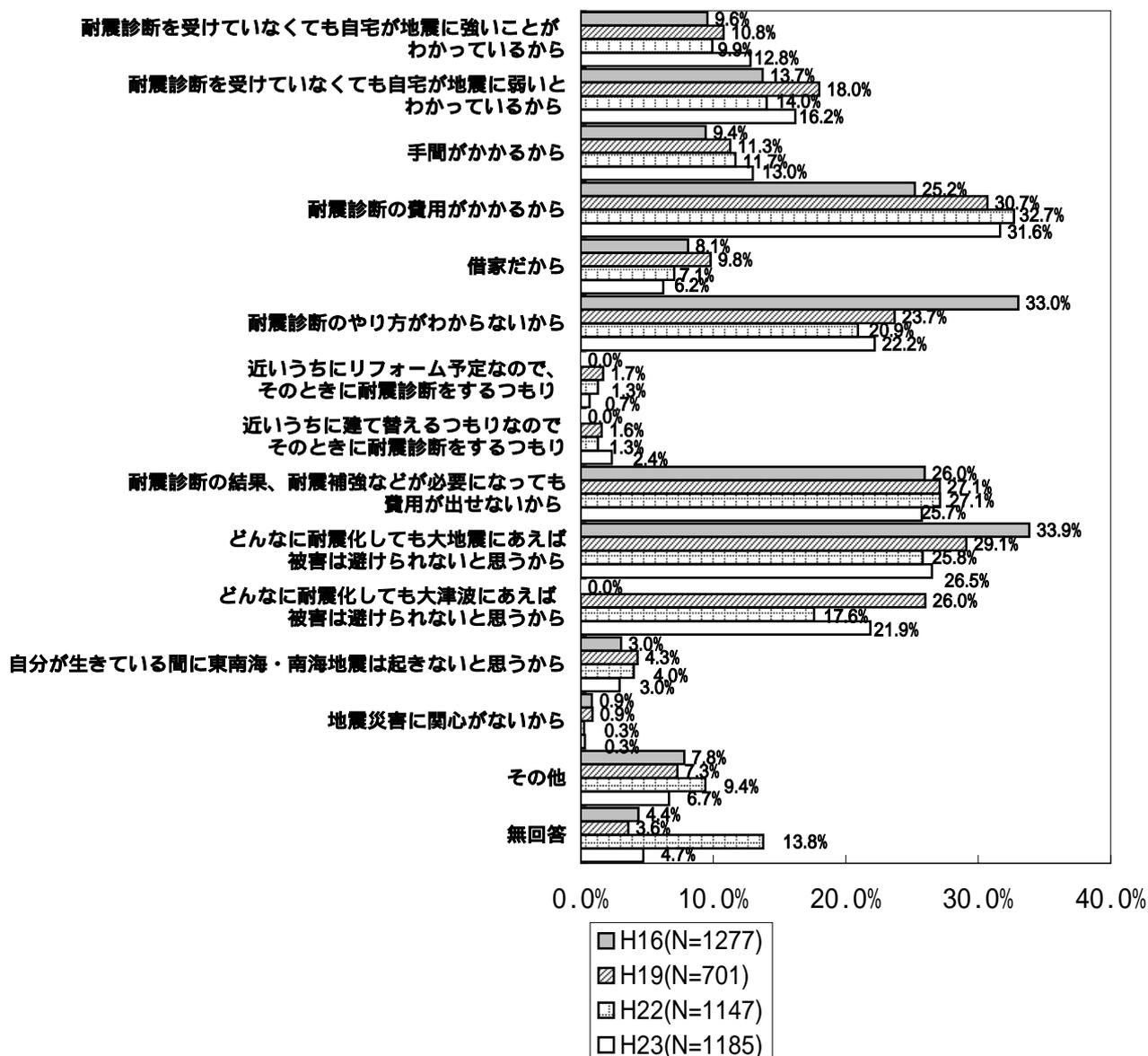
<その他回答>

津波危険地区	全県
・ 築8年なので大丈夫かなと思う。	・ 神戸震災後のちに建てた耐震用住宅のため。
・ 建築時に耐震については話し合った。	・ 耐震工事費用が高い。
・ 町営住宅だから、町がするべきだから。	・ その必要性を感じていなかった。
・ S56年以後だから。	・ 自分が大工であるから。 など

耐震診断を受けていないのはなぜかについて、津波危険地区及び全県ともに「耐震診断の費用がかかるから」が最も多く、次いで津波危険地区では「どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから」が、全県では「耐震診断のやり方がわからないから」となっている。

津波危険地区では、「どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから」(32.1%)が全県(11.4%)と比較し多くなっている。

図. 耐震診断を受けていないのはなぜか  
～ 経年変化 ～



経年変化について、特に大きな変化はみられない。

## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

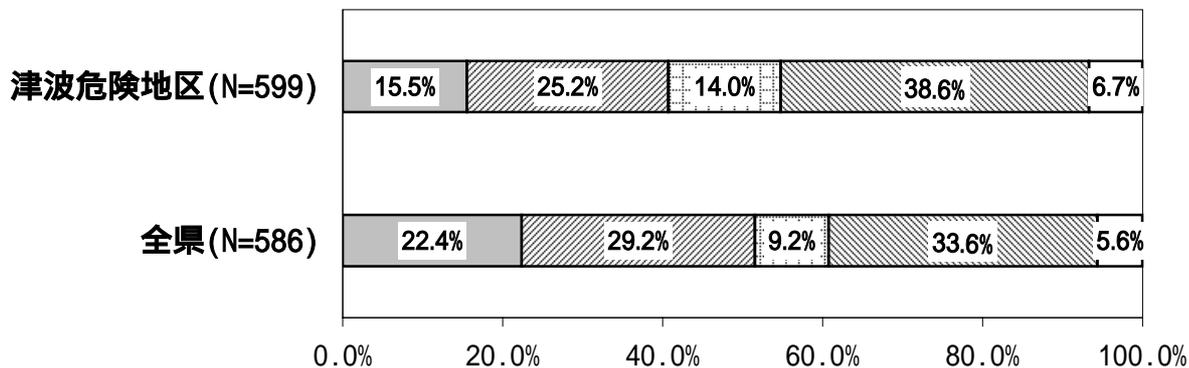
### 8 - 8 今後、耐震診断を受けたいか

付問 今後、耐震診断をしたいですか（ひとつだけ）。

- |               |            |
|---------------|------------|
| 1. 耐震診断をしてみたい | 2. 相談してみたい |
| 3. 耐震診断はしたくない | 4. 分からない   |

単数回答

図. 今後、耐震診断を受けたいか



□ 耐震診断をしてみたい    ▨ 相談してみたい    □ 耐震診断はしたくない    ▩ 分からない    □ 無回答

今後、耐震診断を受けたいかについて、津波危険地区及び全県ともに「分からない」が最も多く、次いで「相談してみたい」となっている。

耐震診断を考えている人（「耐震診断をしてみたい」と「相談してみたい」の合計）は、津波危険地区で40.7%、全県で51.5%と、約4割～5割を占めている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

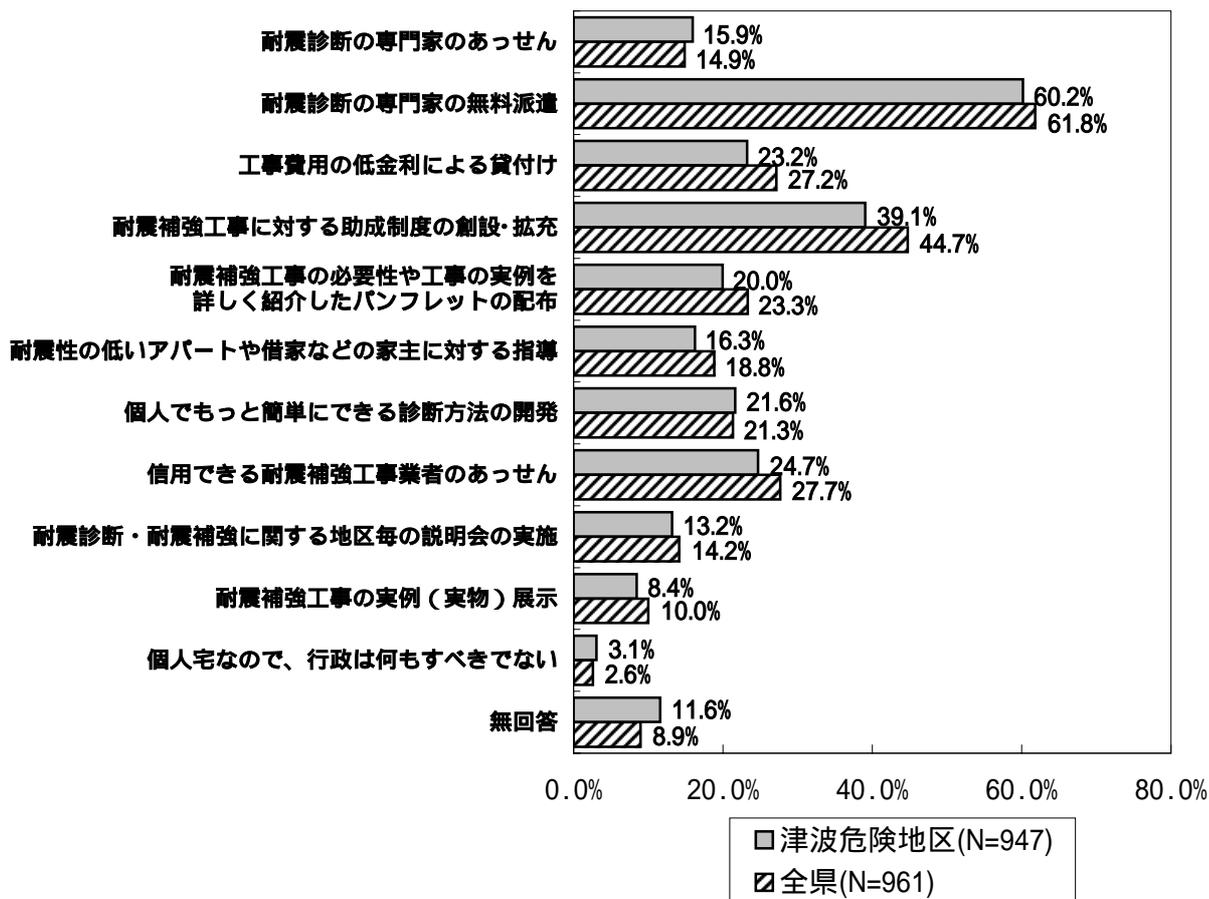
## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 8 - 9 木造住宅の耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

問	今後、木造住宅の耐震化を促進するために、県や市町村は何をすべきだと思いますか(いくつかでも)
	1. 耐震診断の専門家のあっせん
	2. 耐震診断の専門家の無料派遣
	3. 工事費用の低金利による貸付け
	4. 耐震補強工事に対する助成制度の創設・拡充
	5. 耐震補強工事の必要性や工事の実例を詳しく紹介したパンフレットの配布
	6. 耐震性の低いアパートや借家などの家主に対する指導
	7. 個人でもっと簡単にできる診断方法の開発
	8. 信用できる耐震補強工事業者のあっせん
	9. 耐震診断・耐震補強に関する地区毎の説明会の実施
	10. 耐震補強工事の実例(実物)展示
	11. 個人宅なので、行政は何もすべきでない

複数回答

図. 木造住宅の耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

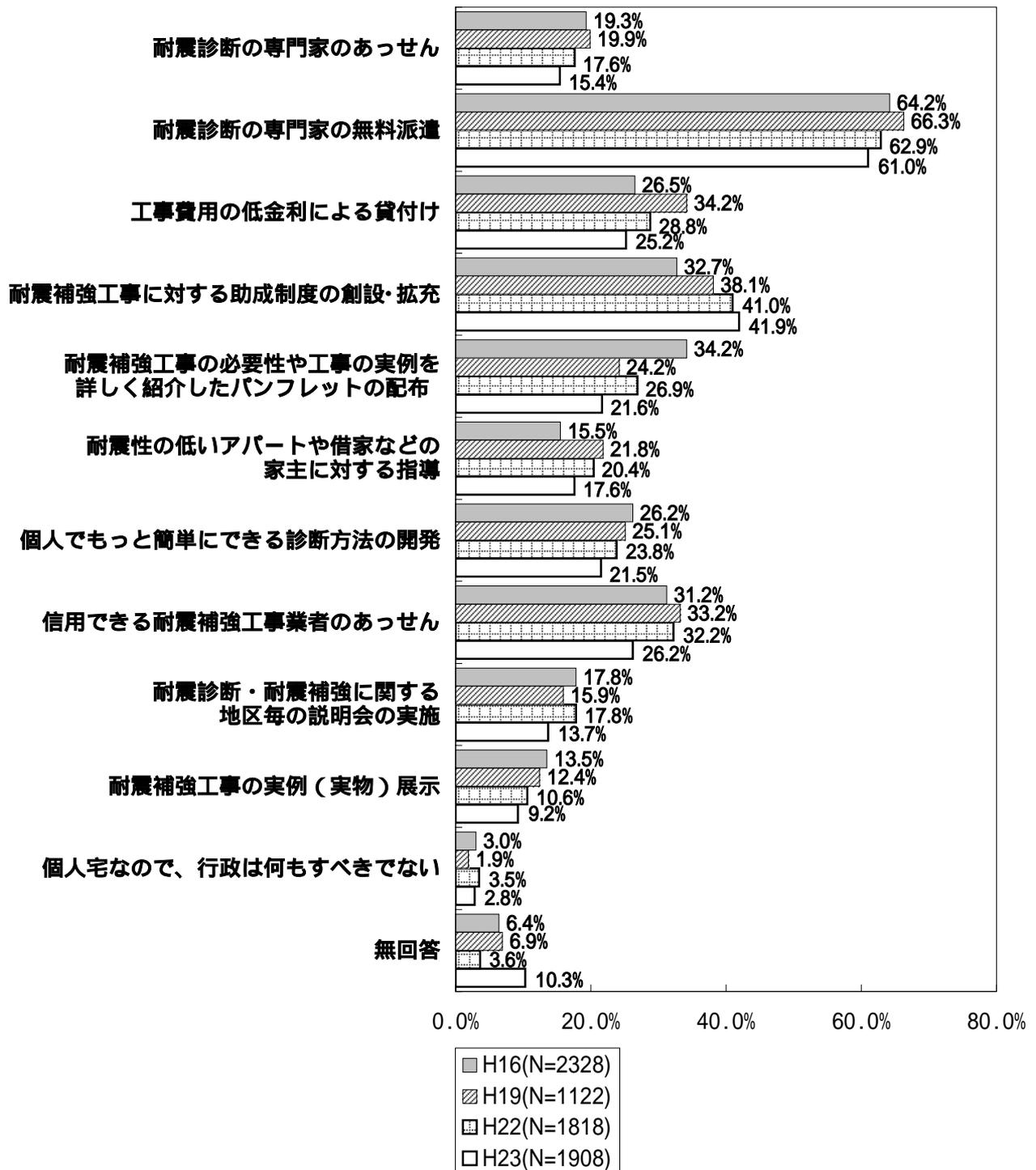


木造住宅の耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うかについて、津波危険地区及び全県ともに「耐震診断の専門家の無料派遣」が最も多く、次いで「耐震補強工事に対する助成制度の創設・拡充」となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. 木造住宅の耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、特に大きな変化はみられない。



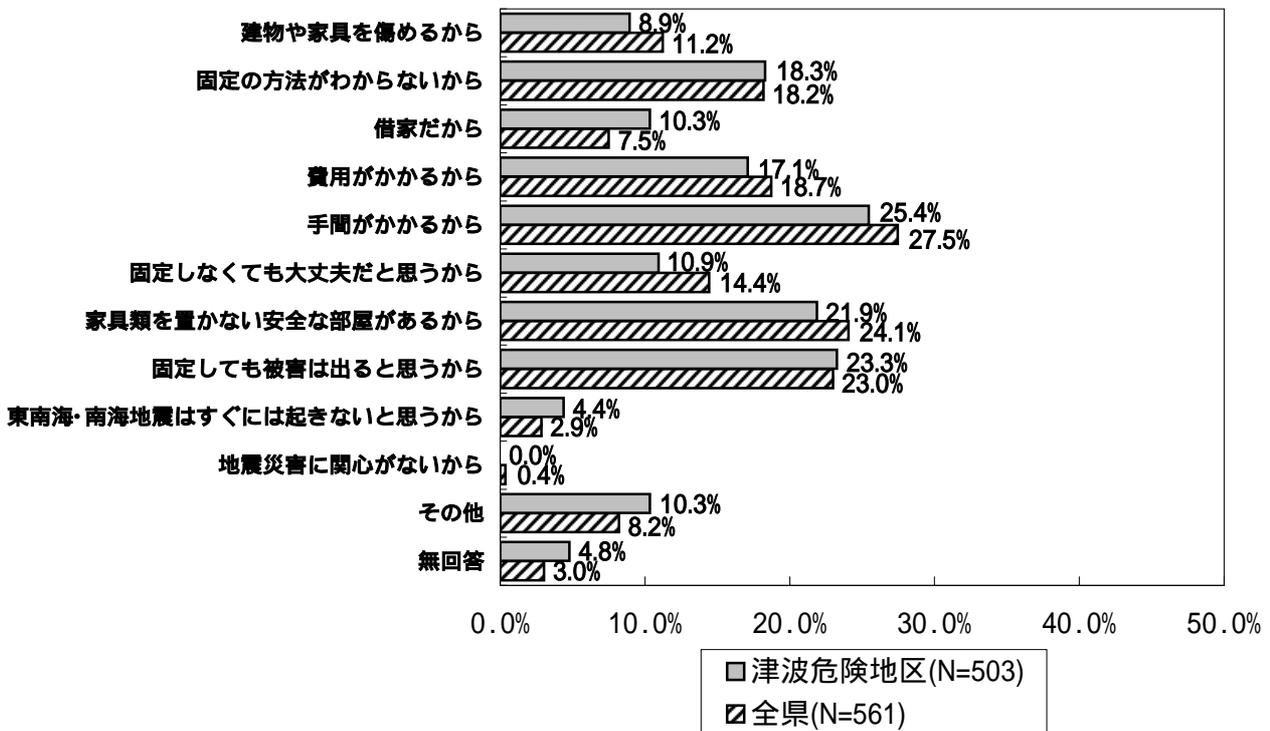
## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 8 - 11 家具類の固定をしていないのはなぜか

付問	家具類の固定をしていないのはどのような理由からですか(いくつでも)。
<p>1. 建物や家具を傷めるから</p> <p>2. 固定の方法がわからないから</p> <p>3. 借家だから</p> <p>4. 費用がかかるから</p> <p>5. 手間がかかるから</p> <p>6. 固定しなくても大丈夫だと思うから</p> <p>7. 家具類を置かない安全な部屋があるから</p> <p>8. 固定しても被害は出ると思うから</p> <p>9. 東南海・南海地震はすぐには起きないと思うから</p> <p>10. 地震災害に関心がないから</p> <p>11. その他( )</p>	

複数回答

図. 家具類の固定をしていないのはなぜか



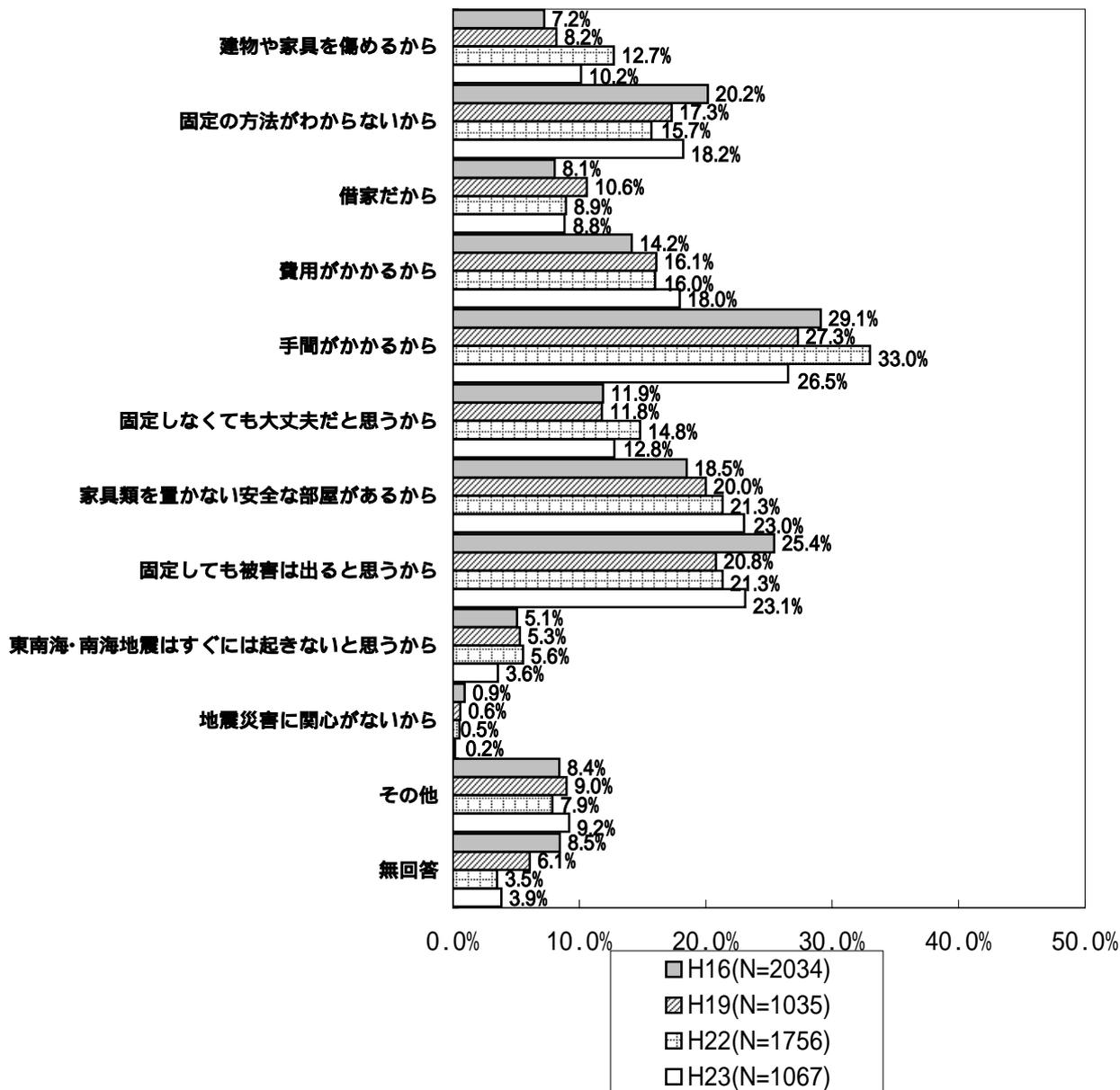
#### <その他回答>

津波危険地区	全県
・しなければならぬと思いつつながら	・借家だから傷が付くから。
・家の中が乱雑で、なかなか出来ていない。	・そのうちするとずるずるしていない。
・二人共老人だから。	・固定が必要な家具がない(建て付け)。
・固定する様な高い家具は置いていない。	・大きな家具がない。 など

家具類の固定をしていないのはなぜかについて、津波危険地区及び全県ともに「手間がかかるから」が最も多くなっている。  
津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. 家具類の固定をしていないのはなぜか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「手間がかかるから」が大きく減少している。また、「東南海・南海地震はすぐには起きないと思うから」もやや減少しており、いつ起きてもおかしくないという認識が強くなってきている。

## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

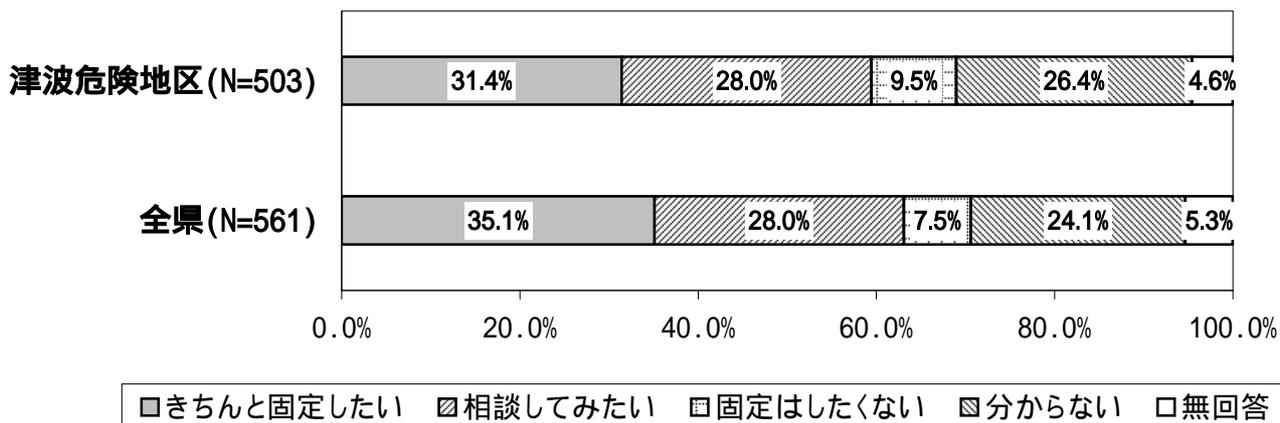
### 8 - 12 今後、家具類の固定をしたいか

付問 今後、家具類の固定をしたいですか（ひとつだけ）。

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1. きちんと固定したい | 2. 相談してみたい |
| 3. 固定はしたくない  | 4. 分からない   |

単数回答

図. 今後、家具類の固定をしたいか



今後、家具類を固定したいかについて、津波危険地区及び全県ともに「きちんと固定したい」が最も多く、次いで「相談してみたい」となっている。

家具類の固定を考えている人（「きちんと固定したい」と「相談してみたい」の合計）は、津波危険地区で59.4%、全県で63.1%と、約6割を占めている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

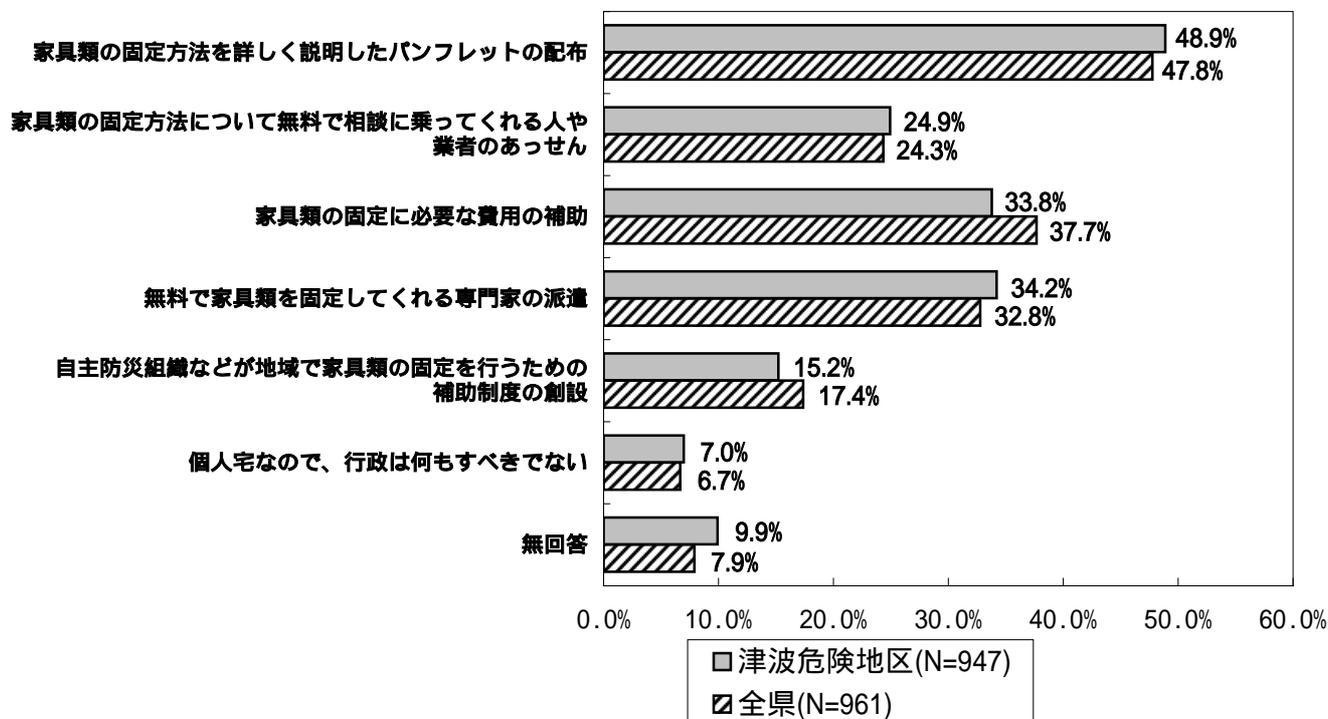
## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 8 - 13 家具類の固定を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

問	家具類の固定を促進するために、県や市町村では何をすべきだと思いますか(いくつでも)。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布</li> <li>2. 家具類の固定方法について無料で相談に乗ってくれる人や業者のあっせん</li> <li>3. 家具類の固定に必要な費用の補助</li> <li>4. 無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣</li> <li>5. 自主防災組織などが地域で家具類の固定を行うための補助制度の創設</li> <li>6. 個人宅なので、行政は何もすべきでない</li> </ol>

複数回答

図. 家具類の固定を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

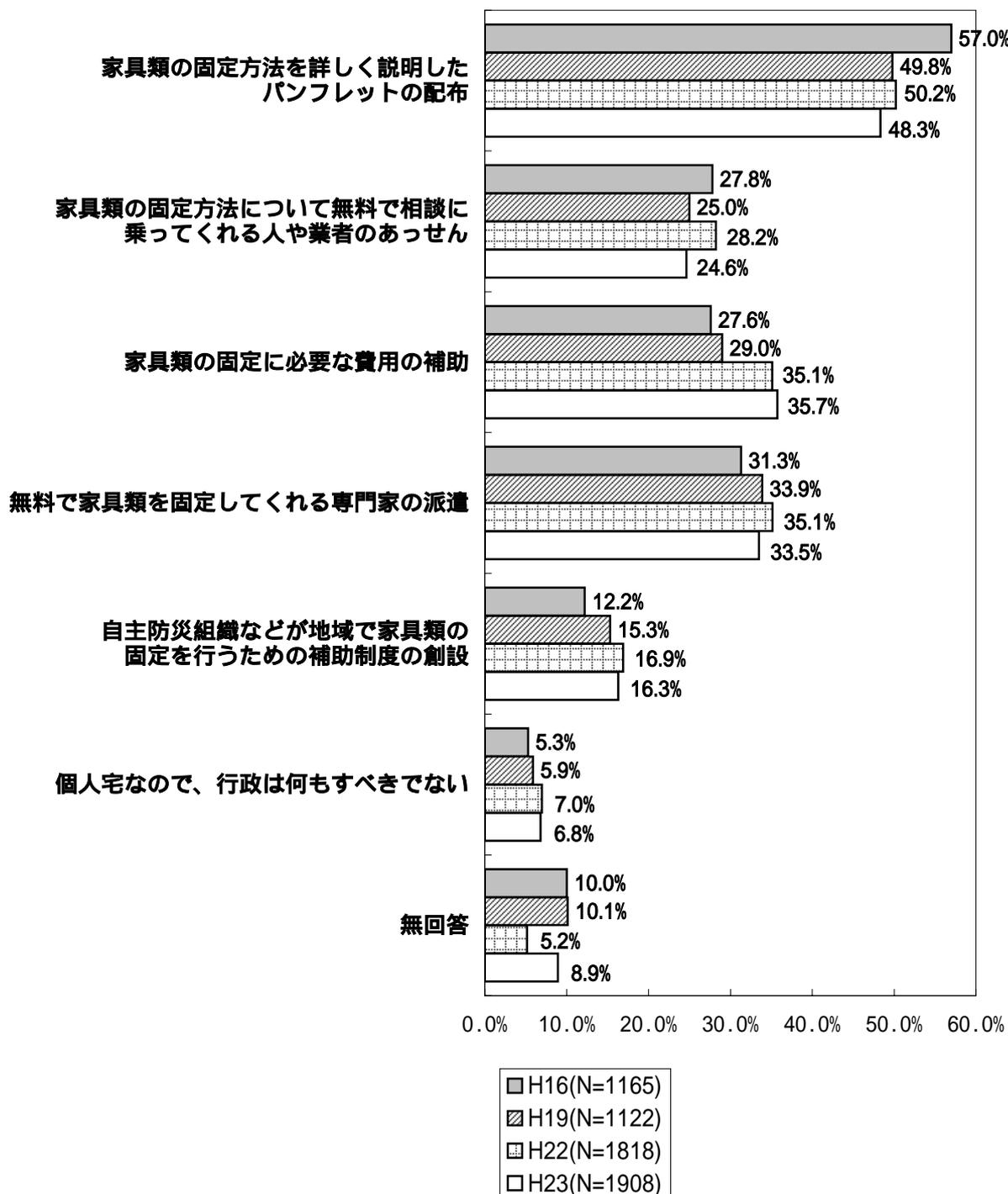


家具類の固定を促進するため、行政は何をすべきだと思うかについて、津波危険地区及び全県ともに「家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布」が最も多く、次いで津波危険地区では「無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣」が、全県では「家具類の固定に必要な費用の補助」となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. 家具類の固定を促進するため、行政は何をすべきだと思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、特に大きな変化はみられない。

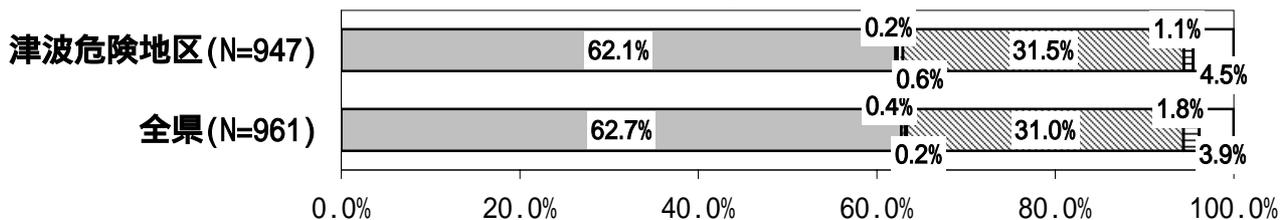
## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 8 - 14 ブロック塀や石塀、門柱などがあるか

問	お宅にはブロック塀や石塀、門柱などがありますか。		
	1. ある	2. 危険なので取り壊した	3. 生け垣に変えた
	4. もともとない	5. その他 ( )	

単数回答

図. ブロック塀や石塀、門柱などがあるか



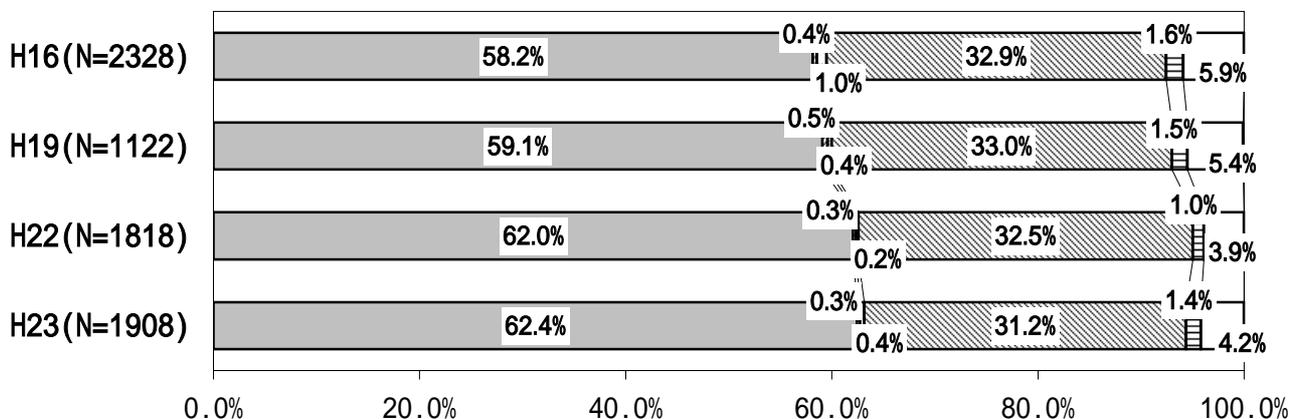
□あり    ▨危険なので取り壊した    ▤生け垣に変えた    ▩もともとない    □その他    □無回答

<その他回答>

津波危険地区	全県
・木の塀。	・フェンス
・となり(寺)の石垣がこわい。	・石垣
・自分の家にはないが境界となりの家がある。	・もともとブロック造は耐震性がないのがわかっているのでRC造の塀にしているフェンスとの組合せです。

ブロック塀や石塀、門柱などがあるかについて、津波危険地区及び全県ともに「あり」が最も多く、次いで「もともとない」となっている。  
津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. ブロック塀や石塀、門柱などがあるか  
～ 経年変化 ～



□あり    ▨危険なので取り壊した    ▤生け垣に変えた    ▩もともとない    □その他    □無回答

経年変化でみると、「あり」(62.4%)が、年々増加傾向にある。

## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

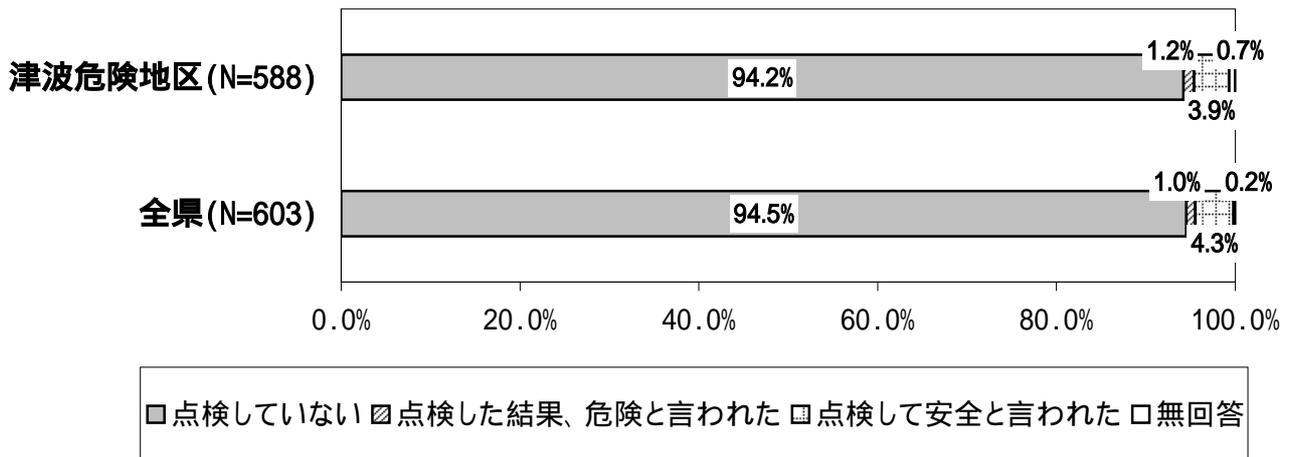
### 8 - 15 ブロック塀や石塀、門柱などの安全性を点検しているか

付問 お宅では、ブロック塀や石塀、門柱などの地震時の安全性を点検しましたか（ひとつだけ）。

1. 点検していない
2. 点検した結果、危険と言われた
3. 点検して安全と言われた

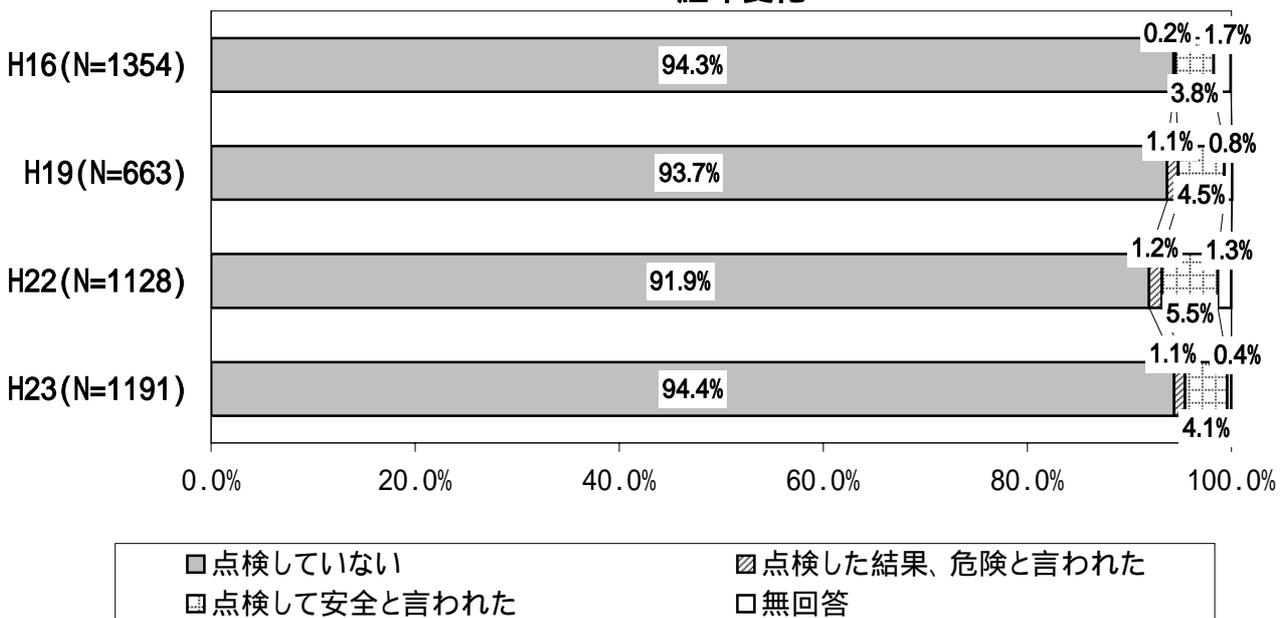
単数回答

図. ブロック塀や石塀、門柱などの安全性を点検しているか



ブロック塀や石塀、門柱などの安全性を点検しているかについて、津波危険地区及び全県ともに「点検していない」が最も多く、次いで「点検して安全と言われた」となっている。津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. ブロック塀や石塀、門柱などの安全性を点検しているか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、ほぼ横ばい状態であり、大きな変化はみられない。

## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

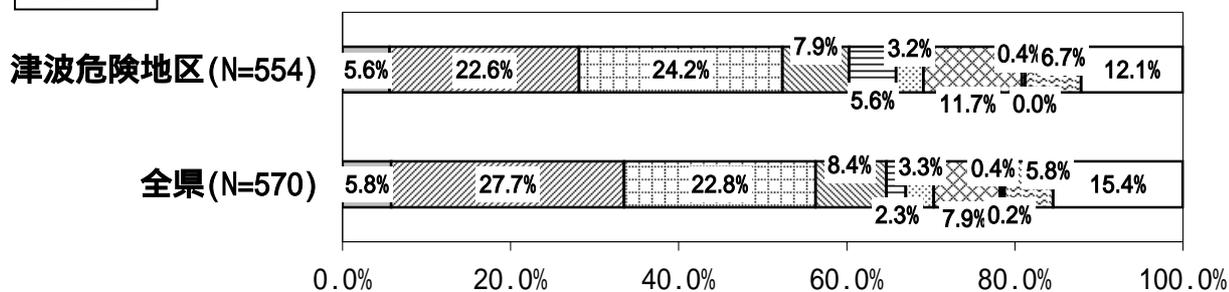
### 8 - 16 点検していないのはなぜか

付問 点検していない主な理由は何ですか（ひとつだけ）。

- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 1. 点検するまでもなく危険だから         | 2. 点検の方法がわからないから |
| 3. 点検しなくても安全と思うから         | 4. 費用がかかるから      |
| 5. 借家だから                  | 6. 手間がかかるから      |
| 7. 対策しても被害は防げないと思うから      |                  |
| 8. 東南海・南海地震はすぐには起きないと思うから |                  |
| 9. 地震災害に関心がないから           |                  |
| 10. その他（ ）                |                  |

単数回答

図. 点検していないのはなぜか



- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 点検するまでもなく危険だから    | <input type="checkbox"/> 点検の方法がわからないから          |
| <input type="checkbox"/> 点検しなくても安全と思うから    | <input type="checkbox"/> 費用がかかるから               |
| <input type="checkbox"/> 借家だから             | <input type="checkbox"/> 手間がかかるから               |
| <input type="checkbox"/> 対策しても被害は防げないと思うから | <input type="checkbox"/> 東南海・南海地震はすぐには起きないと思うから |
| <input type="checkbox"/> 地震災害に関心がないから      | <input type="checkbox"/> その他                    |
| <input type="checkbox"/> 無回答               |   |

#### < その他回答 >

##### 津波危険地区

- ・公道に面してなく、他者への危険は少ない。
- ・塀の安全性まで考えていなかったから。
- ・共有なので。
- ・鉄金が入っている。

##### 全県

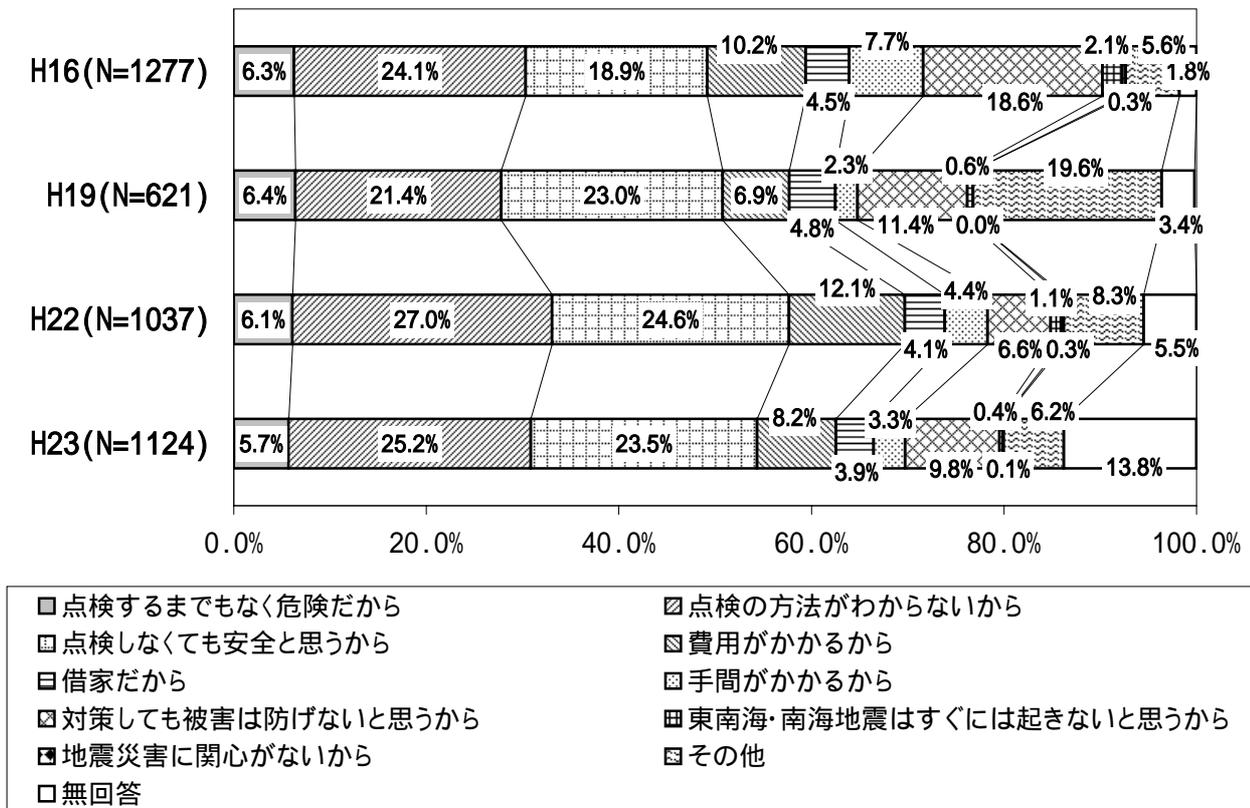
- ・ブロック塀が低い。
- ・人が足を踏み入れる場所には無いため。
- ・まだ最近の物で丈夫だと思っから。
- ・倒れても被害は無い。 など

点検していないのはなぜかについて、津波危険地区では「点検しなくても安全と思うから」（24.2%）が最も多く、全県では「点検の方法がわからないから」（27.7%）が最も多くなっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. 点検していないのはなぜか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、ほぼ横ばい状態であり、大きな変化はみられない。

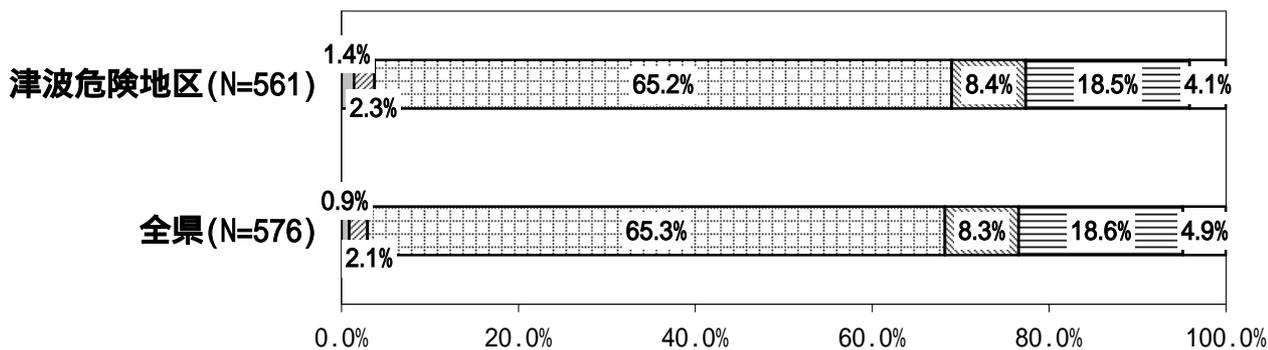
## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 8 - 17 今後、塀を補強したり生け垣等へ変える予定はあるか

問	お宅では、今後ブロック塀や石塀、門柱などを補強したり、生け垣などに変える予定はありますか（ひとつだけ）。
	1. すでに変えた      2. 変える予定がある      3. 変える予定はない 4. 検討中              5. わからない

単数回答

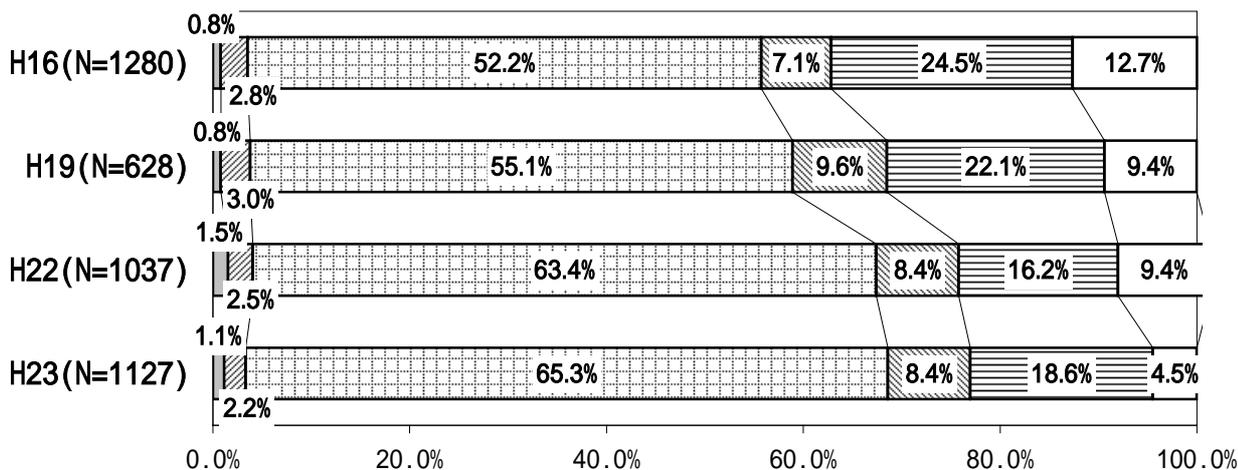
図. 今後、塀を補強したり生け垣等へ変える予定はあるか



□すでに変えた    ▨変える予定がある    □変える予定はない    ▩検討中    ▨わからない    □無回答

今後、塀を補強したり生け垣等へ変える予定はあるかについて、津波危険地区及び全県ともに「変える予定はない」が最も多くなっている。  
津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 今後、塀を補強したり生け垣等へ変える予定はあるか  
～ 経年変化 ～



□すでに変えた    ▨変える予定がある    □変える予定はない    ▩検討中    ▨わからない    □無回答

経年変化でみると、「変える予定はない」（65.3%）が増加傾向にあり、H16（52.2%）と比較し約13ポイントの増加がみられる。

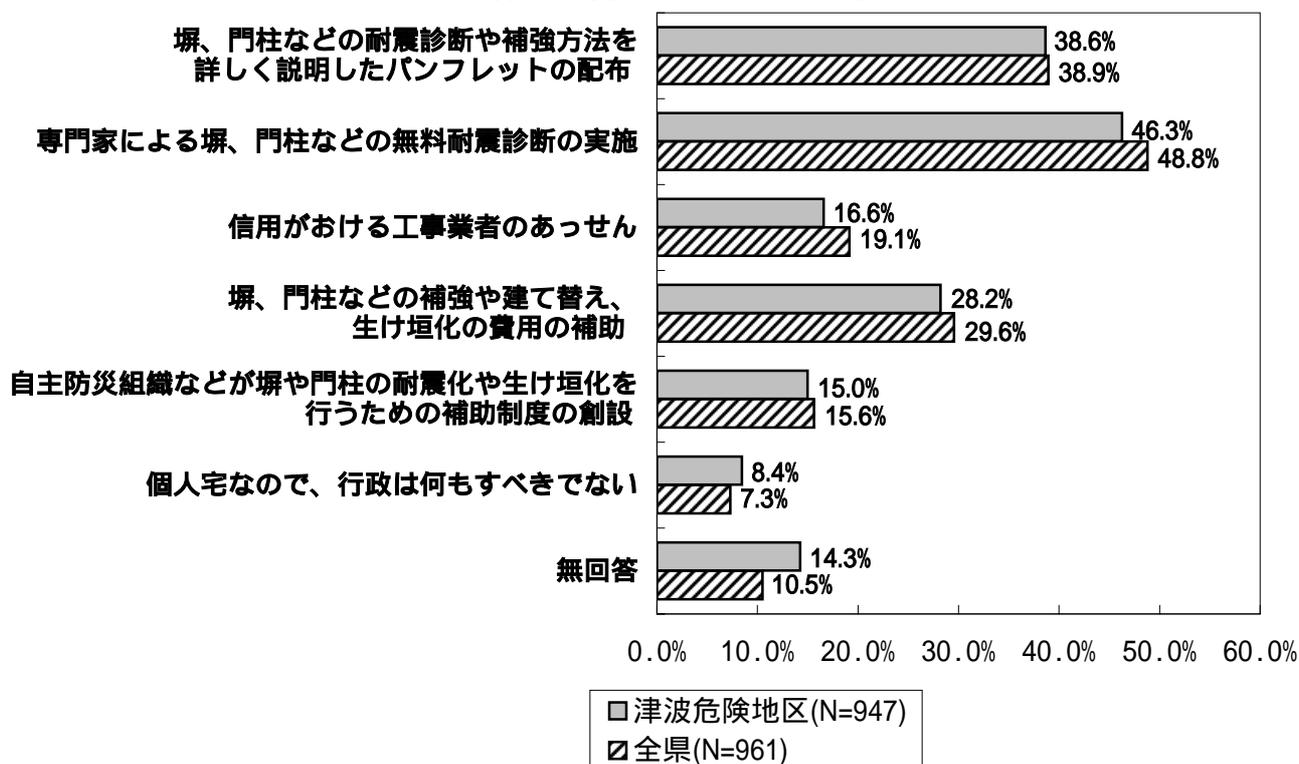
## 8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

8 - 18 ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

問	今後、ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するために、県や市町村は、何をすべきだと思いますか(いくつでも)。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 塀、門柱などの耐震診断や補強方法を詳しく説明したパンフレットの配布</li> <li>2. 専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施</li> <li>3. 信用がおける工事業者のあっせん</li> <li>4. 塀、門柱などの補強や建て替え、生け垣化の費用の補助</li> <li>5. 自主防災組織などが塀や門柱の耐震化や生け垣化を行うための補助制度の創設</li> <li>6. 個人宅なので、行政は何もすべきでない</li> </ol>

複数回答

図. ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

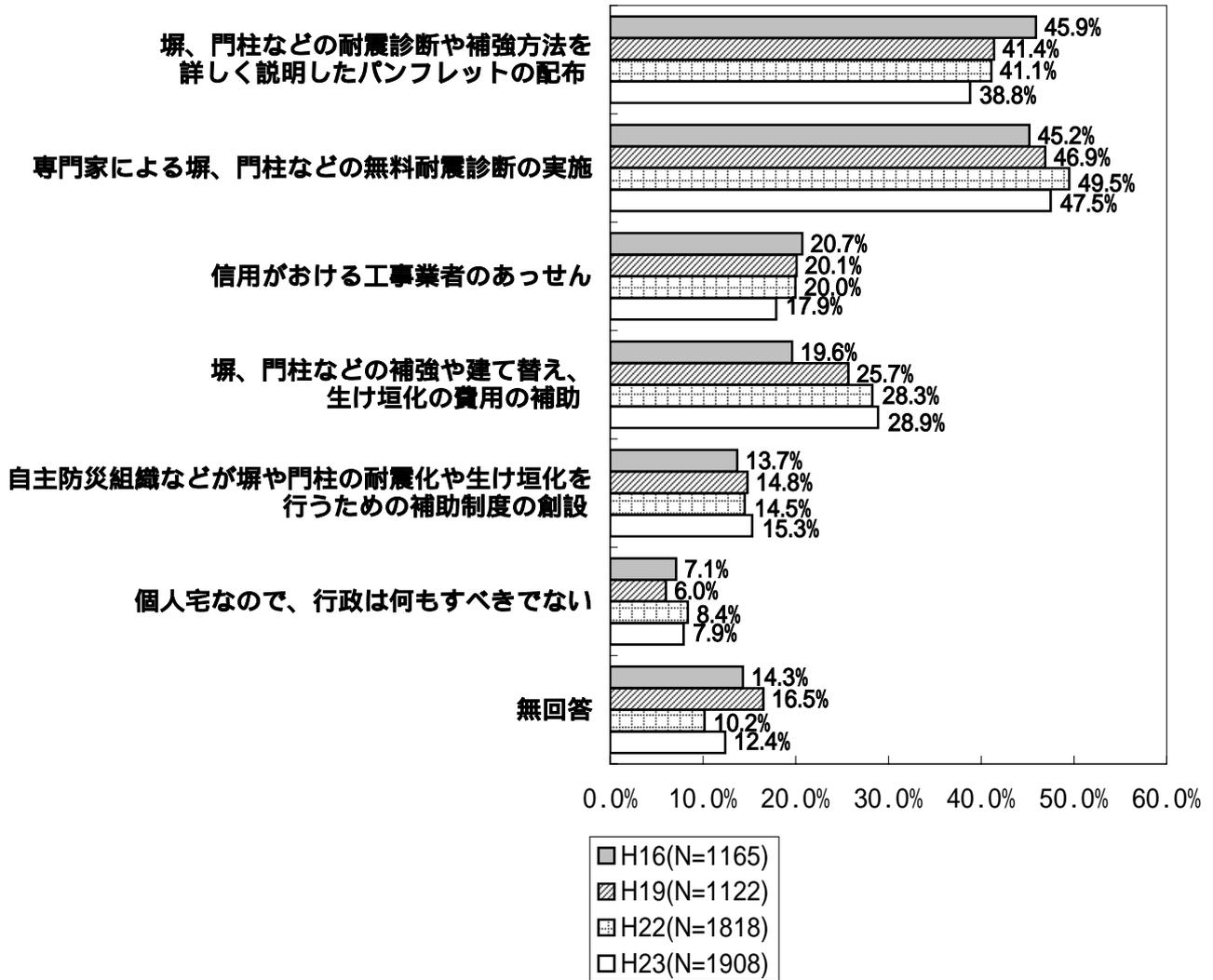


ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うかについて、津波危険地区及び全県ともに「専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施」が最も多く、次いで「塀、門柱などの耐震診断や補強方法を詳しく説明したパンフレットの配布」となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

8. 耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するため、  
行政は何をすべきだと思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化について、特に大きな変化はみられない。

## 9. 備蓄や訓練について

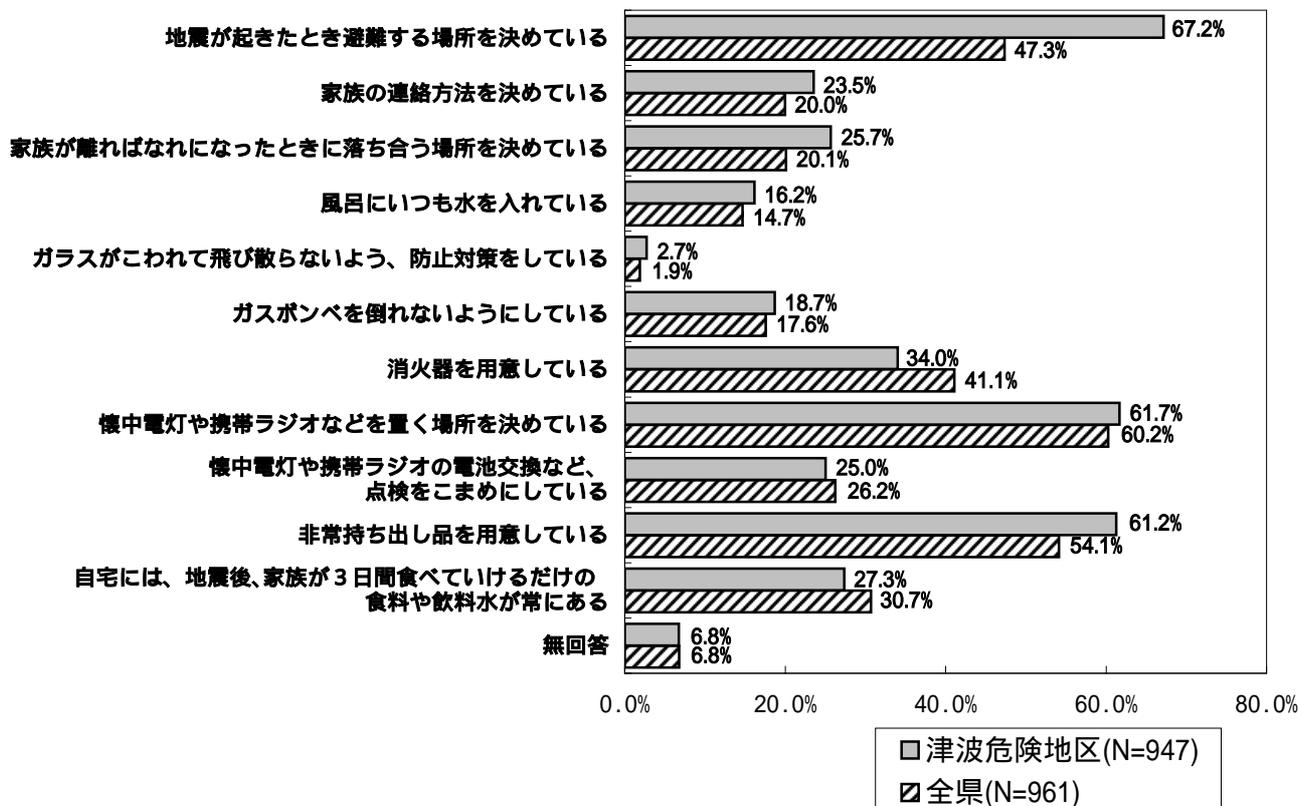
### 9 - 1 どのような地震防災対策を行っているか

問 お宅では東南海地震や南海地震などに備えて、下にあげたような地震防災対策を行っていますか（いくつでも）。

- 1.地震が起きたとき避難する場所を決めている
- 2.家族の連絡方法を決めている
- 3.家族が離ればなれになったときに落ち合う場所を決めている
- 4.風呂にいつも水を入れている
- 5.ガラスがこわれて飛び散らないよう、防止対策をしている
- 6.ガスボンベを倒れないようにしている
- 7.消火器を用意している
- 8.懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている
- 9.懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、点検をこまめにしている
- 10.非常持ち出し品を用意している
- 11.自宅には、地震後、家族が3日間食べていけるだけの食料や飲料水が常にある

複数回答

図. どのような地震防災対策を行っているか

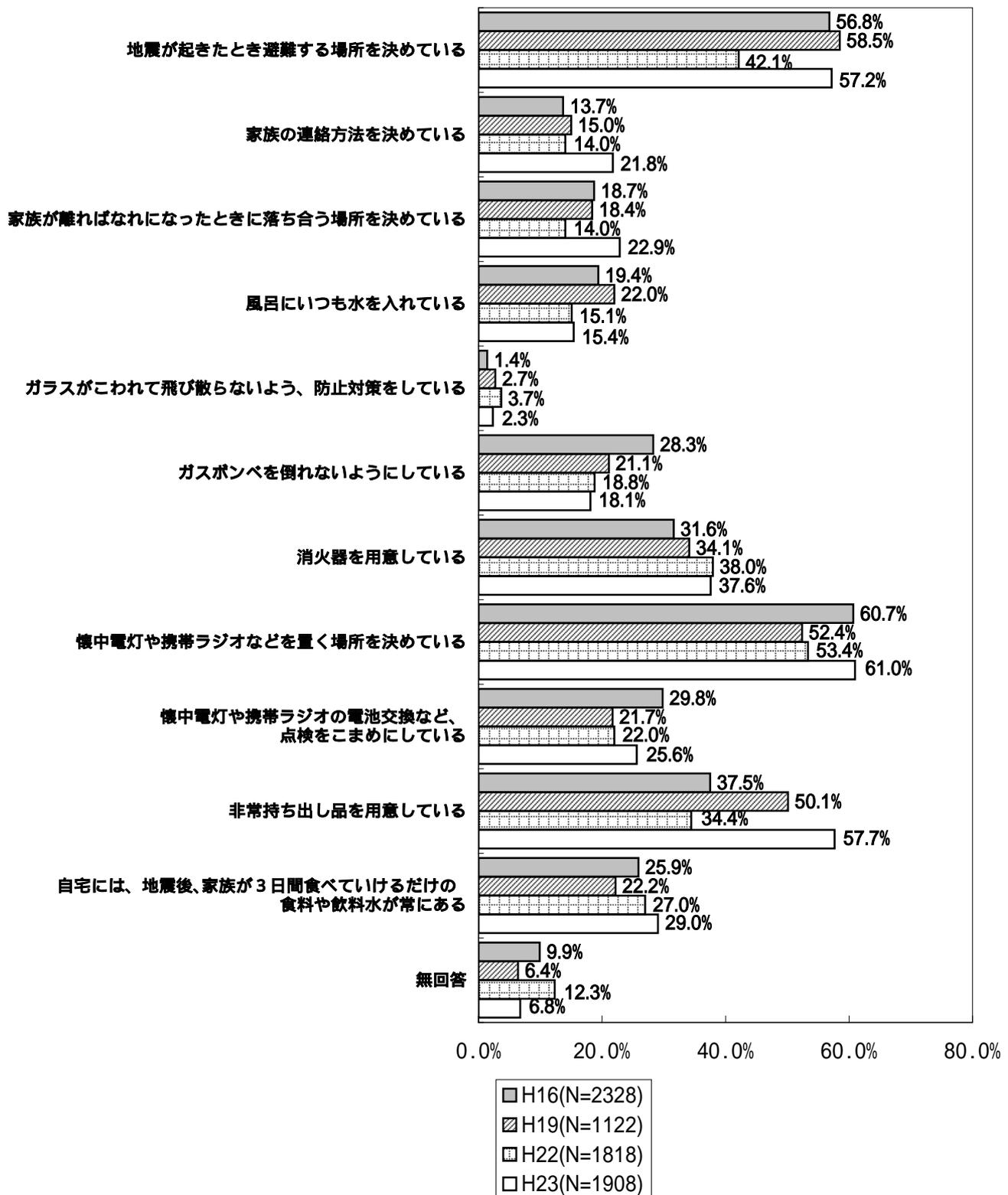


どのような地震防災対策を行っているかについて、津波危険地区では「地震が起きたとき避難する場所を決めている」（67.2%）が最も多く、全県では「懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている」（60.2%）が最も多くなっている。

津波危険地区では、「地震が起きたとき避難する場所を決めている」（67.2%）が全県（47.3%）と比較し多くなっている。

その他の項目で津波危険地区と全県の差はみられない。

図. どのような地震防災対策を行っているか  
～ 経年変化 ～



経年変化で見ると、「地震が起きたとき避難する場所を決めている」(57.2%)と「非常持ち出し品を用意している」(57.7%)について、H22に減少を示したが、H23では再び増加している。

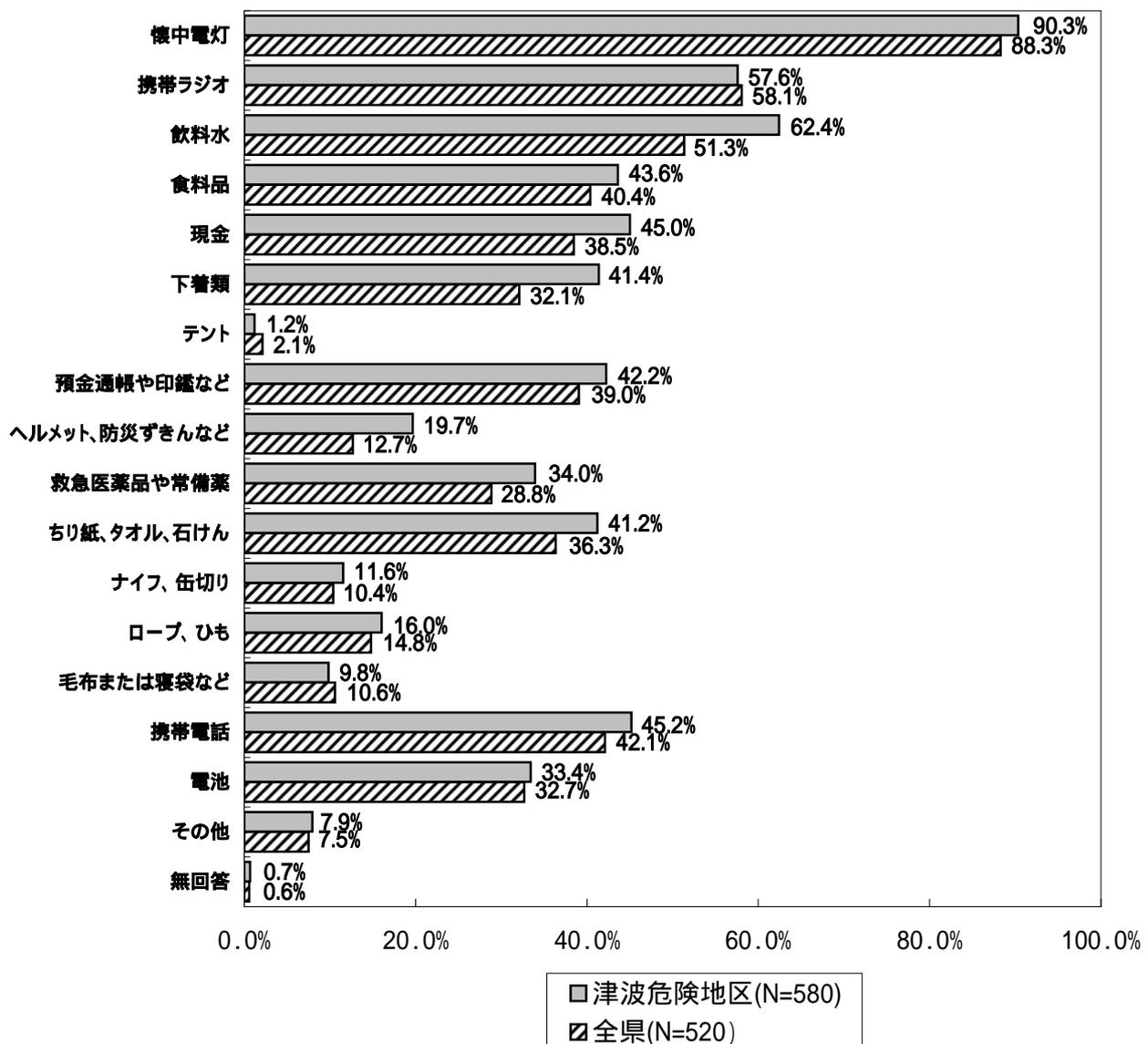
## 9. 備蓄や訓練について

### 9 - 2 非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か

問	非常持ち出し品として、すぐ持ち出せるよう、まとめて置いてあるものすべてに をつけてください。		
1. 懐中電灯	2. 携帯ラジオ	3. 飲料水	
4. 食料品	5. 現金	6. 下着類	
7. テント	8. 預金通帳や印鑑など		
9. ヘルメット、防災ずきんなど	10. 救急医薬品や常備薬		
11. ちり紙、タオル、石けん	12. ナイフ、缶切り		
13. ロープ、ひも	14. 毛布または寝袋など	15. 携帯電話	
16. 電池	17. その他 ( )		

複数回答

図. 非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か



9. 備蓄や訓練について

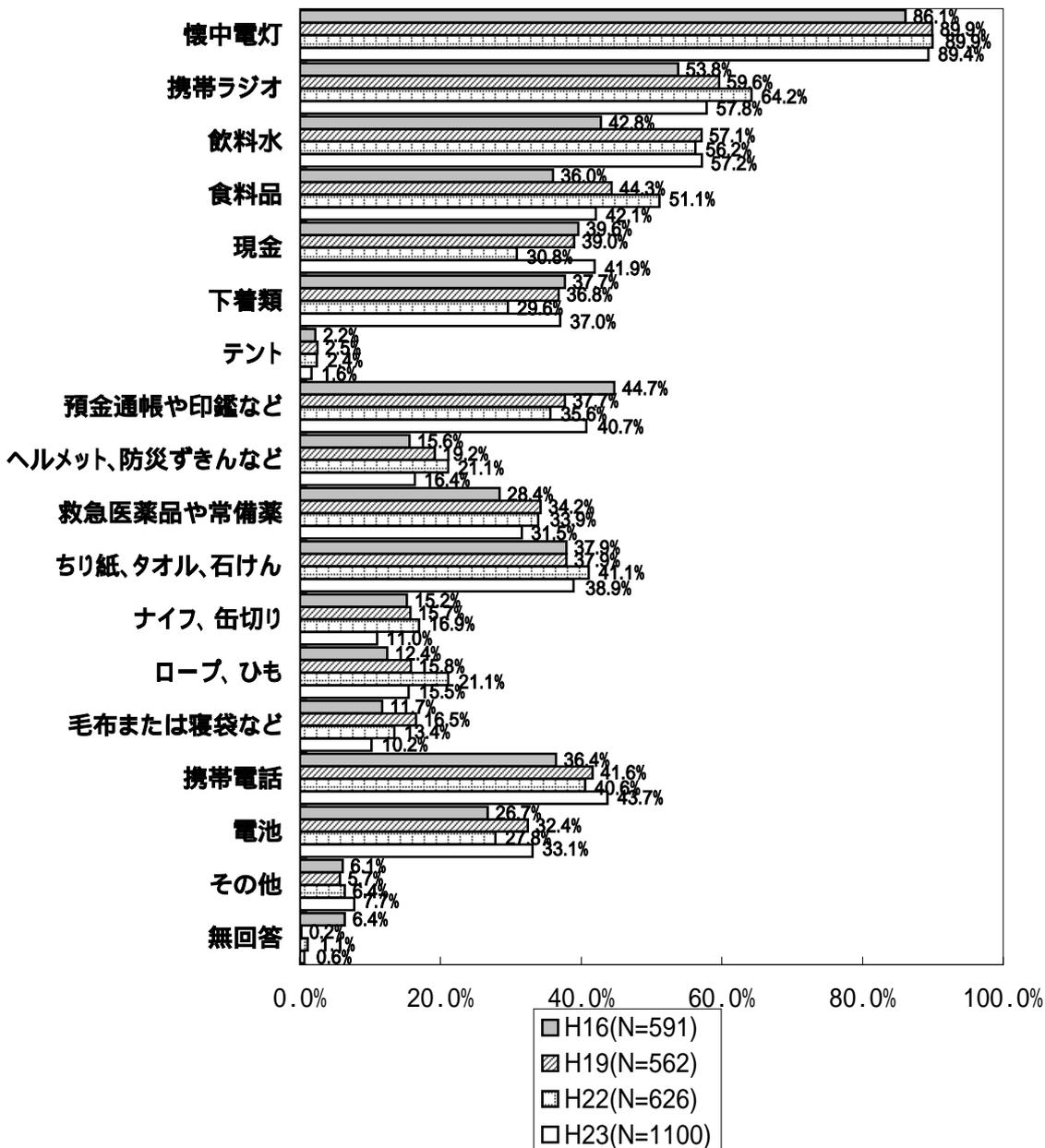
< その他回答 >

津波危険地区	全県
・親族の住所・郵便番号のメモ	・非常用トイレ
・紙オムツ、歩きやすい靴	・笛
・ビニールシート、アルミシート（保温用）	・たばこ
・ペットフード	・ガスコンロ
	など

非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何かについて、津波危険地区及び全県ともに「懐中電灯」が最も多く、次いで津波危険地区では「飲料水」が、全県では「携帯ラジオ」となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

図. 非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、特に大きな変化はみられない。

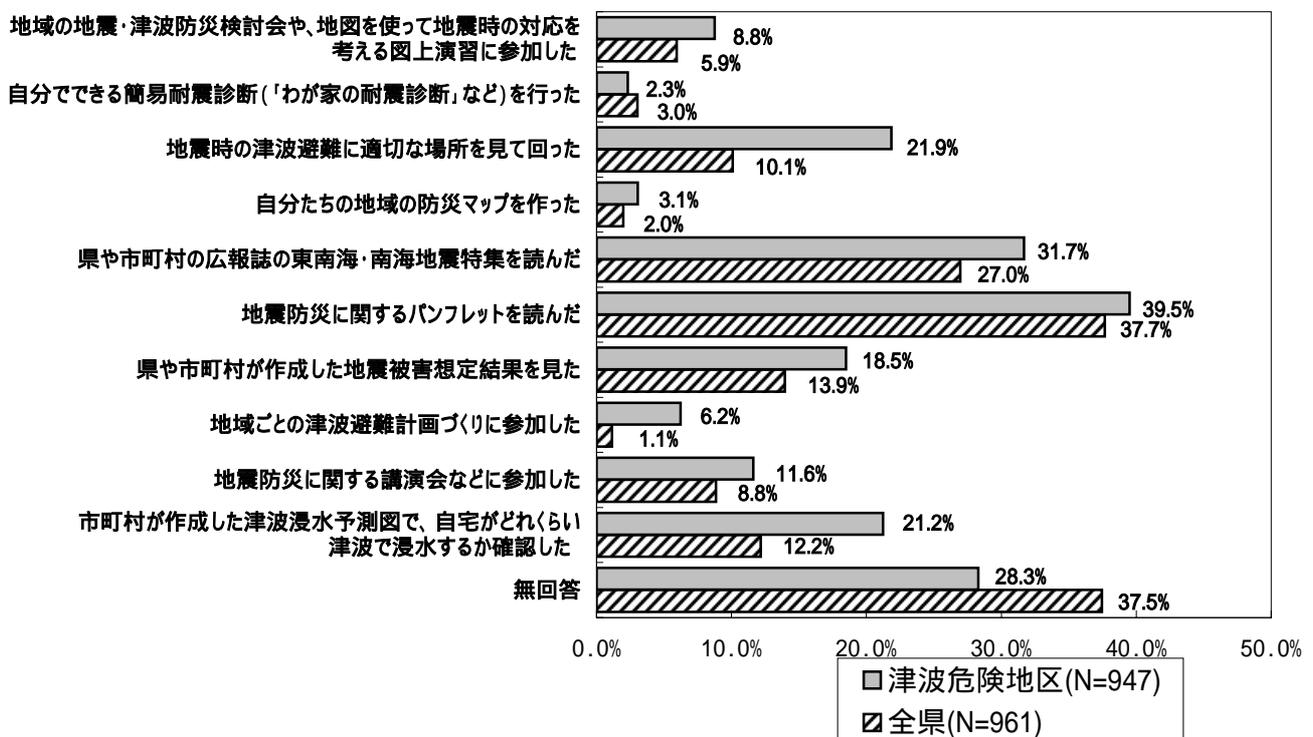
## 9. 備蓄や訓練について

### 9 - 3 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか (避難所の確認、防災マップの作成、講演会等)

問	あなたは、次のようなことを行ったり、参加したことがありますか(いくつでも)。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の地震・津波防災検討会や、地図を使って地震時の対応を考える図上演習に参加した</li> <li>2. 自分でできる簡易耐震診断(「わが家の耐震診断」など)を行った</li> <li>3. 地震時の津波避難に適切な場所を見て回った</li> <li>4. 自分たちの地域の防災マップを作った</li> <li>5. 県や市町村の広報誌の東南海・南海地震特集を読んだ</li> <li>6. 地震防災に関するパンフレットを読んだ</li> <li>7. 県や市町村が作成した地震被害想定結果を見た</li> <li>8. 地域ごとの津波避難計画づくりに参加した</li> <li>9. 地震防災に関する講演会などに参加した</li> <li>10. 市町村が作成した津波浸水予測図で、自宅がどれくらい津波で浸水するか確認した</li> </ol>

複数回答

図. 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか  
(避難所の確認、防災マップの作成、講演会等)

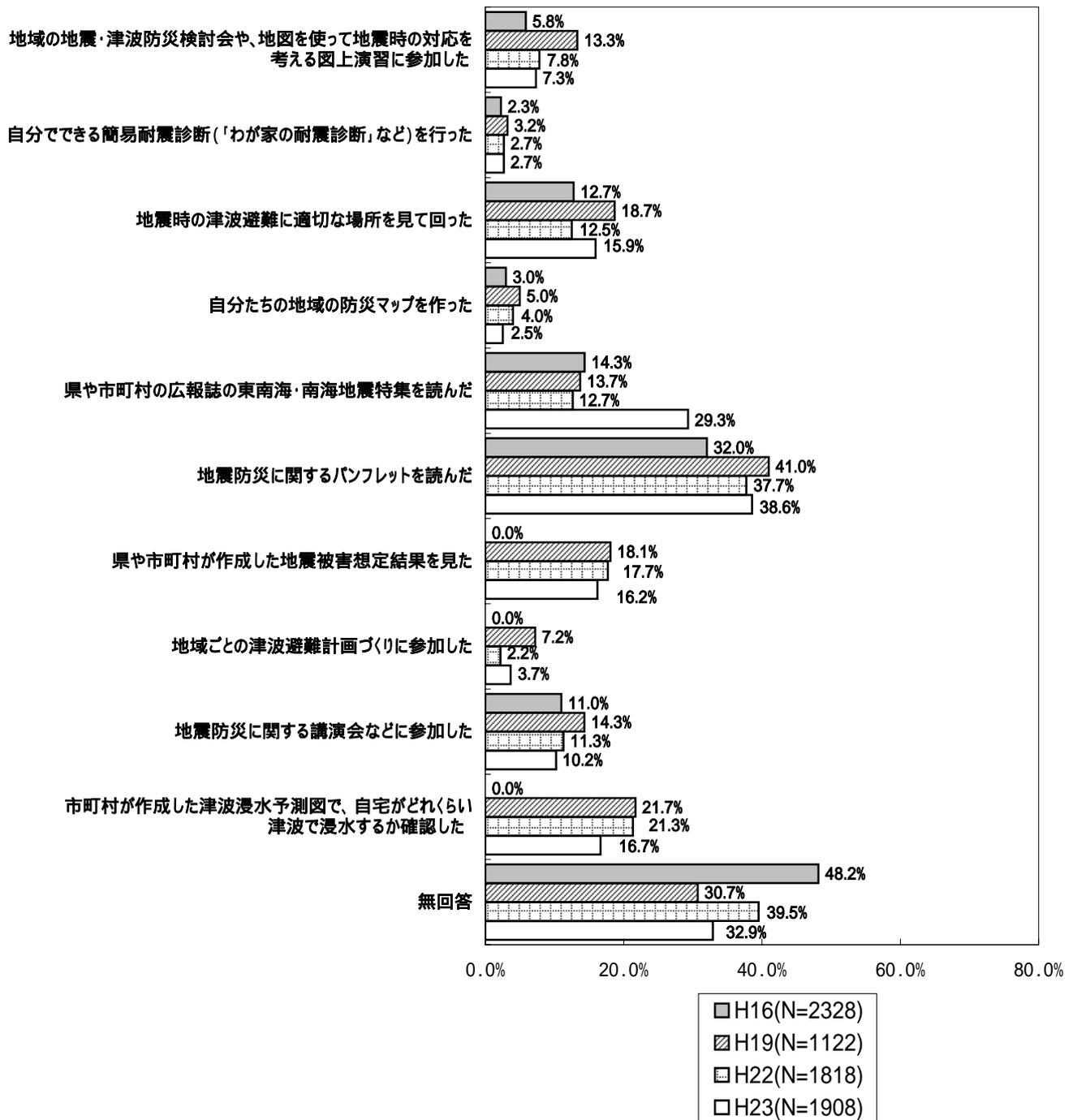


防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか(避難所の確認、防災マップの作成、講演会等)について、津波危険地区及び全県ともに「地震防災に関するパンフレットを読んだ」が最も多く、次いで「県や市町村の広報誌の東南海・南海地震特集を読んだ」となっている。

「地震時の津波避難に適切な場所を見て回った」と「市町村が作成した津波浸水予測図で、自宅がどれくらい津波で浸水するか確認した」は、津波危険地区の方が全県と比較し多くなっている。

9. 備蓄や訓練について

図. 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか  
 (避難所の確認、防災マップの作成、講演会等)  
 ~ 経年変化 ~



経年変化でみると、「県や市町村の広報誌の東南海・南海地震特集を読んだ」(29.3%)はH22(12.7%)と比較して2倍以上増加している。その他の項目では、特に大きな変化はみられない。

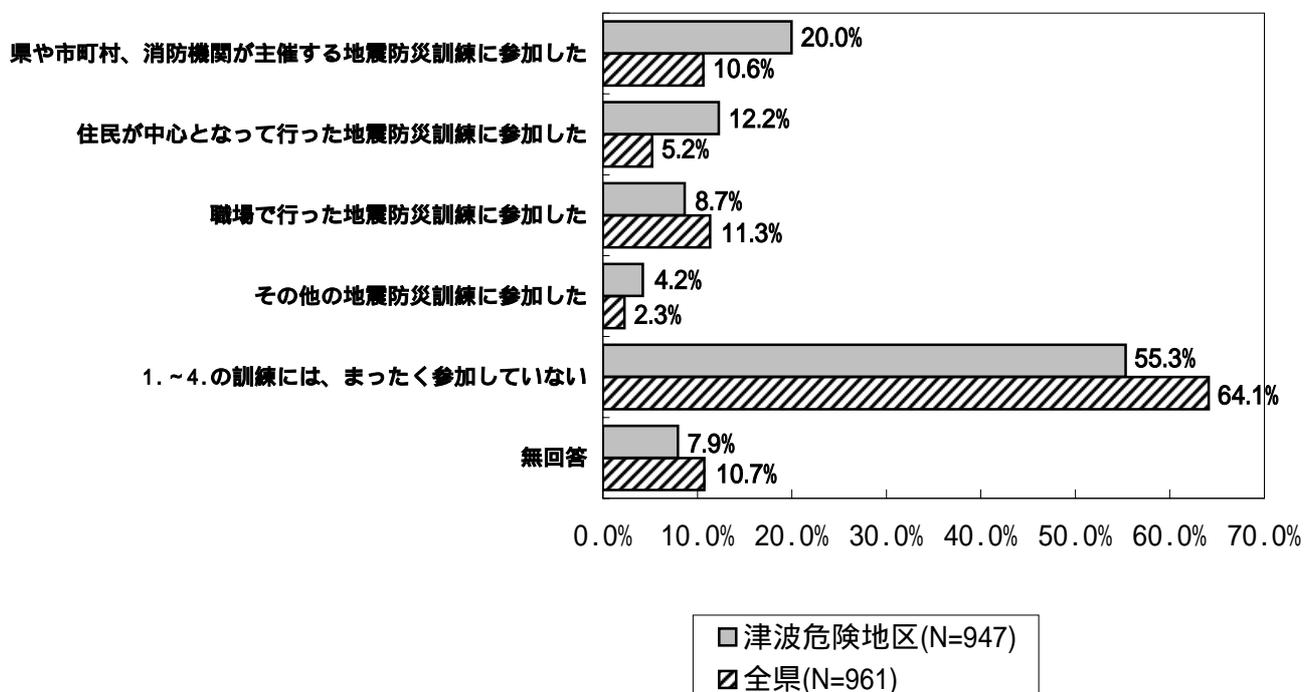
## 9. 備蓄や訓練について

### 9 - 4 過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか

問	あなたは、過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか（いくつでも）。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県や市町村、消防機関が主催する地震防災訓練に参加した</li> <li>2. 住民が中心となって行った地震防災訓練に参加した</li> <li>3. 職場で行った地震防災訓練に参加した</li> <li>4. その他の地震防災訓練に参加した</li> <li>5. 1.～4.の訓練には、まったく参加していない</li> </ol>

複数回答

図. 過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか



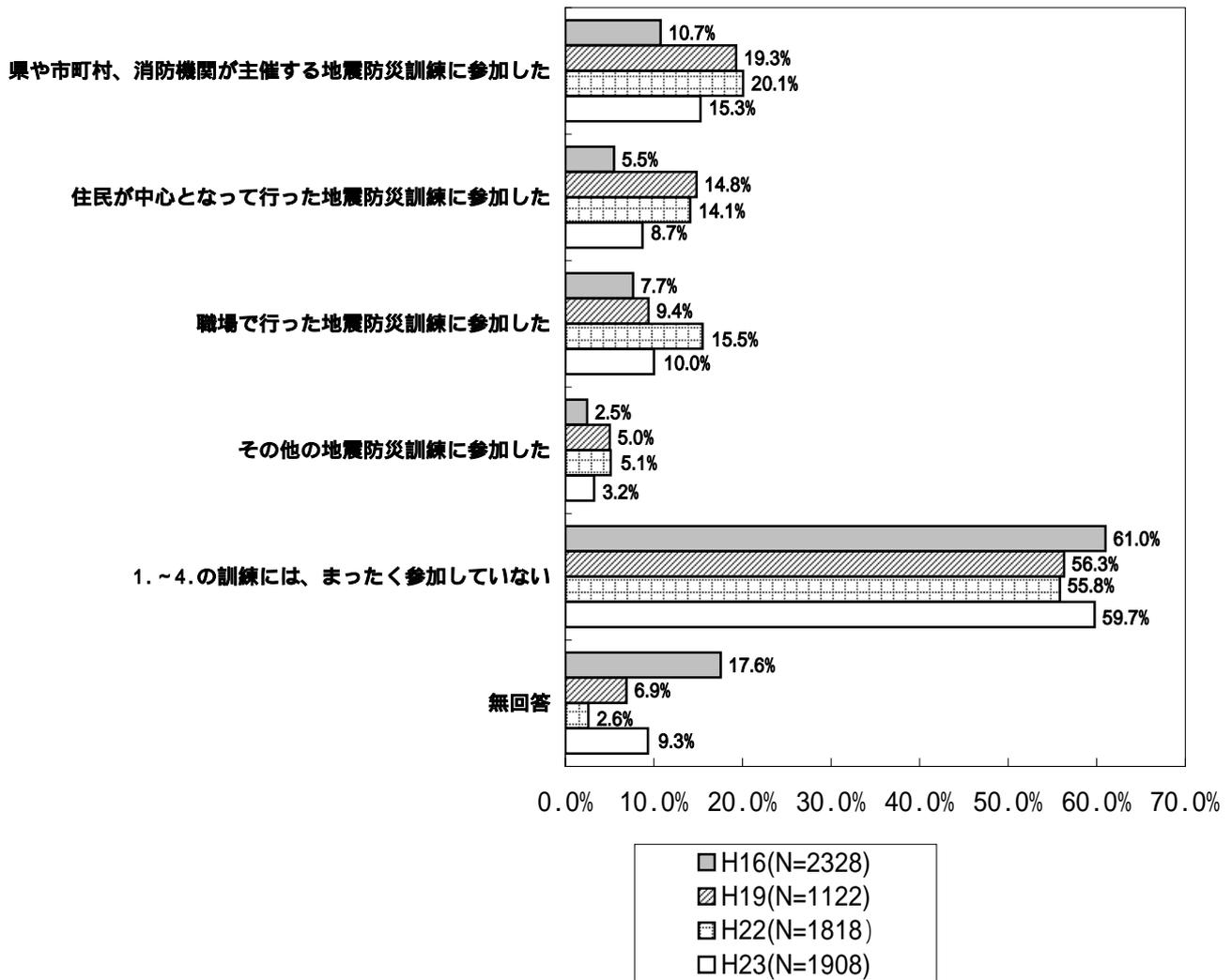
過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるかについて、津波危険地区及び全県ともに「まったく参加していない」が最も多くなっている。

何らかの訓練に参加した人（「県や市町村、消防機関が主催する地震防災訓練に参加した」と「住民が中心となって行った地震防災訓練に参加した」と「職場で行った地震防災訓練に参加した」と「その他の地震防災訓練に参加した」の合計）は、津波危険地区では45.1%、全県では29.4%と、約3割～4.5割を占めている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

9. 備蓄や訓練について

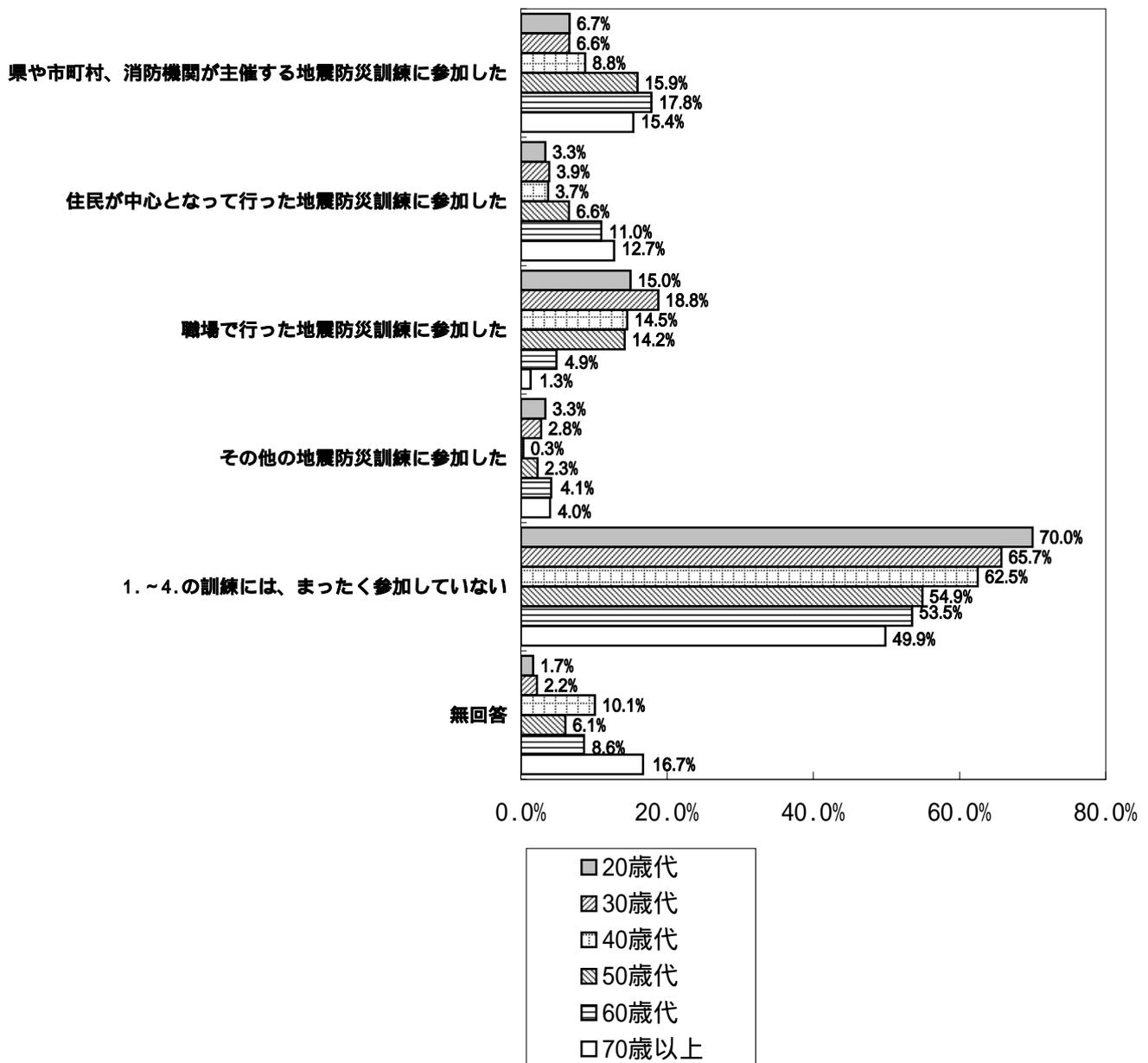
図. 過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、何らかの訓練に参加した人（37.2%）はH22（54.8%）と比較し減少傾向がみられる。

9. 備蓄や訓練について

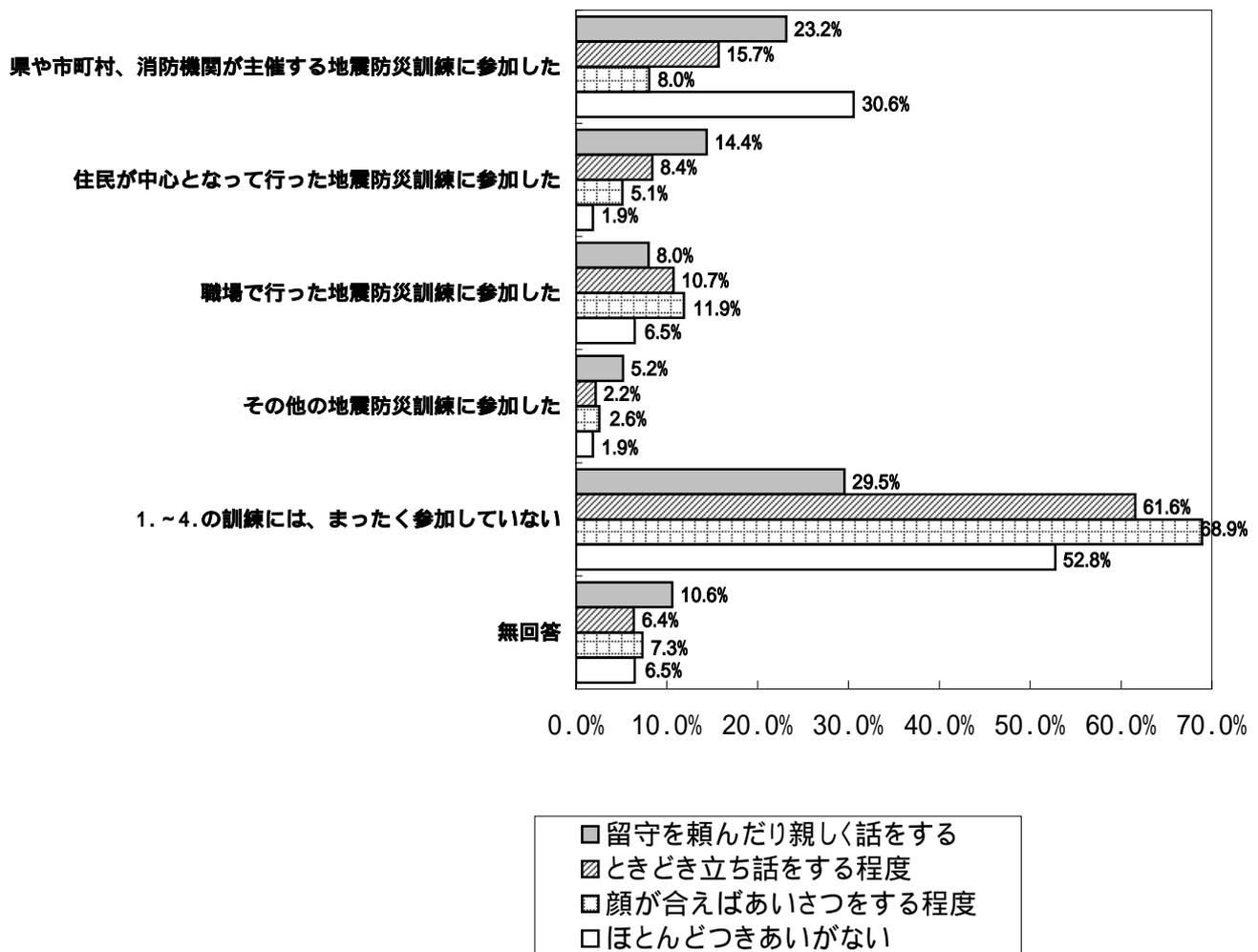
図. 過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか  
～ 年齢比較 ～



年齢別にみると、「1.～4.の訓練には、まったく参加していない」は「20歳代」（70.0%）が最も多く、次いで「30歳代」（65.7%）となっており、若年齢層に高い傾向にある。

9. 備蓄や訓練について

図. 過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか  
～ ご近所との付き合い比較 ～



ご近所とのつきあい状況ごとに比較してみると、「留守を頼んだり親しく話をする」人の50.7%が訓練に参加したことがある一方、「ほとんどつきあいがない」人で訓練に参加したとある人は40.7%と10ポイントの差があった。

## 9. 備蓄や訓練について

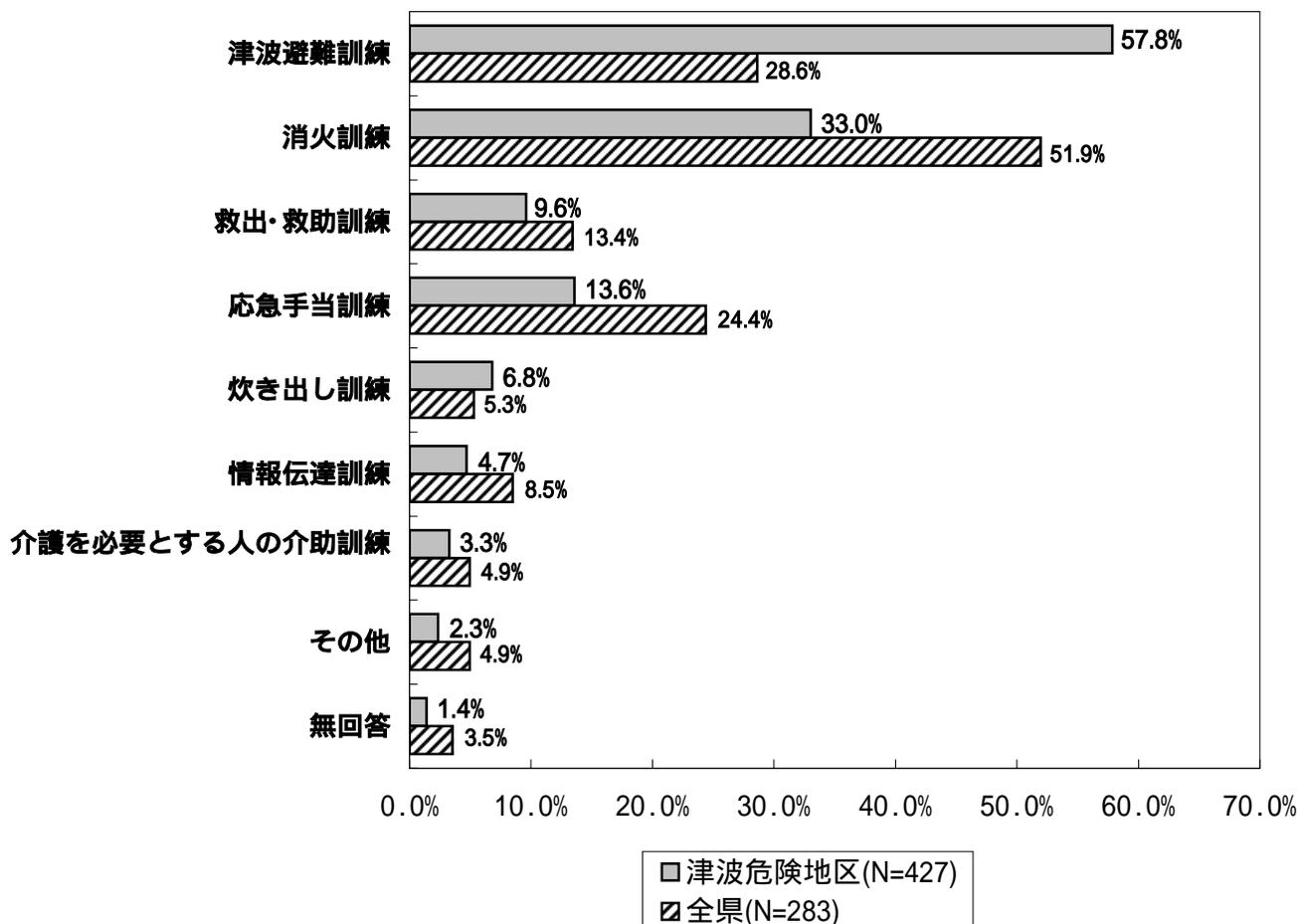
### 9 - 5 どのような訓練に参加したか

付問 具体的にはどのような訓練に参加しましたか(いくつでも)。

- |                   |           |            |
|-------------------|-----------|------------|
| 1. 津波避難訓練         | 2. 消火訓練   | 3. 救出・救助訓練 |
| 4. 応急手当訓練         | 5. 炊き出し訓練 | 6. 情報伝達訓練  |
| 7. 介護を必要とする人の介助訓練 | 8. その他( ) |            |

複数回答

図. どのような訓練に参加したか



#### <その他回答>

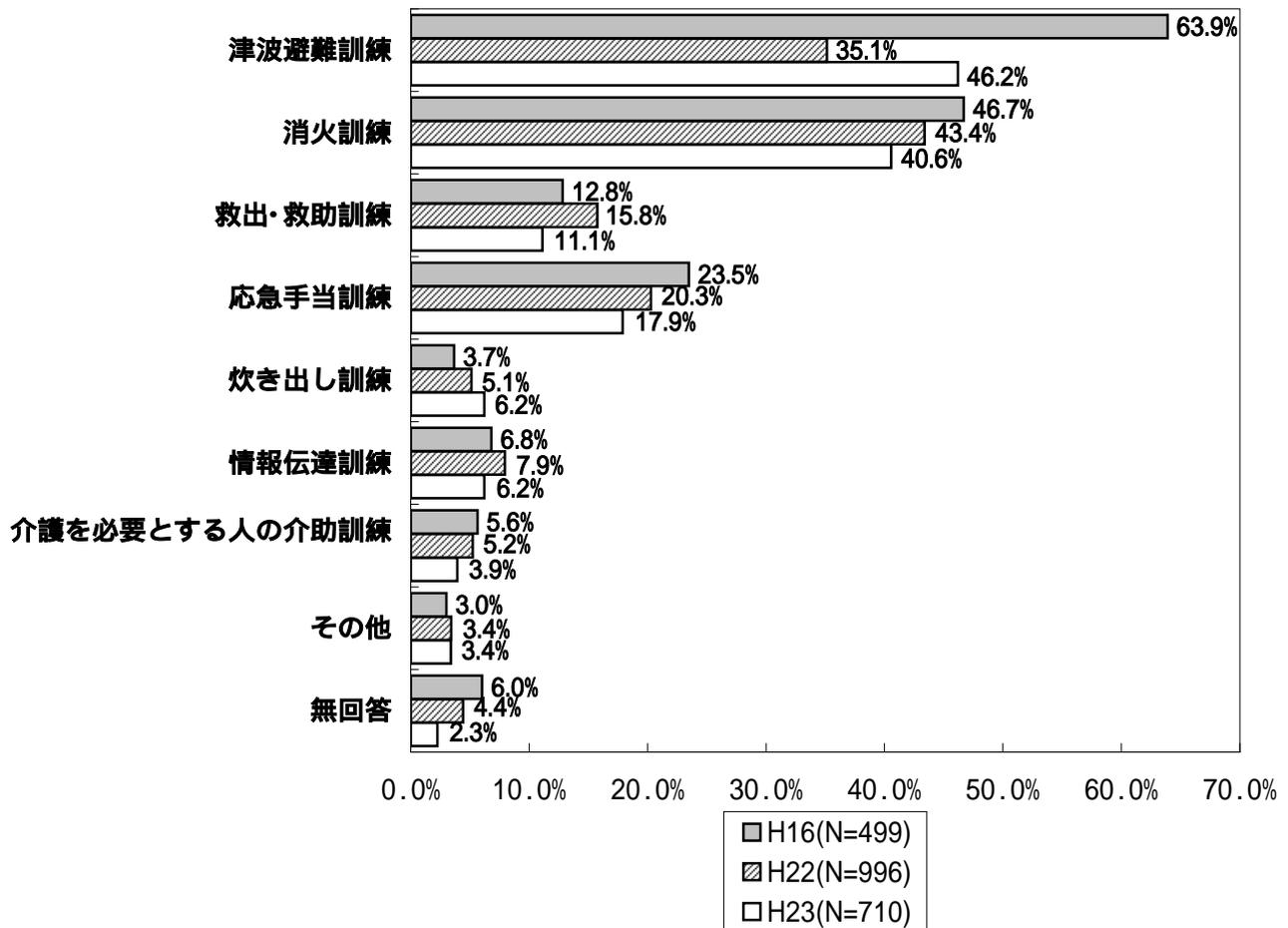
津波危険地区	全県
・避難訓練	・HUG
・県防災訓練	・地震体験、車が揺れるやつ。
・地震避難訓練	・津波に関するビデオ鑑賞。
・ただ非常口から出るということのみ。	・防災倉庫の整理。 など

どのような訓練に参加したかについて、津波危険地区では「津波避難訓練」(57.8%)が最も多く、全県では「消火訓練」(51.9%)が最も多くなっている。

津波危険地区では、約6割が「津波避難訓練」に参加しているとなった。

9. 備蓄や訓練について

図. どのような訓練に参加したか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「津波避難訓練」(46.2%)はH22(35.1%)と比較し約10ポイント増加しているが、他の項目については、ほぼ横ばいで大きな増減はみられない。

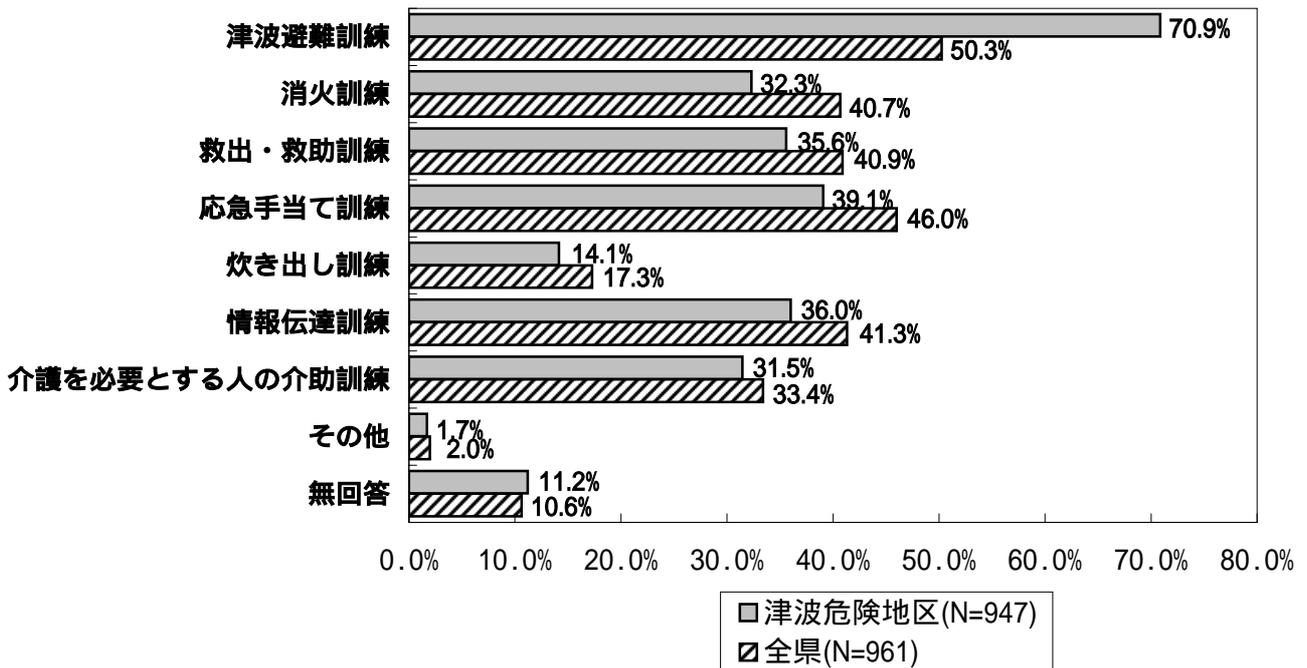
## 9. 備蓄や訓練について

### 9 - 6 どのような訓練が必要であると思うか

問	どのような訓練が必要であると思いますか(いくつでも)。						
1.	津波避難訓練	2.	消火訓練	3.	救出・救助訓練	4.	応急手当て訓練
5.	炊き出し訓練	6.	情報伝達訓練	7.	介護を必要とする人の介助訓練		
8.	その他( )						

複数回答

図. どのような訓練が必要であると思うか



#### < その他回答 >

津波危険地区	全県
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に家を回り津波避難所を決める。</li> <li>・避難場所の確認。</li> <li>・避難するまでの訓練。</li> <li>・避難所への移動訓練。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の顔合わせ・連絡。</li> <li>・市民全員で行う合同避難訓練。</li> <li>・山間部で津波はないが区が孤立する恐れ有り。</li> <li>・ある程度のプロの人の育成。                      など</li> </ul>

どのような訓練が必要であると思うかについて、津波危険地区及び全県ともに「津波避難訓練」が最も多く、次いで「応急手当て訓練」となっている。

津波危険地区では、「津波避難訓練」(70.9%)が全県(50.3%)と比較し多くなっている。

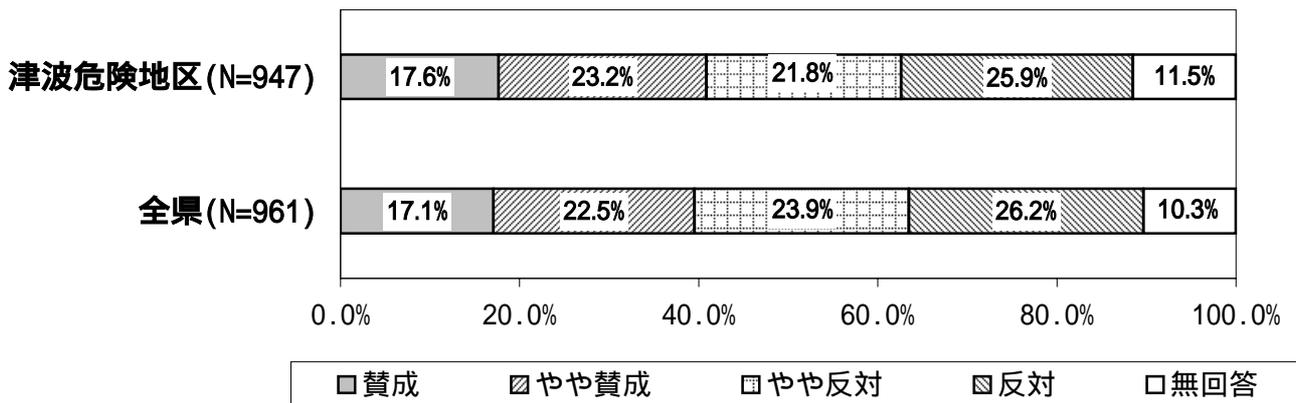
## 10. 災害への意識について

### 10 - 1 「防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ」についてどう思うか

問	「防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ」についてどう思いますか。
1. 賛成	2. やや賛成
3. やや反対	4. 反対

単数回答

図. 「防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ」についてどう思うか



「防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ」についてどう思うか、津波危険地区及び全県ともに「反対」が最も多く、次いで津波危険地区では「やや賛成」、全県では「やや反対」となっている。

防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだと思う人（「賛成」と「やや賛成」の合計）は、津波危険地区で40.9%、全県で39.5%と、約4割を占めている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

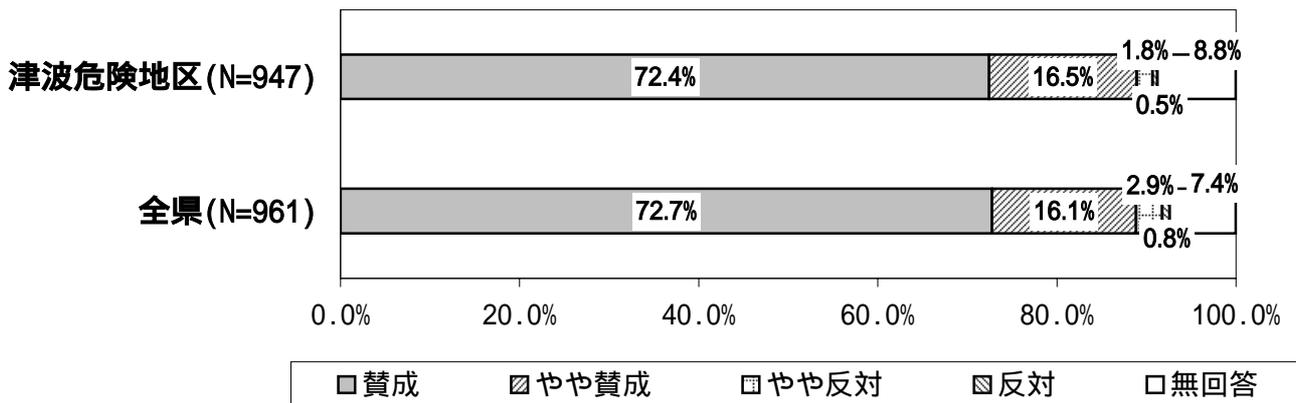
## 10. 災害への意識について

### 10 - 2 「大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ」についてどう思うか

問	「大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ」についてどう思いますか。
1. 賛成	2. やや賛成
3. やや反対	4. 反対

単数回答

図. 「大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ」についてどう思うか



「大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ」について、津波危険地区及び全県ともに「賛成」が最も多く、次いで「やや賛成」となっている。大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだと思う人（「賛成」と「やや賛成」の合計）は、津波危険地区及び全県で88.9%と、約9割を占めている。津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

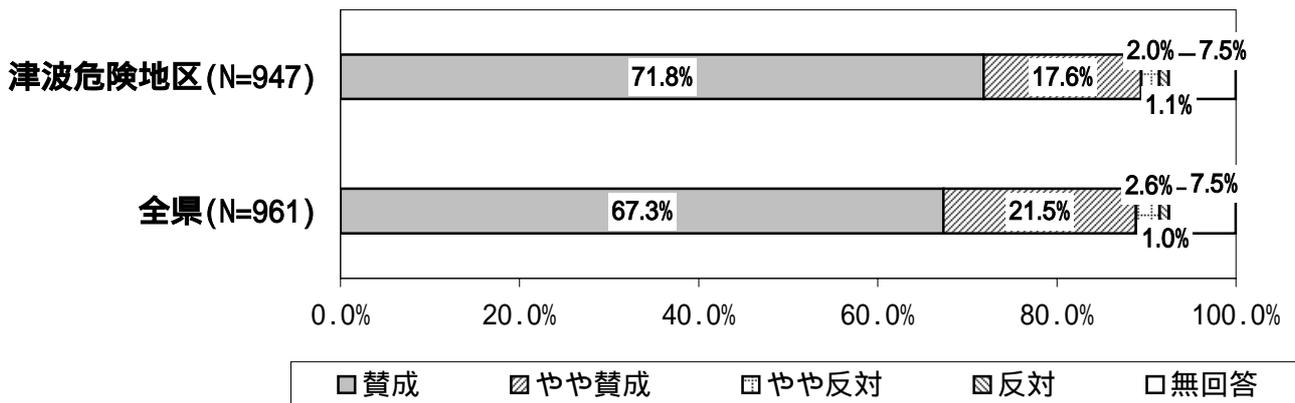
## 10. 災害への意識について

### 10 - 3 「大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない」についてどう思うか

問	「大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない」についてどう思いますか。
1. 賛成	2. やや賛成
3. やや反対	4. 反対

単数回答

図. 「大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない」についてどう思うか



「大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない」について、津波危険地区及び全県ともに「賛成」が最も多く、次いで「やや賛成」となっている。

大災害のときは自分の命は自分で守らなければならないと思う人（「賛成」と「やや賛成」の合計）は、津波危険地区で89.4%、全県で88.9%と、約9割を占めている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

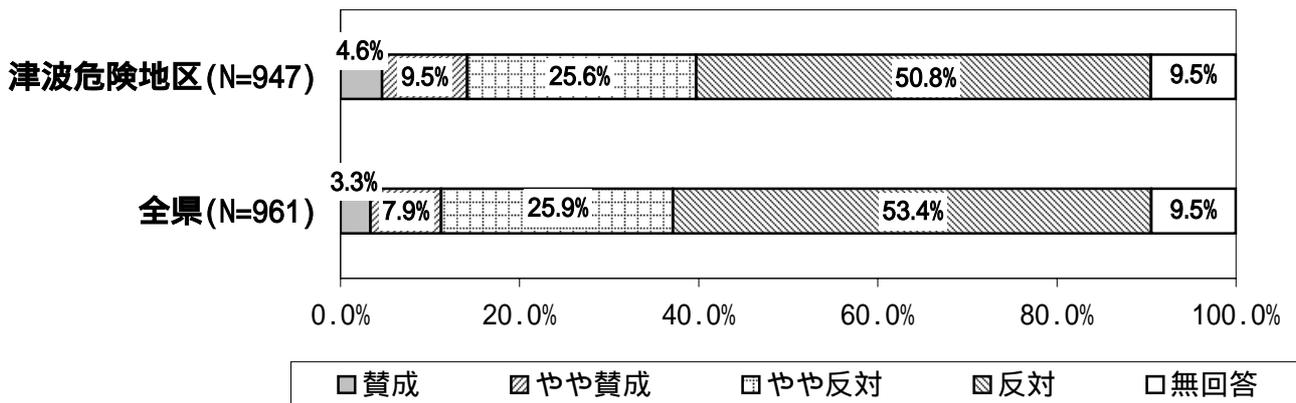
## 10. 災害への意識について

### 10 - 4 「災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ」についてどう思うか

問	「災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ」についてどう思いますか。
1. 賛成	2. やや賛成
3. やや反対	4. 反対

単数回答

図. 「災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ」についてどう思うか



「災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ」について、津波危険地区及び全県ともに「反対」が最も多く、次いで「やや反対」となっている。

災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだと思う人（「賛成」と「やや賛成」の合計）は、津波危険地区で14.1%、全県で11.1%と、約1割を占めている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

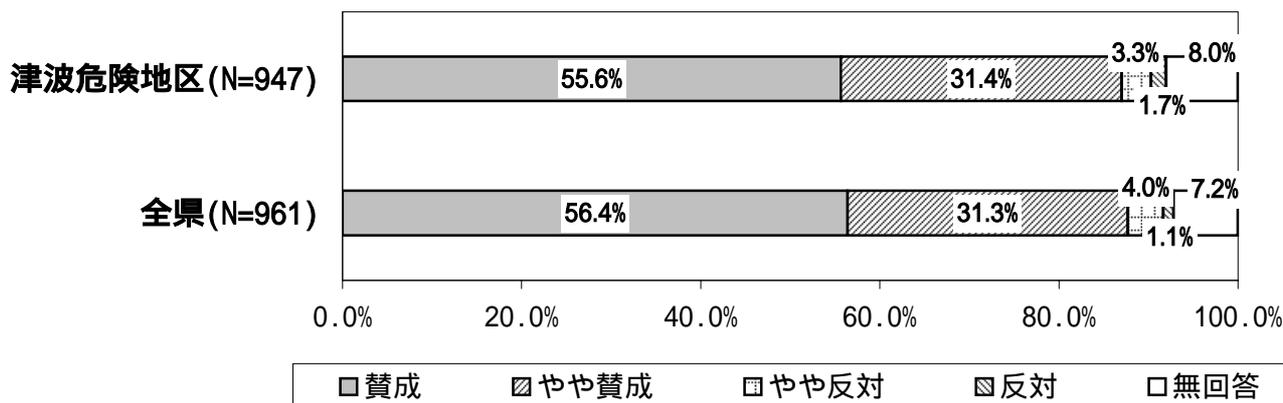
## 10. 災害への意識について

10 - 5 「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない」についてどう思うか

問	「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない」についてどう思いますか。			
	1. 賛成		2. やや賛成	
	3. やや反対		4. 反対	

単数回答

図. 「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない」についてどう思うか



「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない」について、津波危険地区及び全県ともに「賛成」が最も多く、次いで「やや賛成」となっている。

体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならないと思う人（「賛成」と「やや賛成」の合計）は、津波危険地区で87.0%、全県で87.7%と、約9割を占めている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

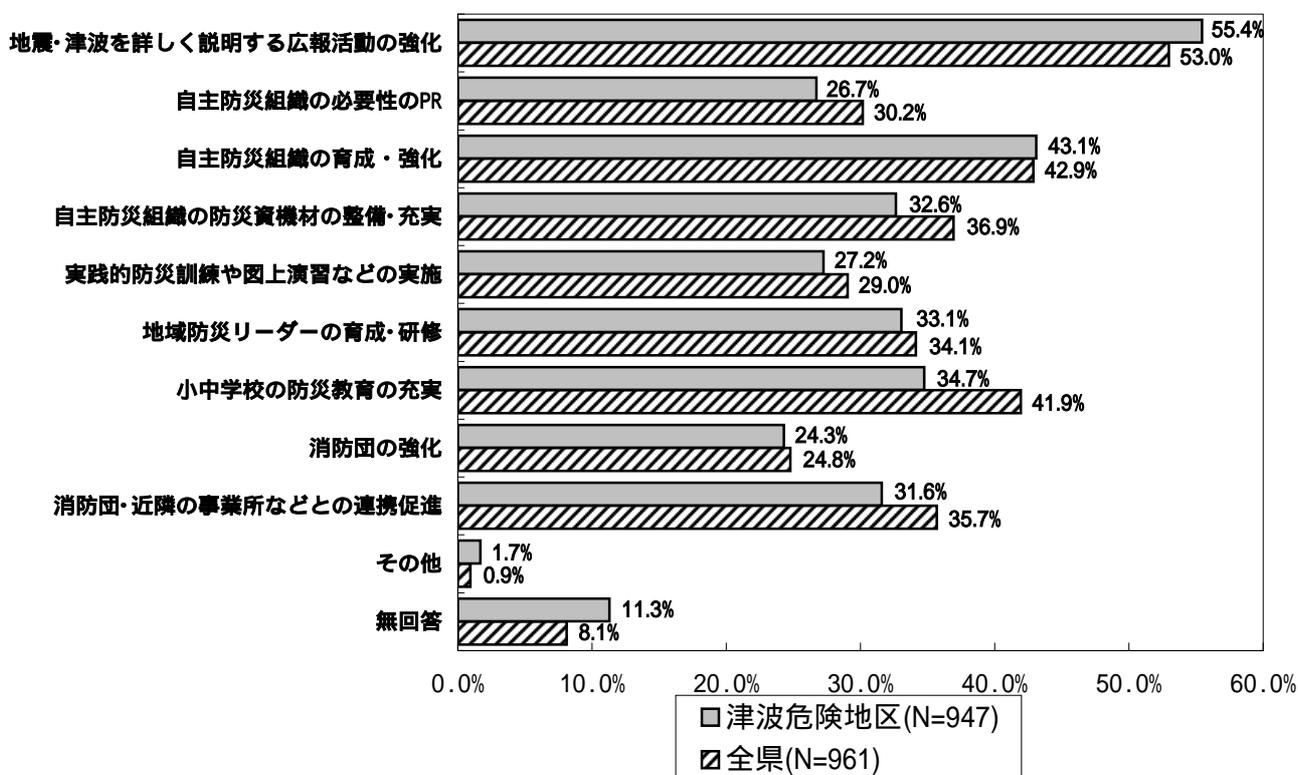
## 10. 災害への意識について

### 10 - 6 地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか

問	あなたがお住まいの地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか（いくつでも）。	
	1. 地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化	2. 自主防災組織の必要性のPR
	3. 自主防災組織の育成・強化	4. 自主防災組織の防災資機材の整備・充実
	5. 実践的防災訓練や図上演習などの実施	6. 地域防災リーダーの育成・研修
	7. 小中学校の防災教育の充実	8. 消防団の強化
	9. 消防団・近隣の事業所などとの連携促進	10. その他（ ）

複数回答

図. 地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか



#### <その他回答>

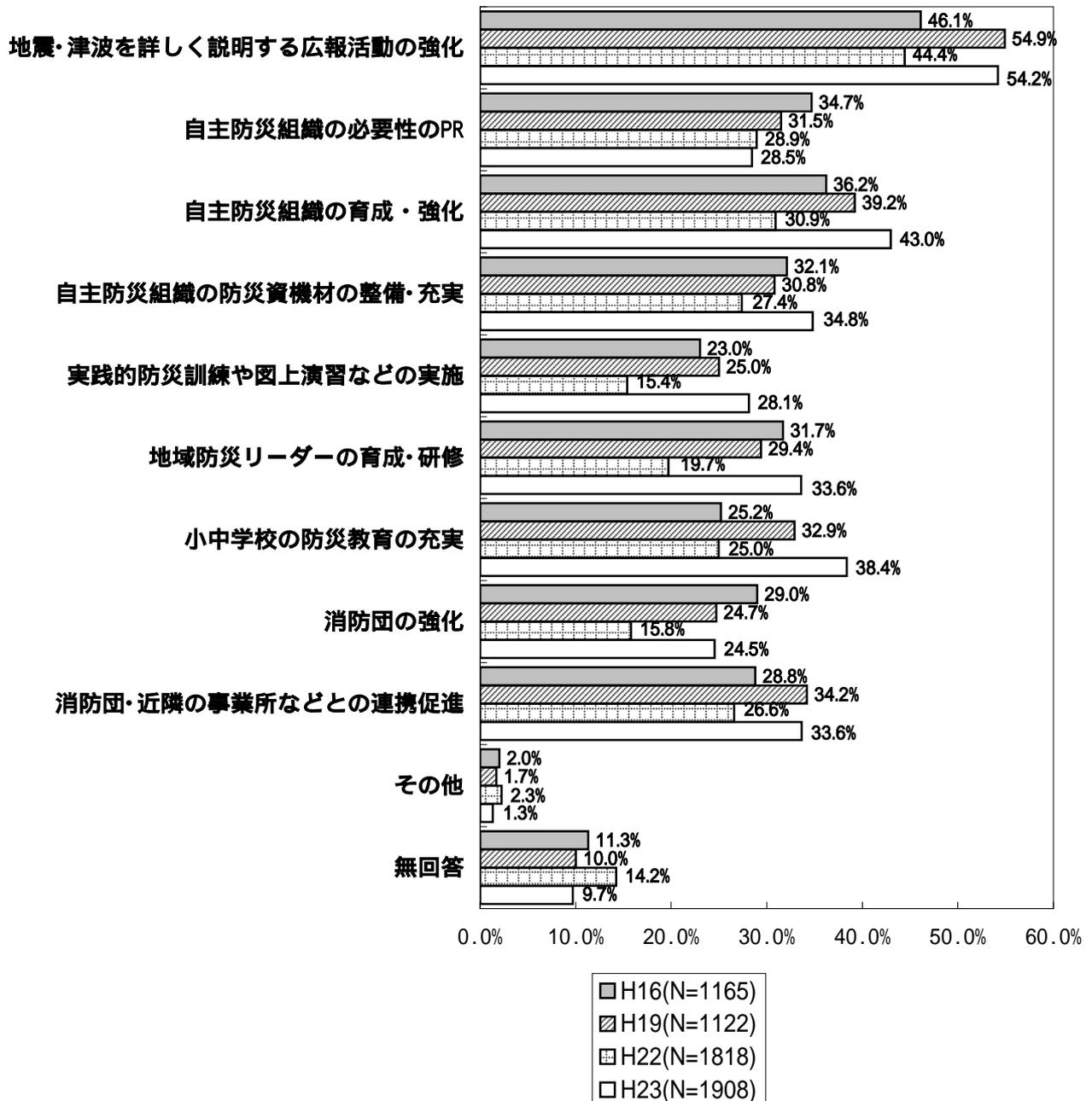
津波危険地区	全県
・定期的に助かる高台へ逃げる訓練をする。	・山だからわからない。
・入院患者の救助体制づくり。	・市は真剣に取り組んで欲しい。
・緊急避難の高台増加。	
・個人の防災意識向上。	など

地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うかについて、津波危険地区及び全県ともに「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」が最も多く、次いで「自主防災組織の育成・強化」となっている。

津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

10. 災害への意識について

図. 地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか  
～ 経年変化 ～



経年変化でみると、「自主防災組織の必要性のPR」(28.5%)は減少傾向にあるが、その他の8つの項目でH22より増加しており、そのうち5つの項目で過去最高の回答率となっている。

## 第4章 アンケート回答者の属性

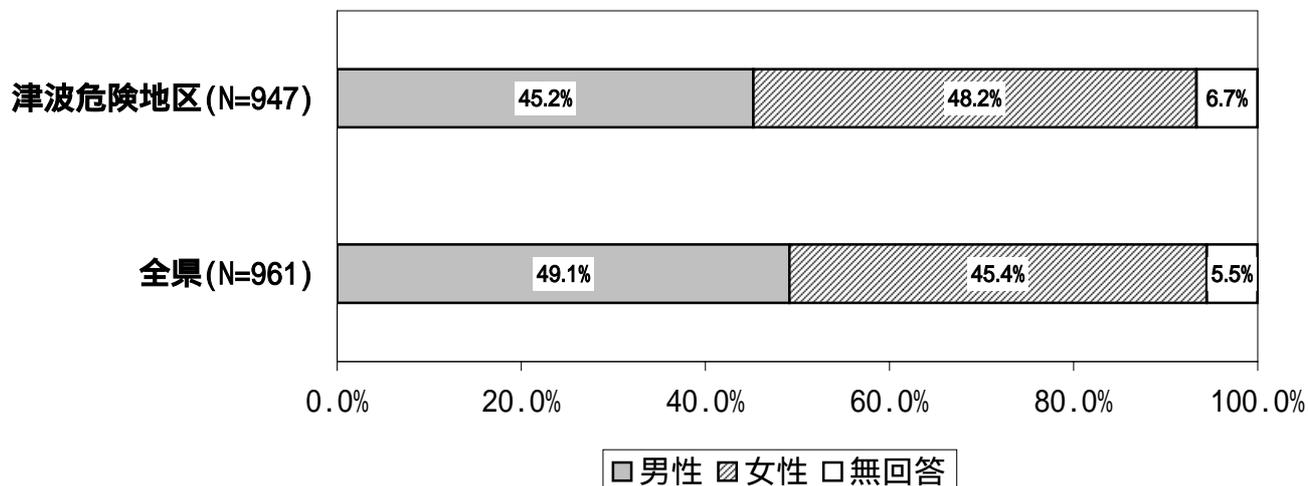
## アンケート回答者の属性

### 1 性別

F 1	性別
1. 男性	2. 女性

単数回答

図 性別

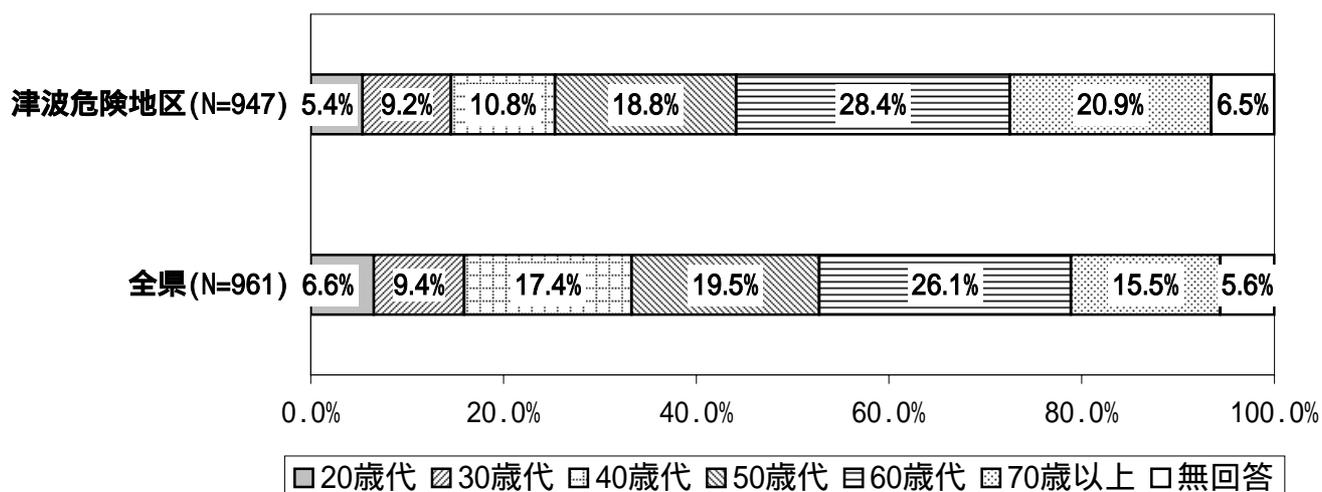


### 2 年齢

F 2	年齢				
1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上

単数回答

図 年齢



## アンケート回答者の属性

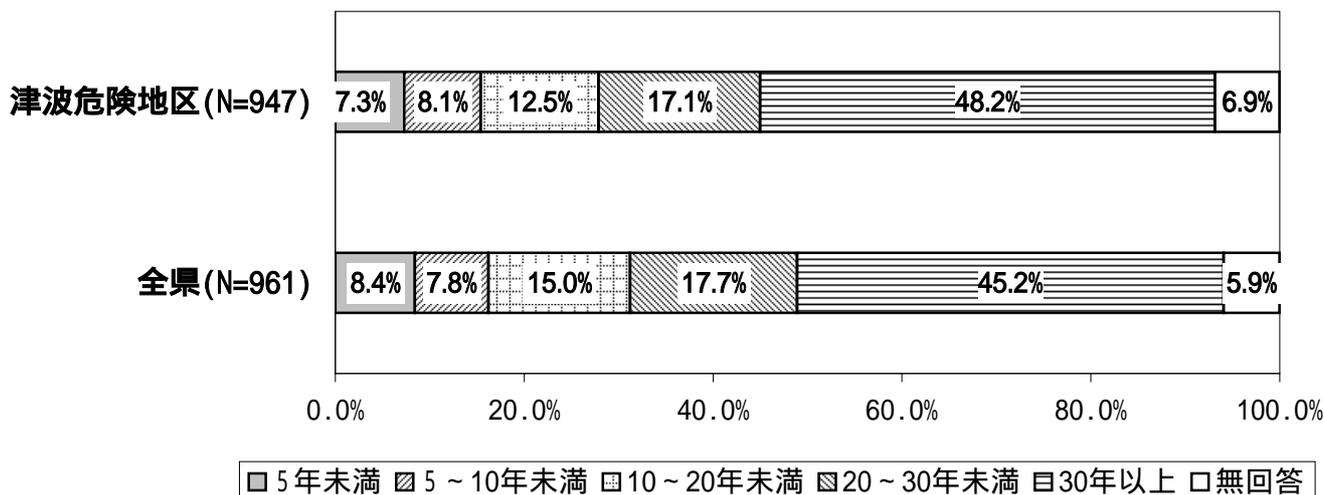
### 3 居住年数

F 3 あなたは、ここにお住みになってから何年になりますか（ひとつだけ）。

1. 5年未満 2. 5～10年未満 3. 10～20年未満 4. 20～30年未満 5. 30年以上

単数回答

図 居住年数



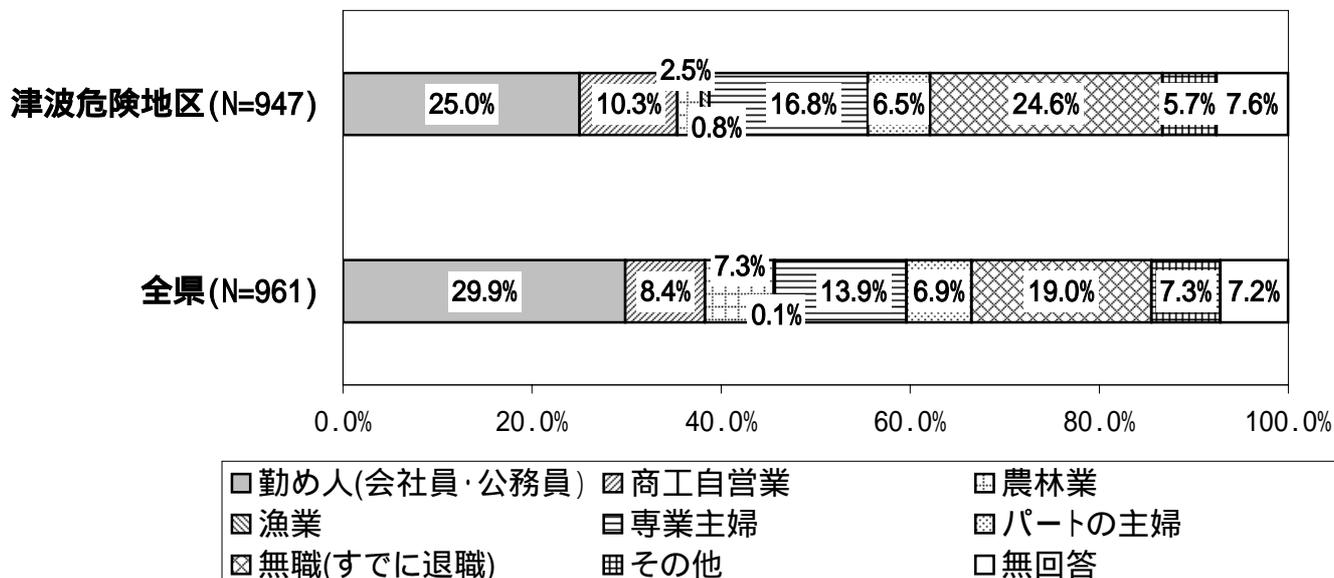
### 4 職業

F 4 職業

1. 勤め人（会社員・公務員） 2. 商工自営業 3. 農林業 4. 漁業  
5. 専業主婦 6. パートの主婦 7. 無職（すでに退職） 8. その他

単数回答

図 職業



## アンケート回答者の属性

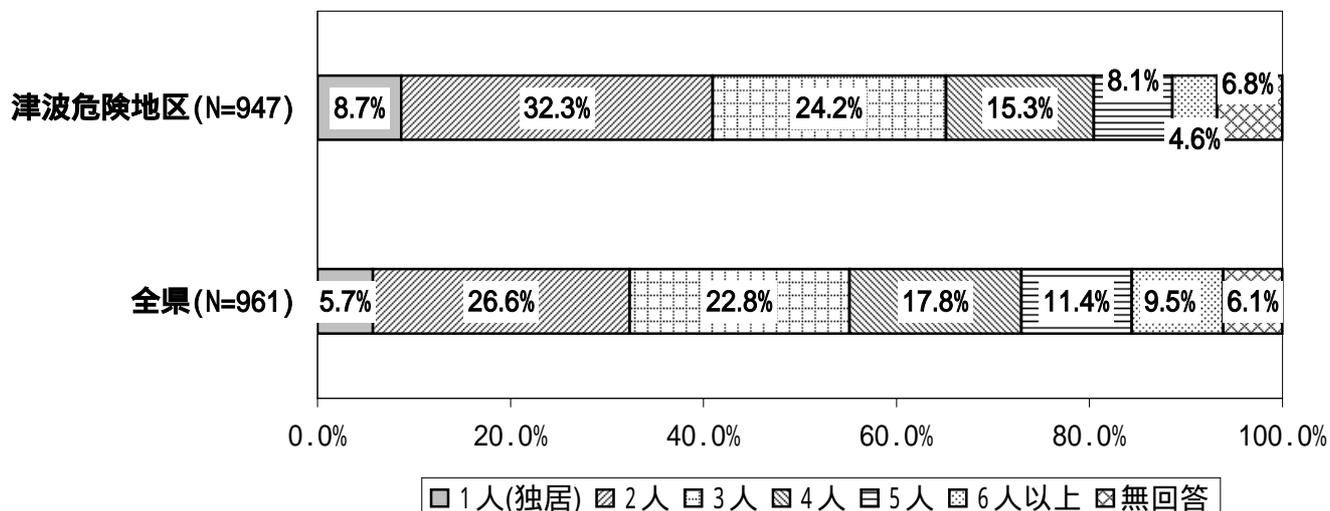
### 5 家族構成

F 5 同居しているご家族は何人いますか（ご本人も含め、ひとつだけ）。

1. 1人（独居） 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人以上

単数回答

図 同居人数

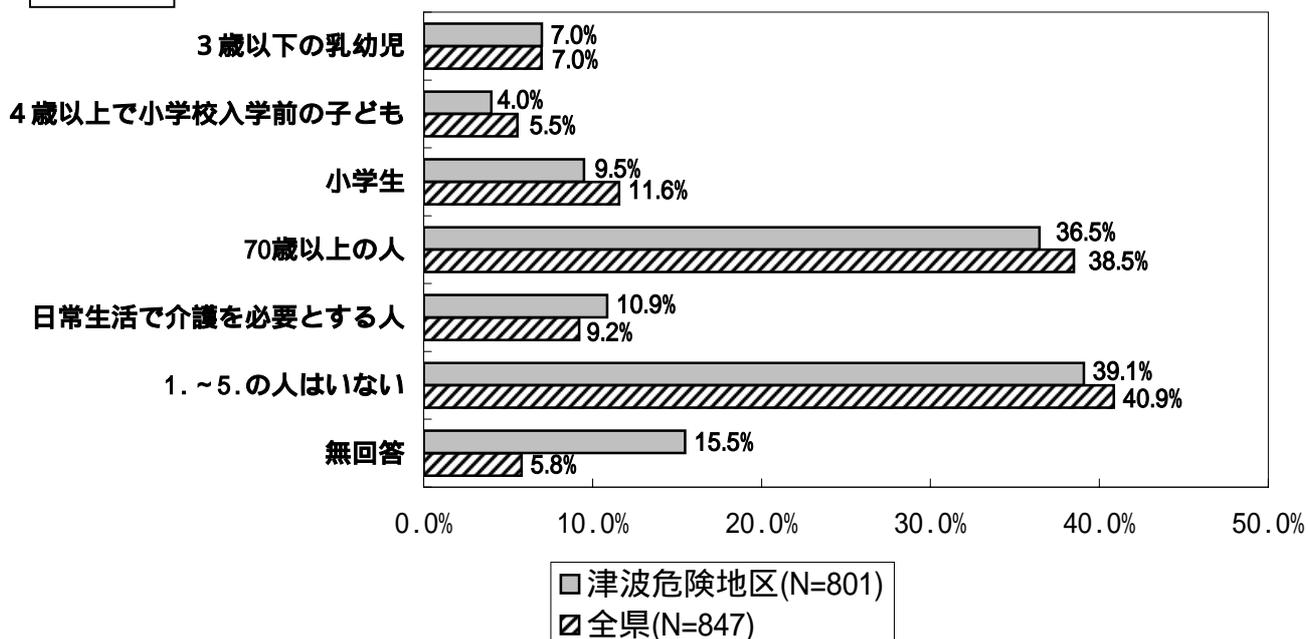


付問 同居しているご家族の中に次のような方はいらっしゃいますか（いくつでも）。

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 3歳以下の乳幼児       | 2. 4歳以上で小学校入学前の子ども |
| 3. 小学生            | 4. 70歳以上の人         |
| 5. 日常生活で介護を必要とする人 | 6. 1.~5.の人はいない     |

図 同居人構成

複数回答



## アンケート回答者の属性

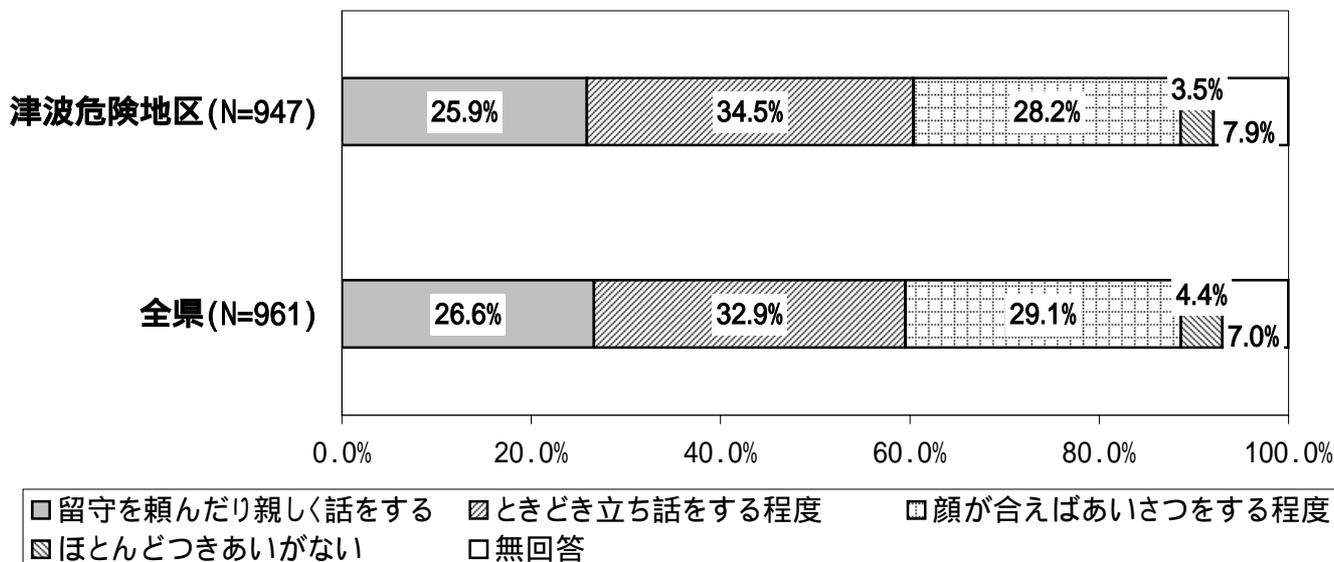
### 6 ご近所とのつきあい

F 6 あなたはご近所とどのようなおつきあいをしていますか（ひとつだけ）。

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1. 留守を頼んだり親しく話をする | 2. ときどき立ち話をする程度 |
| 3. 顔が合えばあいさつをする程度 | 4. ほとんどつきあいがいい  |

単数回答

図 ご近所とのつきあい



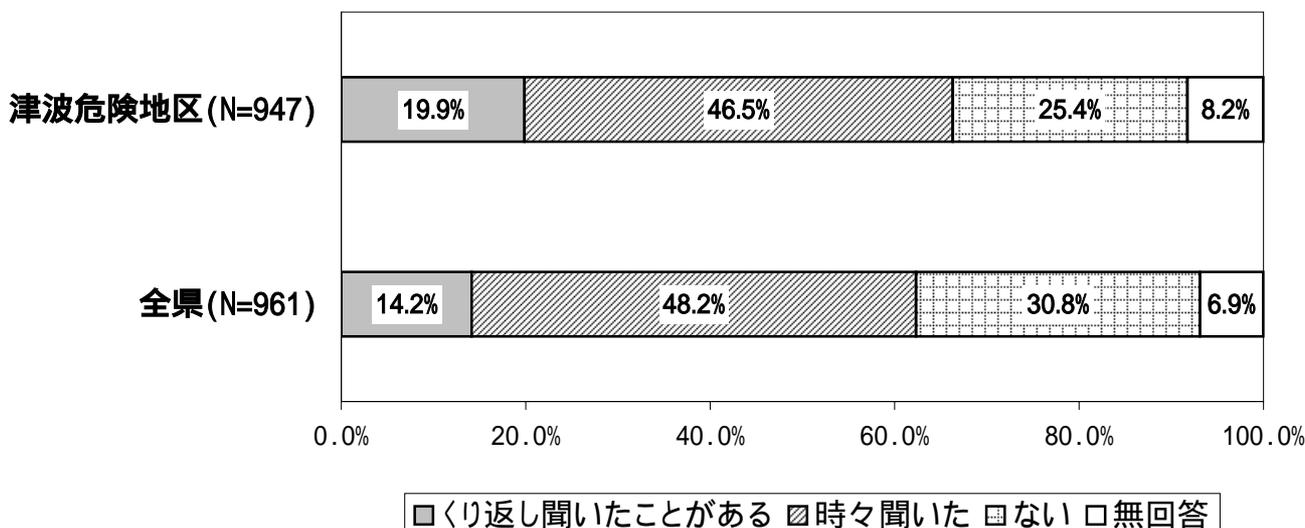
### 7 過去災害に関する話の伝承

F 7 あなたは子どもの頃、昔起きた地震や津波について、親や祖父母、近所の人から、話を聞いたことがありますか（ひとつだけ）。

- |                 |          |       |
|-----------------|----------|-------|
| 1. くり返し聞いたことがある | 2. 時々聞いた | 3. ない |
|-----------------|----------|-------|

単数回答

図 過去災害に関する話の伝承



## アンケート回答者の属性

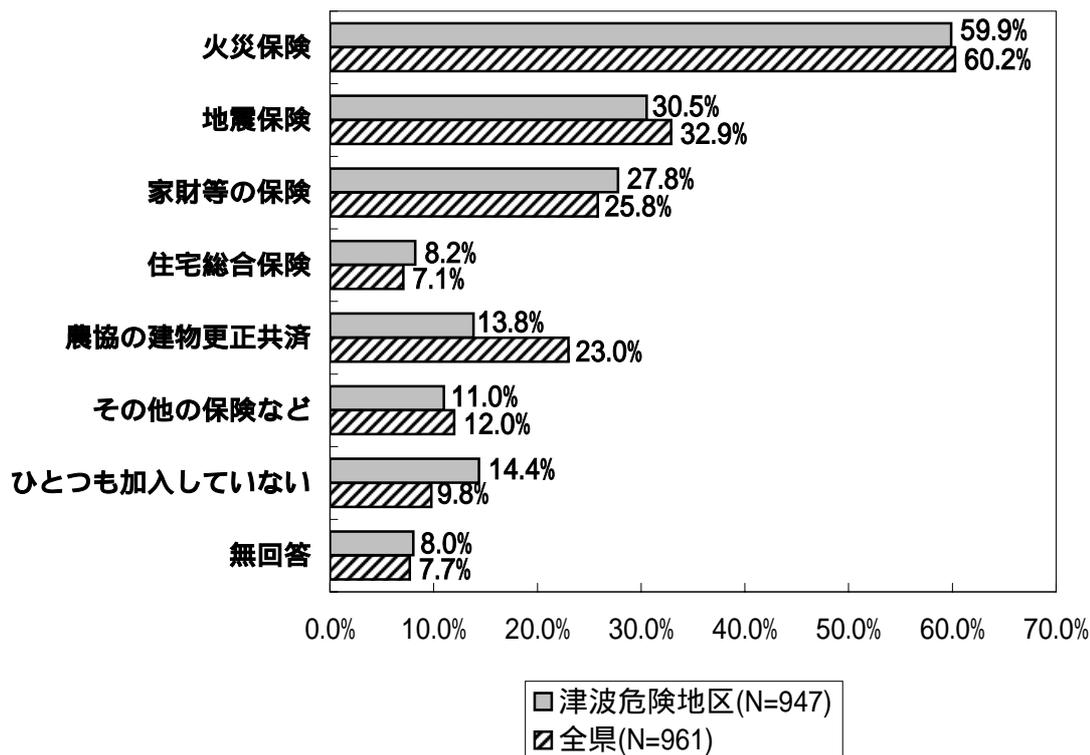
### 8 加入している保険

F 8 お宅で加入している保険にはどのようなものがありますか(いくつでも)。

- |                       |              |             |
|-----------------------|--------------|-------------|
| 1. 火災保険               | 2. 地震保険      | 3. 家財等の保険   |
| 4. 住宅総合保険             | 5. 農協の建物更正共済 | 6. その他の保険など |
| 7. 1.~6.にはひとつも加入していない |              |             |

複数回答

図 加入している保険



## 第 5 章 參考資料

# 1 津波危険地区一覧

津波危険地区とは：東南海・南海地震による津波で全域もしくはほとんどが浸水深1m以上と想定される地区（町丁目・大字）

平成23年6月2日現在

和歌山市	久保丁4丁目、上町、網屋町、材木丁、植松丁、西河岸町、加納町、北土佐丁、舟津町1丁目、舟津町4丁目、築港1丁目、築港2丁目、築港3丁目、築港4丁目、築港5丁目、築港6丁目、湊御殿1丁目、湊御殿2丁目、湊御殿3丁目、湊（紀の川以北）、宇須4丁目、塩屋1丁目、打越町、小雑賀、中島、湊（紀の川以南）、島橋東ノ丁、島橋西ノ丁、島橋南ノ丁、島橋北ノ丁、土入、塩屋2丁目、塩屋3丁目、塩屋4丁目、塩屋5丁目、塩屋6丁目、西浜、西浜3丁目、新和歌浦、和歌浦東1丁目、和歌浦東2丁目、和歌浦東3丁目、和歌浦東4丁目、和歌浦中1丁目、和歌浦中2丁目、和歌浦中3丁目、和歌浦西1丁目、和歌浦西2丁目、和歌浦南1丁目、和歌浦南2丁目、和歌浦南3丁目、和歌川町、内原、紀三井寺、毛見、布引、三葛
海南市	船尾地区（全地区）、黒江地区（南ノ浜、西ノ浜、天王、宮ノ坂、元屋敷、黒牛、市場、北五、北四）、日方地区（全地区）、名高地区、築地地区（井引、新浜、糺、宮ノ浜、蓬萊、大須賀、中須賀、築地）、鳥居地区（舟津浜、舟津北、船津南、東出、日限）、藤白地区（藤白南、藤白北）、冷水地区（冷水1、2、3）、下津地区（東、新田、西）、方地区（方北、方南、女良）、大崎地区（全地区）、塩津地区（全地区）、丸田地区（戸坂）
御坊市	藪(1～996)、御坊(1～290)、名屋(1～234)、名屋町一丁目(1～15)、名屋町二丁目(4～11)、名屋町三丁目(1～9)、島(籠田143～181)、島(田中182～228)、島(石橋229～257)、島(竹馬258～304)、島(天目山305～326)、島(後川327～349)、島(出店352～387)、島(堤ノ元388～421)、島(溝端519～542)、島(上新田897～935)、島(中新田936～992)、島(桑木下新田993～1030)、島(外新田1031～1070)、島(外川原1071～1119)、湯川町財部(瀬崎70～83)、湯川町財部(藤免84～89)、湯川町財部(細田90～108)、湯川町財部(森崎109～126)、湯川町財部(堂の前127～139)、湯川町財部(清水本140～150)、湯川町財部(南林田151～168)、湯川町財部(磯田169～184)、湯川町財部(左津鍋185～191)、湯川町財部(北林田192～198)、湯川町財部(亀田199～212)、湯川町財部(南奈津213～217)、湯川町財部(北奈津218～223)、湯川町財部(神田224～236)、湯川町財部(大水口237～252)、湯川町財部(岡之段253～320)、湯川町財部(南樋巻473～483)、湯川町財部(藪田484～509)、湯川町財部(北庄弥510～515)、湯川町財部(能田516～521)、湯川町財部(立野522～532)、湯川町財部(西角533～538)、湯川町財部(川原田575～582)、湯川町財部(北無栗583～593)、湯川町財部(中露595～600)、湯川町財部(南庄弥601～613)、湯川町財部(平田614～620)、湯川町財部(小付田621～629)、湯川町財部(堅田630～640)、湯川町財部(砂取641～645)、湯川町財部(深田646～650)、湯川町財部(分田651～662)、湯川町財部(南無栗663～669)、湯川町財部(伊勢田670～676)、湯川町財部(四ツ枝686～695)、湯川町財部(北尻戸696～704)、湯川町財部(九文明705～713)、湯川町財部(野田714～721)、湯川町財部(南尻戸722～733)、湯川町財部(畑ヶ田734～744)、湯川町財部(市之坪745～752)、湯川町小松原(瀬崎坪577～613)、湯川町小松原(南早雲坪614～650)、湯川町小松原(北早雲坪652～683)、湯川町丸山(袋116～151)、湯川町丸山(久保田175～214)、湯川町丸山(大町215～256)

御坊市	<p>、湯川町丸山(寺田281～330)、湯川町丸山(幸田331～386)、湯川町丸山(高皿387～401)、湯川町富安(八ヶ坪1756～1771)、湯川町富安(秋ヶ坪1786～1817)、湯川町富安(冷ヶ洲1818～1831)、湯川町富安(佃1832～1845)、藤田町吉田(出島464～503)、塩屋町北塩屋(川原676～682)、塩屋町北塩屋(北湊683～720)、塩屋町北塩屋(湊747～764)、塩屋町北塩屋(上ノ芝813～835)、塩屋町北塩屋(かうろぎ836～867)、塩屋町北塩屋(岩崎868～900)、塩屋町北塩屋(溝端901～950)、塩屋町北塩屋(北濱951～983)、塩屋町北塩屋(東畑984～1015)、塩屋町北塩屋(中濱1016～1046)、塩屋町北塩屋(井戸ノ本1047～1073)、塩屋町北塩屋(辻ノ本1074～1091)、塩屋町北塩屋(南濱1092～1122)、塩屋町北塩屋(新浜1123～1143)、塩屋町北塩屋(宮山畑1144～1164)、塩屋町北塩屋(屋瀬1412～1437)、塩屋町北塩屋(西惣毛1438～1451)、塩屋町北塩屋(東惣毛1461～1473)、塩屋町北塩屋(平田1474～1493)、塩屋町北塩屋(柳ヶ坪1494～1502)、塩屋町北塩屋(黒免1503～1510)、塩屋町北塩屋(洪水原1511～1523)、塩屋町北塩屋(姥免1524～1531)、塩屋町北塩屋(松葉嶋1532～1582)、塩屋町北塩屋(岡崎1612～1664)、塩屋町北塩屋(寺尾1665～1701)、塩屋町北塩屋(川端1702～1721)、塩屋町北塩屋(向田1722～1766)、塩屋町北塩屋(宇路山1767～1807)、塩屋町北塩屋(千原1843～1872)、塩屋町北塩屋(西垣内1873～1902)、塩屋町北塩屋(猪ノ野端1971～2027)、塩屋町北塩屋(芋ヶ原2028～2073)、塩屋町北塩屋(矢田口2181～2207)、塩屋町南塩屋(塩浜1～12)、塩屋町南塩屋(東大人13～81)、塩屋町南塩屋(西大人82～115)、塩屋町南塩屋(松下116～150)、塩屋町南塩屋(西上畠151～194)、塩屋町南塩屋(東上畠195～282)、塩屋町南塩屋(新屋垣内328～345)、塩屋町南塩屋(藤殿畠389～418)、塩屋町南塩屋(須佐ノ本419～450)、塩屋町南塩屋(須佐ノ上451～473)、塩屋町南塩屋(濱ノ上474～514)、塩屋町南塩屋(井ノ上878～904)、塩屋町南塩屋(宮の前905～916)、塩屋町南塩屋(菖蒲ヶ本917～931)、塩屋町南塩屋(町田932～949)、塩屋町南塩屋(和喜田950～968)、塩屋町南塩屋(綴宝田969～987)、塩屋町南塩屋(嘉尔田988～1000)、塩屋町南塩屋(富那免1001～1018)、塩屋町南塩屋(紫端田1066～1083)、塩屋町南塩屋(池尻1084～1107)、塩屋町南塩屋(横枕1108～1117)、塩屋町南塩屋(天ノ谷1118～1139)、塩屋町南塩屋(空ヶ谷1140～1165)、塩屋町南塩屋(講田1166～1179)、塩屋町南塩屋(牛飼1180～1189)、塩屋町南塩屋(後田1190～1224)、塩屋町南塩屋(宝長1225～1241)、塩屋町南塩屋(林の前1242～1266)、塩屋町南塩屋(九反坪1267～1285)、塩屋町南塩屋(道場田1538～1550)、名田町野島(古谷530～619)、名田町野島(塚原1308～1333)、名田町野島(深美2039～2180)、名田町野島(後ノ芝2333～2441)、名田町野島(馬地2442～2580)、名田町野島(壁川2964～3018)、名田町上野(津梅1～55)、名田町上野(反方330～386)、名田町上野(中ノ岡1239～1299)、名田町上野(中ノ岡1239～1299)、名田町上野(浜畑1509～1530)、名田町上野(西垣内1531～1549)、名田町上野(清水1621～1641)、名田町楠井(向田1000～1023)、名田町楠井(尾ノ岡1024～1051)、名田町楠井(坂本1834～1846)</p>
-----	--

田辺市	新庄町(北鳥の巣3824～4067)、新庄町(北内の浦2989～3147)、新庄町(東内の浦3148～3433)、新庄町(西内の浦3623～3823)、新庄町(東跡の浦2611～2708)、新庄町(西跡の浦2401～2609)、新庄町(名喜里1839～2055)、新庄町(出井2158～2400)、新庄町(新田2056～2157)、新庄町(田中632～710)、新庄町(成川484～636)、新庄町(土手内373～483)、新庄町(西橋谷1～156、4227)、新庄町(中橋谷157～248)、新庄町(東橋谷249～372)、湊(松原畑321～531)、芳養町(井原808～955)、芳養町(東井原956～1014)、芳養町(七石166～309)、芳養松原一丁目、芳養松原二丁目(27～38)、上屋敷一丁目、上屋敷二丁目、上屋敷三丁目、中屋敷町、新屋敷町、栄町、今福町、福路町、本町、紺屋町、片町、磯間、末広町、扇ヶ浜、目良、江川、天神崎、文里一丁目、文里二丁目
新宮市	三輪崎、三輪崎字高野坂、三輪崎字大峪、三輪崎1丁目、三輪崎3丁目、佐野、佐野1丁目、佐野2丁目、佐野3丁目、王子町3丁目
湯浅町	田(3～96番地、207～272番地、300～386番地)、田(546、1006、1045～1050番地)、田(1153～1186番地、1194～1201番地)、田(1218～1294番地)、栖原(477～1012番地、1382～1406番地)、栖原(1426～1447番地)、港、なぎ区、新屋敷、北浜町、南浜町、北中町、中々町、南中町、北町、北鍛冶町、南鍛冶町、蔵町、道町北、北道、宮西、中川原、島の内、中ノ島、北栄1、北栄2、北栄3、横浜
広川町	大字広(天皇区)、字広(湊浜町)大字広(西浜町)、字広(湊中町)、字広(西中町)、大字広(田町)、大字広(中之町)、大字広(本町)、大字広(昭和通北)、大字広(昭和通中)、大字広(昭和通南)、大字広(みどり区)、大字広(東之町)、大字広(西之町)、大字広(南之町)、大字広(北之町)、大字広(熊之町)、大字広(学園町)、大字広(旭町)、大字西広、大字唐尾、大字山本
美浜町	大字田井
日高町	大字小浦字新出、字中通、字東出、大字比井字波戸ノ内、字西出、字北出、字濱田、字向井、字神田、字溝手、字川添、大字産湯字大江原、字向井、字中北、字松原、字森後、字初湯河、字川尻、大字阿尾字大代、字小代、字向井濱、字本濱、字畠ノ尾、字尾崎、字岡ヶ峯、字後田、字洲野
由良町	由良町里(里地区)、由良町里(横浜地区)、由良町里(南地区)、由良町阿戸(阿戸地区)、由良町網代(網代地区)、由良町江ノ駒(江ノ駒地区)、由良町吹井(吹井地区、柳原地区、糸谷地区)、由良町神谷(神谷地区)、由良町大引(大引地区)、由良町小引(小引地区)、由良町戸津井(戸津井地区)、由良町衣奈(衣奈地区)、由良町三尾川(三尾川地区)
印南町	印南、西ノ地、島田(2300番地より大きい物を除く)
みなべ町	山内地区
白浜町	瀬戸、白浜、湯崎1丁目、湯崎3丁目、東白浜、細野、サニービーチ、才野、堅田西、中、富田、椿、市江、笠甫、日の出
すさみ町	平松、下地二、堀地、江住

那智勝浦町	宇久井600～710番地、宇久井385番地台、浜ノ宮350～434番地、天満130～150、天満220～260、天満400番地台、天満700～800番地台、朝日4丁目全域、朝日3丁目80～90番地台、北浜全域、築地全域、勝浦（93～960、1006、1007番地を除く）、二河85、二河1594、二河1595番地、下里900番地台、下里2729～2735、下里1000～1026、下里1070～1120、下里2600番地台、下里2520～2570番地、粉白1～210番地、浦神全域
太地町	大字森浦143番地～206番地、大字森浦551番地～611番地、大字森浦684番地、大字森浦703番地、大字太地（水ノ浦地区）、大字太地（暖海地区）
串本町	串本、二色、高富、鬮野川、出雲、有田、田並、江田、田子、和深、大島、須江、檉野、姫、伊串、西向、神野川、中湊、古座、津荷、田原

## 2 単純集計表

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震についてお聞きします

問1 この3月11日(金)午後2時46分頃、太平洋三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が起き、震源域に近い東北地方の太平洋岸では、高い津波が甚大な被害をもたらしました。和歌山県沿岸にも全域に大津波警報が発表されましたが、この地震が発生した時、あなたはどこにいましたか(ひとつだけ)。		H23	H22	H19	H16
1	自宅	49.9%	-	-	-
2	港・海沿いの屋外	2.3%	-	-	-
3	海上の船の中	0.2%	-	-	-
4	住んでいる市町村内の自宅以外の建物の中	26.1%	-	-	-
5	住んでいる市町村内にはいなかった	14.0%	-	-	-
6	その他	7.0%	-	-	-
7	無回答	0.4%	-	-	-

問2 あなたは、お住まいの地域に津波が来ると思いましたか(ひとつだけ)。		H23	H22	H19	H16
1	津波が必ず来ると思った	10.9%	-	-	-
2	津波が来るかもしれないと思った	49.9%	-	-	-
3	津波は来ないだろうと思った	27.1%	-	-	-
4	津波のことはほとんど考えなかった	11.4%	-	-	-
5	無回答	0.6%	-	-	-

問3 地震の後どのくらいで津波が来ると思いましたか(ひとつだけ)。		H23	H22	H19	H16
1	すぐ逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った	5.9%	-	-	-
2	津波は早く来るが、服を着て、車に荷物を積んで逃げるくらいの余裕はあると思った	20.7%	-	-	-
3	津波が来るまでには、かなりの余裕があった	43.8%	-	-	-
4	津波が来るとは思わなかった	28.4%	-	-	-
5	無回答	1.2%	-	-	-

問4 この地震では、直後に発表された津波注意報から41分後に津波警報が、津波警報発表から38分後に大津波警報が発表されました。あなたは、この津波警報や大津波警報をお聞きになりましたか(ひとつだけ)。		H23	H22	H19	H16
1	聞いた(付問1へ)	78.7%	-	-	-
2	聞かなかった(問5へ)	17.7%	-	-	-
3	無回答	3.6%	-	-	-

付問1 あなたはその津波警報や大津波警報をどのようにして知りましたか(いくつでも)。		H23	H22	H19	H16
1	テレビから	77.2%	-	-	-
2	ラジオから	6.2%	-	-	-
3	携帯メール	5.8%	-	-	-
4	防災無線の戸別受信機から	3.4%	-	-	-
5	防災無線の屋外拡声器から	34.2%	-	-	-
6	市町村の広報車から	7.2%	-	-	-
7	家族や近所の人から	11.1%	-	-	-
8	警察や消防の人から	3.8%	-	-	-
9	その他	4.7%	-	-	-
10	無回答 (続いて 付問2へ)	0.0%	-	-	-

付問2 あなたは、この津波警報や大津波警報を聞いた時どのように思いましたか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	津波警報を聞いてすぐに避難しなければいけないと思った	6.0%	-	-	-
2	大津波警報を聞いてすぐに避難しなければいけないと思った	9.4%	-	-	-
3	津波警報を聞いて避難した方がいいかもしれないと思った	9.3%	-	-	-
4	大津波警報を聞いて避難した方がいいかもしれないと思った	19.9%	-	-	-
5	警戒する必要があるが、海の様子を見てから判断した方がよいと思った	24.7%	-	-	-
6	避難する必要はないと思った	23.6%	-	-	-
7	その他	3.9%	-	-	-
8	無回答	3.2%	-	-	-

問5 この地震の後、「津波の危険があるので避難するように」と避難勧告又は避難指示が沿岸すべての市町村でありました。あなたご自身は市町村からの避難の呼びかけを聞きましたか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	聞いた(付問1へ)	59.2%	-	-	-
2	聞かなかった(問6へ)	27.9%	-	-	-
3	自分の住んでいる市町村は避難の呼びかけをしなかったと思う(問6へ)	6.2%	-	-	-
4	無回答	6.7%	-	-	-

付問1 あなたはその避難の呼びかけをどのようにして知りましたか(いくつでも)。					
		H23	H22	H19	H16
1	テレビから	43.0%	-	-	-
2	ラジオから	5.0%	-	-	-
3	携帯メール	3.7%	-	-	-
4	防災無線の戸別受信機から	4.8%	-	-	-
5	防災無線の屋外拡声器から	62.7%	-	-	-
6	市町村の広報車から	18.9%	-	-	-
7	家族や近所の人から	11.6%	-	-	-
8	警察や消防の人から	7.8%	-	-	-
9	その他	3.4%	-	-	-
10	無回答	0.4%			

(続いて 付問2へ)

付問2 あなたはその避難の呼びかけをどのように受け止めましたか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	避難するように命令されたを受けとめた	10.3%	-	-	-
2	できるだけ避難した方がよいと受けとめた	32.8%	-	-	-
3	どちらかといえば避難した方がよいと受けとめた	36.2%	-	-	-
4	自分の住んでいる地域のことだとは思わなかった	11.8%	-	-	-
5	その他	6.6%	-	-	-
6	無回答	2.3%	-	-	-

問6 では、あなたは実際に避難しましたか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	避難しなかった(付問1へ)	81.4%	-	-	-
2	避難した(付問2へ)	16.8%	-	-	-
3	無回答	1.8%	-	-	-

付問1 あなたはなぜ避難しなかったのですか(いくつでも)。					
		H23	H22	H19	H16
1	その時いた場所が危険とは思わなかったので	57.5%	-	-	-
2	市町村から避難勧告や避難指示の呼びかけを知らなかったので	15.4%	-	-	-
3	海や川の水が大きく引くなどの前兆がなかった	11.4%	-	-	-
4	防波堤や防潮堤を越えるような大きな津波は来ないと思ったので	25.3%	-	-	-
5	予想される津波の高さが2mとか3mと放送していたので、危険とは思わなかった	23.7%	-	-	-
6	テレビが放送していた港や海の様子をみて危険とは思わなかった	14.0%	-	-	-
7	体が不自由な家族がいて、避難できなかった	2.3%	-	-	-
8	ぐっすり寝ていたから	0.1%	-	-	-
9	車など避難する手段がなかった	0.5%	-	-	-
10	迷っているうちに避難し損ねた	4.2%	-	-	-
11	津波のことは考えつかなかった	6.0%	-	-	-
12	その他	12.3%	-	-	-
13	無回答	0.8%	-	-	-
		(続いて 問7へ)			

付問2 あなたが避難したのはどこですか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	公民館や学校など市町村が指定した避難場所	28.9%	-	-	-
2	津波の危険がない、屋外の高台	30.2%	-	-	-
3	津波の危険がない、親戚・知人宅	22.0%	-	-	-
4	その他	17.0%	-	-	-
5	無回答	1.9%	-	-	-
		(続いて 付問3へ)			

付問3 あなたはどのような手段で避難しましたか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	徒歩	45.9%	-	-	-
2	自転車	5.0%	-	-	-
3	オートバイ	1.3%	-	-	-
4	車	39.6%	-	-	-
5	その他	4.4%	-	-	-
6	無回答	3.8%	-	-	-
		(続いて 付問4へ)			

付問4 あなたが避難し終わったのは何時頃でしたか。					
		H23	H22	H19	H16
1	地震発生後 30分 以内	8.8%	-	-	-
2	地震発生後 30分 ~ 1時間	9.4%	-	-	-
3	地震発生後 1時間 ~ 2時間	28.9%	-	-	-
4	地震発生後 2時間 ~ 3時間	15.1%	-	-	-
5	地震発生後 3時間 ~ 4時間	8.8%	-	-	-
6	地震発生後 4時間 ~ 5時間	5.0%	-	-	-
7	地震発生後 5時間 ~ 6時間	2.5%	-	-	-
8	地震発生後 6時間 ~ 12時間	3.8%	-	-	-
9	地震発生後 12時間 ~ 24時間	2.5%	-	-	-
10	無回答	15.1%	-	-	-
		(続いて 付問5へ)			

付問5 あなたが避難したきっかけは何でしたか(いくつでも)。					
		H23	H22	H19	H16
1	以前津波を体験したので、津波が来ると思った	9.4%	-	-	-
2	地震の揺れ具合から津波が来ると思った	10.1%	-	-	-
3	海や川の水が大きく引いたので	7.5%	-	-	-
4	家族が避難しようと言ったので	22.0%	-	-	-
5	近所の方が避難するように言ったので	13.8%	-	-	-
6	市町村が避難を呼びかけたので	41.5%	-	-	-
7	津波警報や大津波警報を聞いたので	48.4%	-	-	-
8	役場や消防の人が来て、説得されたので	0.6%	-	-	-
9	実際に津波に襲われたので	1.3%	-	-	-
10	テレビの映像を見たため	34.0%	-	-	-
11	その他	14.5%	-	-	-
12	無回答	4.4%	-	-	-

東南海・南海地震についてお聞きします

問7 あなたは東南海地震や南海地震にどの程度関心を持っていますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	非常に関心がある	44.6%	30.3%	37.3%	39.7%
2	関心がある	40.6%	49.3%	46.3%	40.9%
3	多少関心がある	12.8%	19.0%	15.1%	15.3%
4	関心がない	0.7%	1.0%	0.9%	1.0%
5	無回答	1.4%	0.4%	0.4%	3.0%

問8 あなたは、東南海地震または南海地震が起こる可能性について、どのように思っていますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	明日起きても不思議はないと思っている	46.1%	36.7%	36.0%	37.3%
2	2～3年以内に起こりそうだ	3.7%	4.0%	4.8%	6.0%
3	ここ10年くらいの間に起きそうだ	13.9%	14.3%	17.7%	12.7%
4	ここ20～30年の間に起きそうだ	10.4%	15.2%	11.4%	9.7%
5	もっと先のことだと思う	1.7%	3.2%	2.0%	1.4%
6	起きる時期はわからない	22.6%	26.5%	27.7%	30.4%
7	無回答	1.5%	0.1%	0.4%	2.4%

問9 次のうちで、あなたがすでにご存じのことに、いくつでもをつけてください。					
		H23	H22	H19	H16
1	政府が「南海地震がこの30年以内に起きる確率は60%」と発表したこと	50.9%	52.9%	55.0%	42.1%
2	政府が「東南海地震がこの30年以内に起きる確率は70%」と発表したこと	42.0%	51.5%	35.3%	41.6%
3	東南海地震と南海地震は、ほぼ同時に発生する可能性があること	58.8%	48.0%	45.7%	38.6%
4	次に来る東南海・南海地震は昭和の東南海・南海地震より一回り大きい可能性が高いこと	41.9%	35.9%	40.6%	39.6%
5	自分が住んでいる市町村が「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定されているかどうか	30.3%	33.9%	39.4%	35.0%
6	東南海・南海地震以外に阪神・淡路大震災、新潟県中越（沖）地震、中央構造線断層帯による地震のような直下型地震が起きる可能性があること	34.6%	25.3%	30.1%	-
7	1～6については、ひとつも知らなかった	5.3%	6.9%	6.7%	7.8%
8	無回答	2.1%	1.2%	2.6%	6.2%

問10 あなたはふだん、このような地震や地震災害についての情報を、どこから入手していますか（主なものに、いくつでも）。					
		H23	H22	H19	H16
1	テレビ	94.6%	88.8%	95.3%	98.5%
2	ラジオ	21.6%	23.8%	22.6%	25.4%
3	新聞	58.2%	57.2%	67.7%	65.2%
4	雑誌	5.8%	5.2%	6.9%	6.4%
5	地震や災害の専門書	1.1%	1.3%	2.4%	-
6	県や市町村の広報誌	27.9%	32.9%	39.8%	28.1%
7	インターネット	18.9%	12.2%	8.2%	8.2%
8	携帯メール	13.2%	4.5%	1.2%	-
9	家族から	11.6%	7.2%	10.7%	14.2%
10	友人・知人から	11.9%	8.7%	11.5%	15.0%
11	町内会・自治会を通じて	10.0%	13.0%	22.6%	9.4%
12	消防署・消防団を通じて	3.6%	6.0%	7.1%	5.2%
13	その他	1.2%	1.6%	1.3%	1.4%
14	どこからも入手していない	0.2%	0.7%	0.1%	0.2%
15	無回答	1.0%	4.1%	0.1%	0.4%

問11 東南海地震と南海地震が同時に起きたとき、強い揺れは最大でどのくらいの間、続くと思いますか（ひとつだけ）。		H23	H22	H19	H16
1	10秒くらい	1.6%	-	2.5%	1.2%
2	20秒（阪神・淡路大震災くらい）	10.7%	-	20.4%	13.4%
3	30～50秒	11.8%	-	18.7%	13.3%
4	1分	9.3%	-	9.9%	17.2%
5	2～3分（東日本大震災くらい）	24.8%	-	8.0%	11.7%
6	4～5分	6.0%	-	2.1%	3.9%
7	6分以上	1.7%	-	1.4%	1.9%
8	全く予想がつかない	31.6%	-	35.7%	34.3%
9	無回答	2.4%	-	1.2%	3.1%

津波への意識と避難についてお聞きします

問12 東南海地震と南海地震が同時に起きたとき、津波が来襲すると言われています。

(1) 地震の揺れの後、あなたがお住まいの近くの海岸に、津波は何分くらいで押し寄せるとと思いますか（ひとつだけ）。		H23	H22	H19	H16
1	5分以内	9.7%	-	20.2%	21.8%
2	6～10分後	15.9%	-	24.9%	18.2%
3	11～15分後	11.2%	-	11.5%	6.3%
4	16～20分後	9.1%	-	7.2%	7.4%
5	21～30分後	13.1%	-	8.0%	4.5%
6	31～40分後	12.9%	-	4.7%	2.5%
7	41～60分後	7.4%	-	3.2%	2.1%
8	61分以上	1.1%	-	0.5%	0.3%
9	まったく予想がつかない	16.5%	-	17.2%	17.2%
10	近くに海岸がない	0.3%	-	1.3%	16.8%
11	無回答	2.9%	-	1.2%	2.7%

(2) どれくらいの高さの津波が押し寄せるとと思いますか（ひとつだけ）。		H23	H22	H19	H16
1	1～2m	2.0%	-	5.3%	3.7%
2	3～4m	11.1%	-	17.2%	8.7%
3	5～6m	19.2%	-	24.2%	19.2%
4	7～9m	11.7%	-	12.2%	8.6%
5	10m以上	14.0%	-	7.9%	10.5%
6	まったく予想がつかない	38.6%	-	30.9%	30.7%
7	近くに海岸がない	0.4%	-	1.0%	15.1%
8	無回答	2.9%	-	1.2%	3.4%

問13 この地域にある防波堤、防潮堤、水門などで、東南海地震と南海地震が同時に起きたときの津波をどの程度防げるとと思いますか（ひとつだけ）。		H23	H22	H19	H16
1	ほぼ完全に防げる	0.1%	-	0.5%	0.5%
2	ほとんど防げる	2.0%	-	4.5%	2.8%
3	そのときの潮位による	19.1%	-	31.3%	25.4%
4	あまり防げない	56.4%	-	37.9%	34.4%
5	わからない	19.6%	-	25.1%	33.4%
6	無回答	2.7%	-	0.7%	3.5%

問14 あなたの自宅は、東南海地震と南海地震が同時に起きたときの津波で、どれくらいの高さまで浸水すると思いますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	自宅は津波で浸水しない	11.9%	-	16.8%	25.5%
2	50cmくらい	4.4%	-	9.3%	4.0%
3	1mくらい	8.8%	-	12.7%	10.4%
4	2mくらい	8.4%	-	9.1%	7.1%
5	3～4m	11.4%	-	9.9%	8.5%
6	5～6m	8.7%	-	5.7%	3.6%
7	7m以上	7.6%	-	4.6%	2.8%
8	まったく予想がつかない	36.1%	-	29.9%	34.1%
9	無回答	2.6%	-	2.0%	4.0%

問15 その津波で、あなたの自宅はどのくらいの被害をうけると思いますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	流出する	17.4%	-	8.1%	5.5%
2	流出しないが大破する	15.5%	-	12.9%	8.0%
3	半壊程度	11.5%	-	10.0%	8.0%
4	一部損壊程度	10.0%	-	16.3%	13.0%
5	被害は受けない	8.4%	-	14.9%	17.5%
6	まったく予想がつかない	34.0%	-	36.1%	42.6%
7	無回答	3.1%	-	1.7%	5.4%

問16 その津波で、あなたの住んでいる地域はどのくらいの被害をうけると思いますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	全滅する	27.6%	-	12.1%	8.6%
2	半分くらいが被害を受ける	49.1%	-	48.1%	39.7%
3	一部が被害を受ける	16.4%	-	31.6%	39.1%
4	ほとんど被害は受けない	2.3%	-	5.5%	6.9%
5	無回答	4.6%	-	2.6%	5.7%

問17 ところで、夜遅くあなたが自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上も続いたとします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	避難する（付問1へ）	79.8%	-	41.9%	27.8%
2	避難しない（問18へ）	19.4%	-	57.0%	61.0%
3	無回答	0.7%	-	1.1%	11.2%

付問1 あなたが避難する主な理由は何ですか（いくつでも）。					
		H23	H22	H19	H16
1	津波に襲われる危険があるから（付問2へ）	82.7%	-	86.8%	70.6%
2	がけ崩れ・山崩れの危険があるから（付問3-1へ）	10.8%	-	12.3%	3.4%
3	余震で家が倒壊する危険があるから（付問3-1へ）	47.1%	-	51.7%	19.5%
4	火災が延焼する危険があるから（付問3-1へ）	14.8%	-	20.4%	1.9%
5	電気や水道等が止まり生活できなくなるから（付問3-1へ）	20.2%	-	20.4%	2.5%
6	その他（付問3-1へ）	1.9%	-	2.1%	2.2%
7	無回答	0.0%	-	0.0%	2.5%

付問2 あなたはいつ避難しますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	できるだけ早く	54.2%	-	65.7%	73.7%
2	津波警報が出たら	21.4%	-	17.4%	14.5%
3	市町村から避難の呼びかけがあったら	14.1%	-	8.8%	5.3%
4	近所の人から避難したら	3.5%	-	2.2%	2.6%
5	家族が避難したら	2.9%	-	4.2%	1.8%
6	その他	1.0%	-	0.2%	0.9%
7	無回答（続いて 付問3-1へ）	2.9%	-	1.5%	2.2%

付問3-1 あなたは、どこに避難しますか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	自宅近くの高台	53.8%	-	34.8%	35.7%
2	近くの高台に住んでいる親戚や知人の家	4.8%	-	3.7%	4.6%
3	市町村が決めた避難場所や避難所	29.0%	-	45.0%	40.9%
4	地域住民が自分たちで決めた避難場所	7.9%	-	11.7%	6.7%
5	その他	3.2%	-	2.2%	2.9%
6	無回答	1.3%	-	2.5%	9.4%

付問3-2 下にあげた中で避難の際にどうしても持って行きたいものにいくつでもをつけてください。					
		H23	H22	H19	H16
1	懐中電灯	82.3%	-	74.8%	84.9%
2	携帯電話	82.1%	-	69.8%	64.9%
3	現金	76.5%	-	71.3%	74.3%
4	保険証	58.3%	-	53.0%	59.6%
5	食料	48.7%	-	45.4%	49.9%
6	飲料水	64.3%	-	62.0%	65.8%
7	預金通帳や印鑑等	55.3%	-	53.8%	63.9%
8	入れ歯や眼鏡	20.6%	-	16.9%	19.3%
9	ヘルメットや防災ずきん	20.5%	-	22.1%	21.4%
10	携帯ラジオ	46.3%	-	45.9%	57.5%
11	薬	39.0%	-	31.0%	32.0%
12	毛布または寝袋	23.5%	-	31.5%	22.5%
13	その他	8.2%	-	4.3%	4.7%
14	何も持って行かない	0.9%	-	1.1%	1.4%
15	無回答	1.5%	-	2.1%	3.8%

付問3-3 余震(ゆれもどし)が続く中で、あなたが家の外に出るのにどれくらいの時間がかかると思いますか。その際、絶対持っていきたいものをそろえる時間も含めてください。地震は夜遅くに起き、停電でまっ暗になっており、しかも揺れでタンスや棚の中のものが部屋中に散乱しているとしてお考えください(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	5分以内	16.5%	-	24.3%	20.6%
2	6～10分後	31.5%	-	32.4%	26.9%
3	11～15分後	19.6%	-	19.0%	19.7%
4	16～20分後	12.2%	-	8.4%	6.7%
5	21～30分後	9.3%	-	5.9%	13.6%
6	31～40分後	3.8%	-	3.1%	3.7%
7	41～60分後	2.1%	-	1.0%	1.0%
8	61分以上	1.1%	-	1.7%	1.1%
9	無回答	4.0%	-	4.1%	6.5%

付問3-4 あなたはどのようにして避難しますか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	歩いて(付問3-5へ)	73.1%	-	77.1%	71.5%
2	自転車・バイクで(付問3-5へ)	10.3%	-	6.6%	5.5%
3	車で(付問3-4-1へ)	13.4%	-	9.4%	15.0%
4	船で(付問3-4-1へ)	0.0%	-	-	0.0%
5	無回答	3.2%	-	6.9%	8.0%

付問3-4-1 あなたが車や船を使う主な理由は何ですか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	避難場所が遠いから	22.8%	-	8.0%	11.3%
2	車や船は大切な財産だから	1.0%	-	3.0%	3.8%
3	荷物を運ぶのに必要だから	6.9%	-	7.0%	9.0%
4	早く避難できるから	10.9%	-	16.0%	23.3%
5	ひとりで歩けない家族がいるから	18.8%	-	19.0%	20.3%
6	真っ暗な中で歩いていくのは大変だから	4.0%	-	1.0%	3.8%
7	家族と一緒に避難したいから	22.8%	-	37.0%	31.6%
8	その他	5.9%	-	9.0%	6.0%
9	無回答	6.9%	-	-	0.8%

付問3-5 避難を始めてから避難場所に到着するまでに、何分くらいかかるとお思いますか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	5分以内	27.5%	-	34.7%	30.8%
2	6～10分後	30.2%	-	29.5%	22.9%
3	11～15分後	18.9%	-	14.7%	20.5%
4	16～20分後	8.7%	-	5.8%	5.5%
5	21～30分後	6.9%	-	4.5%	7.8%
6	31～40分後	2.8%	-	2.2%	1.5%
7	41～60分後	0.8%	-	0.9%	1.1%
8	61分以上	0.4%	-	0.5%	0.2%
9	無回答	4.6%	-	7.1%	9.7%

(続いて 付問3-6へ)

付問3-6 あなたは、津波が来る前に、安全な場所までたどり着けるとお思いますか。(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	津波が来る前に必ずたどり着けるとお思う	51.2%	-	43.8%	37.9%
2	津波が来るのと、たどり着くのとほぼ同時だとお思う	24.6%	-	24.7%	24.4%
3	津波が来るまでにたどり着けない恐れが強いとお思う	19.2%	-	26.7%	31.3%
4	無回答	5.0%	-	4.8%	6.4%

(続いて 付問3-7へ)

付問3-7 下あげた中で、あなたが、避難するときの妨げになるとお心配していることに、いくつでもをつけてください。					
		H23	H22	H19	H16
1	倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり、避難に手間取る	66.0%	-	65.7%	68.2%
2	道路が液状化(地震の揺れで、泥水が噴き出す現象)などでデコボコになり、避難に手間取る	32.0%	-	31.8%	30.3%
3	避難路が崖崩れなどで通れなくなる	27.4%	-	22.0%	19.4%
4	近所の家が倒壊し、閉じこめられている人の救出のため避難が遅れる	30.2%	-	37.6%	28.3%
5	火事が出て、消火を手伝うため、避難が遅れる	13.9%	-	23.1%	18.7%
6	車で避難する人がたくさんいるため、道路が渋滞する	36.0%	-	27.2%	32.5%
7	その他	5.4%	-	4.7%	4.6%
8	無回答	4.9%	-	5.9%	8.9%

問18 あなたが避難しない主な理由は何ですか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	近くの避難場所を知らないから	6.0%	-	-	-
2	避難経路が危険だから	16.8%	-	-	-
3	体力や健康上の理由から避難することが困難だから	7.1%	-	-	-
4	自宅が安全だから	28.8%	-	-	-
5	家や家財を残して避難することに抵抗があるから	6.5%	-	-	-
6	その他	23.4%	-	-	-
7	無回答	11.4%	-	-	-

避難体制についてお聞きします

問19 あなたがお住まいの地域では、ひとりで避難することが困難な高齢者や要介護者の避難を地域として支援する体制ができていますか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	できている	7.2%	16.6%	7.5%	-
2	できていないが検討している	13.0%	12.3%	16.8%	-
3	検討もしていない	12.3%	5.4%	14.7%	-
4	よく知らない	64.7%	62.7%	58.1%	-
5	無回答	2.8%	3.0%	2.9%	-

問20 地震や津波の時の避難対策として、県や市町村は何をすべきだと思いますか(いくつでも)。					
		H23	H22	H19	H16
1	避難路の整備	48.7%	42.5%	42.6%	44.5%
2	避難所や避難場所の整備	64.7%	61.0%	53.0%	56.5%
3	看板(避難所、避難場所、避難路)の整備	42.7%	38.0%	30.3%	36.9%
4	近くに高台がない所で、津波の際に緊急避難できる高い建物(避難ビル)の整備	40.7%	25.2%	28.6%	32.4%
5	市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達	57.9%	56.0%	61.8%	62.9%
6	避難所となる小中学校の耐震化	35.8%	36.4%	40.9%	40.1%
7	地域毎の詳しい津波避難計画の作成	37.8%	29.0%	32.1%	41.1%
8	緊急時の情報伝達手段(防災無線等)の整備	47.2%	43.7%	45.1%	43.9%
9	支援が必要な人の避難誘導体制の整備	48.5%	44.1%	46.9%	45.2%
10	避難にあたっての車の使い方などのルールづくりとその徹底	31.6%	28.1%	23.3%	29.2%
11	津波危険地区の集団移転	14.2%	9.4%	12.1%	-
12	その他	5.6%	3.7%	2.5%	3.6%
13	無回答	2.8%	5.8%	2.6%	4.6%

避難情報についてお聞きします

問21 市役所や町村役場が、緊急時の連絡などに使う屋外に設置された防災無線のスピーカーはありますか。また、そのスピーカーの聞こえ具合はどうか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる	24.3%	-	20.9%	19.0%
2	よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいでも聞きとれないことがある	31.0%	-	27.8%	29.4%
3	ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない	25.5%	-	21.8%	20.2%
4	放送の内容はまったく聞きとれない	6.4%	-	5.1%	5.5%
5	近くに防災無線のスピーカーが設置されていない	8.3%	-	20.0%	20.7%
6	無回答	4.6%	-	4.5%	5.2%

問22 問21の防災無線は、大地震が起きた時、役に立つと思いますか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	非常に役立つ	31.9%	-	24.3%	25.5%
2	ある程度役立つ	48.2%	-	50.3%	45.9%
3	ほとんど役に立たない	12.3%	-	14.6%	16.9%
4	まったく役に立たない	3.4%	-	4.5%	5.8%
5	無回答	4.3%	-	6.3%	5.9%

問23 県の『防災わかやまメール配信サービス(気象情報や避難勧告などの緊急情報を電子メールで配信するサービス)』に登録していますか。					
		H23	H22	H19	H16
1	している(問24へ)	17.8%	-	-	-
2	していない(付問1へ)	77.7%	-	-	-
3	無回答	4.6%	-	-	-

付問1 なぜ登録していないのですか。					
		H23	H22	H19	H16
1	防災メールを知らなかったから	54.9%	-	-	-
2	送られてくる情報が少ないから	1.8%	-	-	-
3	他の情報源があるから	10.9%	-	-	-
4	電子メールを利用していない	27.1%	-	-	-
5	防災に興味がないから	0.5%	-	-	-
6	その他	6.4%	-	-	-
7	無回答	4.0%	-	-	-

問24 気象庁では、地震の大きな揺れが来る数秒から数十秒前に、「大きな揺れが来る」ことを知らせる緊急地震速報を発表しています。

(1) あなたはこのことをご存じですか。

	H23	H22	H19	H16
1 よく知っている	43.2%	-	45.3%	-
2 何となく知っている	36.9%	-	39.8%	-
3 知らない	14.9%	-	11.8%	-
4 無回答	5.0%	-	3.1%	-

(2) もし、あなたが「あと10数秒で震度6強の揺れが来る」という緊急地震速報を自宅で知ったとき、どうしますか(いくつでも)。

	H23	H22	H19	H16
1 その場で様子を見る	18.3%	-	15.2%	-
2 机、テーブル、ベッドの下にもぐる	31.1%	-	39.2%	-
3 家の中の安全なところを探して身を守る	47.5%	-	44.1%	-
4 急いで外に出る	23.4%	-	21.4%	-
5 家族に危険を知らせる	49.0%	-	46.5%	-
6 テレビでもう一度確認する	21.7%	-	20.9%	-
7 その他	3.3%	-	3.0%	-
8 無回答	4.4%	-	2.4%	-

津波への考え方についてお聞きします

問25 津波や津波対策については、いろいろな考え方や意見があります。下にあげたa～eのそれぞれについて、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号にひとつずつをつけてください。

a. 大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く

	H23	H22	H19	H16
1 そう思う	62.7%	62.0%	65.2%	65.5%
2 まあそう思う	20.1%	24.5%	17.7%	17.5%
3 あまりそう思わない	7.2%	6.8%	6.9%	6.3%
4 そう思わない	4.8%	4.9%	5.3%	4.6%
5 無回答	5.1%	1.8%	4.9%	6.1%

b. 地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない

	H23	H22	H19	H16
1 そう思う	27.9%	23.8%	29.6%	-
2 まあそう思う	32.5%	27.6%	28.8%	-
3 あまりそう思わない	18.1%	21.3%	18.2%	-
4 そう思わない	15.8%	25.4%	16.4%	-
5 無回答	5.8%	1.9%	7.0%	-

c. 海の水が大きく引いてから避難しても間に合う

	H23	H22	H19	H16
1 そう思う	4.9%	6.1%	7.0%	6.0%
2 まあそう思う	10.5%	8.7%	14.1%	9.2%
3 あまりそう思わない	24.8%	24.8%	24.5%	20.1%
4 そう思わない	53.9%	58.4%	48.1%	54.5%
5 無回答	5.9%	2.0%	6.3%	10.1%

d. 津波警報が出てから避難しても間に合う

	H23	H22	H19	H16
1 そう思う	14.3%	13.8%	14.6%	14.3%
2 まあそう思う	26.5%	26.2%	29.1%	25.1%
3 あまりそう思わない	26.0%	26.0%	24.9%	19.3%
4 そう思わない	27.1%	32.2%	24.2%	32.7%
5 無回答	6.0%	1.9%	7.1%	8.6%

e. 市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない					
		H23	H22	H19	H16
1	そう思う	29.6%	-	30.0%	-
2	まあそう思う	27.4%	-	29.7%	-
3	あまりそう思わない	15.4%	-	14.9%	-
4	そう思わない	19.8%	-	15.2%	-
5	無回答	8.0%	-	10.2%	-

自主防災組織についてお聞きします

問26 あなたのお宅は、町内会（自治会）に入っていますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	入っている	86.6%	86.7%	88.0%	84.2%
2	入っていない	5.1%	5.1%	4.7%	3.6%
3	町内会（自治会）はない	1.4%	1.1%	1.6%	3.7%
4	わからない	4.2%	4.5%	4.3%	4.9%
5	無回答	2.7%	2.6%	1.4%	3.5%

問27 あなたのお宅は、地域の自主防災組織（町内会・自治会などを母体に、地域の住民が防災活動をするための組織）に入っていますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	入っている（付問1へ）	30.1%	35.1%	33.1%	20.4%
2	入っていない（問28へ）	20.0%	22.2%	22.8%	27.2%
3	自主防災組織はない（問28へ）	8.8%	9.5%	10.7%	15.8%
4	わからない（問28へ）	37.0%	31.6%	31.4%	26.6%
5	無回答	4.1%	1.7%	2.0%	9.9%

付問1 あなたの地域の自主防災組織の活動は活発ですか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	活発に活動している	13.4%	16.8%	14.6%	13.3%
2	まあ活動している	46.2%	43.9%	45.8%	39.3%
3	あまり活動していない	30.1%	32.0%	26.7%	33.6%
4	よく知らない	9.1%	7.2%	12.9%	11.8%
5	無回答	1.2%	0.2%	-	2.1%

問28 大地震が起きたあと、あなたご自身は、地域の人と協力して次のようなことができると思いますか。できると思うことにいくつでもをつけてください。					
		H23	H22	H19	H16
1	生き埋めになった近所の人を、がれきの中から救助する	52.3%	55.1%	54.6%	66.4%
2	火災が出たとき消火する	49.6%	57.3%	54.2%	67.7%
3	重症者が出たとき病院などへ車や戸板などで運ぶ	38.2%	37.6%	38.8%	47.6%
4	高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う	60.8%	64.6%	65.0%	63.3%
5	避難した人たちのために、炊き出しをする	50.8%	42.9%	43.8%	45.8%
6	避難所の運営を手伝う	45.3%	38.7%	40.6%	25.2%
7	1～6のようなことはできない	9.8%	10.5%	11.4%	-
8	無回答	5.5%	2.8%	2.5%	6.4%

問29 自主防災組織の活動の中心的担い手である地域防災リーダーとして活動することについて、どのようにお考えですか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	現在、すでに地域防災リーダーとして活動している	1.6%	3.2%	2.1%	-
2	地域防災リーダーになって活動してみたい	1.7%	2.7%	1.5%	-
3	頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい	8.9%	11.1%	9.4%	-
4	仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーにはなれない	22.5%	25.2%	24.0%	-
5	いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい	26.0%	32.7%	32.5%	-
6	よくわからない	29.1%	21.9%	25.5%	-
7	無回答	10.2%	3.1%	5.0%	-

耐震化・家具固定・ブロック塀対策についてお聞きします

問30 あなたがお住まいのご自宅は、いつ頃建てられたものですか。増改築されている場合は、主な部分の建築年をお答えください(ひとつだけ)。		H23	H22	H19	H16
1	戦前	6.1%	6.1%	8.9%	7.0%
2	戦後～昭和35年までの間	6.1%	6.3%	6.1%	5.9%
3	昭和36～45年までの間	11.6%	12.8%	11.2%	15.5%
4	昭和46～55年	20.6%	20.1%	22.8%	22.1%
5	昭和56年～平成6年	26.7%	28.8%	27.5%	29.2%
6	平成7年(阪神・淡路大震災)以降	23.7%	24.9%	20.1%	17.9%
7	無回答	5.2%	1.0%	3.3%	2.3%

問31 あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか(ひとつだけ)。		H23	H22	H19	H16
1	一戸建て	80.2%	84.2%	-	84.4%
2	1～2階建て集合住宅	5.8%	5.6%	-	5.0%
3	高層(3階建て以上の)集合住宅	5.2%	5.7%	-	6.2%
4	住宅と事業所を兼ねた建物	3.1%	3.5%	-	2.3%
5	その他	1.2%	0.8%	-	1.5%
6	無回答	4.4%	0.3%	-	0.7%

問32 あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか(ひとつだけ)。		H23	H22	H19	H16
1	木造(付問1へ)	69.5%	70.3%	68.4%	75.5%
2	鉄骨造(問33へ)	13.3%	13.0%	13.9%	11.4%
3	鉄筋コンクリート造(問33へ)	8.1%	15.4%	9.1%	10.6%
4	鉄筋・鉄骨コンクリート造(問33へ)	3.7%		4.7%	
5	その他(問33へ)	1.3%	1.0%	0.9%	1.4%
6	無回答	4.1%	0.3%	3.0%	1.2%

付問1 お宅では、専門家による耐震診断(地震の揺れに対する建物の強さの診断)を受けたことがありますか(ひとつだけ)。		H23	H22	H19	H16
1	ある(付問2へ)	9.8%	9.9%	8.6%	4.1%
2	ない(付問3へ)	89.4%	89.7%	91.4%	80.1%
3	無回答	0.8%	0.4%	-	15.7%

付問2 耐震診断をした結果はいかがでしたか(ひとつだけ)。		H23	H22	H19	H16
1	耐震補強が必要(付問2-1へ)	48.5%	42.9%	51.5%	49.4%
2	耐震補強する必要はない(問33へ)	46.2%	49.2%	31.8%	48.3%
3	無回答	5.4%	7.9%	16.7%	2.3%

付問2-1 耐震補強が必要と診断された後、補強等をなさいましたか(ひとつだけ)。		H23	H22	H19	H16
1	建て替えた	4.8%	0.0%	-	7.7%
2	補強した	28.6%	25.9%	23.5%	7.7%
3	今後建て替える予定	3.2%	0.0%	-	0.0%
4	今後補強する予定	12.7%	11.1%	20.6%	0.0%
5	建て替えも補強もする予定はない	22.2%	20.4%	14.7%	34.6%
6	まだ決めていない	23.8%	42.6%	41.2%	50.0%
7	無回答 (続いて 問33へ)	4.8%	0.0%	-	0.0%

付問3 お宅が耐震診断を受けていないのは、どうしてですか(いくつでも)。					
		H23	H22	H19	H16
1	耐震診断を受けていなくても自宅が地震に強いことがわかっているから	12.8%	9.9%	10.8%	9.6%
2	耐震診断を受けていなくても自宅が地震に弱いとわかっているから	16.2%	14.0%	18.0%	13.7%
3	手間がかかるから	13.0%	11.7%	11.3%	9.4%
4	耐震診断の費用がかかるから	31.6%	32.7%	30.7%	25.2%
5	借家だから	6.2%	7.1%	9.8%	8.1%
6	耐震診断のやり方がわからないから	22.2%	20.9%	23.7%	33.0%
7	近いうちにリフォーム予定なので、そのときに耐震診断をするつもり	0.7%	1.3%	1.7%	-
8	近いうちに建て替えるつもりなのでそのときに耐震診断をするつもり	2.4%	1.3%	1.6%	-
9	耐震診断の結果、耐震補強などが必要になっても費用が出せないから	25.7%	27.1%	27.1%	26.0%
10	どんなに耐震化しても大地震にあえば被害は避けられないと思うから	26.5%	25.8%	29.1%	33.9%
11	どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから	21.9%	17.6%	26.0%	-
12	自分が生きている間に東南海・南海地震は起きないと思うから	3.0%	4.0%	4.3%	3.0%
13	地震災害に関心がないから	0.3%	0.3%	0.9%	0.9%
14	その他	6.7%	9.4%	7.3%	7.8%
15	無回答	4.7%	13.8%	3.6%	4.4%

付問4 今後、耐震診断をしたいですか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	耐震診断をしてみたい	18.9%	-	-	-
2	相談してみたい	27.2%	-	-	-
3	耐震診断はしたくない	11.6%	-	-	-
4	分からない	36.1%	-	-	-
5	無回答	6.2%	-	-	-

問33 今後、木造住宅の耐震化を促進するために、県や市町村は何をすべきだと思いますか(いくつでも)					
		H23	H22	H19	H16
1	耐震診断の専門家のあっせん	15.4%	17.6%	19.9%	19.3%
2	耐震診断の専門家の無料派遣	61.0%	62.9%	66.3%	64.2%
3	工事費用の低金利による貸付け	25.2%	28.8%	34.2%	26.5%
4	耐震補強工事に対する助成制度の創設・拡充	41.9%	41.0%	38.1%	32.7%
5	耐震補強工事の必要性や工事の実例を詳しく紹介したパンフレットの配布	21.6%	26.9%	24.2%	34.2%
6	耐震性の低いアパートや借家などの家主に対する指導	17.6%	20.4%	21.8%	15.5%
7	個人でもっと簡単にできる診断方法の開発	21.5%	23.8%	25.1%	26.2%
8	信用できる耐震補強工事業者のあっせん	26.2%	32.2%	33.2%	31.2%
9	耐震診断・耐震補強に関する地区毎の説明会の実施	13.7%	17.8%	15.9%	17.8%
10	耐震補強工事の実例(実物)展示	9.2%	10.6%	12.4%	13.5%
11	個人宅なので、行政は何もすべきでない	2.8%	3.5%	1.9%	3.0%
12	無回答	10.3%	3.6%	6.9%	6.4%

問34 お宅では家具類の固定をしていますか(ひとつだけ)。					
		H23	H22	H19	H16
1	固定はしていない(付問1へ)	55.8%	57.7%	62.6%	67.7%
2	一部のみ固定している(問35へ)	34.6%	35.1%	29.7%	19.7%
3	全部または大部分を固定している(問35へ)	5.2%	6.3%	6.1%	3.1%
4	無回答	4.5%	0.8%	1.7%	9.6%

付問1 家具類の固定をしていないのはどのような理由からですか(いくつでも)。					
		H23	H22	H19	H16
1	建物や家具を傷めるから	10.2%	12.7%	8.2%	7.2%
2	固定の方法がわからないから	18.2%	15.7%	17.3%	20.2%
3	借家だから	8.8%	8.9%	10.6%	8.1%
4	費用がかかるから	18.0%	16.0%	16.1%	14.2%
5	手間がかかるから	26.5%	33.0%	27.3%	29.1%
6	固定しなくても大丈夫だと思うから	12.8%	14.8%	11.8%	11.9%
7	家具類を置かない安全な部屋があるから	23.0%	21.3%	20.0%	18.5%
8	固定しても被害は出ると思うから	23.1%	21.3%	20.8%	25.4%
9	東南海・南海地震はすぐには起きないと思うから	3.6%	5.6%	5.3%	5.1%
10	地震災害に関心がないから	0.2%	0.5%	0.6%	0.9%
11	その他	9.2%	7.9%	9.0%	8.4%
12	無回答	3.9%	3.5%	6.1%	8.5%

付問2 今後、家具類の固定をしたいと思いますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	きちんと固定したい	33.4%	-	-	-
2	相談してみたい	28.0%	-	-	-
3	固定はしたくない	8.5%	-	-	-
4	分からない	25.2%	-	-	-
5	無回答	5.0%	-	-	-

問35 家具類の固定を促進するために、県や市町村では何をすべきだと思いますか（いくつでも）。					
		H23	H22	H19	H16
1	家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布	48.3%	50.2%	49.8%	57.0%
2	家具類の固定方法について無料で相談に乗ってくれる人や業者のあっせん	24.6%	28.2%	25.0%	27.8%
3	家具類の固定に必要な費用の補助	35.7%	35.1%	29.0%	27.6%
4	無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣	33.5%	35.1%	33.9%	31.3%
5	自主防災組織などが地域で家具類の固定を行うための補助制度の創設	16.3%	16.9%	15.3%	12.2%
6	個人宅なので、行政は何もすべきでない	6.8%	7.0%	5.9%	5.3%
7	無回答	8.9%	5.2%	10.1%	10.0%

問36 お宅にはブロック塀や石塀、門柱などがありますか。					
		H23	H22	H19	H16
1	ある（付問1へ）	62.4%	62.0%	59.1%	58.2%
2	危険なので取り壊した（問37へ）	0.3%	0.3%	0.5%	0.4%
3	生け垣に変えた（問37へ）	0.4%	0.2%	0.4%	1.0%
4	もともとない（問37へ）	31.2%	32.5%	33.0%	32.9%
5	その他（問37へ）	1.4%	1.0%	1.5%	1.6%
6	無回答	4.2%	3.9%	5.4%	5.9%

付問1 お宅では、ブロック塀や石塀、門柱などの地震時の安全性を点検しましたか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	点検していない（付問2へ）	94.4%	91.9%	93.7%	94.3%
2	点検した結果、危険と言われた（付問3へ）	1.1%	1.2%	1.1%	0.2%
3	点検して安全と言われた（問37へ）	4.1%	5.5%	4.5%	3.8%
4	無回答	0.4%	1.3%	0.8%	1.7%

付問2 点検していない主な理由は何ですか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	点検するまでもなく危険だから	5.7%	6.1%	6.4%	6.3%
2	点検の方法がわからないから	25.2%	27.0%	21.4%	24.1%
3	点検しなくても安全と思うから	23.5%	24.6%	23.0%	18.9%
4	費用がかかるから	8.2%	12.1%	6.9%	10.2%
5	借家だから	3.9%	4.1%	4.8%	4.5%
6	手間がかかるから	3.3%	4.4%	2.3%	7.7%
7	対策しても被害は防げないと思うから	9.8%	6.6%	11.4%	18.6%
8	東南海・南海地震はすぐには起きないと思うから	0.4%	1.1%	0.6%	2.1%
9	地震災害に関心がないから	0.1%	0.3%	-	0.3%
10	その他	6.2%	8.3%	19.6%	5.6%
11	無回答	13.8%	5.5%	3.4%	1.8%

付問3 お宅では、今後ブロック塀や石塀、門柱などを補強したり、生け垣などに変える予定はありますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	すでに変えた	1.1%	1.5%	0.8%	0.8%
2	変える予定がある	2.2%	2.5%	3.0%	2.8%
3	変える予定はない	65.3%	63.4%	55.1%	52.2%
4	検討中	8.4%	8.4%	9.6%	7.1%
5	わからない	18.6%	16.2%	22.1%	24.5%
6	無回答	4.5%	9.4%	9.4%	12.7%

問37 今後、ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するために、県や市町村は、何をすべきだと思いますか（いくつかでも）。					
	H23	H22	H19	H16	
1	塀、門柱などの耐震診断や補強方法を詳しく説明したパンフレットの配布	38.8%	41.1%	41.4%	45.9%
2	専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施	47.5%	49.5%	46.9%	45.2%
3	信用がおける工事業者のあっせん	17.9%	20.0%	20.1%	20.7%
4	塀、門柱などの補強や建て替え、生け垣化の費用の補助	28.9%	28.3%	25.7%	19.6%
5	自主防災組織などが塀や門柱の耐震化や生け垣化を行うための補助制度の創設	15.3%	14.5%	14.8%	13.7%
6	個人宅なので、行政は何もすべきでない	7.9%	8.4%	6.0%	7.1%
7	無回答	12.4%	10.2%	16.5%	14.3%

備蓄や訓練についてお聞きします

問38 お宅では東南海地震や南海地震などに備えて、下にあげたような地震防災対策を行っていますか（いくつかでも）。					
	H23	H22	H19	H16	
1	地震が起きたとき避難する場所を決めている	57.2%	42.1%	58.5%	56.8%
2	家族の連絡方法を決めている	21.8%	14.0%	15.0%	13.7%
3	家族が離ればなれになったときに落ち合う場所を決めている	22.9%	14.0%	18.4%	18.7%
4	風呂にいつも水を入れている	15.4%	15.1%	22.0%	19.4%
5	ガラスがこわれて飛び散らないよう、防止対策をしている	2.3%	3.7%	2.7%	1.4%
6	ガスボンベを倒れないようにしている	18.1%	18.8%	21.1%	28.3%
7	消火器を用意している	37.6%	38.0%	34.1%	31.6%
8	懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている	61.0%	53.4%	52.4%	60.7%
9	懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、点検をこまめにしている	25.6%	22.0%	21.7%	29.8%
10	非常持ち出し品を用意している（付問1へ）	57.7%	34.4%	50.1%	37.5%
11	自宅には、地震後、家族が3日間食べていけるだけの食料や飲料水が常にある	29.0%	27.0%	22.2%	25.9%
12	無回答（「10.」以外の方は問39へ）	6.8%	12.3%	6.4%	9.9%

付問1 非常持ち出し品として、すぐ持ち出せるよう、まとめて置いてあるものすべてに をつけてください。

	H23	H22	H19	H16	
1	懐中電灯	89.4%	89.9%	89.9%	86.1%
2	携帯ラジオ	57.8%	64.2%	59.6%	53.8%
3	飲料水	57.2%	56.2%	57.1%	42.8%
4	食料品	42.1%	51.1%	44.3%	36.0%
5	現金	41.9%	30.8%	39.0%	39.6%
6	下着類	37.0%	29.6%	36.8%	37.7%
7	テント	1.6%	2.4%	2.5%	2.2%
8	預金通帳や印鑑など	40.7%	35.6%	37.7%	44.7%
9	ヘルメット、防災ずきんなど	16.4%	21.1%	19.2%	15.6%
10	救急医薬品や常備薬	31.5%	33.9%	34.2%	28.4%
11	ちり紙、タオル、石けん	38.9%	41.1%	37.9%	37.9%
12	ナイフ、缶切り	11.0%	16.9%	15.7%	15.2%
13	ロープ、ひも	15.5%	21.1%	15.8%	12.4%
14	毛布または寝袋など	10.2%	13.4%	16.5%	11.7%
15	携帯電話	43.7%	40.6%	41.6%	36.4%
16	電池	33.1%	27.8%	32.4%	26.7%
17	その他	7.7%	6.4%	5.7%	6.1%
18	無回答	0.6%	1.1%	0.2%	6.4%

問39 あなたは、次のようなことを行ったり、参加したことがありますか(いくつでも)。					
		H23	H22	H19	H16
1	地域の地震・津波防災検討会や、地図を使って地震時の対応を考える図上演習に参加した	12.5%	7.8%	13.3%	5.8%
2	自分でできる簡易耐震診断(「わが家の耐震診断」など)を行った	4.5%	2.7%	3.2%	2.3%
3	地震時の津波避難に適切な場所を見て回った	27.0%	12.5%	18.7%	12.7%
4	自分たちの地域の防災マップを作った	4.3%	4.0%	5.0%	3.0%
5	県や市町村の広報誌の東南海・南海地震特集を読んだ	49.7%	12.7%	13.7%	14.3%
6	地震防災に関するパンフレットを読んだ	65.5%	37.7%	41.0%	32.0%
7	県や市町村が作成した地震被害想定結果を見た	27.5%	17.7%	18.1%	-
8	地域ごとの津波避難計画づくりに参加した	6.2%	2.2%	7.2%	-
9	地震防災に関する講演会などに参加した	17.3%	11.3%	14.3%	11.0%
10	市町村が作成した津波浸水予測図で、自宅がどれくらい津波で浸水するか確認した	28.3%	21.3%	21.7%	-
11	無回答	55.9%	39.5%	30.7%	48.2%

問40 あなたは、過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか(いくつでも)。					
		H23	H22	H19	H16
1	県や市町村、消防機関が主催する地震防災訓練に参加した(付問1へ)	25.9%	20.1%	19.3%	10.7%
2	住民が中心となって行った地震防災訓練に参加した(付問1へ)	14.8%	14.1%	14.8%	5.5%
3	職場で行った地震防災訓練に参加した(付問1へ)	17.0%	15.5%	9.4%	7.7%
4	その他の地震防災訓練に参加した(付問1へ)	5.5%	5.1%	5.0%	2.5%
5	1.~4.の訓練には、まったく参加していない(問41へ)	59.7%	55.8%	56.3%	61.0%
6	無回答	15.8%	2.6%	6.9%	17.6%

付問1 具体的にはどのような訓練に参加しましたか(いくつでも)。					
		H23	H22	H19	H16
1	津波避難訓練	46.2%	35.1%	-	63.9%
2	消火訓練	40.6%	43.4%	-	46.7%
3	救出・救助訓練	11.1%	15.8%	-	12.8%
4	応急手当訓練	17.9%	20.3%	-	23.5%
5	炊き出し訓練	6.2%	5.1%	-	3.7%
6	情報伝達訓練	6.2%	7.9%	-	6.8%
7	介護を必要とする人の介助訓練	3.9%	5.2%	-	5.6%
8	その他	3.4%	3.4%	-	3.0%
9	無回答	2.3%	4.4%	-	6.0%

問41 どのような訓練が必要であると思いますか(いくつでも)。					
		H23	H22	H19	H16
1	津波避難訓練	60.5%	-	-	-
2	消火訓練	36.5%	-	-	-
3	救出・救助訓練	38.3%	-	-	-
4	応急手当て訓練	42.6%	-	-	-
5	炊き出し訓練	15.7%	-	-	-
6	情報伝達訓練	38.7%	-	-	-
7	介護を必要とする人の介助訓練	32.4%	-	-	-
8	その他	1.8%	-	-	-
9	無回答	10.9%	-	-	-

災害への意識と行政への要望についてお聞きします

問42 災害についてはいろいろな考え方が 있습니다。あなたは、以下のような考え方に賛成しますか、それとも反対しますか(a~eのそれぞれにひとつずつ)。				
---	--	--	--	--

a. 防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ					
		H23	H22	H19	H16
1	賛成	17.3%	-	19.6%	8.8%
2	やや賛成	22.9%	-	23.4%	15.4%
3	やや反対	22.9%	-	20.0%	24.0%
4	反対	26.0%	-	24.5%	38.3%
5	無回答	10.9%	-	12.6%	13.5%

b. 大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ					
		H23	H22	H19	H16
1	賛成	72.6%	-	70.3%	63.4%
2	やや賛成	16.3%	-	20.4%	18.4%
3	やや反対	2.4%	-	2.0%	4.5%
4	反対	0.7%	-	0.3%	2.8%
5	無回答	8.1%	-	7.0%	10.9%

c. 大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない					
		H23	H22	H19	H16
1	賛成	69.5%	-	71.6%	67.5%
2	やや賛成	19.6%	-	19.3%	18.2%
3	やや反対	2.3%	-	2.0%	3.3%
4	反対	1.0%	-	0.9%	1.2%
5	無回答	7.5%	-	6.1%	9.8%

d. 災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ					
		H23	H22	H19	H16
1	賛成	4.0%	-	3.2%	3.1%
2	やや賛成	8.7%	-	7.8%	8.4%
3	やや反対	25.7%	-	24.9%	25.4%
4	反対	52.1%	-	54.5%	51.0%
5	無回答	9.5%	-	9.6%	12.1%

e. 体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない					
		H23	H22	H19	H16
1	賛成	56.0%	-	62.4%	62.1%
2	やや賛成	31.3%	-	26.8%	22.5%
3	やや反対	3.6%	-	2.7%	2.7%
4	反対	1.4%	-	1.5%	1.8%
5	無回答	7.6%	-	6.6%	10.8%

問43 あなたがお住まいの地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか(いくつでも)。					
		H23	H22	H19	H16
1	地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化	54.2%	44.4%	54.9%	46.1%
2	自主防災組織の必要性のPR	28.5%	28.9%	31.5%	34.7%
3	自主防災組織の育成・強化	43.0%	30.9%	39.2%	36.2%
4	自主防災組織の防災資機材の整備・充実	34.8%	27.4%	30.8%	32.1%
5	実践的防災訓練や図上演習などの実施	28.1%	15.4%	25.0%	23.0%
6	地域防災リーダーの育成・研修	33.6%	19.7%	29.4%	31.7%
7	小中学校の防災教育の充実	38.4%	25.0%	32.9%	25.2%
8	消防団の強化	24.5%	15.8%	24.7%	29.0%
9	消防団・近隣の事業所などとの連携促進	33.6%	26.6%	34.2%	28.8%
10	その他	1.3%	2.3%	1.7%	2.0%
11	無回答	9.7%	14.2%	10.0%	11.3%

最後にあなたご自身のことをお伺いします。あてはまる番号に をつけてください。

F 1 性別		H23	H22	H19	H16
1	男性	47.2%	59.5%	48.1%	45.2%
2	女性	46.8%	33.1%	50.2%	53.0%
3	無回答	6.1%	7.4%	1.7%	1.9%

F 2 年齢		H23	H22	H19	H16
1	20歳代	6.0%	5.2%	7.0%	8.1%
2	30歳代	9.3%	11.0%	11.1%	14.1%
3	40歳代	14.1%	13.4%	15.9%	15.3%
4	50歳代	19.1%	19.3%	21.7%	19.4%
5	60歳代	27.3%	24.6%	20.6%	19.6%
6	70歳以上	18.2%	18.9%	21.9%	21.8%
7	無回答	6.1%	7.6%	1.9%	1.8%

F 3 あなたは、ここにお住みになってから何年になりますか（ひとつだけ）。		H23	H22	H19	H16
1	5年未満	7.9%	9.4%	8.5%	11.7%
2	5～10年未満	8.0%	9.1%	11.4%	9.9%
3	10～20年未満	13.7%	14.6%	16.2%	16.5%
4	20～30年未満	17.4%	15.6%	19.3%	19.4%
5	30年以上	46.6%	43.7%	42.6%	40.7%
6	無回答	6.4%	7.6%	2.0%	1.9%

F 4 職業		H23	H22	H19	H16
1	勤め人（会社員・公務員）	27.5%	31.2%	28.3%	32.5%
2	商工自営業	9.4%	9.6%	12.4%	8.3%
3	農林業	4.9%	4.6%	2.8%	5.6%
4	漁業	0.5%	1.5%	1.8%	0.4%
5	専業主婦	15.4%	9.7%	16.4%	25.0%
6	パートの主婦	6.7%	5.5%	7.1%	-
7	無職（すでに退職）	21.8%	25.1%	23.0%	20.9%
8	その他	6.5%	4.6%	5.6%	4.8%
9	無回答	7.4%	8.1%	2.6%	2.4%

F 5 同居しているご家族は何人いますか（ご本人も含め、ひとつだけ）。		H23	H22	H19	H16
1	1人（独居）	7.2%	8.0%	8.6%	7.4%
2	2人	29.5%	31.9%	31.9%	32.0%
3	3人	23.5%	21.4%	24.3%	21.8%
4	4人	16.6%	18.0%	17.6%	16.9%
5	5人	9.8%	7.8%	9.0%	11.6%
6	6人以上	7.1%	5.4%	6.9%	8.8%
7	無回答	6.4%	7.6%	1.7%	1.5%

付問1 同居しているご家族の中に次のような方はいらっしゃいますか（いくつでも）。		H23	H22	H19	H16
1	3歳以下の乳幼児	7.0%	5.4%	5.7%	6.3%
2	4歳以上で小学校入学前の子ども	4.8%	5.0%	5.2%	6.7%
3	小学生	10.6%	10.1%	10.9%	13.0%
4	70歳以上の人	37.5%	28.4%	37.3%	40.7%
5	日常生活で介護を必要とする人	10.0%	7.0%	9.1%	6.8%
6	1～5の人はいない	40.0%	39.2%	32.7%	28.7%
7	無回答	10.5%	10.1%	14.6%	13.5%

F 6 あなたはご近所とどのようなおつきあいをしていますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	留守を頼んだり親しく話をする	26.3%	22.1%	30.7%	35.5%
2	ときどき立ち話をする程度	33.7%	38.9%	36.7%	29.8%
3	顔が合えばあいさつをする程度	28.7%	27.1%	27.7%	29.5%
4	ほとんどつきあいがいい	3.9%	4.1%	2.9%	3.4%
5	無回答	7.4%	7.8%	2.0%	1.8%

F 7 あなたは子どもの頃、昔起きた地震や津波について、親や祖父母、近所の人から、話を聞いたことがありますか（ひとつだけ）。					
		H23	H22	H19	H16
1	くり返し聞いたことがある	17.0%	19.6%	26.1%	17.0%
2	時々聞いた	47.3%	48.4%	50.6%	34.6%
3	ない	28.1%	23.2%	19.6%	35.2%
4	無回答	7.5%	8.9%	3.7%	13.2%

F 8 お宅で加入している保険にはどのようなものがありますか（いくつでも）。					
		H23	H22	H19	H16
1	火災保険	60.1%	28.3%	62.5%	54.8%
2	地震保険	31.7%	14.6%	29.5%	14.8%
3	家財等の保険	26.8%	12.5%	27.1%	24.6%
4	住宅総合保険	7.7%	3.4%	7.8%	8.6%
5	農協の建物更正共済	18.4%	9.4%	13.8%	24.1%
6	その他の保険など	11.5%	4.7%	12.1%	3.3%
7	1～6にはひとつも加入していない	12.1%	4.7%	13.7%	12.4%
8	無回答	7.9%	5.9%	4.4%	11.6%

## 2 使用した調査票（津波危険地区）

### 東南海・南海地震と津波に関するアンケート調査

平成23年8月

～ ご記入にあたってのお願い ～

1. ご回答は、宛名にあるご本人がご記入ください。
2. 質問は問1から問44まであり、最後にあなたご自身についての質問がF1からF8まであります。
3. ご回答は、選択肢の中からあてはまるものを選び、その番号を で囲んでください。
4. 付問のある質問は選択肢後ろの「問 へ」「付問 へ」のとおりお進みください。
5. **皆様のご意見は今後の防災事業の検討資料とさせていただきます。ご協力をお願いします。**
6. ご回答いただいたアンケート用紙は、**9月16日までに同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。**

< 調査に対するお問い合わせ先 >

和歌山県 総務部 危機管理局 総合防災課 防災企画班 担当：古川

TEL：073-441-2271 FAX：073-422-7652

【調査委託・実施機関】 和歌山航測 株式会社 担当：前原

TEL：073-462-1231 FAX：073-462-3631

### 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震についてお聞きします

問1	この3月11日(金)午後2時46分頃、太平洋三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が起き、震源域に近い東北地方の太平洋岸では、高い津波が甚大な被害をもたらしました。和歌山県沿岸にも全域に大津波警報が発表されましたが、この地震が発生した時、あなたはどこにいましたか(ひとつだけ)。
	1. 自宅 2. 港・海沿いの屋外 3. 海上の船の中 4. 住んでいる市町村内の自宅以外の建物の中 5. 住んでいる市町村内にはいなかった 6. その他( )

問2	あなたは、お住まいの地域に津波が来ると思いましたか(ひとつだけ)。
	1. 津波が必ず来ると思った 2. 津波が来るかもしれないと思った 3. 津波は来ないだろうと思った 4. 津波のことはほとんど考えなかった

問3	地震の後どのくらいで津波が来ると思いましたか(ひとつだけ)。
	1. すぐ逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った 2. 津波は早く来るが、服を着て、車に荷物を積んで逃げるくらいの余裕はあると思った 3. 津波が来るまでには、かなりの余裕があった 4. 津波が来るとは思わなかった



**問5の続き**

付問2

あなたはその避難の呼びかけをどのように受け止めましたか(ひとつだけ)。

1. 避難するように命令されたと受けとめた
2. できるだけ避難した方がよいと受けとめた
3. どちらかといえば避難した方がよいと受けとめた
4. 自分の住んでいる地域のことだとは思わなかった
5. その他( )

問6

では、あなたは実際に避難しましたか(ひとつだけ)。

1. 避難しなかった(付問1へ)                      2. 避難した(付問2へ)

付問1

あなたはなぜ避難しなかったのですか(いくつでも)。

1. その時いた場所が危険とは思わなかった
2. 市町村から避難勧告や避難指示の呼びかけを知らなかった
3. 海や川の水が大きく引くなどの前兆がなかった
4. 防波堤や防潮堤を越えるような大きな津波は来ないと思った
5. 予想される津波の高さが2mとか3mと放送していたので、危険とは思わなかった
6. テレビが放送していた港や海の様子をみて危険とは思わなかった
7. 体が不自由な家族がいて、避難できなかった
8. ぐっすり寝ていたから                      9. 車など避難する手段がなかった
10. 迷っているうちに避難し損ねた      11. 津波のことは考えつかなかった
12. その他( )

(続いて 問7へ)

付問2

あなたが避難したのはどこですか(ひとつだけ)。

1. 公民館や学校など市町村が指定した避難場所
2. 津波の危険がない、屋外の高台
3. 津波の危険がない、親戚・知人宅
4. その他( )

(続いて 付問3へ)

**問 6 の続き**

付問 3 あなたがどのような手段で避難しましたか（ひとつだけ）。

- |          |        |
|----------|--------|
| 1. 徒歩    | 2. 自転車 |
| 3. オートバイ | 4. 車   |
| 5. その他（  | ）      |

（続いて 付問 4 へ）

付問 4 あなたが避難し終わったのは何時頃でしたか。

だいたい  時くらい

（続いて 付問 5 へ）

付問 5 あなたが避難したきっかけは何でしたか（いくつでも）。

1. 以前津波を体験したので、津波が来ると思った
2. 地震の揺れ具合から津波が来ると思った
3. 海や川の水が大きく引いたので
4. 家族が避難しようと言ったので
5. 近所の人から避難するように言ったので
6. 市町村が避難を呼びかけたので
7. 津波警報や大津波警報を聞いたので
8. 役場や消防の人が来て、説得されたので
9. 実際に津波に襲われたので
10. テレビの映像を見たため
11. その他（

）

## 東南海・南海地震についてお聞きします

問7	あなたは東南海地震や南海地震にどの程度関心を持っていますか（ひとつだけ）。
1. 非常に関心がある      2. 関心がある      3. 多少関心がある      4. 関心がない	

問8	あなたは、東南海地震または南海地震が起こる可能性について、どのように思っていますか（ひとつだけ）。
1. 明日起きても不思議はないと思っている      2. 2～3年以内に起こりそう 3. ここ10年くらいの間に起きそう      4. ここ20～30年の間に起きそう 5. もっと先のことだと思う      6. 起きる時期はわからない	

問9	次のうちで、あなたがすでにご存じのことに、いくつでもをつけてください。
1. 政府が「南海地震がこの30年以内に起きる確率は60%」と発表したこと 2. 政府が「東南海地震がこの30年以内に起きる確率は70%」と発表したこと 3. 東南海地震と南海地震は、ほぼ同時に発生する可能性があること 4. 次に来る東南海・南海地震は昭和の東南海・南海地震よりひと回り大きい可能性が高いこと 5. 自分が住んでいる市町村が「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定されているかどうか 6. 東南海・南海地震以外に阪神・淡路大震災、新潟県中越（沖）地震、中央構造線断層帯による地震のような直下型地震が起きる可能性があること 7. 1.～6.については、ひとつも知らなかった	

問10	あなたはふだん、このような地震や地震災害についての情報を、どこから入手していますか（主なものに、いくつでも）。
1. テレビ      2. ラジオ      3. 新聞 4. 雑誌      5. 地震や災害の専門書      6. 県や市町村の広報誌 7. インターネット      8. 携帯メール      9. 家族から 10. 友人・知人から      11. 町内会・自治会を通じて      12. 消防署・消防団を通じて 13. その他（      ）      14. どこからも入手していない	

問11	東南海地震と南海地震が同時に起きたとき、強い揺れは最大でどのくらいの間、続くと思いますか（ひとつだけ）。
1. 10秒くらい      2. 20秒（阪神・淡路大震災くらい）      3. 30～50秒      4. 1分 5. 2～3分（東日本大震災くらい）      6. 4～5分      7. 6分以上      8. 全く予想がつかない	

## 津波への意識と避難についてお聞きします

問12	東南海地震と南海地震が同時に起きたとき、津波が来襲すると言われています。
(1)	地震の揺れの後、あなたがお住まいの近くの海岸に、津波は何分くらいで押し寄せると 思いますか(ひとつだけ)。
	1. 5分以内      2. 6～10分後      3. 11～15分後      4. 16～20分後 5. 21～30分後      6. 31～40分後      7. 41～60分後      8. 61分以上 9. まったく予想がつかない      10. 近くに海岸がない
(2)	どれくらいの高さの津波が押し寄せると思いますか(ひとつだけ)。
	1. 1～2 m      2. 3～4 m      3. 5～6 m      4. 7～9 m 5. 10m以上      6. まったく予想がつかない      7. 近くに海岸がない

問13	この地域にある防波堤、防潮堤、水門などで、東南海地震と南海地震が同時に起きたときの津波をどの程度防げると思いますか(ひとつだけ)。
	1. ほぼ完全に防げる      2. ほとんど防げる      3. そのときの潮位による 4. あまり防げない      5. わからない

問14	あなたのご自宅は、東南海地震と南海地震が同時に起きたときの津波で、どれくらいの高さまで浸水すると思いますか(ひとつだけ)。
	1. 自宅は津波で浸水しない      2. 50cmくらい      3. 1 mくらい      4. 2 mくらい 5. 3～4 m      6. 5～6 m      7. 7 m以上      8. まったく予想がつかない

問15	その津波で、あなたのご自宅はどのくらいの被害を受けると思いますか(ひとつだけ)。
	1. 流出する      2. 流出しないが大破する      3. 半壊程度 4. 一部損壊程度      5. 被害は受けない      6. まったく予想がつかない

問16	その津波で、あなたの住んでいる地域はどのくらいの被害を受けると思いますか(ひとつだけ)。
	1. 全滅する      2. 半分くらいが被害を受ける 3. 一部が被害を受ける      4. ほとんど被害は受けない

問17 ところで、夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上も続いたとします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか(ひとつだけ)。

1. 避難する(付問1へ)

2. 避難しない(問18へ)

付問1 あなたが避難する主な理由は何ですか(いくつでも)。

1. 津波に襲われる危険があるから(付問2へ)
2. がけ崩れ・山崩れの危険があるから(付問3-1へ)
3. 余震で家が倒壊する危険があるから(付問3-1へ)
4. 火災が延焼する危険があるから(付問3-1へ)
5. 電気や水道等が止まり生活できなくなるから(付問3-1へ)
6. その他( ) (付問3-1へ)

付問2 あなたはいつ避難しますか(ひとつだけ)。

1. できるだけ早く
2. 津波警報が出たら
3. 市町村から避難の呼びかけがあったら
4. 近所の人や家族が避難したら
5. 家族が避難したら
6. その他( )

(続いて 付問3-1へ)

付問3-1 あなたは、どこに避難しますか(ひとつだけ)。

1. 自宅近くの高台
2. 近くの高台に住んでいる親戚や知人の家
3. 市町村が決めた避難場所や避難所
4. 地域住民が自分たちで決めた避難場所
5. その他( )

(続いて 付問3-2へ)

付問3-2 下にあげた中で避難の際にどうしても持って行きたいもの(いくつでも)をつけてください。

1. 懐中電灯
2. 携帯電話
3. 現金
4. 保険証
5. 食料
6. 飲料水
7. 預金通帳や印鑑等
8. 入れ歯や眼鏡
9. ヘルメットや防災ずきん
10. 携帯ラジオ
11. 薬
12. 毛布または寝袋
13. その他( )
14. 何も持って行かない

(続いて 付問3-3へ)

## 問17の続き

付問3-3

余震（ゆれもどし）が続く中で、あなたが家の外に出るのにどれくらいの時間がかかるとお考えですか。その際、絶対持っていきたいものをそろえる時間も含めてください。地震は夜遅くに起き、停電で真っ暗になっており、しかも揺れでタンスや棚の中のものが部屋中に散乱しているとしてお考えください（ひとつだけ）。

- |            |            |            |            |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 5分以内    | 2. 6～10分後  | 3. 11～15分後 | 4. 16～20分後 |
| 5. 21～30分後 | 6. 31～40分後 | 7. 41～60分後 | 8. 61分以上   |

（続いて 付問3-4へ）

付問3-4

あなたはどのようにして避難しますか（ひとつだけ）。

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 1. 歩いて（付問3-5へ）  | 2. 自転車・バイクで（付問3-5へ） |
| 3. 車で（付問3-4-1へ） | 4. 船で（付問3-4-1へ）     |

付問3-4-1

あなたが車や船を使う主な理由は何ですか（ひとつだけ）。

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 避難場所が遠いから       | 2. 車や船は大切な財産だから       |
| 3. 荷物を運ぶのに必要だから    | 4. 早く避難できるから          |
| 5. ひとりで歩けない家族がいるから | 6. 真っ暗な中で歩いていくのは大変だから |
| 7. 家族と一緒に避難したいから   | 8. その他（ ）             |

（続いて 付問3-5へ）

付問3-5

避難を始めてから避難場所に到着するまでに、何分くらいかかるとお考えですか（ひとつだけ）。

- |            |            |            |            |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 5分以内    | 2. 6～10分後  | 3. 11～15分後 | 4. 16～20分後 |
| 5. 21～30分後 | 6. 31～40分後 | 7. 41～60分後 | 8. 61分以上   |

（続いて 付問3-6へ）

付問3-6

あなたは、津波が来る前に、安全な場所までたどり着けるとお考えですか。（ひとつだけ）。

1. 津波が来る前に必ずたどり着けると思う
2. 津波が来るのと、たどり着くのとほぼ同時だと思う
3. 津波が来るまでにたどり着けない恐れが強いと思う

（続いて 付問3-7へ）

## 問17の続き

付問3-7 下にあげた中で、あなたが、避難するときの妨げになると心配していることに、いくつかをつけてください。

1. 倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり、避難に手間取る
2. 道路が液状化(地震の揺れで、泥水が噴き出す現象)などでデコボコになり、避難に手間取る
3. 避難路が崖崩れなどで通れなくなる
4. 近所の家が倒壊し、閉じこめられている人の救出のため避難が遅れる
5. 火事が出て、消火を手伝うため、避難が遅れる
6. 車で避難する人がたくさんいるため、道路が渋滞する
7. その他 ( )

問18 あなたが避難しない主な理由は何ですか(ひとつだけ )。

1. 近くの避難場所を知らないから
2. 避難経路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 自宅が安全だから
5. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
6. その他 ( )

## 避難体制についてお聞きします

問19 あなたがお住まいの地域では、ひとりで避難することが困難な高齢者や要介護者の避難を地域として支援する体制ができていますか(ひとつだけ )。

- 1.できている    2.できていないが検討している    3.検討もしていない    4.よく知らない

問20 地震や津波の時の避難対策として、県や市町村は何をすべきだと思いますか(いくつかでも)。

1. 避難路の整備
2. 避難所や避難場所の整備
3. 看板(避難所、避難場所、避難路)の整備
4. 近くに高台がない所で、津波の際に緊急避難できる高い建物(避難ビル)の整備
5. 市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達
6. 避難所となる小中学校の耐震化
7. 地域毎の詳しい津波避難計画の作成
8. 緊急時の情報伝達手段(防災無線等)の整備
9. 支援が必要な人の避難誘導體制の整備
10. 避難にあたっての車の使い方などのルールづくりとその徹底
11. 津波危険地区の集団移転
12. その他 ( )



## 津波への考え方についてお聞きします

問25

津波や津波対策については、いろいろな考え方や意見があります。下にあげたa～eのそれぞれについて、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号にひとつずつをつけてください。

	そう思う	まあ思う	あまりない	そうない
a. 大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く	1	2	3	4
b. 地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない	1	2	3	4
c. 海の水が大きく引いてから避難しても間に合う	1	2	3	4
d. 津波警報が出てから避難しても間に合う	1	2	3	4
e. 市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない	1	2	3	4

## 避難場所・避難経路を家族で話し合いましょう！

津波警報が発令されたら、  
迅速に高台などの安全な避難場所へ避難しましょう！！

**津波避難3原則**

- ① 想定にとらわれない
- ② 最善を尽くせ
- ③ 率先避難者になれ



**避難カード**

大避難場所

氏名 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_ 性別 \_\_\_\_\_ 家族 \_\_\_\_\_

緊急連絡先 \_\_\_\_\_

緊急避難先 \_\_\_\_\_

避難場所 \_\_\_\_\_

片田敏孝群馬大学大学院教授監修

## 自主防災組織についてお聞きします

問26

あなたのお宅は、町内会（自治会）に入っていますか（ひとつだけ）。

1. 入っている      2. 入っていない      3. 町内会(自治会)はない      4. わからない

問27

あなたのお宅は、地域の自主防災組織（町内会・自治会などを母体に、地域の住民が防災活動をするための組織）に入っていますか（ひとつだけ）。

1. 入っている（付問1へ）      2. 入っていない（問28へ）  
3. 自主防災組織はない（問28へ）      4. わからない（問28へ）

付問1

あなたの地域の自主防災組織の活動は活発ですか（ひとつだけ）。

1. 活発に活動している      2. まあ活動している  
3. あまり活動していない      4. よく知らない

問28	大地震が起きたあと、あなたご自身は、地域の人と協力して次のようなことができると思いますか。できると思うことにいくつかをつけてください。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生き埋めになった近所の人を、がれきの中から救助する</li> <li>2. 火災が出たとき消火する</li> <li>3. 重症者が出たとき病院などへ車や戸板などで運ぶ</li> <li>4. 高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う</li> <li>5. 避難した人たちのために、炊き出しをする</li> <li>6. 避難所の運営を手伝う</li> <li>7. 1.～6.のようなことはできない</li> </ol>	

問29	自主防災組織の活動の中心的担い手である地域防災リーダーとして活動することについて、どのようにお考えですか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在、すでに地域防災リーダーとして活動している</li> <li>2. 地域防災リーダーになって活動してみたい</li> <li>3. 頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい</li> <li>4. 仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーにはなれない</li> <li>5. いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい</li> <li>6. よくわからない</li> </ol>	

### 耐震化・家具固定・ブロック塀対策についてお聞きします

問30	あなたがお住まいのご自宅は、いつ頃建てられたものですか。増改築されている場合は、主な部分の建築年をお答えください（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦前</li> <li>2. 戦後～昭和35年までの間</li> <li>3. 昭和36～45年までの間</li> <li>4. 昭和46～55年</li> <li>5. 昭和56年～平成6年</li> <li>6. 平成7年(阪神・淡路大震災)以降</li> </ol>	

問31	あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一戸建て</li> <li>2. 1～2階建て集合住宅</li> <li>3. 高層（3階建て以上の）集合住宅</li> <li>4. 住宅と事業所を兼ねた建物</li> <li>5. その他（ ）</li> </ol>	

問32 あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ）。

1. 木造（付問1へ）                      2. 鉄骨造（問33へ）                      3. 鉄筋コンクリート造（問33へ）  
4. 鉄筋・鉄骨コンクリート造（問33へ） 5. その他（                      ）（問33へ）

付問1 お宅では、専門家による耐震診断（地震の揺れに対する建物の強さの診断）を受けたことがありますか（ひとつだけ）。

1. ある（付問2へ）      2. ない（付問3へ）

付問2 耐震診断をした結果はいかがでしたか（ひとつだけ）。

1. 耐震補強が必要（付問2-1へ）      2. 耐震補強する必要はない（問33へ）

付問2-1 耐震補強が必要と診断された後、補強等をなさいましたか（ひとつだけ）。

1. 建て替えた                                      2. 補強した  
3. 今後建て替える予定                              4. 今後補強する予定  
5. 建て替えも補強もする予定はない                              6. まだ決めていない

（続いて 問33へ）

付問3 お宅が耐震診断を受けていないのは、どうしてですか（いくつでも）。

1. 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に強いことがわかっているから  
2. 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に弱いとわかっているから  
3. 手間がかかるから                              4. 耐震診断の費用がかかるから  
5. 借家だから                                      6. 耐震診断のやり方がわからないから  
7. 近いうちにリフォーム予定なので、そのときに耐震診断をするつもり  
8. 近いうちに建て替えるつもりなのでそのときに耐震診断をするつもり  
9. 耐震診断の結果、耐震補強などが必要になっても費用が出せないから  
10. どんなに耐震化しても大地震にあえば被害は避けられないと思うから  
11. どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから  
12. 自分が生きている間に東南海・南海地震は起きないと思うから  
13. 地震災害に関心がないから      14. その他（                      ）

（続いて 付問4へ）

付問4 今後、耐震診断をしたいですか（ひとつだけ）。

1. 耐震診断を試みたい                              2. 相談してみたい  
3. 耐震診断はしたくない                              4. 分からない



問35	家具類の固定を促進するために、県や市町村では何をすべきだと思いますか（いくつでも）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布</li> <li>2. 家具類の固定方法について無料で相談に乗ってくれる人や業者のあっせん</li> <li>3. 家具類の固定に必要な費用の補助</li> <li>4. 無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣</li> <li>5. 自主防災組織などが地域で家具類の固定を行うための補助制度の創設</li> <li>6. 個人宅なので、行政は何もすべきでない</li> </ol>	

問36	お宅にはブロック塀や石塀、門柱などがありますか。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ある（付問1へ）</li> <li>2. 危険なので取り壊した（問37へ）</li> <li>3. 生け垣に変えた（問37へ）</li> <li>4. もともとない（問37へ）</li> <li>5. その他（ ）（問37へ）</li> </ol>	

付問1	お宅では、ブロック塀や石塀、門柱などの地震時の安全性を点検しましたか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 点検していない（付問2へ）</li> <li>2. 点検した結果、危険と言われた（付問3へ）</li> <li>3. 点検して安全と言われた（問37へ）</li> </ol>	

付問2	点検していない主な理由は何ですか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 点検するまでもなく危険だから</li> <li>2. 点検の方法がわからないから</li> <li>3. 点検しなくても安全と思うから</li> <li>4. 費用がかかるから</li> <li>5. 借家だから</li> <li>6. 手間がかかるから</li> <li>7. 対策しても被害は防げないと思うから</li> <li>8. 東南海・南海地震はすぐには起きないと思うから</li> <li>9. 地震災害に関心がないから</li> <li>10. その他（ ）</li> </ol> <p style="text-align: right;">（続いて 付問3へ）</p>	

付問3	お宅では、今後ブロック塀や石塀、門柱などを補強したり、生け垣などに変える予定はありますか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. すでに変えた</li> <li>2. 変える予定がある</li> <li>3. 変える予定はない</li> <li>4. 検討中</li> <li>5. わからない</li> </ol>	

問37	今後、ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するために、県や市町村は、何をすべきだと思いますか(いくつか)。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 塀、門柱などの耐震診断や補強方法を詳しく説明したパンフレットの配布</li> <li>2. 専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施</li> <li>3. 信用がおける工事業者のあっせん</li> <li>4. 塀、門柱などの補強や建て替え、生け垣化の費用の補助</li> <li>5. 自主防災組織などが塀や門柱の耐震化や生け垣化を行うための補助制度の創設</li> <li>6. 個人宅なので、行政は何もすべきでない</li> </ol>	

### 備蓄や訓練についてお聞きします

問38	お宅では東南海地震や南海地震などに備えて、下にあげたような地震防災対策を行っていますか(いくつか)。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.地震が起きたとき避難する場所を決めている</li> <li>2.家族の連絡方法を決めている</li> <li>3.家族が離ればなれになったときに落ち合う場所を決めている</li> <li>4.風呂にいつも水を入れている</li> <li>5.ガラスがこわれて飛び散らないよう、防止対策をしている</li> <li>6.ガスボンベを倒れないようにしている</li> <li>7.消火器を用意している</li> <li>8.懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている</li> <li>9.懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、点検をこまめにしている</li> <li>10.非常持ち出し品を用意している(付問1へ)</li> <li>11.自宅には、地震後、家族が3日間食べていけるだけの食料や飲料水が常にある</li> </ol> <p style="text-align: right;">(「10.」以外の方は 問39へ)</p>	

付問1	非常持ち出し品として、すぐ持ち出せるよう、まとめて置いてあるものすべてに をつけてください。																					
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. 懐中電灯</td> <td style="width: 33%;">2. 携帯ラジオ</td> <td style="width: 33%;">3. 飲料水</td> </tr> <tr> <td>4. 食料品</td> <td>5. 現金</td> <td>6. 下着類</td> </tr> <tr> <td>7. テント</td> <td>8. 預金通帳や印鑑など</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. ヘルメット、防災ずきんなど</td> <td>10. 救急医薬品や常備薬</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11. ちり紙、タオル、石けん</td> <td>12. ナイフ、缶切り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13. ロープ、ひも</td> <td>14. 毛布または寝袋など</td> <td>15. 携帯電話</td> </tr> <tr> <td>16. 電池</td> <td>17. その他( )</td> <td></td> </tr> </table>		1. 懐中電灯	2. 携帯ラジオ	3. 飲料水	4. 食料品	5. 現金	6. 下着類	7. テント	8. 預金通帳や印鑑など		9. ヘルメット、防災ずきんなど	10. 救急医薬品や常備薬		11. ちり紙、タオル、石けん	12. ナイフ、缶切り		13. ロープ、ひも	14. 毛布または寝袋など	15. 携帯電話	16. 電池	17. その他( )	
1. 懐中電灯	2. 携帯ラジオ	3. 飲料水																				
4. 食料品	5. 現金	6. 下着類																				
7. テント	8. 預金通帳や印鑑など																					
9. ヘルメット、防災ずきんなど	10. 救急医薬品や常備薬																					
11. ちり紙、タオル、石けん	12. ナイフ、缶切り																					
13. ロープ、ひも	14. 毛布または寝袋など	15. 携帯電話																				
16. 電池	17. その他( )																					

問39	あなたは、次のようなことを行ったり、参加したことがありますか（いくつでも ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の地震・津波防災検討会や、地図を使って地震時の対応を考える図上演習に参加した</li> <li>2. 自分でできる簡易耐震診断（「わが家の耐震診断」など）を行った</li> <li>3. 地震時の津波避難に適切な場所を見て回った</li> <li>4. 自分たちの地域の防災マップを作った</li> <li>5. 県や市町村の広報誌の東南海・南海地震特集を読んだ</li> <li>6. 地震防災に関するパンフレットを読んだ</li> <li>7. 県や市町村が作成した地震被害想定結果を見た</li> <li>8. 地域ごとの津波避難計画づくりに参加した</li> <li>9. 地震防災に関する講演会などに参加した</li> <li>10. 市町村が作成した津波浸水予測図で、自宅がどれくらい津波で浸水するか確認した</li> </ol>	

問40	あなたは、過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか（いくつでも ）。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県や市町村、消防機関が主催する地震防災訓練に参加した（付問1へ）</li> <li>2. 住民が中心となって行った地震防災訓練に参加した（付問1へ）</li> <li>3. 職場で行った地震防災訓練に参加した（付問1へ）</li> <li>4. その他の地震防災訓練に参加した（付問1へ）</li> <li>5. 1.～4.の訓練には、まったく参加していない（問41へ）</li> </ol>										
付問1	具体的にはどのような訓練に参加しましたか（いくつでも ）。									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. 津波避難訓練</td> <td style="width: 33%;">2. 消火訓練</td> <td style="width: 33%;">3. 救出・救助訓練</td> </tr> <tr> <td>4. 応急手当訓練</td> <td>5. 炊き出し訓練</td> <td>6. 情報伝達訓練</td> </tr> <tr> <td>7. 介護を必要とする人の介助訓練</td> <td colspan="2">8. その他（ ）</td> </tr> </table>		1. 津波避難訓練	2. 消火訓練	3. 救出・救助訓練	4. 応急手当訓練	5. 炊き出し訓練	6. 情報伝達訓練	7. 介護を必要とする人の介助訓練	8. その他（ ）	
1. 津波避難訓練	2. 消火訓練	3. 救出・救助訓練								
4. 応急手当訓練	5. 炊き出し訓練	6. 情報伝達訓練								
7. 介護を必要とする人の介助訓練	8. その他（ ）									

問41	どのような訓練が必要であると思いますか（いくつでも ）。												
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">1. 津波避難訓練</td> <td style="width: 25%;">2. 消火訓練</td> <td style="width: 25%;">3. 救出・救助訓練</td> <td style="width: 25%;">4. 応急手当て訓練</td> </tr> <tr> <td>5. 炊き出し訓練</td> <td>6. 情報伝達訓練</td> <td>7. 介護を必要とする人の介助訓練</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. その他（ ）</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>		1. 津波避難訓練	2. 消火訓練	3. 救出・救助訓練	4. 応急手当て訓練	5. 炊き出し訓練	6. 情報伝達訓練	7. 介護を必要とする人の介助訓練		8. その他（ ）			
1. 津波避難訓練	2. 消火訓練	3. 救出・救助訓練	4. 応急手当て訓練										
5. 炊き出し訓練	6. 情報伝達訓練	7. 介護を必要とする人の介助訓練											
8. その他（ ）													

## 災害への意識と行政への要望についてお聞きします

問42	災害についてはいろいろな考え方があります。あなたは、以下のような考え方に賛成しますか、それとも反対しますか(a～eのそれぞれにひとつずつ)。			
		賛 成	やや 賛 成	やや 反 対
	a. 防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ	1	2	3
	b. 大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ	1	2	3
	c. 大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない	1	2	3
	d. 災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ	1	2	3
	e. 体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない	1	2	3

問43	あなたがお住まいの地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか(いくつでも)。										
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化</td> <td style="width: 50%;">2. 自主防災組織の必要性のPR</td> </tr> <tr> <td>3. 自主防災組織の育成・強化</td> <td>4. 自主防災組織の防災資機材の整備・充実</td> </tr> <tr> <td>5. 実践的防災訓練や図上演習などの実施</td> <td>6. 地域防災リーダーの育成・研修</td> </tr> <tr> <td>7. 小中学校の防災教育の充実</td> <td>8. 消防団の強化</td> </tr> <tr> <td>9. 消防団・近隣の事業所などとの連携促進</td> <td>10. その他( )</td> </tr> </table>	1. 地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化	2. 自主防災組織の必要性のPR	3. 自主防災組織の育成・強化	4. 自主防災組織の防災資機材の整備・充実	5. 実践的防災訓練や図上演習などの実施	6. 地域防災リーダーの育成・研修	7. 小中学校の防災教育の充実	8. 消防団の強化	9. 消防団・近隣の事業所などとの連携促進	10. その他( )
1. 地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化	2. 自主防災組織の必要性のPR										
3. 自主防災組織の育成・強化	4. 自主防災組織の防災資機材の整備・充実										
5. 実践的防災訓練や図上演習などの実施	6. 地域防災リーダーの育成・研修										
7. 小中学校の防災教育の充実	8. 消防団の強化										
9. 消防団・近隣の事業所などとの連携促進	10. その他( )										

問44	あなたは、県や市町村にどのような地震防災対策を望みますか。下の空欄にどんなことでもお書きください。
	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

最後にあなたご自身のことをお伺いします。あてはまる番号に をつけてください。

F 1	性別
1. 男性	2. 女性

F 2	年齢				
1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上

F 3	あなたは、ここにお住みになってから何年になりますか(ひとつだけ )。			
1. 5年未満	2. 5～10年未満	3. 10～20年未満	4. 20～30年未満	5. 30年以上

F 4	職業		
1. 勤め人(会社員・公務員)	2. 商工自営業	3. 農林業	4. 漁業
5. 専業主婦	6. パートの主婦	7. 無職(すでに退職)	8. その他( )

F 5	同居しているご家族は何人いますか(ご本人も含め、ひとつだけ )。				
1. 1人(独居)	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人	6. 6人以上

付問 1	同居しているご家族の中に次のような方はいらっしゃいますか(いくつでも )。
1. 3歳以下の乳幼児	2. 4歳以上で小学校入学前の子ども
3. 小学生	4. 70歳以上の人
5. 日常生活で介護を必要とする人	6. 1.～5.の人はいない

F 6	あなたはご近所とどのようなおつきあいをしていますか(ひとつだけ )。
1. 留守を頼んだり親しく話をする	2. ときどき立ち話をする程度
3. 顔が合えばあいさつをする程度	4. ほとんどつきあいがいい

F 7	あなたは子どもの頃、昔起きた地震や津波について、親や祖父母、近所の人から、話を聞いたことがありますか(ひとつだけ )。	
1. くり返し聞いたことがある	2. 時々聞いた	3. ない

F 8	お宅で加入している保険にはどのようなものがありますか(いくつでも )。	
1. 火災保険	2. 地震保険	3. 家財等の保険
4. 住宅総合保険	5. 農協の建物更正共済	6. その他の保険など
7. 1.～6.にはひとつも加入していない		

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。  
この用紙を同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。

### 3 使用した調査票（全県）

## 東南海・南海地震と津波に関するアンケート調査

平成23年8月

～ ご記入にあたってのお願い ～

1. ご回答は、宛名にあるご本人がご記入ください。
2. 質問は問1から問31まであり、最後にあなたご自身についての質問がF1からF8まであります。
3. ご回答は、選択肢の中からあてはまるものを選び、その番号を で囲んでください。
4. 付問のある質問は選択肢後ろの「問 へ」「付問 へ」のとおりお進みください。
5. **皆様のご意見は今後の防災事業の検討資料とさせていただきます。ご協力をお願いします。**
6. ご回答いただいたアンケート用紙は、**9月28日までに同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。**

< 調査に対するお問い合わせ先 >

和歌山県 総務部 危機管理局 総合防災課 防災企画班 担当：古川

TEL：073-441-2271 FAX：073-422-7652

【調査委託・実施機関】 和歌山航測 株式会社 担当：前原

TEL：073-462-1231 FAX：073-462-3631

### 東南海・南海地震についてお聞きします

問1 あなたは東南海地震や南海地震にどの程度関心を持っていますか（ひとつだけ）。

1. 非常に関心がある
2. 関心がある
3. 多少関心がある
4. 関心がない

問2 あなたは、東南海地震または南海地震が起こる可能性について、どのように思っていますか（ひとつだけ）。

1. 明日起きても不思議はないと思っている
2. 2～3年以内に起こりそうだ
3. ここ10年くらいの間に起きそうだ
4. ここ20～30年の間に起きそうだ
5. もっと先のことだと思う
6. 起きる時期はわからない

問3 次のうちで、あなたがすでにご存じのことに、いくつでも をつけてください。

1. 政府が「南海地震がこの30年以内に起きる確率は60%」と発表したこと
2. 政府が「東南海地震がこの30年以内に起きる確率は70%」と発表したこと
3. 東南海地震と南海地震は、ほぼ同時に発生する可能性があること
4. 次に来る東南海・南海地震は昭和の東南海・南海地震よりひと回り大きい可能性が高いこと
5. 自分が住んでいる市町村が「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定されているかどうか
6. 東南海・南海地震以外に阪神・淡路大震災、新潟県中越（沖）地震、中央構造線断層帯による地震のような直下型地震が起きる可能性があること
7. 1.～6.については、ひとつも知らなかった

問4	あなたはふだん、このような地震や地震災害についての情報を、どこから入手していますか（主なものに、いくつでも）。	
1. テレビ	2. ラジオ	3. 新聞
4. 雑誌	5. 地震や災害の専門書	6. 県や市町村の広報誌
7. インターネット	8. 携帯メール	9. 家族から
10. 友人・知人から	11. 町内会・自治会を通じて	12. 消防署・消防団を通じて
13. その他（	）	14. どこからも入手していない

問5	東南海地震と南海地震が同時に起きたとき、強い揺れは最大でどのくらいの間、続くと思いますか（ひとつだけ）。		
1. 10秒くらい	2. 20秒（阪神・淡路大震災くらい）	3. 30～50秒	4. 1分
5. 2～3分（東日本大震災くらい）	6. 4～5分	7. 6分以上	8. 全く予想がつかない

### 避難体制についてお聞きします

問6	あなたがお住まいの地域では、ひとりで避難することが困難な高齢者や要介護者の避難を地域として支援する体制ができていますか（ひとつだけ）。		
1. できている	2. できていないが検討している	3. 検討もしていない	4. よく知らない

問7	地震や津波の時の避難対策として、県や市町村は何をすべきだと思いますか（いくつでも）。
1. 避難路の整備	
2. 避難所や避難場所の整備	
3. 看板（避難所、避難場所、避難路）の整備	
4. 近くに高台がない所で、津波の際に緊急避難できる高い建物（避難ビル）の整備	
5. 市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達	
6. 避難所となる小中学校の耐震化	
7. 地域毎の詳しい津波避難計画の作成	
8. 緊急時の情報伝達手段（防災無線等）の整備	
9. 支援が必要な人の避難誘導體制の整備	
10. 避難にあたっての車の使い方などのルールづくりとその徹底	
11. 津波危険地区の集団移転	
12. その他（	）

## 避難情報についてお聞きします

問8 市役所や町村役場が、緊急時の連絡などに使う屋外に設置された防災無線のスピーカーはありますか。また、そのスピーカーの聞こえ具合はどうか（ひとつだけ）。

1. ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる
2. よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいで聞きとれないことがある
3. ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない
4. 放送の内容はまったく聞きとれない
5. 近くに防災無線のスピーカーが設置されていない

問9 問8の防災無線は、大地震が起きた時、役に立つと思いますか（ひとつだけ）。

1. 非常に役立つ
2. ある程度役立つ
3. ほとんど役に立たない
4. まったく役に立たない

問10 県の『防災わかやまメール配信サービス（気象情報や避難勧告などの緊急情報を電子メールで配信するサービス）』に登録していますか。

1. している（問11へ）
2. していない（付問1へ）

付問1 なぜ登録していないのですか。

1. 防災メールを知らなかったから
2. 送られてくる情報が少ないから
3. 他の情報源があるから
4. 電子メールを利用していない
5. 防災に興味がないから
6. その他（ ）



『防災わかやまメール配信サービス』への登録手順

1. 空メール送信  
[regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp]  
上記アドレスにそのままメールを送信してください。（件名・本文は不要）  
左のQRコードを携帯電話で読み込んでメールを送信することも可能です。
2. 返信メールが届きます  
登録URLが記載されたメールが返信されます。
3. 登録  
登録用URLにインターネット経由でアクセスし、情報を登録します。
4. 登録  
完了登録後に登録完了通知が届けば登録は完了です。

問11 気象庁では、地震の大きな揺れが来る数秒から数十秒前に、「大きな揺れが来る」ことを知らせる緊急地震速報を発表しています。

(1) あなたはこのことをご存じですか。

1. よく知っている
2. 何となく知っている
3. 知らない

(2) もし、あなたが「あと10数秒で震度6強の揺れが来る」という緊急地震速報を自宅で知ったとき、どうしますか（いくつでも）。

1. その場で様子を見る
2. 机、テーブル、ベッドの下にもぐる
3. 家の中の安全なところを探して身を守る
4. 急いで外に出る
5. 家族に危険を知らせる
6. テレビでもう一度確認する
7. その他（ ）

## 津波への考え方についてお聞きします

問12	津波や津波対策については、いろいろな考え方や意見があります。下にあげたa～eのそれぞれについて、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号にひとつずつをつけてください。					
		そう思う	まあ思う	思わない	あまりない	思わない
	a. 大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く	1	2	3	4	
	b. 地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない	1	2	3	4	
	c. 海の水が大きく引いてから避難しても間に合う	1	2	3	4	
	d. 津波警報が出てから避難しても間に合う	1	2	3	4	
e. 市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない	1	2	3	4		

## 避難場所・避難経路を家族で話し合いましょう！

津波警報が発令されたら、  
迅速に高台などの安全な避難場所へ避難しましょう！！

**津波避難3原則**

- ① 想定にとらわれない
- ② 最善を尽くせ
- ③ 率先避難者になれ



**避難カード** 大避難場所

しめい  
氏名 \_\_\_\_\_

住居 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_ 性別 \_\_\_\_\_ 家族 \_\_\_\_\_

緊急連絡先  
① \_\_\_\_\_  
② \_\_\_\_\_  
③ \_\_\_\_\_

緊急避難先  
\_\_\_\_\_

緊急避難先  
\_\_\_\_\_

片田敏孝群馬大学大学院教授監修

## 自主防災組織についてお聞きします

問13	あなたのお宅は、町内会（自治会）に入っていますか（ひとつだけ）。
1. 入っている      2. 入っていない      3. 町内会(自治会)はない      4. わからない	

問14	あなたのお宅は、地域の自主防災組織（町内会・自治会などを母体に、地域の住民が防災活動をするための組織）に入っていますか（ひとつだけ）。
1. 入っている（付問1へ）      2. 入っていない（問15へ） 3. 自主防災組織はない（問15へ）      4. わからない（問15へ）	

付問1	あなたの地域の自主防災組織の活動は活発ですか（ひとつだけ）。
1. 活発に活動している      2. まあ活動している 3. あまり活動していない      4. よく知らない	

問15	大地震が起きたあと、あなたご自身は、地域の人と協力して次のようなことができると思いますか。できると思うことにいくつでもをつけてください。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生き埋めになった近所の人を、がれきの中から救助する</li> <li>2. 火災が出たとき消火する</li> <li>3. 重症者が出たとき病院などへ車や戸板などで運ぶ</li> <li>4. 高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う</li> <li>5. 避難した人たちのために、炊き出しをする</li> <li>6. 避難所の運営を手伝う</li> <li>7. 1.～6.のようなことはできない</li> </ol>	

問16	自主防災組織の活動の中心的担い手である地域防災リーダーとして活動することについて、どのようにお考えですか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在、すでに地域防災リーダーとして活動している</li> <li>2. 地域防災リーダーになって活動してみたい</li> <li>3. 頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい</li> <li>4. 仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーにはなれない</li> <li>5. いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい</li> <li>6. よくわからない</li> </ol>	

### 耐震化・家具固定・ブロック塀対策についてお聞きします

問17	あなたがお住まいのご自宅は、いつ頃建てられたものですか。増改築されている場合は、主な部分の建築年をお答えください（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦前</li> <li>2. 戦後～昭和35年までの間</li> <li>3. 昭和36～45年までの間</li> <li>4. 昭和46～55年</li> <li>5. 昭和56年～平成6年</li> <li>6. 平成7年(阪神・淡路大震災)以降</li> </ol>	

問18	あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一戸建て</li> <li>2. 1～2階建て集合住宅</li> <li>3. 高層（3階建て以上の）集合住宅</li> <li>4. 住宅と事業所を兼ねた建物</li> <li>5. その他（ ）</li> </ol>	

問19 あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ）。

1. 木造（付問1へ）                      2. 鉄骨造（問20へ）                      3. 鉄筋コンクリート造（問20へ）  
4. 鉄筋・鉄骨コンクリート造（問20へ） 5. その他（                      ）（問20へ）

付問1 お宅では、専門家による耐震診断（地震の揺れに対する建物の強さの診断）を受けたことがありますか（ひとつだけ）。

1. ある（付問2へ）      2. ない（付問3へ）

付問2 耐震診断をした結果はいかがでしたか（ひとつだけ）。

1. 耐震補強が必要（付問2-1へ）      2. 耐震補強する必要はない（問20へ）

付問2-1 耐震補強が必要と診断された後、補強等をなさいましたか（ひとつだけ）。

1. 建て替えた                                      2. 補強した  
3. 今後建て替える予定                              4. 今後補強する予定  
5. 建て替えも補強もする予定はない              6. まだ決めていない

（続いて 問20へ）

付問3 お宅が耐震診断を受けていないのは、どうしてですか（いくつでも）。

1. 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に強いことがわかっているから  
2. 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に弱いとわかっているから  
3. 手間がかかるから                              4. 耐震診断の費用がかかるから  
5. 借家だから                                      6. 耐震診断のやり方がわからないから  
7. 近いうちにリフォーム予定なので、そのときに耐震診断をするつもり  
8. 近いうちに建て替えるつもりなのでそのときに耐震診断をするつもり  
9. 耐震診断の結果、耐震補強などが必要になっても費用が出せないから  
10. どんなに耐震化しても大地震にあえば被害は避けられないと思うから  
11. どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから  
12. 自分が生きている間に東南海・南海地震は起きないと思うから  
13. 地震災害に関心がないから      14. その他（                      ）

（続いて 付問4へ）

付問4 今後、耐震診断をしたいですか（ひとつだけ）。

1. 耐震診断を試みたい                              2. 相談してみたい  
3. 耐震診断はしたくない                              4. 分からない

問20	今後、木造住宅の耐震化を促進するために、県や市町村は何をすべきだと思いますか（いくつかでも）
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 耐震診断の専門家のあっせん</li> <li>2. 耐震診断の専門家の無料派遣</li> <li>3. 工事費用の低金利による貸付け</li> <li>4. 耐震補強工事に対する助成制度の創設・拡充</li> <li>5. 耐震補強工事の必要性や工事の実例を詳しく紹介したパンフレットの配布</li> <li>6. 耐震性の低いアパートや借家などの家主に対する指導</li> <li>7. 個人でもっと簡単にできる診断方法の開発</li> <li>8. 信用できる耐震補強工事業者のあっせん</li> <li>9. 耐震診断・耐震補強に関する地区毎の説明会の実施</li> <li>10.耐震補強工事の実例（実物）展示</li> <li>11.個人宅なので、行政は何もすべきでない</li> </ol>	

問21	お宅では家具類の固定をしていますか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 固定はしていない（付問1へ）</li> <li>2. 一部のみ固定している（問22へ）</li> <li>3. 全部または大部分を固定している（問22へ）</li> </ol>	
付問1	家具類の固定をしていないのはどのような理由からですか（いくつかでも）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建物や家具を傷めるから</li> <li>2. 固定の方法がわからないから</li> <li>3. 借家だから</li> <li>4. 費用がかかるから</li> <li>5. 手間がかかるから</li> <li>6. 固定しなくても大丈夫だと思うから</li> <li>7. 家具類を置かない安全な部屋があるから</li> <li>8. 固定しても被害は出ると思うから</li> <li>9. 東南海・南海地震はすぐには起きないと思うから</li> <li>10.地震災害に関心がないから</li> <li>11.その他（ ）</li> </ol> <p style="text-align: right;">（続いて 付問2へ）</p>	
付問2	今後、家具類の固定をしたいと思いますか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. きちんと固定したい</li> <li>2. 相談してみたい</li> <li>3. 固定はしたくない</li> <li>4. 分からない</li> </ol>	

問22	家具類の固定を促進するために、県や市町村では何をすべきだと思いますか（いくつでも）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布</li> <li>2. 家具類の固定方法について無料で相談に乗ってくれる人や業者のあっせん</li> <li>3. 家具類の固定に必要な費用の補助</li> <li>4. 無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣</li> <li>5. 自主防災組織などが地域で家具類の固定を行うための補助制度の創設</li> <li>6. 個人宅なので、行政は何もすべきでない</li> </ol>	

問23	お宅にはブロック塀や石塀、門柱などがありますか。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ある（付問1へ）</li> <li>2. 危険なので取り壊した（問24へ）</li> <li>3. 生け垣に変えた（問24へ）</li> <li>4. もともとない（問24へ）</li> <li>5. その他（ ）（問24へ）</li> </ol>	

付問1	お宅では、ブロック塀や石塀、門柱などの地震時の安全性を点検しましたか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 点検していない（付問2へ）</li> <li>2. 点検した結果、危険と言われた（付問3へ）</li> <li>3. 点検して安全と言われた（問24へ）</li> </ol>	

付問2	点検していない主な理由は何ですか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 点検するまでもなく危険だから</li> <li>2. 点検の方法がわからないから</li> <li>3. 点検しなくても安全と思うから</li> <li>4. 費用がかかるから</li> <li>5. 借家だから</li> <li>6. 手間がかかるから</li> <li>7. 対策しても被害は防げないと思うから</li> <li>8. 東南海・南海地震はすぐには起きないと思うから</li> <li>9. 地震災害に関心がないから</li> <li>10. その他（ ）</li> </ol> <p style="text-align: right;">（続いて 付問3へ）</p>	

付問3	お宅では、今後ブロック塀や石塀、門柱などを補強したり、生け垣などに変える予定はありますか（ひとつだけ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. すでに変えた</li> <li>2. 変える予定がある</li> <li>3. 変える予定はない</li> <li>4. 検討中</li> <li>5. わからない</li> </ol>	

問24	今後、ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するために、県や市町村は、何をすべきだと思いますか(いくつかでも )。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 塀、門柱などの耐震診断や補強方法を詳しく説明したパンフレットの配布</li> <li>2. 専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施</li> <li>3. 信用がおける工事業者のあっせん</li> <li>4. 塀、門柱などの補強や建て替え、生け垣化の費用の補助</li> <li>5. 自主防災組織などが塀や門柱の耐震化や生け垣化を行うための補助制度の創設</li> <li>6. 個人宅なので、行政は何もすべきでない</li> </ol>	

### 備蓄や訓練についてお聞きします

問25	お宅では東南海地震や南海地震などに備えて、下にあげたような地震防災対策を行っていますか(いくつかでも )。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地震が起きたとき避難する場所を決めている</li> <li>2. 家族の連絡方法を決めている</li> <li>3. 家族が離ればなれになったときに落ち合う場所を決めている</li> <li>4. 風呂にいつも水を入れている</li> <li>5. ガラスがこわれて飛び散らないよう、防止対策をしている</li> <li>6. ガスボンベを倒れないようにしている</li> <li>7. 消火器を用意している</li> <li>8. 懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている</li> <li>9. 懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、点検をこまめにしている</li> <li>10. 非常持ち出し品を用意している(付問1へ)</li> <li>11. 自宅には、地震後、家族が3日間食べていけるだけの食料や飲料水が常にある</li> </ol> <p style="text-align: right;">(「10.」以外の方は 問26へ)</p>	

付問1	非常持ち出し品として、すぐ持ち出せるよう、まとめて置いてあるものすべてに をつけてください。																					
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. 懐中電灯</td> <td style="width: 33%;">2. 携帯ラジオ</td> <td style="width: 33%;">3. 飲料水</td> </tr> <tr> <td>4. 食料品</td> <td>5. 現金</td> <td>6. 下着類</td> </tr> <tr> <td>7. テント</td> <td>8. 預金通帳や印鑑など</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. ヘルメット、防災ずきんなど</td> <td>10. 救急医薬品や常備薬</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11. ちり紙、タオル、石けん</td> <td>12. ナイフ、缶切り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13. ロープ、ひも</td> <td>14. 毛布または寝袋など</td> <td>15. 携帯電話</td> </tr> <tr> <td>16. 電池</td> <td>17. その他( )</td> <td></td> </tr> </table>		1. 懐中電灯	2. 携帯ラジオ	3. 飲料水	4. 食料品	5. 現金	6. 下着類	7. テント	8. 預金通帳や印鑑など		9. ヘルメット、防災ずきんなど	10. 救急医薬品や常備薬		11. ちり紙、タオル、石けん	12. ナイフ、缶切り		13. ロープ、ひも	14. 毛布または寝袋など	15. 携帯電話	16. 電池	17. その他( )	
1. 懐中電灯	2. 携帯ラジオ	3. 飲料水																				
4. 食料品	5. 現金	6. 下着類																				
7. テント	8. 預金通帳や印鑑など																					
9. ヘルメット、防災ずきんなど	10. 救急医薬品や常備薬																					
11. ちり紙、タオル、石けん	12. ナイフ、缶切り																					
13. ロープ、ひも	14. 毛布または寝袋など	15. 携帯電話																				
16. 電池	17. その他( )																					

問26	あなたは、次のようなことを行ったり、参加したことがありますか（いくつでも ）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の地震・津波防災検討会や、地図を使って地震時の対応を考える図上演習に参加した</li> <li>2. 自分でできる簡易耐震診断（「わが家の耐震診断」など）を行った</li> <li>3. 地震時の津波避難に適切な場所を見て回った</li> <li>4. 自分たちの地域の防災マップを作った</li> <li>5. 県や市町村の広報誌の東南海・南海地震特集を読んだ</li> <li>6. 地震防災に関するパンフレットを読んだ</li> <li>7. 県や市町村が作成した地震被害想定結果を見た</li> <li>8. 地域ごとの津波避難計画づくりに参加した</li> <li>9. 地震防災に関する講演会などに参加した</li> <li>10. 市町村が作成した津波浸水予測図で、自宅がどれくらい津波で浸水するか確認した</li> </ol>	

問27	あなたは、過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか（いくつでも ）。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県や市町村、消防機関が主催する地震防災訓練に参加した（付問1へ）</li> <li>2. 住民が中心となって行った地震防災訓練に参加した（付問1へ）</li> <li>3. 職場で行った地震防災訓練に参加した（付問1へ）</li> <li>4. その他の地震防災訓練に参加した（付問1へ）</li> <li>5. 1.～4.の訓練には、まったく参加していない（問28へ）</li> </ol>										
付問1	具体的にはどのような訓練に参加しましたか（いくつでも ）。									
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. 津波避難訓練</td> <td style="width: 33%;">2. 消火訓練</td> <td style="width: 33%;">3. 救出・救助訓練</td> </tr> <tr> <td>4. 応急手当訓練</td> <td>5. 炊き出し訓練</td> <td>6. 情報伝達訓練</td> </tr> <tr> <td colspan="3">7. 介護を必要とする人の介助訓練 8. その他（ ）</td> </tr> </table>		1. 津波避難訓練	2. 消火訓練	3. 救出・救助訓練	4. 応急手当訓練	5. 炊き出し訓練	6. 情報伝達訓練	7. 介護を必要とする人の介助訓練 8. その他（ ）		
1. 津波避難訓練	2. 消火訓練	3. 救出・救助訓練								
4. 応急手当訓練	5. 炊き出し訓練	6. 情報伝達訓練								
7. 介護を必要とする人の介助訓練 8. その他（ ）										

問28	どのような訓練が必要であると思いますか（いくつでも ）。												
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">1. 津波避難訓練</td> <td style="width: 25%;">2. 消火訓練</td> <td style="width: 25%;">3. 救出・救助訓練</td> <td style="width: 25%;">4. 応急手当て訓練</td> </tr> <tr> <td>5. 炊き出し訓練</td> <td>6. 情報伝達訓練</td> <td>7. 介護を必要とする人の介助訓練</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">8. その他（ ）</td> </tr> </table>		1. 津波避難訓練	2. 消火訓練	3. 救出・救助訓練	4. 応急手当て訓練	5. 炊き出し訓練	6. 情報伝達訓練	7. 介護を必要とする人の介助訓練		8. その他（ ）			
1. 津波避難訓練	2. 消火訓練	3. 救出・救助訓練	4. 応急手当て訓練										
5. 炊き出し訓練	6. 情報伝達訓練	7. 介護を必要とする人の介助訓練											
8. その他（ ）													

## 災害への意識と行政への要望についてお聞きします

問29	災害についてはいろいろな考え方があります。あなたは、以下のような考え方に賛成しますか、それとも反対しますか(a～eのそれぞれにひとつずつ)。																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>賛成</th> <th>やや賛成</th> <th>やや反対</th> <th>反対</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>b. 大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>c. 大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>d. 災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>e. 体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>		賛成	やや賛成	やや反対	反対	a. 防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ	1	2	3	4	b. 大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ	1	2	3	4	c. 大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない	1	2	3	4	d. 災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ	1	2	3	4	e. 体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない	1	2	3	4
	賛成	やや賛成	やや反対	反対																											
a. 防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ	1	2	3	4																											
b. 大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ	1	2	3	4																											
c. 大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない	1	2	3	4																											
d. 災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ	1	2	3	4																											
e. 体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない	1	2	3	4																											

問30	あなたがお住まいの地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか(いくつでも)。										
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化</td> <td style="width: 50%;">2. 自主防災組織の必要性のPR</td> </tr> <tr> <td>3. 自主防災組織の育成・強化</td> <td>4. 自主防災組織の防災資機材の整備・充実</td> </tr> <tr> <td>5. 実践的防災訓練や図上演習などの実施</td> <td>6. 地域防災リーダーの育成・研修</td> </tr> <tr> <td>7. 小中学校の防災教育の充実</td> <td>8. 消防団の強化</td> </tr> <tr> <td>9. 消防団・近隣の事業所などとの連携促進</td> <td>10. その他( )</td> </tr> </table>	1. 地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化	2. 自主防災組織の必要性のPR	3. 自主防災組織の育成・強化	4. 自主防災組織の防災資機材の整備・充実	5. 実践的防災訓練や図上演習などの実施	6. 地域防災リーダーの育成・研修	7. 小中学校の防災教育の充実	8. 消防団の強化	9. 消防団・近隣の事業所などとの連携促進	10. その他( )
1. 地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化	2. 自主防災組織の必要性のPR										
3. 自主防災組織の育成・強化	4. 自主防災組織の防災資機材の整備・充実										
5. 実践的防災訓練や図上演習などの実施	6. 地域防災リーダーの育成・研修										
7. 小中学校の防災教育の充実	8. 消防団の強化										
9. 消防団・近隣の事業所などとの連携促進	10. その他( )										

問31	あなたは、県や市町村にどのような地震防災対策を望みますか。下の空欄にどんなことでもお書きください。
	<hr/>

最後にあなたご自身のことをお伺いします。あてはまる番号に をつけてください。

F 1	性別
1. 男性	2. 女性

F 2	年齢				
1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上

F 3	あなたは、ここにお住みになってから何年になりますか(ひとつだけ )。			
1. 5年未満	2. 5～10年未満	3. 10～20年未満	4. 20～30年未満	5. 30年以上

F 4	職業		
1. 勤め人(会社員・公務員)	2. 商工自営業	3. 農林業	4. 漁業
5. 専業主婦	6. パートの主婦	7. 無職(すでに退職)	8. その他( )

F 5	同居しているご家族は何人いますか(ご本人も含め、ひとつだけ )。				
1. 1人(独居)	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人	6. 6人以上

付問 1	同居しているご家族の中に次のような方はいらっしゃいますか(いくつでも )。
1. 3歳以下の乳幼児	2. 4歳以上で小学校入学前の子ども
3. 小学生	4. 70歳以上の人
5. 日常生活で介護を必要とする人	6. 1.～5.の人はいない

F 6	あなたはご近所とどのようなおつきあいをしていますか(ひとつだけ )。
1. 留守を頼んだり親しく話をする	2. ときどき立ち話をする程度
3. 顔が合えばあいさつをする程度	4. ほとんどつきあいが無い

F 7	あなたは子どもの頃、昔起きた地震や津波について、親や祖父母、近所の人から、話を聞いたことがありますか(ひとつだけ )。	
1. くり返し聞いたことがある	2. 時々聞いた	3. ない

F 8	お宅で加入している保険にはどのようなものがありますか(いくつでも )。	
1. 火災保険	2. 地震保険	3. 家財等の保険
4. 住宅総合保険	5. 農協の建物更正共済	6. その他の保険など
7. 1.～6.にはひとつも加入していない		

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。  
この用紙を同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。